熊本県文化財調査報告　第93集

古保山打越遺跡

下益城郡松橋町古保山字打越

（八反田遺跡発掘調査報告
部田目所在の板碑及び六地蔵報告）

1987

熊本県教育委員会

熊本県文化財調査報告　第93集

古保山打越遺跡

下益城郡松橋町古保山字打越

（八反田遺跡発掘調査報告
部田目所在の板碑及び六地蔵報告）

1987

熊本県教育委員会

例　　言

1．この報告書は、当尾地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。発掘調査は、昭和58年７月11日から12月21日にかけて行った。

2．発掘調査した遺跡は、『打越遺跡』及び『八反田遺跡』である。『打越遺跡』は、「下益城郡松橋町大字古保山字打越」に所在する。『八反田遺跡』は、「同郡同町大字古保山字八反田」に所在する。

3．発掘調査は、村井眞輝・河北毅が担当した。

4．出土遺物の整理（洗浄・接合・復元・実測）は、熊本県文化財収蔵庫に於いて行った。

5．土器及び石器の実測は、村井・河北・藤崎伸子・藤崎周太郎・岡美詠子が行った。縄文土器の実測は、岡が主に行った。弥生土器の実測は、河北・藤崎周太郎が主に行った。歴史時代の出土遺物の実測は、村井・藤崎伸子が主に行った。

6．本書に掲載した挿図のトレースは、村井・永田京子・木下俊恵・瀬丸伸子が行った。

7．本書に掲載した遺構の写真は、村井・河北が撮影した。遺物の写真は、吉田正一が撮影した。石造佛の写真は、坂口雅柳氏の提供である。

8．遺跡周辺の石造佛の調査及び報告文執筆は、坂口氏に依頼した。

9．本書の原稿執筆及び編集は、村井が行った。

10．原稿の整理・割り付け及び校正は、村井・永田・木下が行った。

はじめに

この報告書は、熊本県下益城郡松橋町大字古保山字打越に所在する打越遺跡の発掘調査報告です。遺跡は、木原山（雁回山）の南麓にあります。この付近一帯には、多くの遺跡が存在します。また、当遺跡の南前方の台地（当尾台地）には、古保山遺跡群と呼ばれる多くの遺跡があります。

これらの遺跡のある木原山山麓及び当尾台地の圃場を整備する計画が県耕地第一課でたてられました。この当尾地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施して参りました。

打越遺跡の発掘調査は、昭和58年７月中旬から同年12月下旬まで実施しました。調査実施するに当たって、県耕地第一課・町耕地課・地権者の皆様など、工事関係の方々の良き御理解を得ることが出来ました。皆様の御努力の御蔭で無事に調査ができたことにたいして心から感謝致します。

当遺跡からは、縄文時代から平安時代にかけての遺物・遺構を検出しました。この報告書が、熊本県南部の埋蔵文化財研究の一助になれば幸いです。

昭和62年10月31日

熊本県教育長　田　嶋　喜　一

本 文 目 次

第Ⅰ章　序 ……1
第１節　はじめに ……1
第２節　遺跡の歴史的・地理的環境 ……3
第Ⅱ章　調査の概要 ……9
第１節　遺跡の概要 ……9
第２節　調査の経過……12
第Ⅲ章　縄文時代の遺構及び遺物……23
第１節　土壙……23
１．10号土壙……23
２．11号土壙……23
３．13号土壙……24
４．26号土壙……24
５．30号土壙……24
第２節　炉址……27
１．１号・２号炉址……27
第３節　一括採集の遺物……30
１．一括採集の縄文土器……30
２．一括採集の石器……39
３．土偶……44
第Ⅳ章　弥生時代の遺構及び遺物……45
第１節　弥生時代の遺構及び遺構内出土遺物……45
１．１号住居址の遺構及び遺物……45
２．２号住居址の遺構及び遺物……45
３．29号土壙の遺構及び遺物……53
４．３号住居址の遺構及び遺物……53
５．４号住居址の検出状況及び遺物……56
第２節　一括採取の弥生土器……73
第Ⅴ章　歴史時代の遺構及び遺物……75
第１節　竪穴式住居址……75
１．５号住居址の遺構及び遺物……75
２．６号住居址の遺構及び遺物……82

第２節　住居状遺構の検出状況及び遺物……85
１．１号住居状遺構の検出状況及び遺物……85
２．２号住居状遺構の検出状況及び遺物……89
３．３号住居状遺構の検出状況及び遺物……90
４．４号住居状遺構の検出状況及び遺物……93
５．５号住居状遺構の検出状況及び遺物……98
６．６号住居状遺構の検出状況及び遺物……122
７．７号住居状遺構の検出状況及び遺物……127
第３節　掘建柱建物遺構……131
１．１号掘建柱建物遺構……131
２．２号掘建柱建物遺構……132
３．３号掘建柱建物遺構……132
４．４号掘建柱建物遺構……136
第４節　土壙……136
第５節　溝状遺構及びその周辺の出土遺物……148
１．235番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物……148
２．1683－１番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物……157
３．1682番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物……159
４．1686－１番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物……163
５．1684番地出土の溝状遺構及び周辺の出土遺物……164
６．237番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物……170
７．1687番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物……177
８．236番地出土遺物……211
９．1686－２番地出土遺物……215
第VI章　まとめ……219
第１節　縄文時代以前の遺構及び遺物について……219
１．縄文早期の遺構及び遺物……219
２．縄文後期～晩期の遺構及び遺物……220
第２節　弥生時代の遺構及び遺物について……220
１．１号・２号住居址及び29号土壙……220
２．３号住居址及び４号住居址……221
３．遺構の時期及び関連遺跡……222

第３節　奈良時代・平安時代の遺構及び遺物について ……222
１．遺構検出過程から推定される遺構の前後関係 ……223
２．木炭を多量に出土する土壙 ……223
３．住居状遺構 ……224
４．溝状遺構 ……224
第４節　まとめ ……225

附１　八反田遺跡発掘調査報告 ……227

附２　松橋町古保山字部田目所在の板碑及び六地蔵報告 ……231

挿 図 目 次

第１図　旧當尾村附近の地形図……4
第２図　旧當尾村周辺の遺跡分布図……6
第３図　打越遺跡周辺の地形図……10
第４図　調査区域内遺構配置図……11
第５図　遺構配置図（235番地・1682番地及び1683－１番地）……14
第６図　遺構配置図（236番地及び1683－１番地）……15
第７図　遺構配置図（237番地及び1684番地）……16
第８図　遺構配置図（1687番地）……17
第９図　遺構配置図（1686－１番地及び1686－２番地）……18
第10図　30号土壙実測図……25
第11図　30号土壙出土遺物……26
第12図　１号・２号炉址実測図……28
第13図　打越1686－２番地に於ける土層観察図……29
第14図　打越236・235番地出土の縄文土器……32
第15図　打越237番地出土の縄文土器……34
第16図　打越1684番地出土の縄文土器……35
第17図　打越1686－１番地出土の縄文土器……36
第18図　打越1687番地出土及び表面採集の縄文土器……38
第19図　打越遺跡出土の打製石斧……40
第20図　打越遺跡出土の石器……41
第21図　打越遺跡出土の石器……43
第22図　打越236番地出土の土偶……44
第23図　29号土壙及び１号・２号住居址……46
第24図　２号住居址出土遺物……47
第25図　２号住居址及び29号土壙出土遺物……49
第26図　２号住居址及び29号土壙出土遺物……52
第27図　３号・４号住居址平面図……54
第28図　３号・４号住居址断面図……55
第29図　３号住居址出土遺物（石包丁）……56
第30図　３号住居址出土遺物（鉄器）……57
第31図　４号住居址出土遺物……59

第32図　3号・4号住居址出土遺物……62
第33図　3号・4号住居址出土遺物……64
第34図　4号住居址出土遺物……66
第35図　4号住居址出土遺物……67
第36図　4号住居址出土遺物……68
第37図　4号住居址出土遺物……70
第38図　4号住居址出土遺物……71
第39図　4号住居址出土遺物……71
第40図　打越237番地出土遺物（石器）……72
第41図　打越遺跡出土の弥生土器……73
第42図　5号住居址・7号住居状遺構……76
第43図　5号住居址のカマド……77
第44図　5号住居址出土遺物……79
第45図　5号住居址出土遺物……81
第46図　6号住居址……83
第47図　6号住居址出土遺物……84
第48図　1号住居状遺構……86
第49図　打越236番地出土遺物……87
第50図　1号住居状遺構出土遺物……89
第51図　8号土壙及び2号～4号住居状遺構……91
第52図　2号～4号住居状遺構及び8号・9号土壙……92
第53図　打越235番地出土遺物……93
第54図　4号住居状遺構出土遺物（土師器）……95
第55図　4号住居状遺構出土遺物（須恵器・砥石・鉄片）……97
第56図　5号住居状遺構……99
第57図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……102
第58図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……104
第59図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……107
第60図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……110
第61図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……112
第62図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……113
第63図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……115
第64図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）……117

第65図　5号住居状遺構出土遺物（須恵器）……119
第66図　6号住居状遺構……122
第67図　6号住居状遺構出土遺物（土師器・紡垂車）……124
第68図　6号住居状遺構出土遺物（須恵器）……126
第69図　7号住居状遺構出土遺物（土師器・砥石）……128
第70図　7号住居状遺構出土遺物（須恵器）……130
第71図　1号掘建柱建物遺構……133
第72図　2号掘建柱建物遺構……134
第73図　3号掘建柱建物遺構……135
第74図　1号～5号土壙……137
第75図　6号・7号土壙及び3号～7号溝状遺構……139
第76図　11号～14号土壙……141
第77図　15号～17号土壙……143
第78図　18号～23号土壙及び31号土壙……145
第79図　26号～28号土壙及び20号・21号溝状遺構……147
第80図　打越235番地出土遺物（土師器）……151
第81図　打越235番地出土遺物（須恵器）……153
第82図　打越1683－1番地出土遺物（須恵器・陶器）……158
第83図　11号～15号溝状遺構実測図　その1……160
第84図　11号～15号溝状遺構実測図　その2……161
第85図　打越1682番地出土遺物（土師器・須恵器）……162
第86図　打越1686－1番地出土遺物（土師器・須恵器）……163
第87図　打越1684番地出土の墨書土器……164
第88図　打越1684番地出土遺物（土師器）……165
第89図　打越1684番地出土遺物（須恵器・瓦）……168
第90図　打越237番地出土遺物（土師器）……172
第91図　打越237番地出土遺物（須恵器）……175
第92図　26号～30号溝状遺構　その1……178
第93図　26号～30号溝状遺構　その2……179
第94図　27号溝状遺構平面図……180
第95図　27号～29号溝状遺構の断面図及び同遺構付近の土層断面図……181
第96図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その1……184
第97図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その2……187

第98図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その３ ……190
第99図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その４ ……192
第100図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その５ ……195
第101図　打越1687番地出土遺物（土師器） ……197
第102図　27号溝状遺構出土遺物（須恵器）その６ ……200
第103図　27号溝状遺構出土遺物（須恵器・紡垂車・石器）その７ ……203
第104図　29号溝状遺構出土遺物（須恵器・瓦） ……206
第105図　打越1687番地出土遺物（須恵器） ……207
第106図　打越1687番地出土遺物 ……210
第107図　打越1687番地出土遺物（磁器） ……210
第108図　打越236番地出土遺物（土師器） ……212
第109図　打越236番地出土遺物（須恵器・炉壁） ……214
第110図　打越1686―２番地出土遺物（土師器） ……216
第111図　打越1686―２番地出土遺物（須恵器） ……217
附１の１図　八反田遺跡の位置及び１号・２号土壙 ……229
附２の１図　板碑写真 ……231
附２の２図　板碑説明図 ……232
附２の３図　板碑拓本 ……233
附２の４図　石幢龕部の設明図及び写真 ……235
附２の５図　六地蔵拓本 ……236

表　目　次

第１表　旧當尾村周辺の遺跡名一覧 ……7
第２表　打越遺跡遺構一覧表 ……19

図 版 目 次

図版１　打越遺跡・八反田遺跡の鳥瞰写真

１．打越遺跡

２．八反田遺跡（写真中の集落は海ノ平）

図版２　１号・２号炉址（打越1686－２番地）

１．炉址附近の土層断面

２．遺構検出状態

３．遺構検出状態

４．炉址発掘開始状態

５．炉址中の焼けた石

６．完掘状態

７．完掘状態

図版３　１号・２号住居址及び29号土壙

１．遺構検出状況

２．２号住居址発掘状況

３．遺構の切り合い状況

４．遺物出土状態

５．遺構内埋土の断面

６．遺物出土状態

図版４　３号・４号住居址

１．４号住居址中の遺物検出状況

２．完掘状態

３．３号住居址と４号住居址の切り合い状況

４．４号住居址の遺物出土状態

５．３号住居址遺物出土状態（石包丁）

６．３号住居址遺物出土状態（鉄針）

図版５　３号・４号住居址及びその周辺の柱穴群

１．住居址及び柱穴群（東方より見る）

２．住居址及び柱穴群（北方より見る）

３．住居址及び柱穴群（西方より見る）

４．円形に廻る柱穴群（西方より見る）

５．住居址群の遠望

6．3号・4号住居址の切り合い
図版6　6号住居址（打越1686―1番地）
1．住居址検出状態（西方より見る）
2．住居址完掘状態（東方より見る）
3．住居址完掘状態（南方より見る）
4．カマド検出状態
5．カマドの煙道部（東方より見る）
6．カマド完掘状態
図版7　4号住居状遺構及び5号住居址
1．3号・4号住居状遺構
2．4号住居状遺構
3．4号住居状遺構出土遺物
4．4号住居状遺構完掘状態
5．5号住居址及び7号住居状遺構
6．5号住居址完掘状態（南方より見る）
7．5号住居址のカマド
図版8　1号・6号住居状遺構
1．1号住居状遺構（北方より見る）
2．1号住居状遺構（東方より見る）
3．1号住居状遺構（北方より見る）
4．6号住居状遺構（南方より見る）
5．6号住居状遺構（北方より見る）
図版9　5号住居状遺構（打越1683―1番地）
1．遺構発掘途上（北方より見る）
2．完掘状態（南方より見る）
3．完掘状態（左上方には1号住居状遺構が見える）
4．遺物出土状態
5．遺物出土状態
6．遺物出土状態
図版10　土壙・7号住居状遺構
1．15号土壙
2．15号土壙木炭検出状況
3．15号土壙

4．15号土壙
5．3号土壙
6．18号～20号土壙（北方より見る）
7．6号・7号土壙及び3号・5号・7号溝状遺構
8．7号住居状遺構
図版11　1号～3号掘建柱建物遺構
1．1号掘建柱建物遺構
2．2号掘建柱建物遺構
3．1号掘建柱建物遺構（手前3基のPitは2号掘建柱建物遺構）
4．1号・2号掘建柱建物遺構
5．3号掘建柱建物遺構
6．3号掘建柱建物遺構
図版12　27号溝状遺構（打越1687番地）
1．溝状遺構検出状況
2．27号溝状遺構と26号溝状遺構の切り合い
3．27号溝状遺構と26号溝状遺構の切り合い
4．27号溝状遺構遺物出土状態
5．27号溝状遺構遺物出土状態
6．27号溝状遺構遺物出土状態
7．27号溝状遺構遺物出土状態
8．27号溝状遺構遺物出土状態
図版13　2号住居址及び29号土壙出土遺物
図版14　4号住居址及び2号住居址出土遺物
図版15　4号住居址出土遺物
図版16　4号住居址出土遺物
図版17　27号溝状遺構出土遺物
図版18　27号溝状遺構出土遺物
図版19　5号住居状遺構出土遺物
図版20　5号住居状遺構出土遺物
図版21　5号住居状遺構及び1683－1番地出土遺物
図版22　6号住居状遺構及び1684番地出土遺物
図版23　7号及び8号住居状遺構出土遺物（1～13、14～26）
図版24　235番地出土の土器及び1687番地出土の瓦

図版25　打越遺跡出土遺物

1．打越遺跡出土の瓦

2．打越遺跡出土遺物

3．打越遺跡出土の縄文土器片

図版26　4号住居址・30号土壙及び一括資料

第Ⅰ章　　序

第1節　はじめに

昭和58年度当初、熊本県耕地第一課から「當尾地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査」について依頼があった。當尾地区の埋蔵文化財の踏査は、前年度までに実施した。

発掘調査実施にあたっては、県宇城事務所耕地課・松橋町役場・同町教育委員会・同町古保山地区地権者の皆様の良き御理解と御援助があった。このことについて、心から御礼申しあげたい。

昭和58年度施工地区の発掘調査は、7月11日から12月21日にかけて実施し、遺物の整理はそれに引き続き、熊本県文化財収蔵庫において行った。

報告書の執筆は、昭和59年1月から同年7月にかけて行った後、昭和62年12月から同年10月にかけて行った。

昭和60年4月13日　河北毅氏は、急性心不全により永眠された。

故人は、当遺跡の発掘調査を情熱を持って実施された。また、同氏は縄文時代晩期及び弥生時代後期の学究を深められておられた。その為、当遺跡から出土した突帯文土器や弥生後期の住居址については、自己の研究テーマとも関係が深いことから、強い関心を示していられた。

本報告書を執筆刊行するにあたり、故人の努力に感謝の意を表するとともに、冥福をいのりたい。

また、発掘調査及び遺物整理に当った方々の努力にたいして、厚く御礼申しあげたい。

調　査　の　組　織

調査責任者	米村　嘉人	（昭和58～59年度・文化課課長）
	森　　一則	（昭和59～60年度・文化課課長）
	丸木　保賢	文化課課長（昭和61～本年度）
	林田　茂一	（昭和58～59年度・課長補佐）
	佐々木正則	（昭和59～60年度・課長補佐）
	林田　敏嗣	文化課課長補佐（昭和61～本年度）
	上野　辰男	元文化課主幹（故人）
調査総括	隈　　昭志	文化課課長補佐・兼文化財調査係長
	松本　健郎	文化課参事

調査事務	大塚　正信	（昭和58年度・主幹・経理係長）
	柴田　和馬	（昭和59～61年度・主幹・経理係長）
	松崎　厚生	文化課主幹
	花田　隆二	（昭和59年度・参事）
	森　　貴史	（昭和60～61年度・参事）
	谷　貴美子	文化課主任主事
	上村　祐司	文化課主事
発掘調査	村井　眞輝	文化課文化財保護主事・発掘調査主任
	河北　　毅	元文化課嘱託（故人）
遺物写真	吉田　正一	文化課嘱託
周辺調査	坂口　雅柳	肥後考古学会員
地元協力者	渡辺　勝美	松橋町土地改良区副理事長
	志垣　寿男	松橋町古保山区区長
	大島　傅造	松橋町海ノ平区区長
整理作業	藤崎　伸子	文化課嘱託

永田　京子・木下　俊恵・瀬丸　伸子・藤崎周太郎・岡　美詠子　（遺物実測・原稿整理）

二ノ村映子・北野　弘子・中山　安子・後村　幹枝・高島佳津子（遺物整理）

第２節　遺跡の歴史的・地理的環境

八反田遺跡・打越遺跡ともに、下益城郡松橋町大字古保山に属する。遺跡が位置する集落（ムラ）の区分からすると、八反田遺跡は海ノ平に、打越遺跡は古保山に属する。

両遺跡とも、宇土市花園町字三日に隣接した位置にある。特に、打越遺跡の発掘地点から北側の畑を１枚隔てた所が、宇土市と松橋町の境界である。また、八反田遺跡から東に１Km未満で城南町と松橋町との境界に達する。

両遺跡の背面には、北風を遮るかのように、木原山（雁回山）が聳える。木原山は、熊本平野と八代平野の間に聳える山（標高314m）である。山の斜面の傾きは急であり、狭くて深い谷がいく筋もみられる。そのため平野から見る木原山は、標高のわりには険しい山並である。山体を形成している岩石は、白亜期の礫岩であり、表面は風化が進み崩れやすい状態である。両遺跡が存在する付近では、山の南斜面の傾斜が急に緩やかになる。

八反田遺跡は、海ノ平の集落から南方に人差し指を突き出したような幅の狭い微高地上（海抜40m未満）に存在する。この微高地の広さは、幅約30m・長さ約70m程である。微高地の三方（東・南・西）は水田である。発掘調査地の主要な部分は採土されており、発掘調査の成果はほとんど望めない状態であった。

打越遺跡は、八反田遺跡の西側に位置する。当遺跡の存在する微高地（海抜35m未満）は、盾状を呈し、南方へ緩やかに傾斜する。東側の谷は農業用貯水池（打越堤）となり、西側は迫田になっている。遺跡と推定される一帯は良好な畑地であり、牧草・煙草・生姜・麦・陸稲等を栽培していると聞く。調査対象地区内は、あまり重機による削平が為されていないようであり、良く旧状を止めている。

八反田遺跡及び打越遺跡は、先に述べたように、宇土市・城南町・松橋町の境界近くに位置する。この一市二町には多数の遺跡が分布することは、従来から良く知られている。

各時代の主な遺跡について旧當尾村（第１・２図に示した地域）を中心にして次に例示したい。

先土器時代の遺跡としては、近年発掘調査された曲野遺跡が著名である。

縄文時代の遺跡としては、木原山を取り囲むように、沈目遺跡・宮の庄貝塚（轟貝塚）・曽畑貝塚・阿高貝塚・御領貝塚がある。これ等の遺跡は、縄文時代の指標となるべき遺跡である。その他に、多くの遺物包蔵地がある。特に、當尾原（當尾台地）からは、押型文土器や黒色磨研系の土器が多数出土していた。しかし、残念なことに、採土によって、當尾台地の遺跡のおおかたは消滅した。八反田遺跡・打越遺跡からは、少ないながら縄文時代の遺構・遺物を検出した。

弥生前期の遺跡としては、宇土城三の丸遺跡（宇土市）・沈目立山遺跡（城南町）がある。

（明治39年　陸軍陸地測量部）5万分の1

第1図　旧當尾村附近の地形図

弥生中期の遺跡としては、上の原遺跡（城南町）・境目遺跡（宇土市）等がある。境目遺跡・宇土城跡・出町遺跡（不知火町）等からは、カメ棺が出土している。しかし、松橋町の中央部を流れる大野川以南の地からの出土例は、現在のところ聞いていない。

弥生後期の遺跡としては、宇土城跡・出町遺跡が良く知られている。この外に、下益城郡小川町（旧小野部田村）に於いて、県文化課が近年調査した注目される遺跡がある。

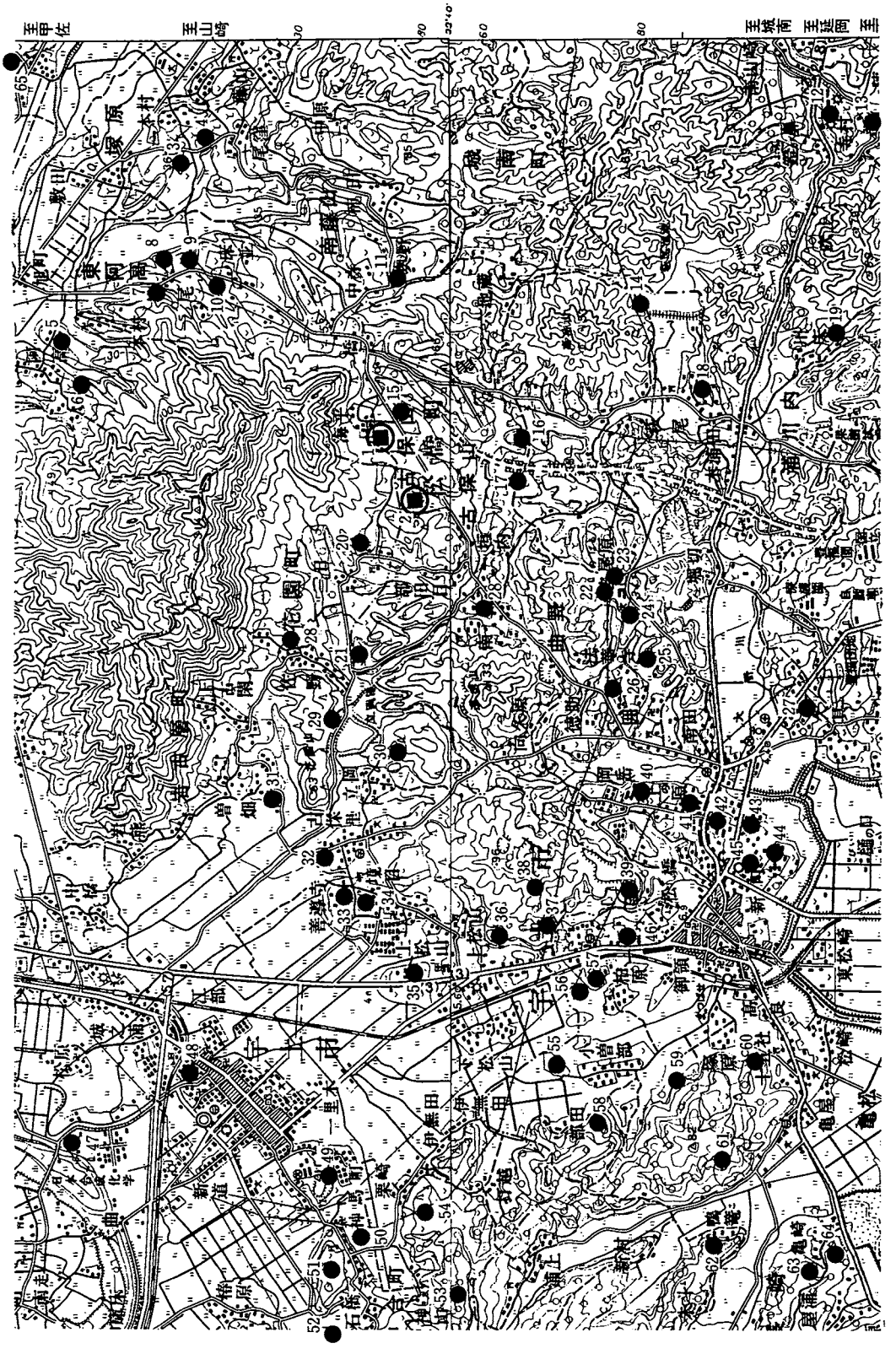
古墳時代の遺跡については、第２図のとおり、その数の多いことは周知のことである。しかし、当報告の打越遺跡及び八反田遺跡からは、古墳時代の遺構は検出されなかったので、ここでは割愛する。

奈良時代から平安時代にかけての遺跡としては、まず、窯跡（萩尾大溜池窯跡・びわだ窯跡・当尾小学校東窯跡）があげられる。寺院址としては、古保山廃寺跡（松橋町）・浄水寺跡（豊野村）がある。 先土器時代のところで取り上げた曲野遺跡からは、 方１町に廻ると推定される大規模な溝遺構が検出された。溝で取り囲まれた部分から、多数の掘建柱建物遺構群が発掘されている。また、曲野遺跡のある台地と同一の台地に所在する寺尾遺跡から、土馬や鈴帯が出土している。

八反田遺跡・打越遺跡の南面には水田が広がり、その中央部を鳴瀧川が流れる。その先には當尾台地（海抜40m未満）が広がる。この台地を斜めに切る形で、海ノ平から久具の方へ延びる古道（薩摩街道又は薩摩往還）がある。この古道の付近に、大道・車路等の字名が残る。この薩摩街道付近が古保山・曲野・浦川内の字界となっていることは、重視する必要がある。

荘園制の時代には、曲野庄・古保山庄・豊田庄があり、その南には、八代郡豊福庄が存在した。古代や中世に於ける宇土郡・益城郡・八代郡の境界となっていたものは、何であったのであろうか。

以上、松橋町大字古保山を中心とした、主な遺跡の分布について述べた。各遺跡の位置については、第２図を参照されたい。



第２図　旧當尾村周辺の遺跡分布図

（縮尺５万分の１）

第１表　旧當尾村周辺の遺跡名一覧

図中番号	遺跡名	所在地名	備考
1	八反田遺跡	松橋町古保山字八反田(海の平)	今回調査、縄文後期・晩期、消滅（Ｓ．58年）
2	打越遺跡	松橋町古保山字打越	今回調査、縄文・弥生・奈良平安時代の住居址
3	塚原古墳群	城南町塚原	『県文化財報告第16集』
4	上の原遺跡	城南町塚原字上の原	『県文化財報告第58・64・73集』
5	御領貝塚	城南町東阿高字八ツ尾	「国指定遺跡」御領式土器の指標遺跡 『城南町史』
6	阿彌陀尾横穴群	城南町阿高字影熊・山口	須恵器・亀甲・人骨等出土
7	飛の尾横穴	城南町東阿高字南飛尾	須恵器出土
8	一位田横穴	城南町東阿高字一位田	須恵器出土
9	ウシクビ横穴	城南町東阿高字一位田	須恵器出土
10	一尾横穴	城南町東阿高字一尾	須恵器出土
11	星野屋敷遺跡	城南町藤山字上柿田	縄文早期・晩期の土器出土
12	寺村遺跡	豊野村下郷字清水寺	縄文晩期、土師器・須恵器出土
13	浄水寺跡	豊野村下郷字清水寺	『県文化財報告第３集』『熊本史学第６号』 布目瓦・礎石・土師器・須恵器出土
14	萩尾大溜池窯跡	松橋町萩尾	『県文化財報告第48集』７基存在？、奈良時代
15	花立遺跡	松橋町古保山字花立	縄文後期・晩期の土器出土
16	東谷遺跡	松橋町古保山字東谷	押型文土器出土
17	夫婦塚古墳群	松橋町古保山字大道	Ｓ．61年度に一部を発掘調査 ４基の円墳群から成る
18	山口古墳群	松橋町萩尾字竹の下	２基の円墳群から成る
19	川床窯跡	松橋町浦川内字川床	須恵器
20	如来寺跡	宇土市花園字大門	寺院址
21	夫婦塚古墳	松橋町古保山	前方後円墳
22	びわだ窯跡	松橋町曲野字琵琶田	須恵器
23	當尾小学校東窯跡	松橋町曲野字塔尾	須恵器
24	寺尾遺跡	松橋町曲野字寺尾	須恵器・土馬・銙帯出土 『県文化財報告第61集』
25	囲遺跡	松橋町曲野(囲)	遺物散布地
26	曲野遺跡	松橋町曲野字長谷川	旧石器・縄文・奈良・平安時代の遺跡 『県文化財報告第61・65・75集』
27	上久具貝塚	松橋町久具字堂前	縄文晩期の土器出土
28	安国寺跡	宇土市花園町字佐野	寺院跡
29	檜崎古墳	宇土市花園町字檜崎	『熊本県史跡名勝天然記念物』 家型石棺・石蓋土壙
30	潤野古墳	宇土市立岡町潤野	『県文化財報告第68集』『京大報告３』 『熊本の装飾古墳・熊日』『熊史53・54』
31	曽畑貝塚	宇土市岩古曽字北原・前田	曽畑式土器の指標貝塚
32	古保里貝塚	宇土市古保里字居屋敷・行田	縄文土器出土

図中番号	遺跡名	所在地名	備考
33	善導寺跡	宇土市境目字西原	中世寺院跡
34	境目遺跡	宇土市境目字西原	弥生の大型カメ棺・箱式石棺群
35	畑中遺跡	宇土市松山町字樋底	遺物散布地
36	茶臼山古墳	宇土市松山町字南山内	鏡他出土、消滅
37	向野田古墳	宇土市松山町字向野田	前方後円墳、出土遺物は国指定『向野田古墳』
38	御手水古墳	宇土市松山町字御手水	前方後円墳
39	宇賀嶽古墳	松橋町松橋字岩谷	県指定、横穴式石室、『京大報告３』『熊本の装飾古墳・熊日』『県文化財報告第68集』
40	上野原遺跡	松橋町松橋字上野原	遺物散布地
41	大野遺跡	松橋町大野字前田	遺物散布地
42	松橋大野貝塚	松橋町大野字前田	御領式土器・三万田式土器出土
43	松橋貝塚	松橋町松橋字大道	土師器・須恵器出土
44	松橋前田遺跡	松橋町松橋字前田	遺物散布地
45	大塚古墳	松橋町松橋字前田	前方後円墳
46	出町遺跡	不知火町御領(出町)	弥生土器出土
47	築籠貝塚	宇土市馬の瀬字築籠	
48	石の瀬遺跡	宇土市石小路字石の瀬	遺物散布地
49	宇土城跡	宇土市古城町字古城	小西行長在城慶長年中清正により落城、三の丸より弥生前期の遺構出土『宇土城三の丸』
50	馬場遺跡	宇土市神合字馬場下	縄文式土器・須恵器出土
51	西岡城跡	宇土市神馬字千畳敷	中世城跡・名和氏居城・国指定『宇土城跡』
52	宮の庄貝塚(轟貝塚)	宇土市宮の庄字居屋敷	轟式土器指標遺跡
53	迫の上古墳	宇土市神合字水谷	前方後円墳
54	城の越古墳	宇土市栗崎字城の越	
55	鬼塚古墳	不知火町小曽部字北園	直刀出土
56	柏原古墳	不知火町柏原字野田	
57	柏原遺跡	不知火町柏原字野田	縄文晩期、土師器・須恵器出土
58	仁王塚古墳	不知火町小曽部(仁王塚)	前方後円墳
59	南請遺跡	不知火町小曽部字南請	蔵骨器出土
60	十五社箱式石棺群	不知火町高良字神の元	箱式石棺３基
61	塚原古墳群	不知火町高良字坊の平	『日本考古学年報14』『県文化財報告第68集』１号墳に装飾あり
62	鴨籠古墳(城の越古墳)	不知火町長崎字坊の越	『肥後上代文化史』『不知火町史』『熊本史学53』『県文化財報告第68集』
63	国越古墳	不知火町長崎字国越	『昭和41年度埋蔵文化財緊急調査概報』『県文化財報告第68集』
64	弁天山古墳	不知火町長崎字弁天山	前方後円墳
65	沈目立山遺跡	城南町沈目字立山	弥生前期、『県文化財報告第26集』

第II章　　調 査 の 概 要

第１節　遺跡の概要

第１章に於いても少し述べたように、打越遺跡の地形は、南北方向へ延びた舌状の微高地であり、その断面は盾状を呈する。

この微高地の北側は、木原山（雁回山）へ連なり、東側と西側は、小さな谷で切り取られた状態である。南側もまた、低湿地状の水田によって台地が切れる。

打越遺跡は従来から研究者に知られていた遺跡（周知の遺跡）ではなく、県営圃場整備事業のための事前の踏査及び試掘によって存在が明らかになった遺跡である。

遺跡が存在する台地の全面に土器片（主に土師器・須恵器）が散布していた。しかし、西側の２枚の畑（230―１・230―２番地）は、耕作によって遺構は消滅しており、発掘調査の成果は望めない状態であることが、試掘によって確認された。また、台地の南端部の畑（231・232番地）も重機によって、強く削平されていることが確認された。

上記の試掘結果から、発掘作業を実施する畑は、左記の９筆（235・236・237・1682・1683―１・1684・1686―１・1686―２・1687番地）とした。

ところで、打越遺跡の広がりは発掘調査の成果と遺跡周辺の地形から類推すると、237・1687番地の東側の畑（1689～1695番地）の方に広がると思われる。

発掘調査を実施する部分は、「圃場整備による工事によって、遺構が削平される部分とする。」と言う従来からの文化課の方針に従って、第４図に示した区域を発掘調査した。

検出した遺構は、竪穴式住居址６基・掘建柱建物遺構４棟・住居状遺構７基・縄文時代の炉址１基・土壙30基・溝状遺構31本・その他（ピット等）である。

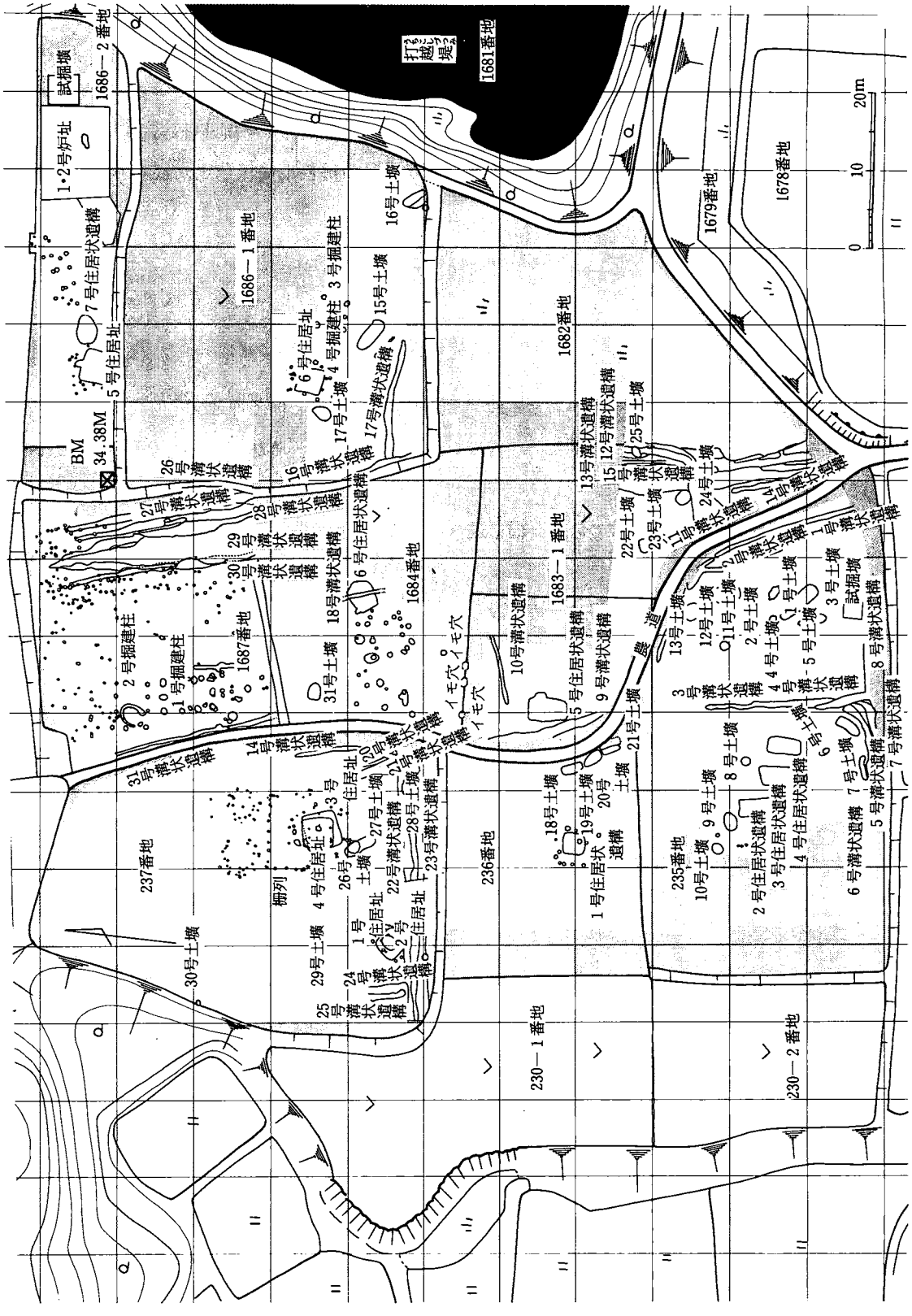
上述の遺構の中で、住居状遺構と記した遺構は、発掘当初、住居址と推定して発掘作業を進めたが、完掘した遺構の形状から、住居址と考えるよりも、貯蔵を目的とした遺構と推定される遺構である。

土壙と記した遺構は、墓壙と言う意味よりも、単に土の穴と言う意味で使用しているので、縄文時代から現代迄の遺構を含んでおり、貯蔵穴・炭焼窯跡・風倒木痕跡等と推定される。

溝状遺構と記した遺構は、溝遺構と道路遺構である。これ等の遺構の年代は、江戸時代又は明治時代初期・平安時代又はそれ以後・平安時代又は奈良時代以前の３期に土色から分けられる。

土の重なり方を土色から見ると、耕作土（第Ｉ層）の下に、褐色土に黒色土が混じり合った

第３図　打越遺跡周辺の地形図



第４図　調査区域内遺構配置図

土（第II層）が見られる。この土（第II層）を切るような形で遺構（例、3号土壙・6号住居状遺構・29号溝状遺構等）を検出した。この土（第II層）を剝ぎ取ると、明褐色の土（第III層）が現れる。この土層（第III層）には、縄文後期〜晩期の土器片を含んでいる。この土層（第III層）を切る形で検出した遺構の代表例が、1号住居状遺構と1号掘建柱建物遺構である。

弥生時代の住居跡を発掘した地区（237番地）からは、褐色土に黒色土が混じり合った土（第II層）は検出されなかった。

第2節　調査の経過

昭和58年度当初、耕地第一課から當尾地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼があった。調査開始日は、葉煙草の収穫後の7月11日とした。それから約半年後の12月21日に、発掘調査を終了した。

この間の発掘調査の経過について詳細に述べるのは、紙数の関係で不可能であるので、方便として、ここに発掘調査日誌抄を掲載する。

7月11日（月）　先週土曜日に予め建設しておいた仮設小屋に、発掘及び測量器材を搬入する。発掘作業員が揃ったところで、作業の趣旨説明・作業の安全についての諸注意を行う。

7月12日（火）　アドバルーンを揚げて上空から、打越遺跡及び八反田遺跡の鳥瞰写真を撮影する。

7月13日（水）　八反田遺跡（海の平地区）にブルドーザーとバックフォーをいれて、表土剝ぎを行う。

7月20日（水）　八反田遺跡の発掘調査を終了する。打越遺跡の遺構検出作業を行う。

7月25日（月）　打越236番地の遺構検出作業を行う。長頸壷（免田式土器）の肩部の破片を採取する。器面の色及び文様があざやかである。236番地の畑から出土する土器片は、縄文晩期・弥生後期・奈良時代から平安時代にかけての土師器と須恵器である。梅雨明けの夏のうだるような暑さに、作業員一同、口数も少なく、黙々と作業を行う。

7月27日（水）　下井手前田遺跡（荒尾市下井手字前田）の発掘調査の応援を求める依頼が河北にあった。そのため、本日より当遺跡の調査は、暫く村井一人で行うこととなった。

8月1日（月）　打越237番地の中央部付近から住居址（貯蔵穴とも考えられる。）のような遺構を検出する。その平面形は、長方形を呈する。

高木恭二氏（宇土市教育委員会勤務）の来訪あり。打越237番地検出の弥生後期の住居跡について、いたく関心を示される。

8月5日（金）　打越1683—3番地と1682番地の境界付近から検出した溝（1号溝）の発掘

を完了する。溝の底部に密着した状態で緑色の釉薬のかかった磁器（嬉野焼）が出土する。

耕地第一課から文化課に、「打越遺跡発掘調査の現状及び今後の作業行程」について、8月17日に宇城事務所に於いて話し合いを持ちたいとの提案あり。

8月13日（土）　本日から16日（火）まで、発掘作業を休止（盆休み）する。

8月17日（水）　県耕地第一課・宇城事務所耕地課・建設業者（中村建設所）・松橋町産業課・県文化課の関係5者が宇城事務所会議室に会し、「打越遺跡の発掘調査の進め方」について話し合う。この席上、「本年11月中に調査を終了するように」との強い要望が文化課に対してあった。

8月18日（木）　河北、打越遺跡の発掘調査に復帰する。

8月25日（木）　グリッドの杭打ち作業が終了する。1682―2番地の遺構検出作業を行う。言いようも無い程の蒸し暑い日である。その上、遺跡周辺では、伐採した草木を焼却している。

9月7日（水）　弥生後期の住居址（237番地）を発掘する。8月分の賃金を支払う。業者から、仮設小屋の前面部（1682・1683―1番地）と235番地を明け渡すようにとの要望あり。

9月22日（木）　弥生後期の住居址（237番地）の写真撮影と実測に追われる。

9月28日（水）　台風が接近しつつあり、急遽、作業員を帰宅させる。村井・河北は、天候が許す限り遺構検出作業を続行する。午前11時頃から雨が降り始め、だんだんと風が強くなる。

10月5日（水）　住居址と推定される遺構（236番地と1684番地検出）の床の中央部に、楕円形の土壙を持つ事が明らかとなった。このことから、何かを貯蔵するための家屋ではないかと推定される。

10月24日（水）　弥生後期の住居址（237番地検出）の調査を終了する。237・1684番地出土の遺物取り上げを急ぐ。1683―1・1682・235番地の畑は、重機により削平される。

11月8日（火）　これまでの出土遺物を収蔵庫へ搬送する。1687番地の発掘作業が急がれる。

11月20日（日）　1687番地の第II層を剝ぎ取る。その下面から、掘建柱建物遺構の柱穴群を検出する。

11月30日（水）　1686―1番地の遺構検出作業を行う。佐藤伸二氏（国立八代工業高等専門学校助教授）の来訪あり。27号溝状遺構（1687番地）出土遺物に大変関心を示される。

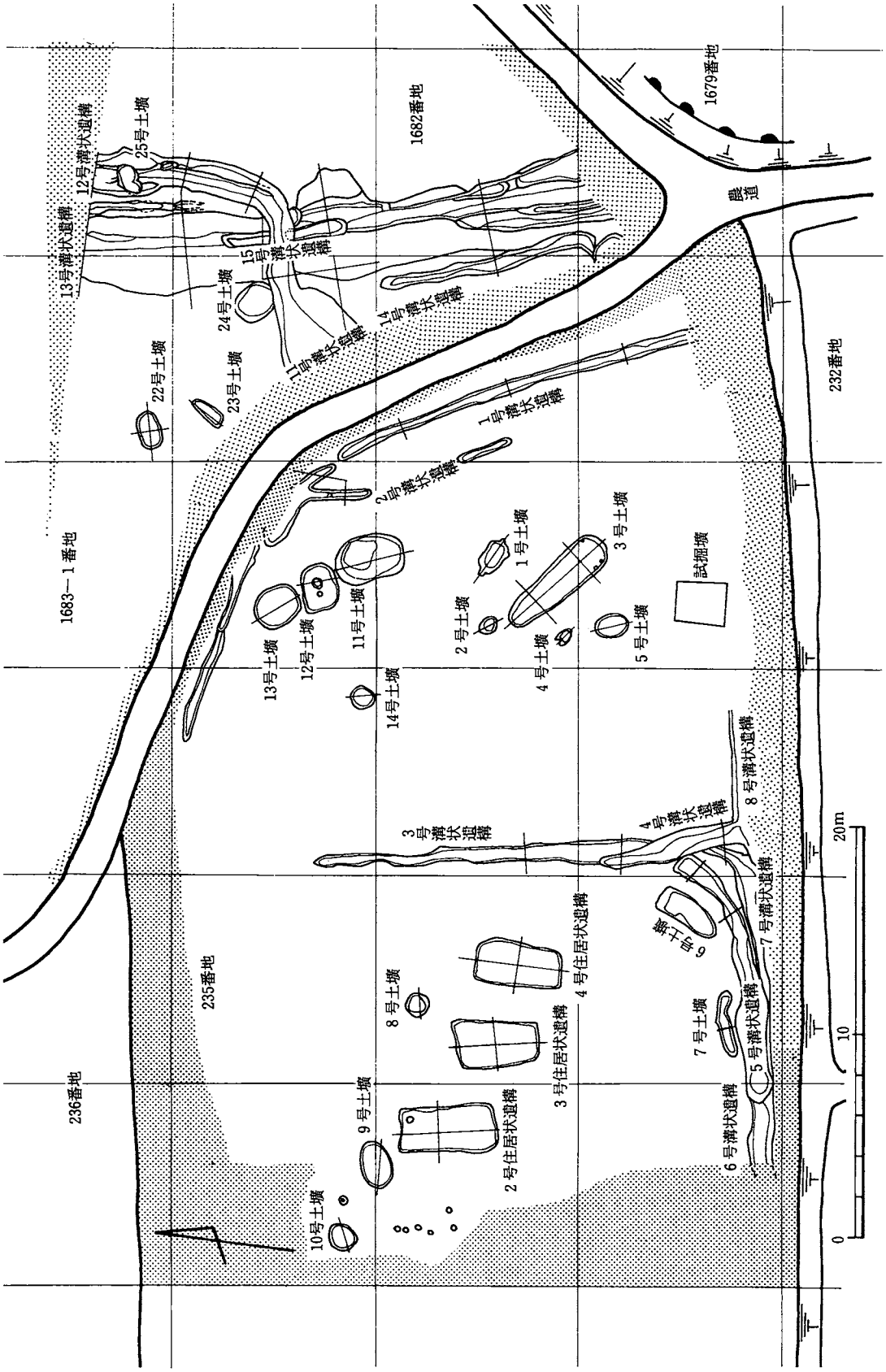
12月6日（火）　1687番地の調査を終了する。今後、1686―1・2番地の調査に専念することが出来るようになる。

12月8日（木）　竪穴式住居址のカマド（1686―2番地）から、煙道が確認された。

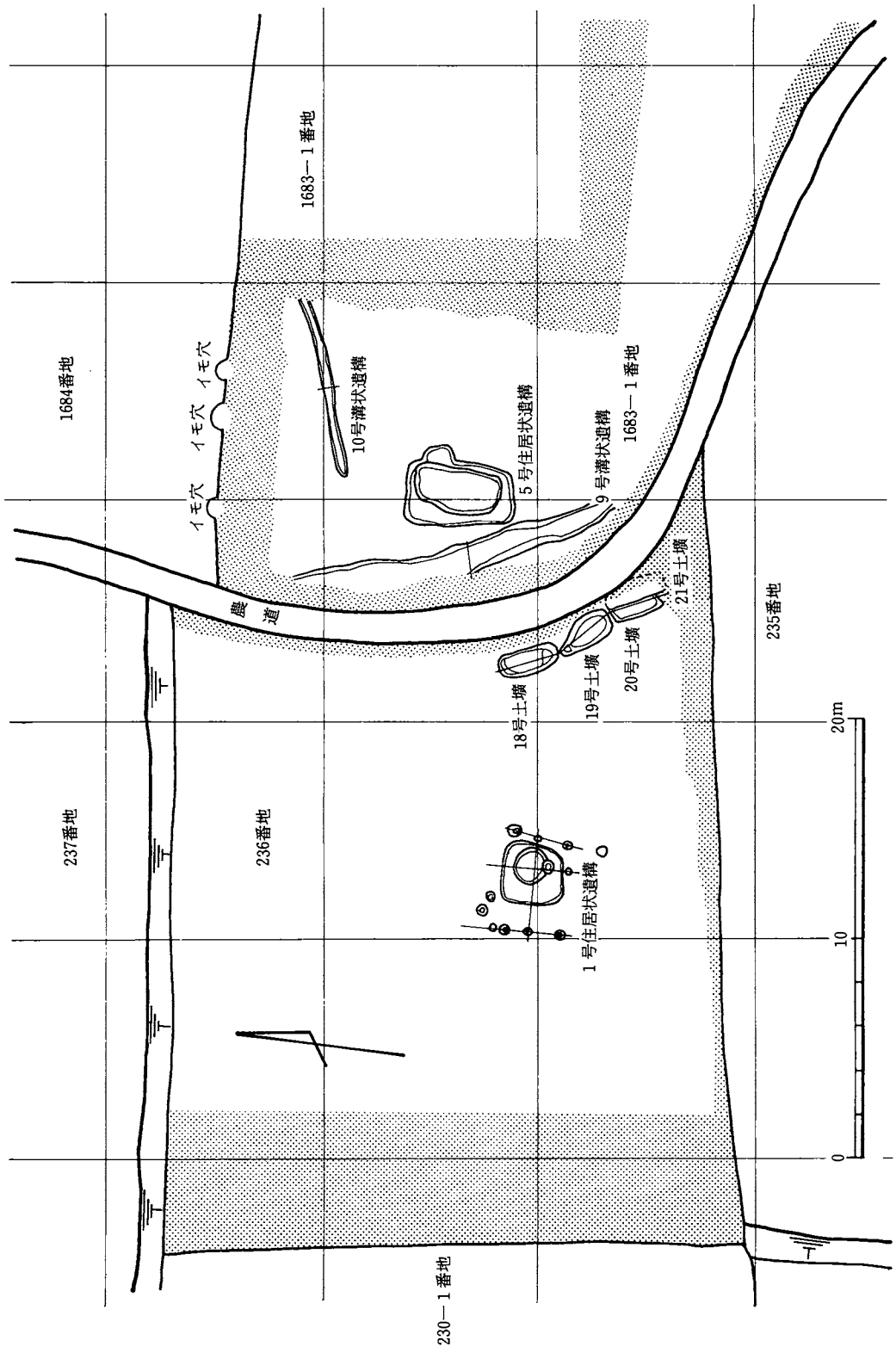
12月20日（火）　1686―2番地検出の炉址（縄文時代）の調査を終了する。本日を以て、打越遺跡の発掘調査を終了する。

12月21日（水）　作業小屋の撤収作業を行う。

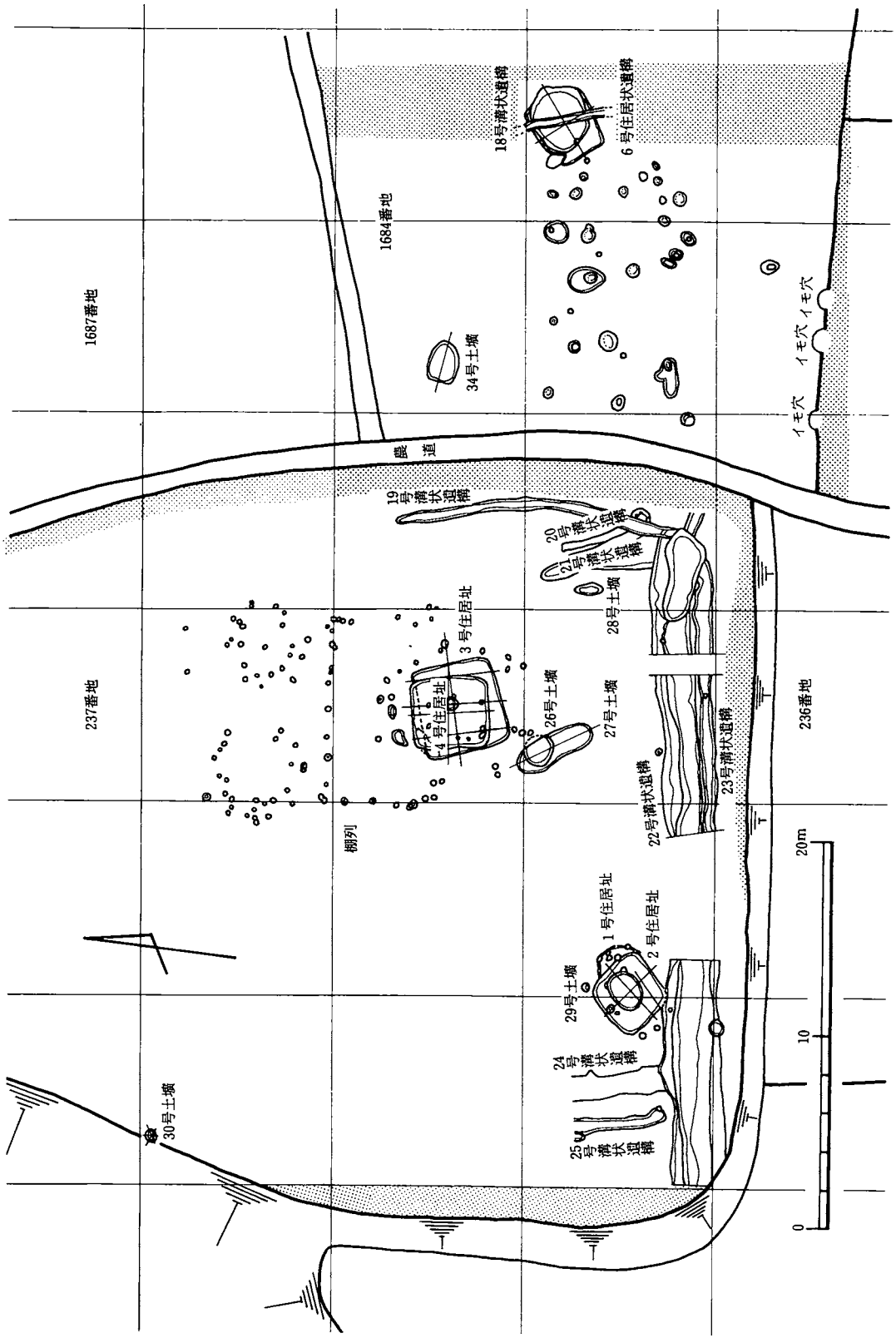
以上



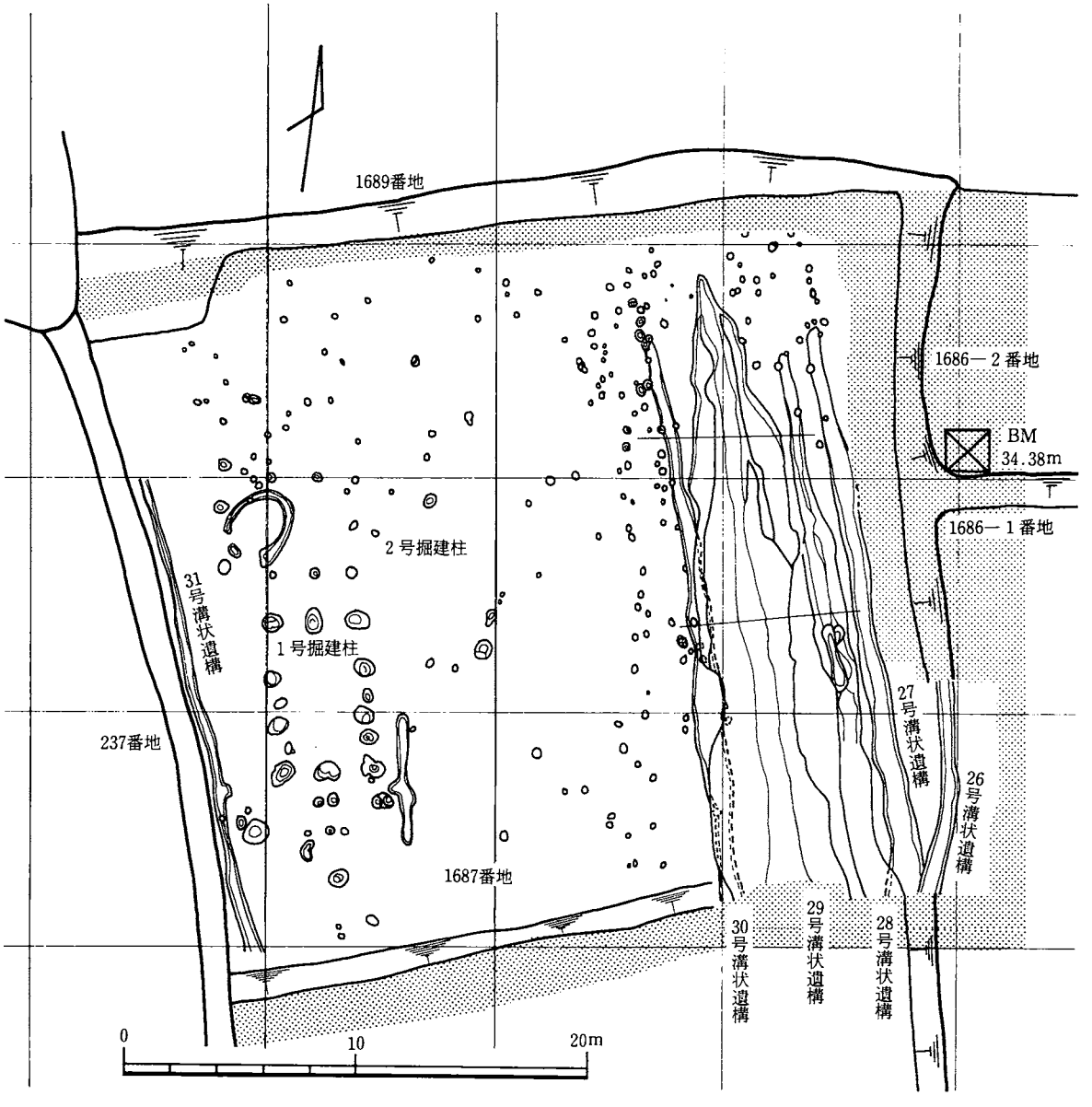
第５図　遺構配置図（235番地・1682番地及び1683－１番地）



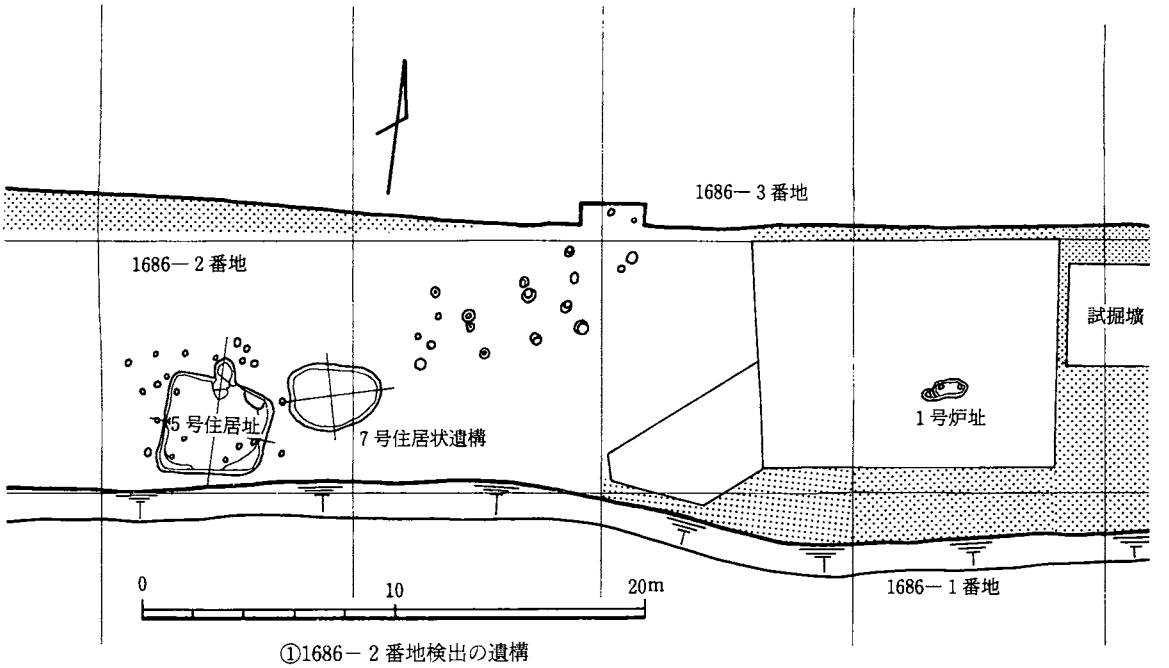
第6図　遺構配置図（236番地及び1683－1番地）



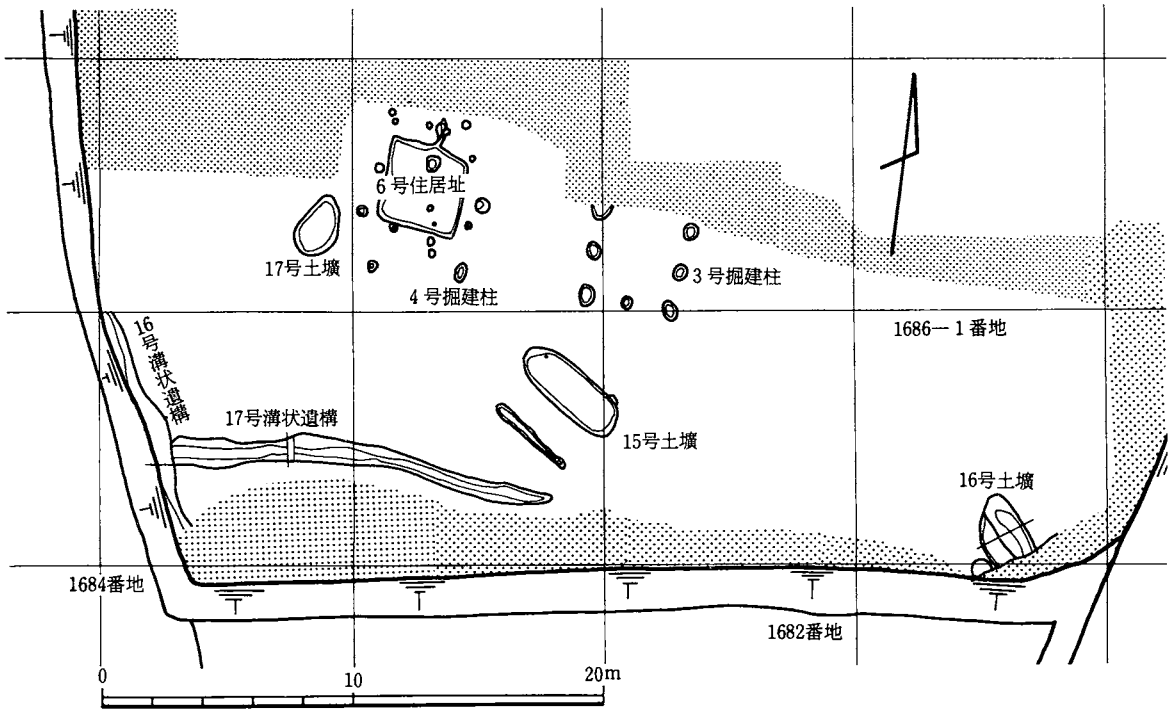
第７図　遺構配置図（237番地及び1684番地）



第8図　遺構配置図（1687番地）



①1686－2番地検出の遺構



②1686－1番地検出の遺構

第9図　遺構配置図（1686－1番地及び1686－2番地）

第2表　打越遺跡遺構一覧表

I　住居址

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
弥生3号住居址	1号住居址	237番地	弥生時代	23，7	
弥生2号住居址	2号住居址	237番地	弥生時代	23，7	24～26，40
弥生5号住居址	3号住居址	237番地	弥生時代	7，27，28	29，30，32 33，40
弥生4号住居址	4号住居址	237番地	弥生時代	7，27，28	15，31～40
7号住居址	5号住居址	1686—2番地	奈良・平安	9，42，43	44，45
9号住居址	6号住居址	1686—1番地	奈良時代	9，46	47

II　住居状遺構

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
1号住居址	1号住居状遺構	236番地	奈良・平安	6，48	49，50
2号住居址	2号住居状遺構	235番地	奈良・平安	5，51，52	53
3号住居址	3号住居状遺構	235番地	奈良・平安	5，51，52	53
4号住居址	4号住居状遺構	235番地	奈良・平安	5，51，52	54，55
5号住居址	5号住居状遺構	1683—1番地	奈良・平安	6，56	57～65
6号住居址	6号住居状遺構	1684番地	奈良・平安	7，66	16，67，68 88，89
8号住居址	7号住居状遺構	1686—2番地	奈良・平安	9，42	69，70

III　掘建柱建物遺構

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
1号掘建柱建物	1号掘建柱建物	1687番地	奈良時代	8，71，95	
2号掘建柱建物	2号掘建柱建物	1687番地	奈良時代	8，72	
3号掘建柱建物	3号掘建柱建物	1686—1番地	平安時代	9，73	17，86
4号掘建柱建物	4号掘建柱建物	1686—1番地	平安時代	9，46	

IV　土壙

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
1号土壙	1号土壙	235番地	奈良・平安	5，74	21
2号土壙	2号土壙	235番地	奈良・平安	5，74	14
3号土壙	3号土壙	235番地	奈良・平安	5，74	19，81
4号土壙	4号土壙	235番地	奈良・平安	5，74	
5号土壙	5号土壙	235番地	奈良・平安	5，74	80，81
6号土壙	6号土壙	235番地	奈良・平安	5，75	
7号土壙	7号土壙	235番地	奈良・平安	5，75	
8号土壙	8号土壙	235番地	奈良・平安	5，51，52	
15号土壙	9号土壙	235番地	奈良・平安	5，52	
14号土壙	10号土壙	235番地	縄文時代	5，52	
11号土壙	11号土壙	235番地	縄文・弥生	5，76	
—号土壙	12号土壙	235番地	不明	5，76	81
13号土壙	13号土壙	235番地	縄文時代	5，76	81
—号土壙	14号土壙	235番地	奈良・平安	5，76	
15号土壙	15号土壙	1686—1番地	奈良・平安	9，77	53，81
16号土壙	16号土壙	1686—1番地	奈良・平安	9，77	86
—号土壙	17号土壙	1686—1番地	不明	9，77	
1号土壙	18号土壙	236番地	奈良・平安	6，78	
2号土壙	19号土壙	236番地	奈良・平安	6，78	
3号土壙	20号土壙	236番地	奈良・平安	6，78	
—号土壙	21号土壙	236番地	現代	6，78	
—号土壙	22号土壙	1683—1番地	奈良・平安	5，78	
—号土壙	23号土壙	1683—1番地	奈良・平安	5，78	
—号土壙	24号土壙	1683—1番地	江戸時代末	4，5，83	
—号土壙	25号土壙	1682番地	明治時代	4，5，83	
—号土壙	26号土壙	237番地	縄文？不明	7，79	
—号土壙	27号土壙	237番地	奈良・平安	7，79	

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
一号土壙	28号土壙	237番地	奈良・平安	7，79	
2号土壙	29号土壙	237番地	弥生時代	7，23	15，25，40
一号土壙	30号土壙	237番地	縄文時代	7，10	11
一号土壙	31号土壙	1684番地		78	

V　炉址

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
1号炉址	1号炉址	1686—2番地	縄文時代	9，12	
2号炉址	2号炉址	1686—2番地	縄文時代	12	

VI　溝状遺構

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
1号溝	1号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5	14，80
2号溝	2号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5	
3号溝	3号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5，75	14，19，21 81
4号溝	4号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5，75	80，81
5号溝	5号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5，75	19，21，81
一号溝	6号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5，75	
6号溝	7号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5，75	
4号溝	8号溝状遺構	235番地	奈良・平安	5	
1号道路	9号溝状遺構	1683—1番地	奈良・平安	6	
一号溝	10号溝状遺構	1683—1番地	奈良・平安	6	
一号溝	11号溝状遺構	1682番地	江戸・明治	5，83，84	82
一号溝	12号溝状遺構	1682番地	江戸・明治	5，83，84	

遺構名		遺構検出位置	遺構の	図版番号	
発掘調査時の名称	報告書中の名称	地番	推定年代	遺構	遺物
—号溝	13号溝状遺構	1682番地	奈良・平安	5，83，84	
—号溝	14号溝状遺構	1682番地	江戸・明治	5，83，84	
—号溝	15号溝状遺構	1682番地	江戸・明治	5，83，84	
1号溝	16号溝状遺構	1686—1番地	江戸・明治	9	
2号溝	17号溝状遺構	1686—1番地	奈良・平安	9	
—号溝	18号溝状遺構	1684番地	奈良・平安	7	
—号溝	19号溝状遺構	237番地	奈良・平安	7	
—号道路	20号溝状遺構	237番地	奈良・平安	7，79	
—号溝	21号溝状遺構	237番地	奈良・平安	7，79	
—号溝	22号溝状遺構	237番地	江戸時代	7	90，91
1号溝	23号溝状遺構	237番地	江戸時代	7	15，90，91
—号溝	24号溝状遺構	237番地	江戸時代	7	
—号溝	25号溝状遺構	237番地	不明	7	90
5号溝	26号溝状遺構	1687番地	江戸時代	8，92，93	107
4号溝	27号溝状遺構	1687番地	奈良時代	8，92～95	96～100 102，103
1号溝	28号溝状遺構	1687番地	奈良・平安	8，92，93 95	
2号溝	29号溝状遺構	1687番地	平安時代	8，92，93 95	101，104 106
3号溝	30号溝状遺構	1687番地	奈良時代	8，92，93	
—号溝	31号溝状遺構	1687番地	奈良・平安	8	

第Ⅲ章　　縄文時代の遺構及び遺物

当遺跡から検出した縄文時代の遺構は、10号土壙・13号土壙・30号土壙・1号及び2号炉址である。その他、11号土壙は弥生時代の遺構とも縄文時代の遺構とも推定される。26号土壙は縄文時代の遺構と思われるが、明確ではない。

遺物としては、表面採集遺物ではあるが、マイクロブレードが最古の遺物である。次は、1号及び2号炉址から検出した撚り糸文土器である。しかし当遺物は、保管の関係で実物を手にすることが出来なくなってしまった。

縄文時代の遺物の多くは、遺構から出土した遺物ではない。土器・石器の大部分は、縄文時代後期～晩期の遺物である。特に注目される遺物としては、土偶がある。

以上羅列した遺構・遺物について、この章で述べる。

第1節　土　壙

1．10号土壙

a　10号土壙（第52図参照）の遺構

発掘調査時の仮の名称は14号土壙である。9号土壙の西側・235番地の調査区の西端から検出した。遺構の平面形は、歪んだ円形である。底面の断面形は弧を描く。遺構の最大径1.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.4m未満を測る。

覆土は明褐色土であり、締まりに富む土である。当遺構の覆土は、1号～7号土壙や8号・9号土壙の覆土とは明確に異なる。遺構内出土遺物は、縄文土器片（黒色磨研系の土器片）である。これ等のことから、当遺構は縄文時代後期～晩期の遺構と推定される。

2．11号土壙

a　11号土壙（第76図参照）の遺構

遺構検出作業中に、小判形の遺構を検出した。遺構と思われるものの覆土は、237番地検出の弥生時代の住居祉の覆土と極めて類似する。この遺構に11号土壙と名付けて発掘作業を行った。遺構検出面から底面（確定しにくい）までの深さ0.6mを測る。覆土中から、黒色磨研系の土器片（縄文時代後期～晩期）が出土した。覆土及び出土遺物から遺構の年代を推定すると、縄文時代又は弥生時代と考えられるが確定し難い。

覆土を排除していく途中で、土壙の北半分の所で基盤となっている土と思われる貝灰色の土

が出土した。ところが、この貝灰色の土の下から明褐色の土（縄文時代の土器を包含する土）が潜り込む様な状態で確認された。このことから、この部分では明らかに土層の順序が逆転していると判断される。

以上のことから、当遺構は風倒木の痕跡と推定される。

3．13号土壙

a　13号土壙（第76図参照）の遺構

発掘調査時の仮の名称も13号土壙である。遺跡の中央を通る農道の西側に隣接する位置（12号土壙の北側）から検出した。遺構の平面形は小判型を呈する。遺構の長径2.4m・短径1.9m・遺構検出面から底面までの深さ0.1～0.2mである。

覆土は明褐色土であり、黒色磨研系の土器片（縄文時代後期～晩期）を少量含む。覆土の色は10号土壙の覆土と類似することから、当遺構は縄文時代後期又は晩期の遺構であろう。

4．26号土壙

a　26号土壙（第79図参照）の遺構

3号・4号住居址（弥生時代の竪穴式住居址）の南側から検出した遺構である。当遺構と27号土壙とは切り合う。両遺構の切り合いの状態及び覆土の色から、当遺構の方が年代的に先行することは明らかである。

遺構の平面形は円形である。直径1.4～1.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.4mを測る。遺構の上面はほとんど27号土壙によって切り取られている。

覆土は黄褐色土であり、粘性に富む。覆土の色から推定すると、縄文時代の遺構の可能性が強いが、遺物が出土していないので遺構の年代は断定しがたい。

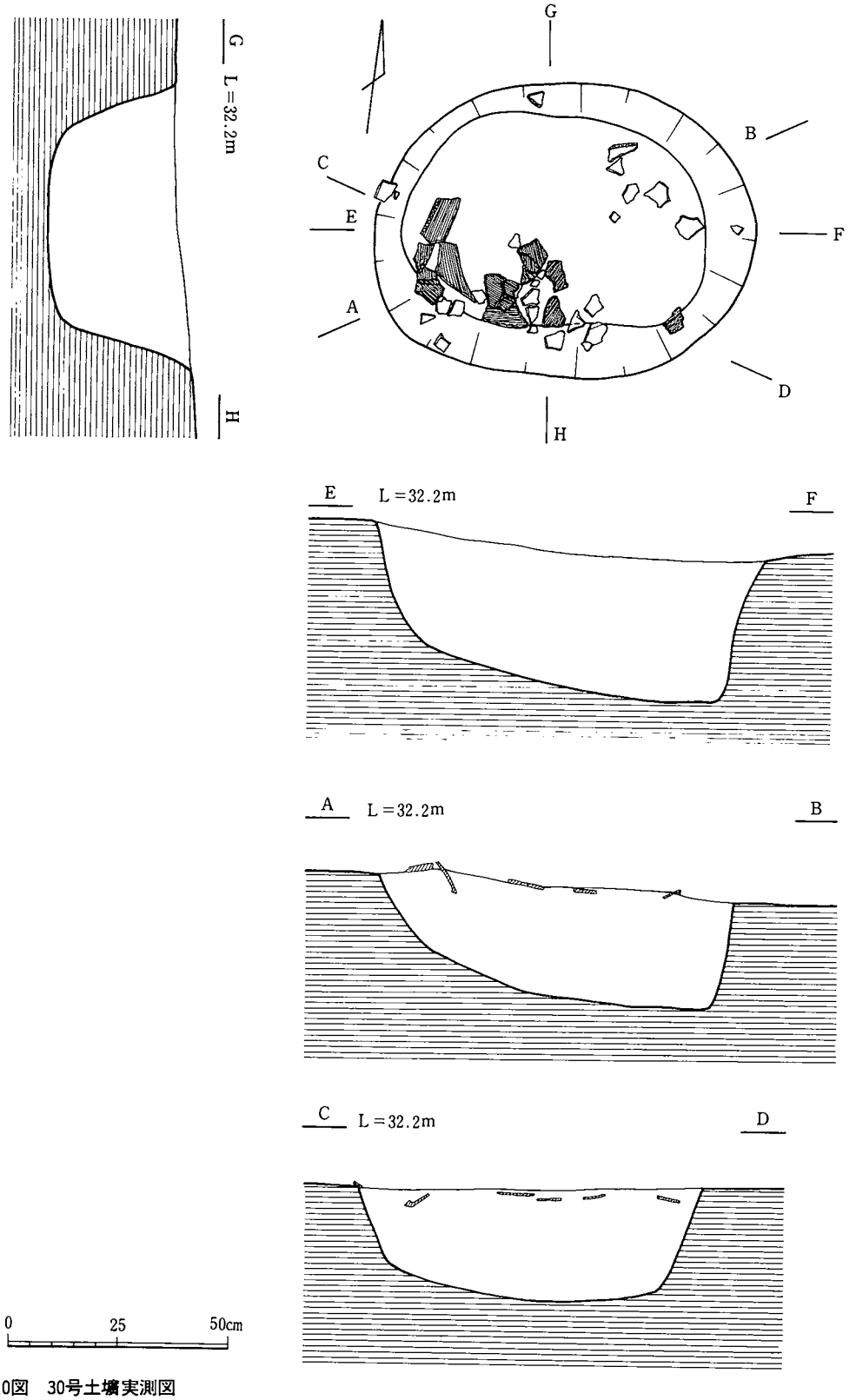
5．30号土壙

a　30号土壙（第10図参照）の遺構

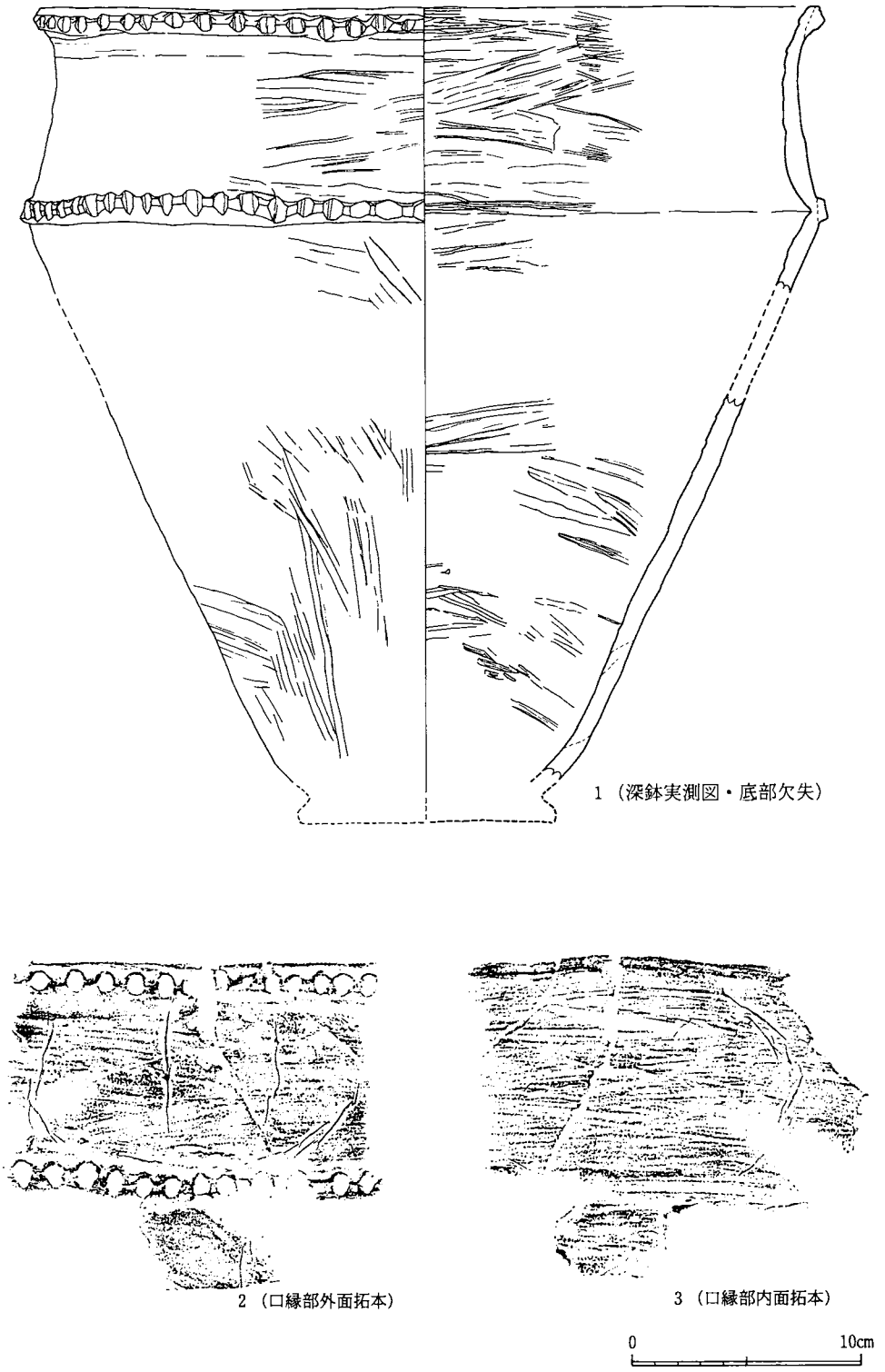
237番地の西側の縁部（西側の谷に落ち込む所）近くから検出した。耕作土（第Ⅰ層）を排除して表れた土層を当遺構は切っている。この土層の上面は、当遺構を検出した付近に於いて、西側へ強く傾斜している。

遺構の平面形は楕円形であり、長径0.9m・短径0.7m・遺構検出面から底面までの深さ0.3mを測る。覆土は黄褐色土である。出土遺物は縄文時代晩期の深鉢1個体分（突帯文土器片約50点）である。遺物の出土位置は土壙の底面からかなり浮き上がった位置である。出土した土器片は深鉢の口縁部の破片を主体とし、底部及び胴部の下部の多くの部分を失っている。

上記の様子から当遺構に於ける遺物の置かれていた旧状を推定すると、深鉢が何かに蓋をす



第10図　30号土壙実測図



第11図　30号土壙出土遺物

るような形で、土壙内に臥せた状態にあったと推定される。

遺構の年代は、無論、遺構内から検出した深鉢の示す年代（縄文時代晩期）である。

b－1　第11図　30号土壙出土遺物

1　(a)器種…縄文土器・突帯文土器の深鉢　(b)出土遺構…30号土壙　(c)大きさ…復元口径34.3cm・復元器高約36cm・最大径35.3cm　(d)色調…黄色がかった橙色から鈍い褐色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から肩部にかけてハケ状の工具で調整を施した後、ナデ調整を施す。胴部の下部には、縦方向又は斜め方向の粗いハケ調整を施す。口縁部と肩部に突帯が廻る。突帯の幅は0.8～1.0cmである。突帯の上には幅4㎜程の刻み目がヘラ状工具によって底部の方から口縁部の方へ刻まれている。口縁部の突帯は口唇部より少し下がった位置に張り付けられている。（内器面）口縁部から肩部にかけてはハケ状工具により横方向の粗い調整が施される。調整痕は重複している。口縁部には部分的にヘラ状工具によると思われる削りの痕跡が見られる。胴部の下部にはハケ状工具による調整の後、ヘラ状工具による研磨が施される。研磨は全面には施されていないので、初めに施された調整痕が残る部分がある。ハケ状工具による調整の方向と研磨の方向は同じである。研磨の幅は2㎜程である。　(h)その他…図上で復元じた器高はもっと高くなる可能性がある。

第2節　炉　址

1．1号・2号炉祉

a　1号・2号炉祉（第12図参照）の遺構

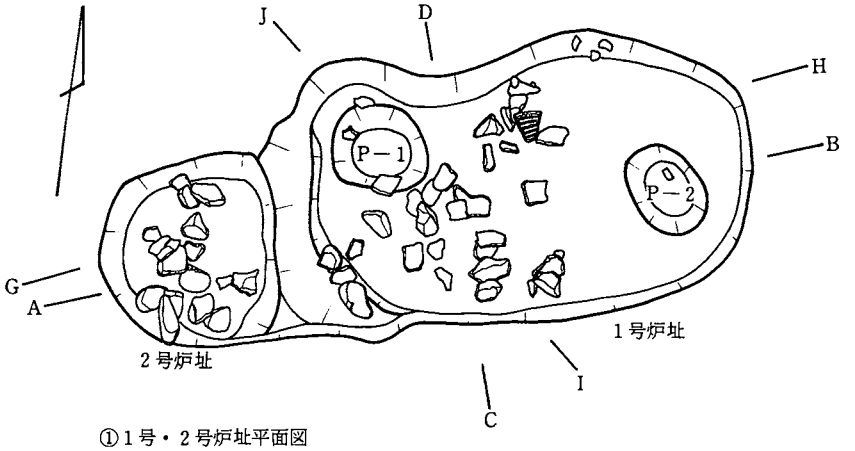
今回発掘調査した中で最上段の畑（1686－2番地）を1.5m程度掘り下げたところ、当遺構を検出した。この畑の土層の層序は第13図に示す。

当遺構の切り込み面は、第II－b層の下面又は第II－b層の中間付近と思われる。当遺構は2基の炉址（1号炉・2号炉）が切り合った状態で検出された。

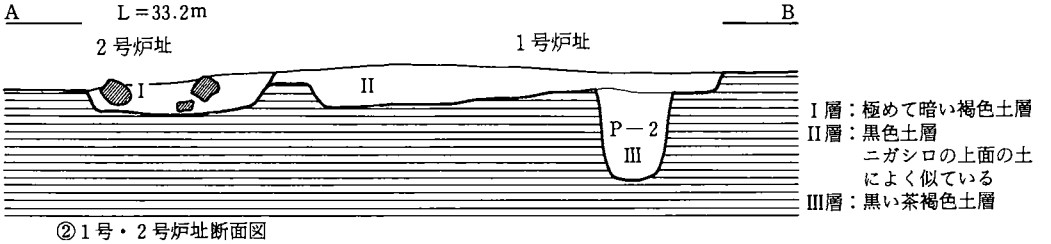
1号炉の覆土（第12図の第I層）は、極めて暗い褐色土である。多量の黒色土粒をベースとし、焼土粒や炭素粒を含み、粘性や締まりに欠ける。

2号炉の覆土（第12図の第II層）は、黒色土であり、色調は第I層より暗い。第II層の土は、一見、ニガシロ状の土（第13図の第IV層）に類似する。多量の黒色土粒をベースとし、炭素粒や焼土粒を含み、粘性や締まりに富む。

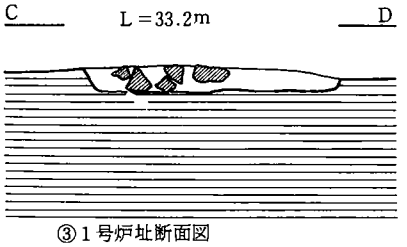
2号炉址の底面に穿かれた穴の中の土（第12図の第III層）は、黒い茶褐色土である。多量の黒色土に粘性の強い土が混る。粘性や締まりに富み、含水性が強い。



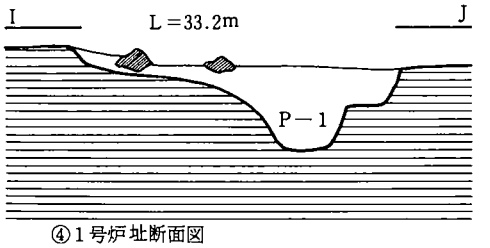
①1号・2号炉址平面図



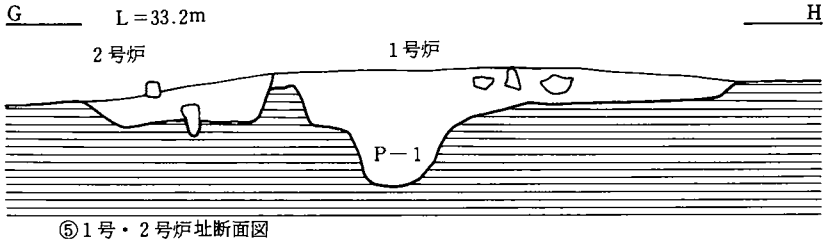
②1号・2号炉址断面図



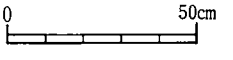
③1号炉址断面図



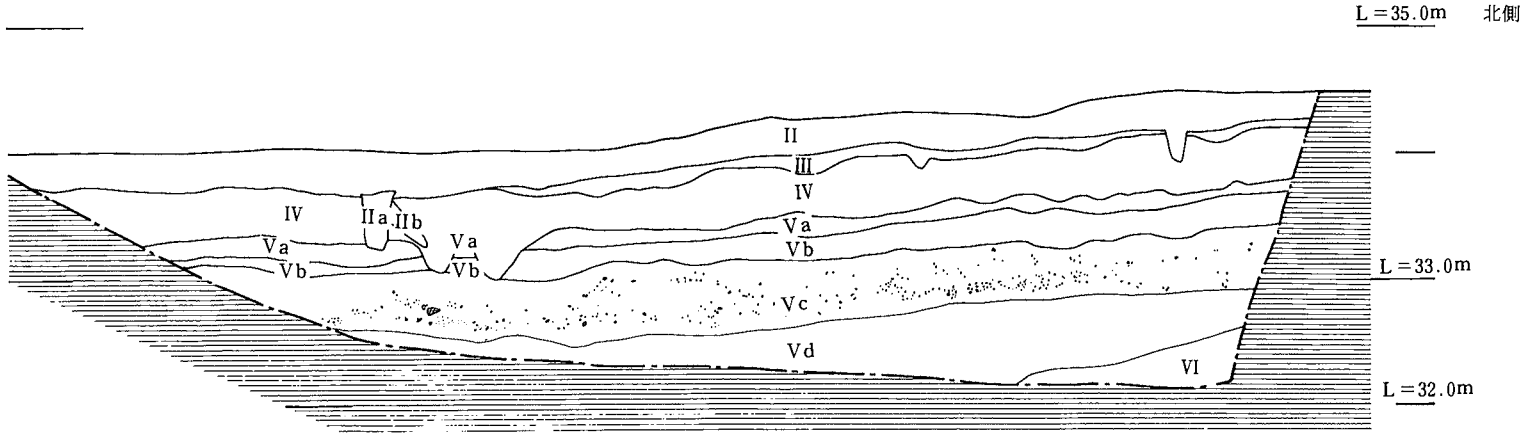
④1号炉址断面図



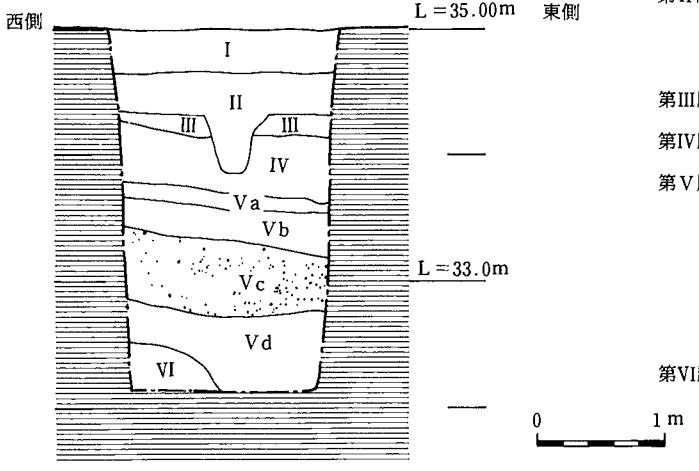
⑤1号・2号炉址断面図



第12図　1号・2号炉址実測図



〈1686—2番地に於ける埋没土推積状態〉



第I層	耕作土層	
第II層	黄褐色土層	多量の黄色土粒子を主体とし、粘性・しまりが強い。
IIa	暗黄褐色土層	多量の黄色土粒子を主体とし、若干の粘性を持つ、色調はIII層より暗い。
IIb	暗黄褐色土層	多量の黄色土中に黒色土を混入する。粘性を持つがしまりに欠ける。色調は暗い。(木根か？)
第III層	暗(黄)褐色土層	多量の黒色土粒子を主体とし、黄色土粒子を混入する。粘性・しまりに富む。
第IV層	黒色土層(ニガシロ)	多量の黒色土粒子を主体とし、特に黒色ブロック土(径1.5cm)を混入する。粘性・しまりに富み硬質土層
第V層		
Va	暗茶褐色粘土層(ソフトローム)	多量の茶褐色質土粒子を主体とし、若干の粘質土ブロック及び、黄色土粒子を混入する。
Vb	明茶褐色粘質土層(ハードローム)	多量の茶褐色粘質土粒子を主体とし小砂粒子を含む。(径0.5mmの赤色スコリア粒子を含む？)
Vc	明茶褐色礫層(洪積世？)	多量の茶褐色粘質土粒子を主体とし、径0.3mmの小砂礫から、径8cmの礫まで多量に含む。
Vd	明茶褐色粘土層	多量の茶褐色粘質土粒子を主体とし、粘性・しまりがかなり強い。若干の小砂礫を含む。色調はVcより明るい。
第VI層	赤茶褐色硬質土層(鳥栖ローム)	多量の赤茶褐色土粒子を主体とし、粘性・しまりに富む。

第13図　打越1686—2番地に於ける土層観察図

1号・2号炉址の中から焼けた礫が多く出土し、その並び方から、両遺構とも石囲い炉と推定される。礫の間から撚糸文土器の破片が出土した。

出土遺物及び遺構の切り込み面から推定して、1号・2号炉址は縄文時代早期の遺構と思われる。

第3節　一括採集の遺物

1．一括採集の縄文土器

a　遺構不明又は縄文時代以外の遺構出土の土器

縄文時代の遺構から出土した土器ではなく、他の時代の遺構や表面採集の遺物である。土器片の多くは、縄文時代後期～晩期にかけての遺物である。

b－1　第14図　打越236・235番地出土の縄文土器

1　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…復元口径21.5cm・器高不明　(d)色調…（外器面）褐色がかった灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・気泡を少し含む。小さな白色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも丁寧に研磨を施す。口唇部を区分するかのように、内外器面にそれぞれ一条の沈線を施す。　(h)その他…頸部に粘土の接合痕が残る。肩部は強く張ると推定される。

2　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

3　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・2号土壙　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色　(e)胎土…緻密・小さい白色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。研磨痕の幅は1㎜程である。　(h)その他…口縁部の破片である。

4　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明(d)色調…淡い黄橙　(e)胎土…緻密・少し気泡を含む。砂粒や黒色の造岩鉱物を少量含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

5　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

6　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）淡い黄橙色・（内器面）灰色がかった黄褐色　(e)胎土…やや粗い・

微細な砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

7　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…やや緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

8　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…やや緻密・微細な砂粒を少量含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）研磨を施す。約3㎜間隔程の条痕が横方向に走る。一般に、リボンと呼ばれる浅鉢の口縁部の突起である。リボンの直下に内面から外面方向に一つの穴を穿孔する。（内器面）ヘラ状工具で整形した後、横ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

9　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…236番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い赤褐色・（内器面）鈍い褐色　(e)胎土…直径0.1～3㎜程の微細な砂粒や小礫を多くを含む。　(f)焼成…不良　(g)調整…内外器面とも指による横ナデを施す。外器面の調整が内器面よりも丁寧である。口縁部には二条の刺突文・頸部にも一条の刺突文を施す。口縁部の二条の刺突文と頸部の一条の刺突文の間に二条の押し引き文を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

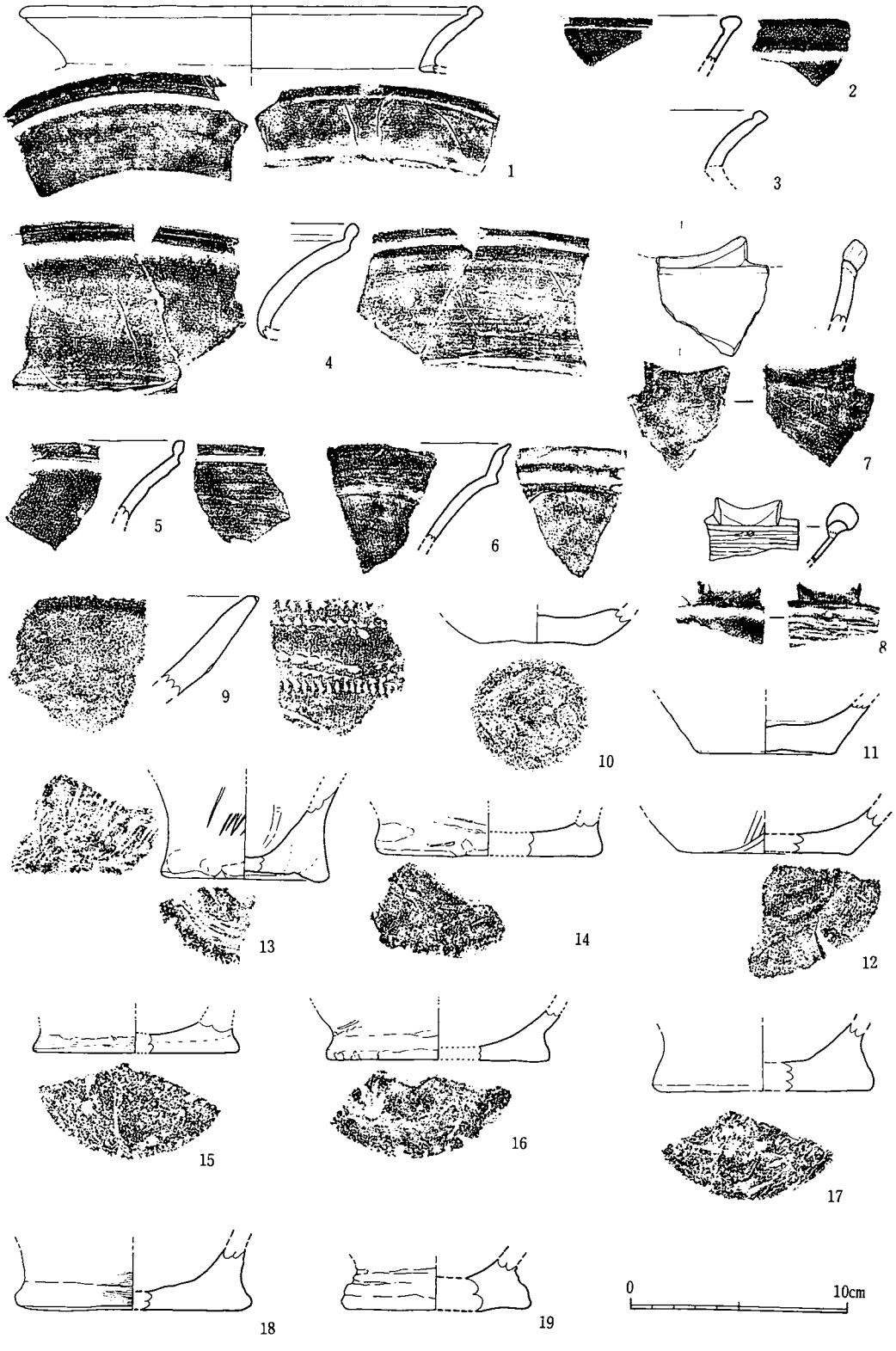
10　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径5.3cm　(d)色調…（外器面）淡い黄橙色・（内器面）灰色がかった黄褐色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…やや良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。(h)その他…底部の破片である。

11　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径6.4cm　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）黒色　(e)胎土…緻密・白色及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

12　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.0cm　(d)色調…赤橙色　(e)胎土…やや粗い・白色及び黒色の造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。内器面の磨滅が激しい。　(h)その他…底部の破片である。

13　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ状の工具？によると思われる調整痕が見られる。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

14　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不



第14図　打越236・235番地出土の縄文土器

明・復元底径10.6cm　(d)色調…赤橙色　(e)胎土…やや粗い・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

15　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径9.6cm　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。内器面の磨滅が激しい。　(h)その他…底部の破片である。

16　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径10.4cm　(d)色調…（外器面）淡い黄橙色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。内器面の磨滅が激しい。　(h)その他…外器面に赤色顔料を化粧掛けする。底部の破片である

17　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径10.2cm　(d)色調…鈍い黄橙色　(e)胎土…やや粗い・砂粒や造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…粗いナデ調整を施す。　(h)その他…粗製の深鉢の底部と推定される。

18　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…235番地・３号溝状遺構№11　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径10.8cm　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…粗製の深鉢の底部と推定される。

19　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…235番地・１号溝状遺構№２　(c)大きさ　…口径及び器高不明・復元底径8.8cm　(d)色調…（外器面）黄橙色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒や造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…粗製の深鉢の底部と推定される。

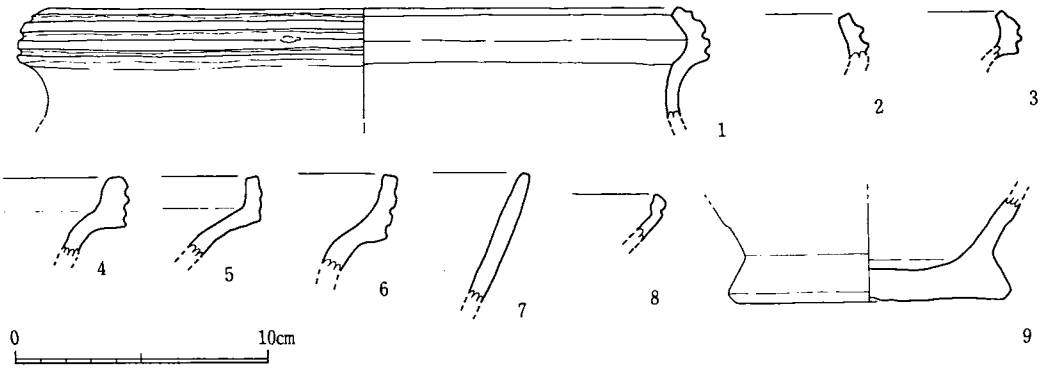
ｂ－２　第15図　打越237番地出土の縄文土器

1　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…29号土壙・Ｉ層　(c)大きさ…復元口径25.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い橙色・（内器面）淡い橙色　(e)胎土…緻密・小さな造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…丁寧に研磨を施す。口縁部に三条の凹線を施す。　(h)その他…口縁部から頸部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

2　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層　(c)大きさ…口径及び器高不明(d)色調…明るい灰色がかった褐色　(e)胎土…やや粗い・造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好(g)調整…磨滅が激しい。口縁部に凹線を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

3　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…４号住居址一括　(c)大きさ…口径及び器高不明(d)色調…（外器面）黒褐色・（内器面）黄橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…研磨を施す。口縁部に凹線を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

4　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…237番地一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…研磨を施す。口縁部に三条の凹線を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。



第15図　打越237番地出土の縄文土器

5　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…237番地一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…研磨を施す。口縁部に浅い三条の凹線を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

6　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…23号溝状遺構　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…研磨を施す。口縁部に三条の凹線を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

7　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…237番地一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。器面の荒れが激しい。　(h)その他…口縁部の破片である。

8　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…４号住居址一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…研磨を施す。

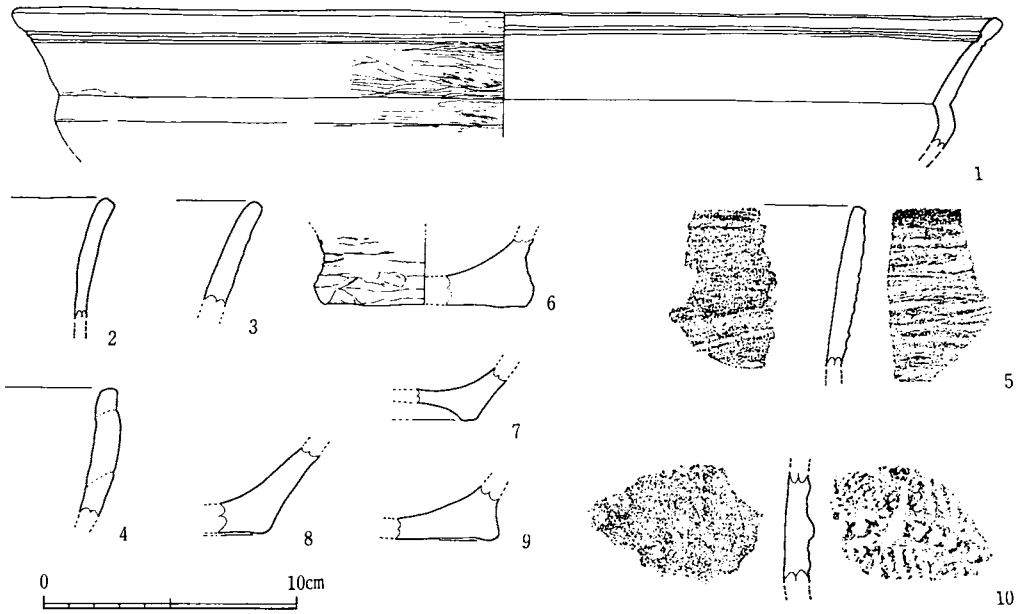
9　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…237番地一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）褐色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

b－3　第16図　打越1684番地出土の縄文土器

1　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…Pit検出面・一括　(c)大きさ…復元口径39.3cm・器高不明　(d)色調…（外器面）淡い橙色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）研磨が施されており、頸部以下にナデ調整がみられる。（内器面）横方向にナデ調整を施した可能性がある。

2　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ｉ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）右上がりや左上がりに指によるナデ調整を施す。（内器面）横方向に指によるナデ調整を施す。

3　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ｉ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調



第16図　打越1684番地出土の縄文土器

…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・直径２～３㎜程の砂粒や黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも研磨を施す。

4　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…やや粗い・直径１～３㎜程の砂粒や黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）粘土紐を輪積みして整形した時の接合痕と思われる痕跡が見られる。粗い横方向のナデ調整を施す。（内器面）ヘラ状の工具によって削ったような整形痕が見られる。

5　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…６号住居状遺構№６　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）淡い黄橙色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…やや粗い・直径１～２㎜程の砂粒や長さ１～３㎜程の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）条痕がみられる。口縁部にはナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。

6　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.8cm　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径１㎜程の砂粒や長さ２㎜程の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）粗い器面調整を施す。底面はナデ調整を施す。（内器面）研磨を施す。　(h)その他…底面の約1/4周を残す。

7　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）淡い黄橙色・底面に赤色顔料が僅かに残る。（内器面）淡い黄橙色・一部褐色がかった灰色　(e)胎土…やや粗い・造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）研磨を施す。（内器面）器面荒れが激しい。

8　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…不明・器面荒れが激しい。

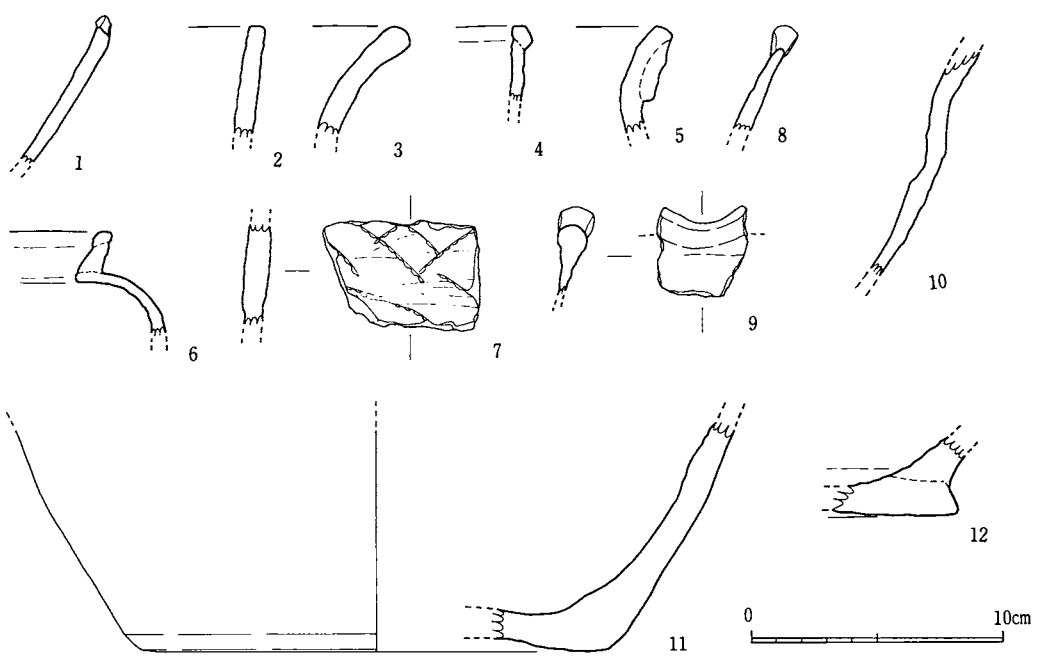
9　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い橙色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を多く含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）調整痕不明・器面荒れが激しい。

10　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…6号住居状遺構の北側　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い赤褐色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）撚り糸文を施文の後、横一列に貝殻腹縁による押圧を施す。（内器面）調整痕不明・器面荒れが激しい。

b－4　第17図　打越1686－1番地出土の縄文土器

1　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…(外器面)褐色であるが、黒褐色の斑がある。（内器面）鈍い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）条痕が残る。同心円状に沈線を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。口縁部は山形を呈する。

2　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…3号掘建柱建物遺構・Pit9一括　(c)大きさ…口径



第17図　打越1686－1番地出土の縄文土器

及び器高不明　(d)色調…鈍い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）条痕が残る。（内器面）条痕を施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。

3　(a)器種…縄文土器・鉢　(a)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）褐色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）条痕が残る。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面の頸部付近ににススが付着する。

4　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面の口縁部に沈線を廻らす。

5　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…II層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…明るい赤褐色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。口縁部が肥厚する。その肥厚部に凹線を施す。　(h)その他…外器面の口唇部にススが付着する。

6　(a)器種…縄文土器・器種不明　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。外器面の口唇部の下部に一条の沈線を施す。　(h)その他…外器面に赤色顔料を化粧掛けする。

7　(a)器種…縄文土器・器種不明　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。外器面に貝殻腹縁による押圧文を施す。

8　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…山形の口縁となる。内外器面とも一部にススが付着する。

9　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）鈍い黄褐色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…黒色磨研系の土器の口縁部の一部である。所謂リボン状の突起である。外器面にススが付着する。

10　(a)器種…縄文土器・深鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い橙色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）上半分はヘラ状の工具による調整の後、粗くナデ調整を施す。下部は縦方向にヘラ状の工具の痕が残る。（内器面）横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。胴部の破片である。

11　(a)器種…縄文土器・深鉢　(b)出土遺構…縄文時代の遺物遺構検出の為のグリッド　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径18.6cm　(d)色調…褐色がかった灰色・磨滅した部分は灰白

色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…手で叩き締めた後、ナデるようにして整形を施す。

12　(a)器種…縄文土器・深鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…目の大きなハケ状の工具のような物で調整を施したように見える。

b－5　第18図　打越1687番地出土及び表面採集の縄文土器

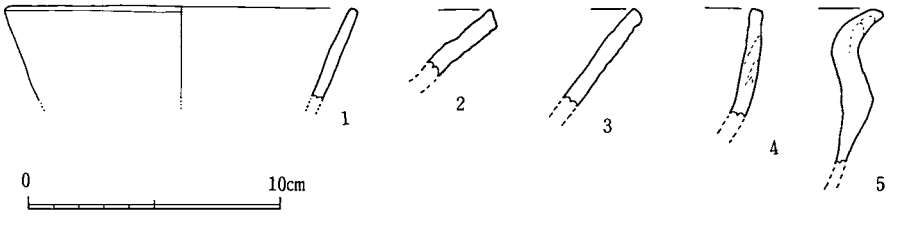
1　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…Pit 2　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高不明　(d)色調…暗褐色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面に条痕が残る。　(h)その他…外器面にススが付着する。

2　(a)器種…縄文土器・浅鉢　(b)出土遺構…表土一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黄橙色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・白色及び黒色の造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…粗製の浅鉢である。

3　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…表土一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黄橙色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・白色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。調整痕の末端部では粘土が僅かながら盛り上がる。　(h)その他…粗製の深鉢である。

4　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…表土一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黒褐色・（内器面）橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…粗製の深鉢である。口縁部の1/16周を残す。

5　(a)器種…縄文土器・鉢　(b)出土遺構…表土一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黒褐色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラ状工具による削り？を施す。（内器面）口縁部は横ナデ調整、頸部以下には横又は斜め方向の削りを施す。　(h)その他…粗製の鉢である。口縁部の破片である。



第18図　打越1687番地出土及び表面採集の縄文土器

2．一括採集の石器

a　遺構不明又は縄文時代以外の遺構出土の石器

前述の縄文土器と同様に縄文時代の遺構から出土した石器ではなく、他の時代の遺構や表面採集の遺物である。石器の多くは、前述の土器の示す時代の利器と推定される。

b－1　第19図　打越遺跡出土の打製石斧

1　(a)器種…安山岩・打製石斧　(b)出土遺構…235番地・3号溝状遺構No.1　(c)大きさ…長さ不明・幅3.8cm・厚さ1.5cm　(d)色調…灰色　(h)その他…安山岩の板状節理が発達した岩石を利用する。斑晶が極めて小さい。基部は擦れている。図中でスクリーントーンをかけて示した部分は焼けて赤変している。基部のみ残存する。

2　(a)器種…頁岩・打製石斧　(b)出土遺構…235番地・3号土壙の西側No.2　(c)大きさ…長さ不明・幅4.3cm・厚さ1.1cm　(d)色調…黒色　(h)その他…基部のみ残存する。

3　(a)器種…安山岩・打製石斧　(b)出土遺構…235番地・5号溝状遺構の西側No.2　(c)大きさ…長さ不明・幅5.6cm・厚さ2.9cm　(d)色調…灰色　(h)その他…硬い安山岩製であり、器表は余り風化が進んでいない。片面に自然の礫面が残る。刃部を欠失する。

4　(a)器種…礫岩・打製石斧　(b)出土遺構…1684番地・II層上面一括　(c)大きさ…長さ不明・幅5.6cm・厚さ1.6cm　(d)色調…灰色　(h)その他…片面に自然の礫面が残る。刃部を欠失する。

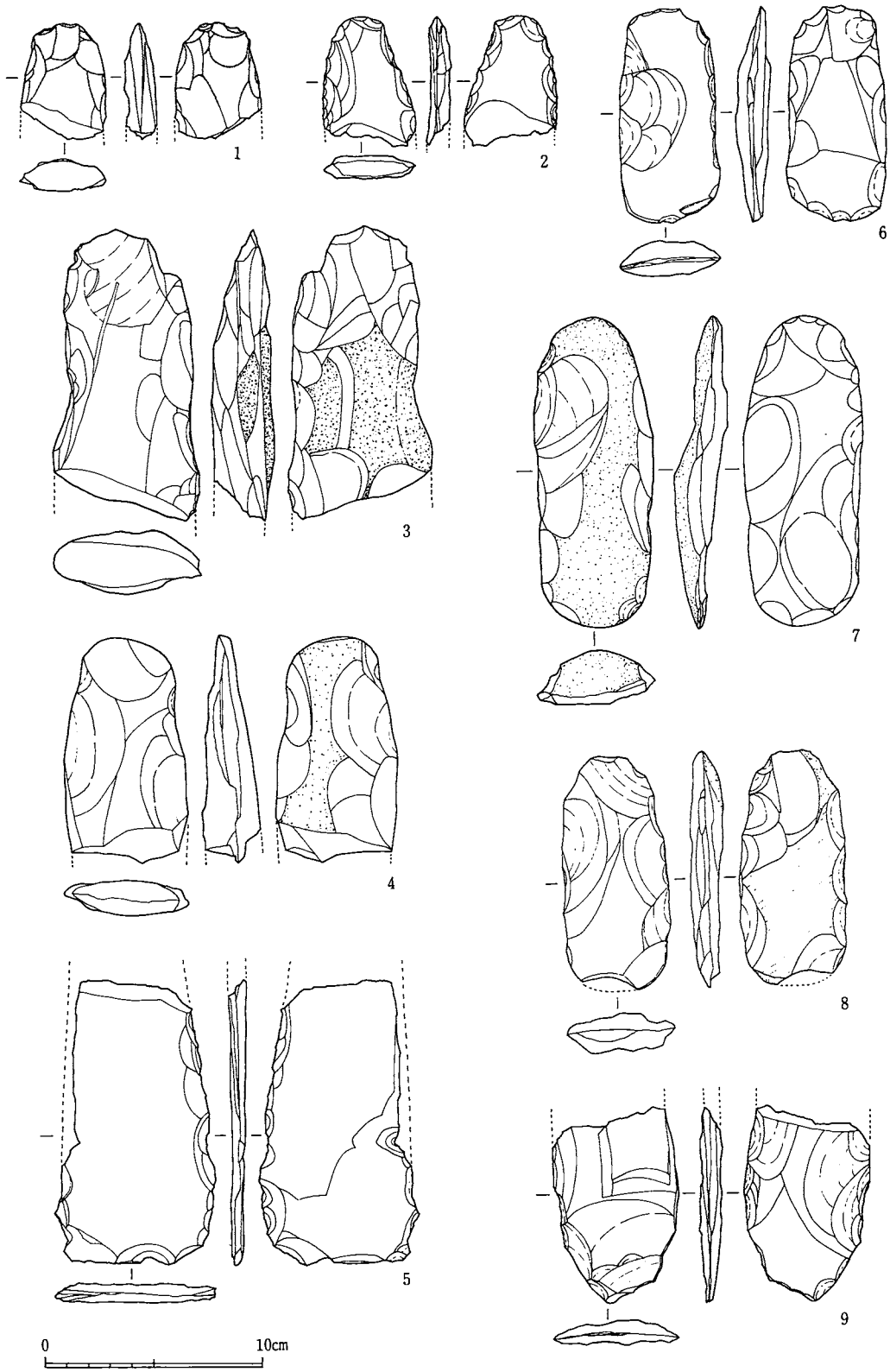
5　(a)器種…砂岩・打製石斧　(b)出土遺構…1686－2番地・一括　(c)大きさ…長さ不明・幅7.2cm・厚さ0.9cm　(d)色調…白色がかった褐色　(h)その他…非常に板状に剝離し易い。基部及び一側面を欠失する。刃部は使用により傷む。

6　(a)器種…安山岩・打製石斧　(b)出土遺構…236番地・II層一括　(c)大きさ…長さ9.6cm・幅4.6cm・厚さ1.6cm　(d)色調…灰色　(h)その他…器表は強く風化する。刃部は丸く磨滅する。

7　(a)器種…砂岩・打製石斧　(b)出土遺構…235番地・5号溝状遺構北側　(c)大きさ…長さ14.0cm・幅5.2cm・厚さ2.5cm　(d)色調…灰色　(h)その他…片面には自然の礫面が良く残る。母岩から横剝ぎによって得られた石材を使用して石斧を造り出したと推定される。

8　(a)器種…安山岩・打製石斧　(b)出土遺構…235番地・II層一括　(c)大きさ…長さ10.6cm・幅4.8cm・厚さ1.8cm　(d)色調…灰色　(h)その他…片面には磨滅の痕跡が良く残る。刃部の一部を欠損する。

9　(a)器種…頁岩・打製石斧　(b)出土遺構…1686－1番地・試掘溝内一括　(c)大きさ…長さ不明・幅5.7cm・厚さ1.3cm　(d)色調…黒色　(h)その他…刃部は良く磨滅しており、かなり使用されたと推定される。基部を欠失する。

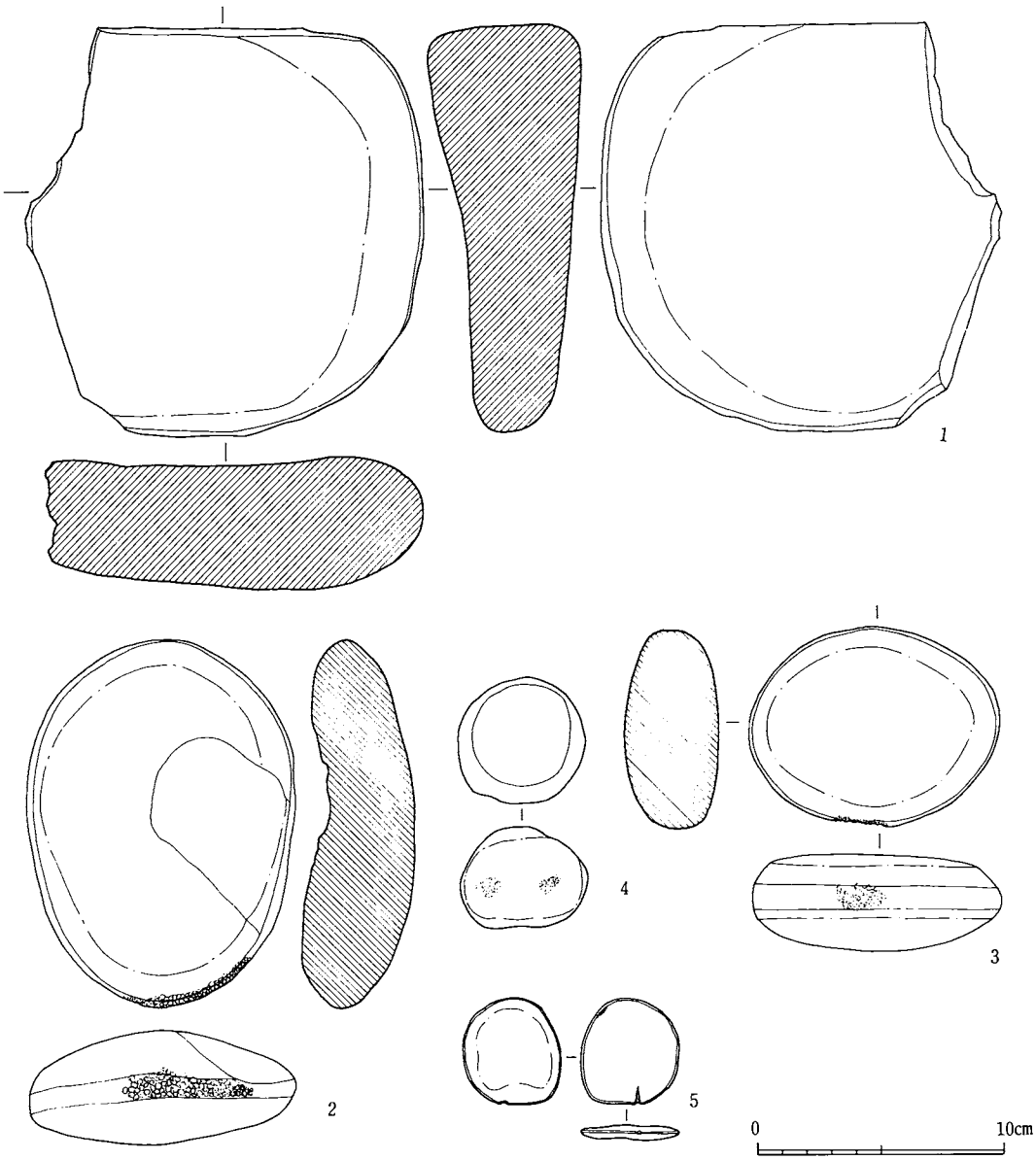


第19図　打越遺跡出土の打製石斧

ｂ－２　第20図　打越遺跡出土の石器

1　(a)器種…砂岩・石皿又は砥石　(b)出土遺構…236番地・Ⅱ層一括　(c)大きさ…長さ不明・幅16.3cm・厚さ5.2cm　(d)色調…褐色　(h)その他…両面を使用している。天草砥石層の砂岩に類似しているように思われる。

2　(a)器種…安山岩・敲打石　(b)出土遺構…237番地・Ⅱ層一括　(c)大きさ…長径14.9cm・短径10.9cm・厚さ4.6cm　(d)色調…灰色　(h)その他…皿状火山弾に類似した形状を呈する。



第20図　打越遺跡出土の石器

3　(a)器種…安山岩・敲打石又は磨石　(b)出土遺構…235番地・II層一括　(c)大きさ…長径10.1cm・短径7.8cm・厚さ3.8cm　(d)色調…灰色　(h)その他…両面は擦れている。側面に敲打痕が残る。

4　(a)器種…安山岩・敲打石　(b)出土遺構…237番地・一括　(c)大きさ…長径5.3cm・短径4.0cm・厚さ4.2cm　(d)色調…淡い褐色がかった灰色　(h)その他…器表は風化している。球状を呈する。器面に敲打痕が残る。敲打石以外に投弾の可能性がある。

5　(a)器種…砂岩・使用痕のある礫　(b)出土遺構…1684番地・II層上面一括　(c)大きさ…長径4.3cm・短径4.0cm・厚さ0.6cm　(d)色調…褐色がかった灰色　(h)その他…器表は風化している。薄い煎餅状の自然礫の一端に細い紐の擦り傷が残る。

b－3　第21図　打越遺跡出土の石器

1　(a)器種…蛇紋岩・磨製石斧　(b)出土遺構…1684番地№1　(c)大きさ…長さ22.6cm・幅7.1.cm・厚さ2.0cm　(h)その他…完形である。大変良く研磨された石斧であり、器表に研磨痕が良く残る。一見、未使用の石斧のように見える。

2　(a)器種…蛇紋岩・磨製石斧　(b)出土遺構…235番地3号溝状遺構の東側№24　(c)大きさ…長さ6.8cm・幅2.5.cm・厚さ0.9cm　(h)その他…完形である。大変良く研磨された石斧であり、器表に研磨痕が良く残る。

3　(a)器種…砂岩・磨製石斧の刃部　(b)出土遺構…1687番地一括　(c)大きさ…長さ及び幅不明・厚さ1.9cm

4　(a)器種…砂岩・局部磨製石斧の刃部　(b)出土遺構…1687番地一括　(c)大きさ…長さ不明・幅6.7cm・厚さ1.1cm　(h)その他…上半分(基部)を欠失する。側縁部は剝離調整を施す。刃部が非常に良く研磨されている。

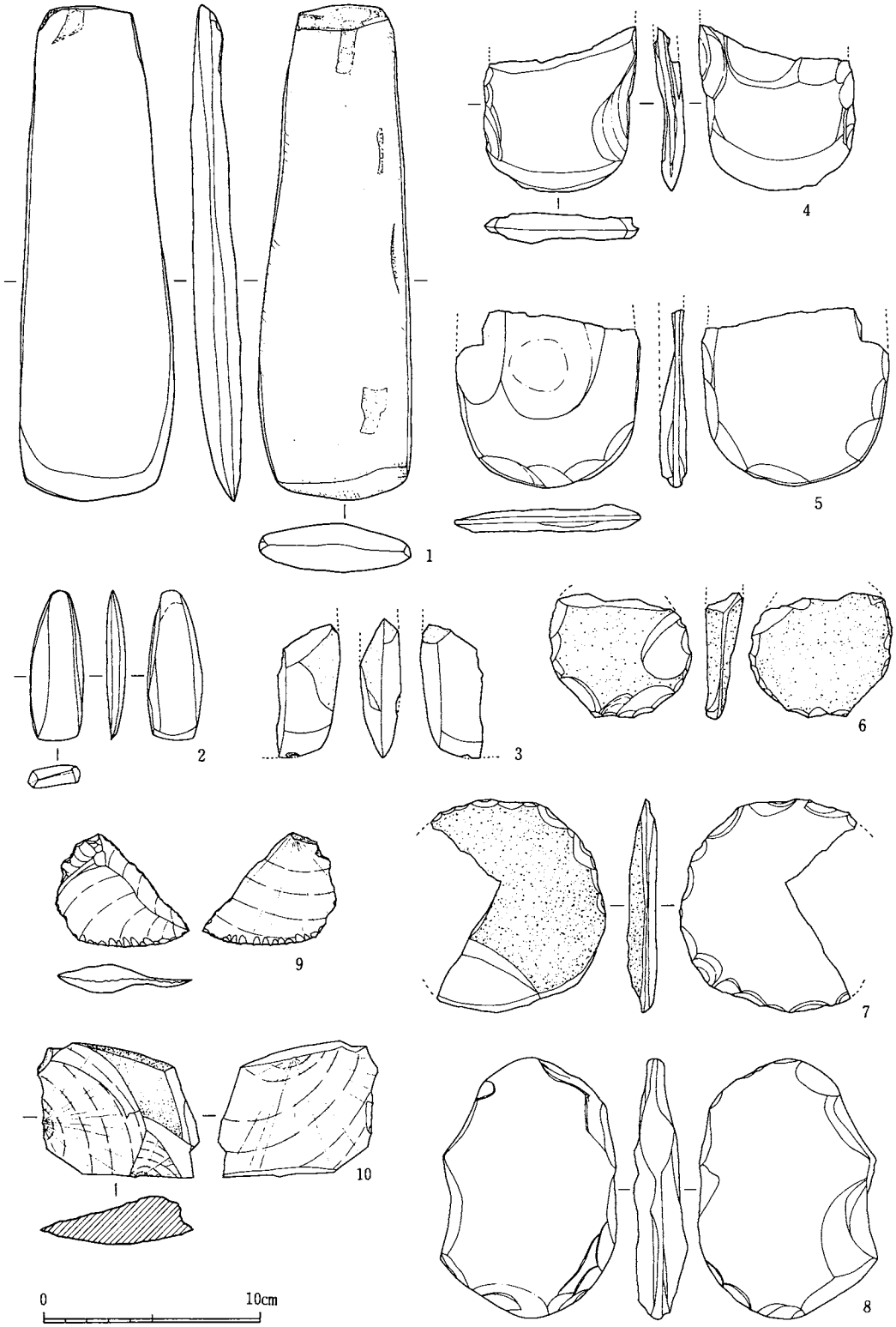
5　(a)器種…安山岩・打製石斧の刃部　(b)出土遺構…235番地1号土壙西側№2　(c)大きさ…長さ不明・幅8.5cm・厚さ1.3cm　(h)その他…上半分(基部)を欠失する。側縁部は剝離調整を施す。刃部が丸く磨滅している。

6　(a)器種…砂岩・円板状石器？　(b)出土遺構…1687番地一括　(c)大きさ…幅6.4cm・厚さ1.7cm　(h)その他…両面に自然面あり。刃部が摩滅している部分あり。

7　(a)器種…片岩・円板状石器　(b)出土遺構…237番地一括　(c)大きさ…直径9.61cm・厚さ1.4cm　(h)その他…片面は自然面が残る。金色に光る造岩鉱物が観察されることから雲母片岩の可能性がある。

8　(a)器種…安山岩・円板状石器の未製品？　(b)出土遺構…235番地5号溝状遺構№3　(c)大きさ…長さ12.0cm・幅7.7cm・厚さ2.4cm　(h)その他…溝状遺構の東側半分の位置から出土する。

9　(a)器種…安山岩・スクレイパー　(b)出土遺構…235番地II層一括　(c)大きさ…縦5.1cm・



第21図　打越遺跡出土の石器

幅5.5cm・厚さ1.3cm　(h)その他…サヌカイト状の岩石である。刃部には使用痕が残る。

10　(a)器種…チャート・剥片　(b)出土遺構…237番地一括　(c)大きさ…縦5.9cm・幅6.9cm・厚さ2.0cm　(h)その他…強く風化している。

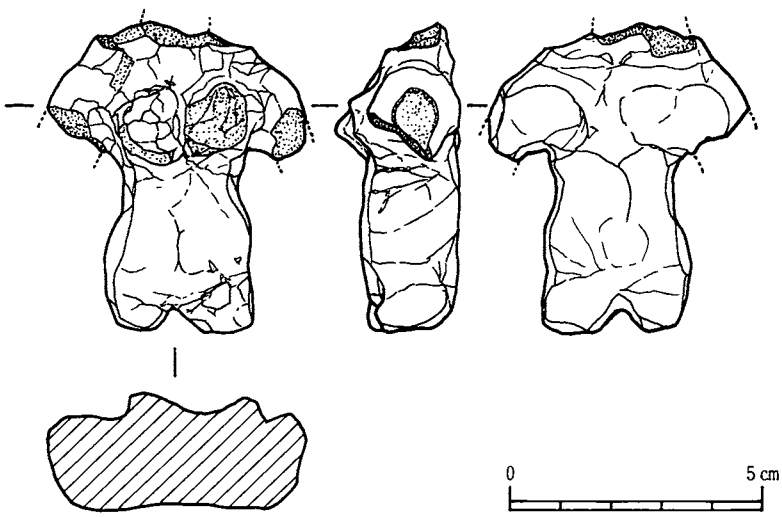
3．土　偶

a　遺構不明

表土排除中に耕作土中より検出した遺物であり、遺構不明の一括資料である。

b－1　第22図　打越236番地出土の土偶

1　(a)器種…縄文・土偶　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…残存高6.1cm・肩幅5.2cm・腰幅2.9cm・厚さ1.8～2.2cm・股下0.4cm　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・長さ1～2mm程の黒色の造岩鉱物を含む。黒色磨研系の土器の胎土に類似する。　(f)焼成…良好　(g)調整…粘土の塊を手捏により胴部を造り、それに頭部・腕・足部・乳房を取り付けたと思われる。脇部は右手の親指と人差し指で強く撮んで整形している。人の背部に見られる背筋の窪み・肩部の肩甲骨の部分・臀部の膨らみ等を写し撮ったように指によるナデ調整によって緩やかに凹凸を造りだしている。足の長さは短く、粘土の小さな塊を胴部に押しつけたようにして整形している。　(h)その他…頭部及び左右の腕部を欠失する。左の乳房の多くの部分を欠失する。右の乳房の一部も傷付いているが乳頭部は残る。形の上からは胴長短足であるが、良く妊婦の姿を表現している。耕作土層からの出土遺物である。胎土及び形状から黒色磨研系の土器の時代の終わり頃の遺物であろうと推定される。



第22図　打越236番地出土の土偶

第Ⅳ章　　弥生時代の遺構及び遺物

当遺跡から検出した弥生時代の代表的遺構は、１号～４号住居址及び29号土壙である。

１号・２号住居址及び29号土壙は、237番地の南西の隅近くから検出した。これら３基の遺構は互いに切り合っており、先行する順序に列記すると、１号住居址→２号住居址→29号土壙の順である。

３号住居址と４号住居址も切り合っており、３号住居址の方が先行する。

上記の遺構の他に、11号土壙は先にも記したように弥生時代又は縄文時代の遺構である。以下、弥生時代の遺構と遺物を切り合いの順序に従って述べる。

第１節　弥生時代の遺構及び遺構内出土遺物

１．１号住居址の遺構及び遺物

a　１号住居址の遺構（第23図参照）

発掘調査時の仮の名称は、弥生３号住居址である。２号住居址に切られていて、東側の壁と北側の壁の一部を残すのみである。遺構確認面から床面までの深さは、７cm程度である。

床面の硬化は、さほど進んでいない。このことは、検出した部分が、住居址の壁面近くであることによると考えられる。

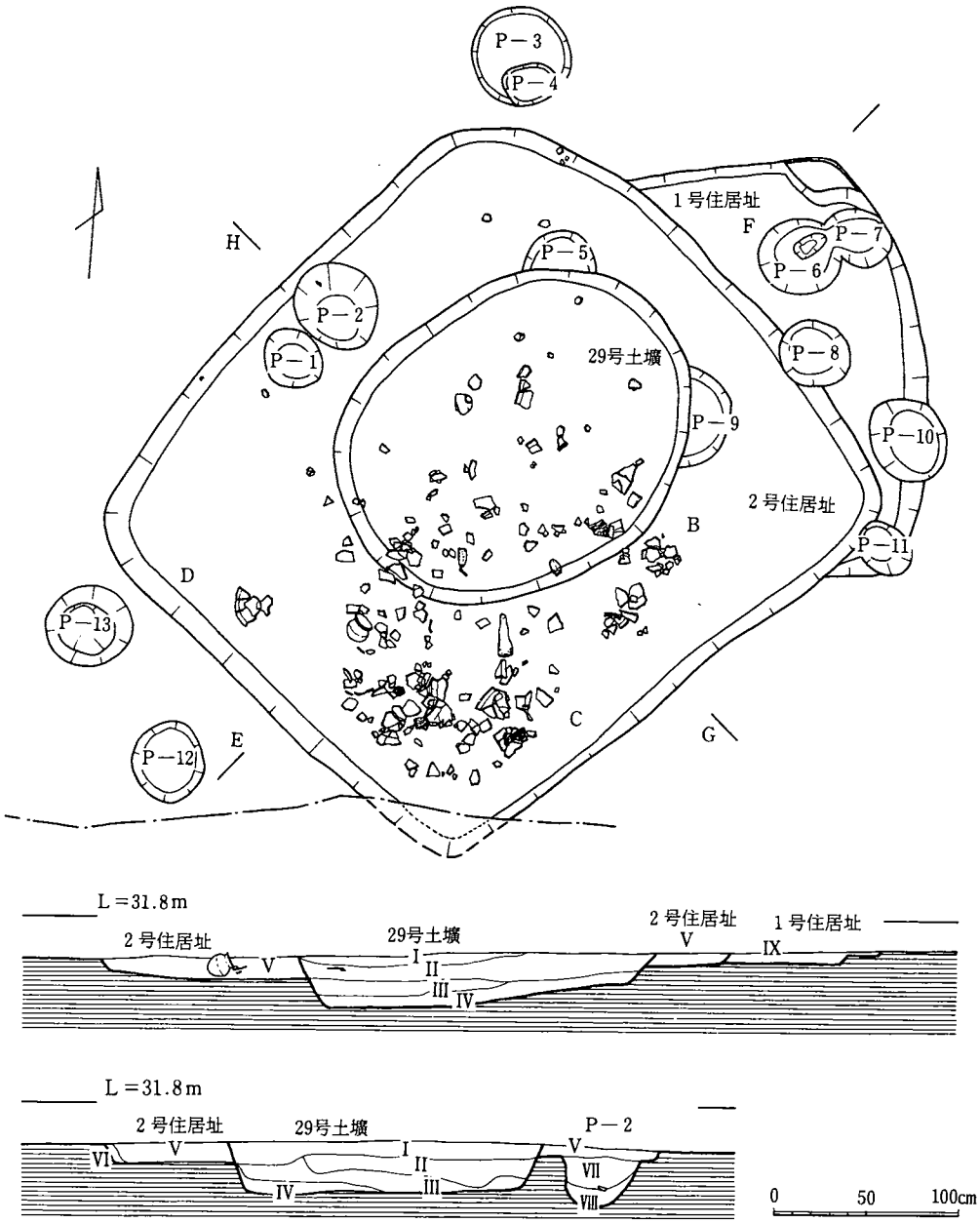
１号住居址を切る柱穴群（Ｐ－６～11）は、いずれも当遺構に伴う遺構ではない。これらの柱穴群は、当遺構より新しい遺構と推定される。１号住居址に伴う柱穴は、確認することが出来なかった。

東側の壁（長さ2.2m）は、東方へ三味胴状に張り出している。１号住居址の完全な平面形を推定する手掛かりは無いが、２号住居址や４号住居址の平面形がおおよそ方形であることから、１辺の長さが2.2m前後の方形であろうと推定される。

２．２号住居址の遺構及び遺物

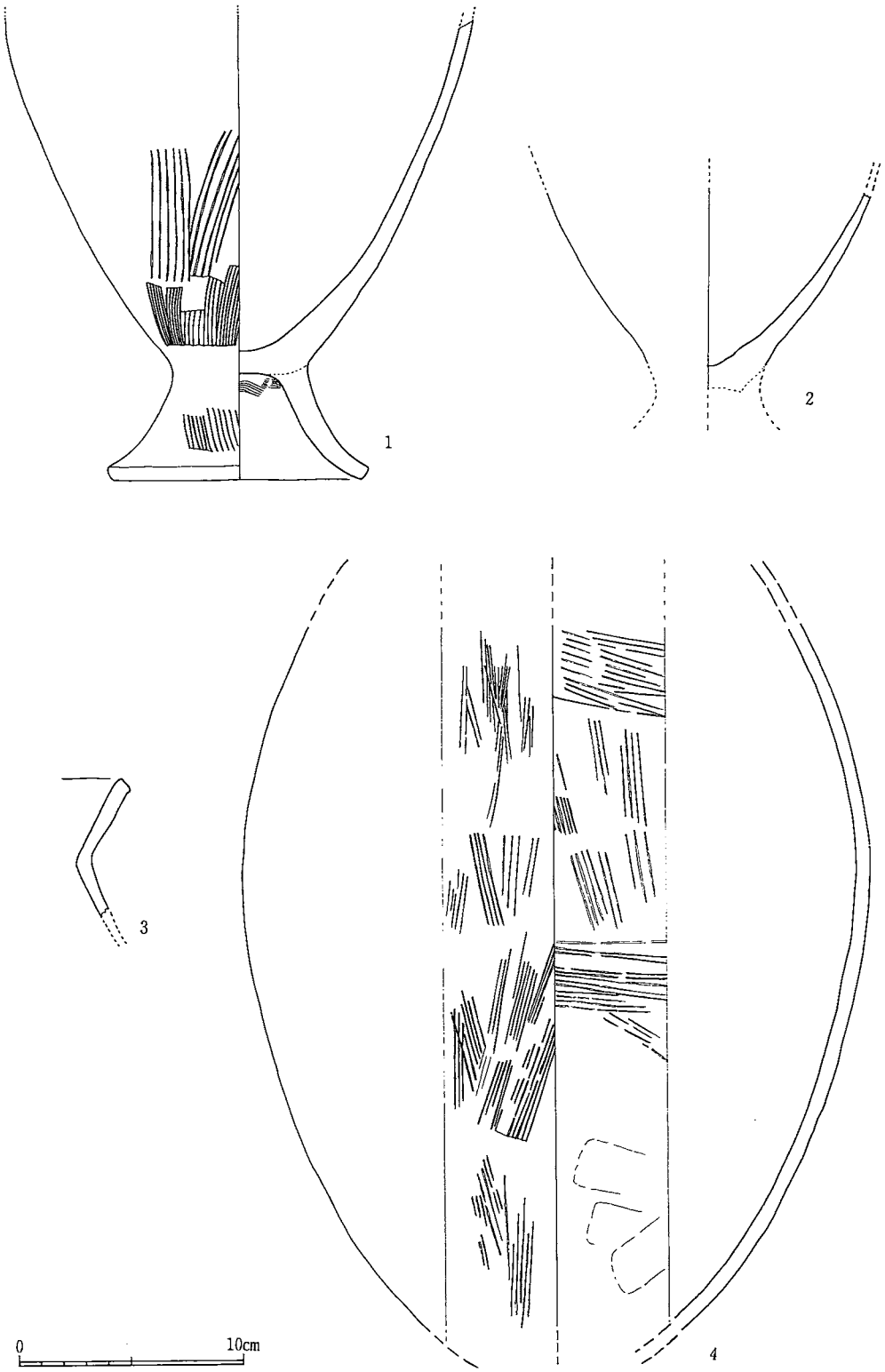
a　２号住居址の遺構（第23図参照）

発掘調査時の仮の名称は、弥生２号住居址である。当遺構は、１号住居址を切り、29号土壙によって切られている。多量の土器片が埋土中から出土することから、遺構の存在については、遺構検出当初から気付いていた。



第Ⅰ層：暗黄褐色土　極若干のカーボン粒子を含む。しまりに富む。
第Ⅱ層：黒褐色土　黄褐色土中に多量のカーボン粒子をベースとし、粘性に富むがしまりに欠ける。
第Ⅲ層：黄褐色土　多量の黄褐色土粒子をベースとし、若干のカーボン粒子混入。粘性が強い。
第Ⅳ層：暗黄褐色土　若干のカーボン粒子を含み、粘性としまりに富む。色調は第Ⅰ層より暗い。
第Ⅴ層：黄褐色土　多量の黄色土粒子をベースとし、黒色土粒子を混入する。若干のカーボン粒子を含む。粘性としまりに富む。色調はⅢ層より暗い。
第Ⅵ層：暗黄褐色土　黄色土粒子をベースとし、しまりに富む。色調は、Ⅵ層より若干暗い。
第Ⅶ層：暗黄褐色土　多量の黄色土粒子をベースとし、黒色土粒子が混入する。若干のカーボン粒子を含む。粘性が強い。
第Ⅷ層：極暗黄褐色土　黄色土粒子中に多量の暗褐色土粒子が混入する。しまりに富む。
第Ⅸ層：黄褐色土　遺構外の土に比較して褐色が強く、カーボン粒子を含む。

第23図　29号土壙及び1号・2号住居址



第24図　２号住居址出土遺物

住居址の平面形は、ほぼ方形を呈する。壁の長さを北から右廻りに列記すると3.2m・3.1m・3.2m（推定）・2.8m（推定）である。遺構検出面から床面までの深さ12cmを測る。南側の欠落部は、近世の溝遺構によって切り取られた部分である。遺構内の土（覆土）は、2層に分かれる。　第23図の第V層は黄褐色土であり、遺構以外の周辺部の土色とよく類似する。しかし、若干炭素粒子を含むこと・粘性と締まりに富む事・黒色の土粒が混入している点で異なる。第VI層は暗黄褐色土であり、周辺部の土が遺構内に崩れて流れ込んだ土と推定される。

当遺構に伴う柱穴と推定される遺構は、P－1・2・5・9があげられる。しかし、2号住居址の柱の跡かどうか、対応する位置関係が明らかに出来ないので、断定しがたい。

床面は硬化しており、遺物が床面上に張り付いた状態で検出される。床の中央部は、29号土壙で切られている。

遺物の出土量は多く、29号土壙出土の遺物とも接合するので2号住居址の遺物が29号土壙によって攪乱を受けたと推定される。

b－1　第24図　2号住居址出土遺物

1　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址No.2　(c)大きさ…口径及び器高不明・裾部径11.6cm　(d)色調…淡い褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ調整及びナデ調整を施す。（内器面）ハケ状工具による斜め方向の調整の後、ナデ調整を施す。　(h)その他…胴部下部から脚部を残す。

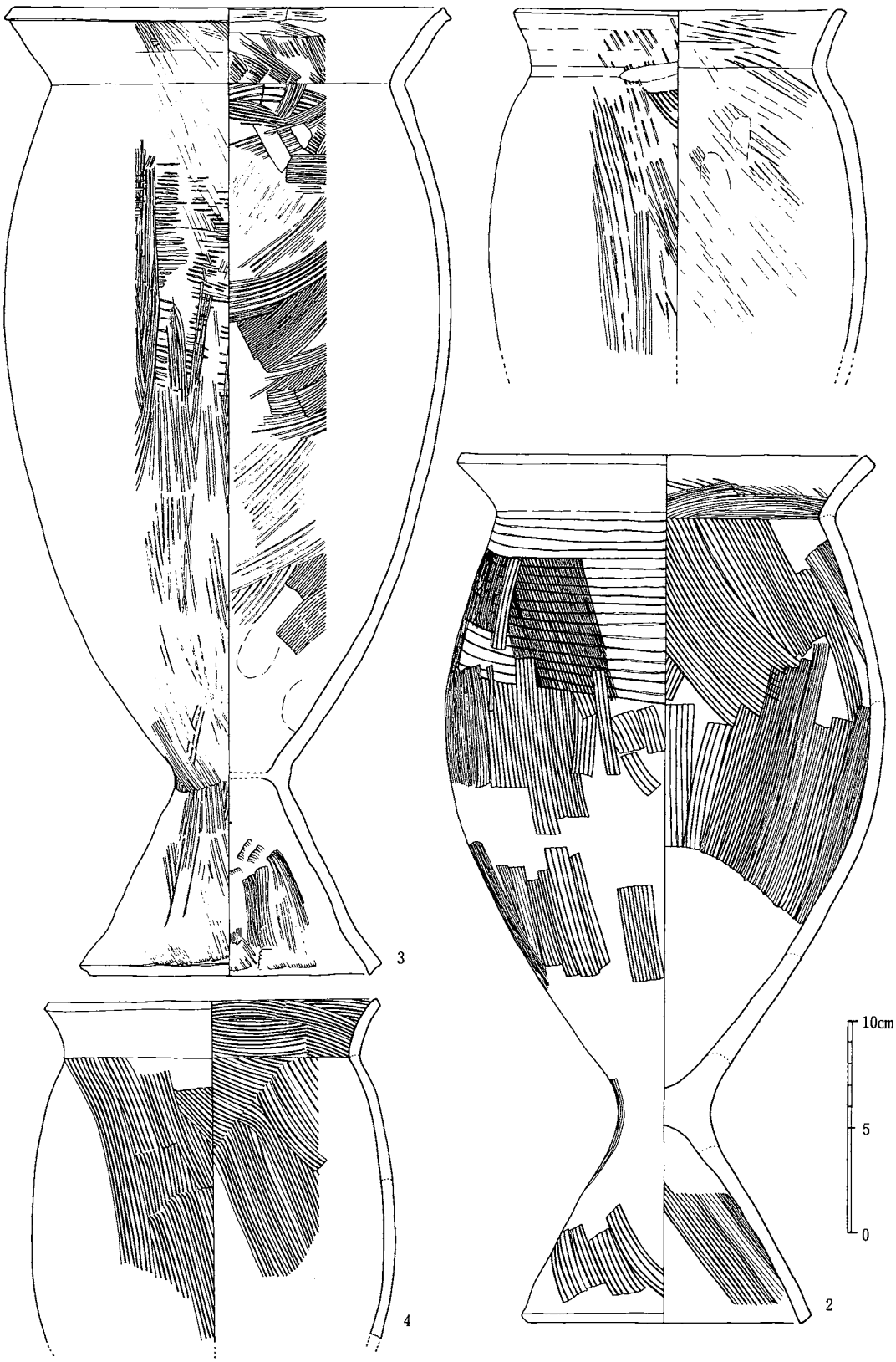
2　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址I層No.1　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い橙色・（内器面）鈍い褐色　(e)胎土…緻密・砂粒と造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも指によるナデ調整を施す。　(h)その他…脚部と胴部との接合部から剝離している。

3　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址I層No.3　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄橙色から橙色　(e)胎土…緻密・砂粒と造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）斜め及び横方向にハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

4　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址I層No.30　(c)大きさ…口径及び器高不明・最大胴部径27.9cm　(d)色調…黄橙色から橙色　(e)胎土…緻密・締まっている。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。　(h)その他…胴部の破片である。内外器面ともに黒く変色した部分がある。

b－2　第25図　2号住居址及び29号土壙出土遺物

1　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…29号土壙一括・2号住居址I層No.7・13・22・23・30　(c)大きさ…口径15.7cm・器高不明　(d)色調…鈍い黄橙色から黄褐色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。締まっている。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口唇部はナデ



第25図　２号住居址及び29号土壙出土遺物

調整によって整形する。口縁部から胴部にかけては斜め及び縦方向にハケ状工具による調整を施す。その後、口縁部には丁寧に指による横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ調整の痕が良く残る。(内器面) 口縁部は斜め及び横方向にハケ状工具による調整を施した後、指によるナデ調整を施す。頸部以下は縦方向にハケ状工具による調整を施す。　(h)その他…外器面には黒斑が見られる。

2　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址No.9・12・19・20　(c)大きさ…口径19.8cm・器高40.9cm・最大胴部径20.8cm・脚部裾部径13.7cm　(d)色調…黒褐色　(e)胎土…緻密・小さな砂粒を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口唇部はナデ調整によって整形する。頸部より上方はハケ状工具による調整を施した後、丁寧に指による横方向のナデ調整を施す。頸部から最大胴部の間は、平行なタタキを施した後、ハケ状工具による調整を施す。それより以下にはハケ状工具による調整の痕が残る。脚部の裾部はナデ調整を施す。(内器面) 口縁部は斜め及び横方向にハケ状工具による調整を施した後、指によるナデ調整を施す。頸部以下は斜め及び縦方向にハケ状工具による調整を施す。　(h)その他…外器面にはススが付着する。

3　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址I層No.5・7・8・16　(c)大きさ…口径21.2cm・器高45.1cm・最大胴部径21.2cm・脚部裾部径14.2cm　(d)色調…黄橙色から橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口唇部はナデ調整によって整形する。頸部より上方はハケ状工具による調整を施した後、丁寧に指による横方向のナデ調整を施す。頸部より少し下位は斜め方向にハケ状工具による調整の後、横方向にナデ調整を施す。胴部の中央部は横方向の平行なタタキによる整形の後、縦方向にハケ状工具による調整を施す。胴部の下位から脚部の付け根にかけては縦方向のハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。脚部は縦方向のハケ状工具による調整の後、指によるナデ調整を施す。脚部の裾部はナデ調整を施す。(内器面) 口縁部は斜め及び横方向にハケ状工具による調整を施した後、指によるナデ調整を施す。頸部の少し上は斜め方向にハケ状工具による調整を施す。胴部は斜め及び横方向のハケ状工具による調整を施す。部分的には調整痕をナデ消す。底部近くになるとナデ調整が良く施されているためハケ調整の痕は残らない。脚部の上部はナデ調整を施す。脚部の裾部にはハケ状工具による斜め方向の調整を施す。　(h)その他…完形である。

4　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…2号住居址No.7・18・23　(c)大きさ…復元口径15.8cm・器高不明　(d)色調…暗く淡い茶褐色　(e)胎土…細かい砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部はナデ調整を施す。頸部以下は縦方向にハケ状工具による調整を施す。(内器面) 口縁部は斜め及び横方向にハケ状工具による調整を施す。頸部以下は斜め及び縦方向にハケ状工具による調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

ｂ－３　第26図　２号住居址及び29号土壙出土遺物

1　(a)器種…弥生土器・複合口縁の壷　(b)出土遺構…２号住居址№10・12　(c)大きさ…口径18.0cm・器高不明　(d)色調…淡い茶褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整及びハケ状工具による調整痕が残る。　(h)その他…口縁部のみの小破片である。

2　(a)器種…弥生土器・壷　(b)出土遺構…２号住居址№８・９・23　(c)大きさ…口径13.7cm・器高21.1cm・胴部最大径19.0cm　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。ハケ状工具による調整痕が良く残る。　(h)その他…全体の2/3周を残す。

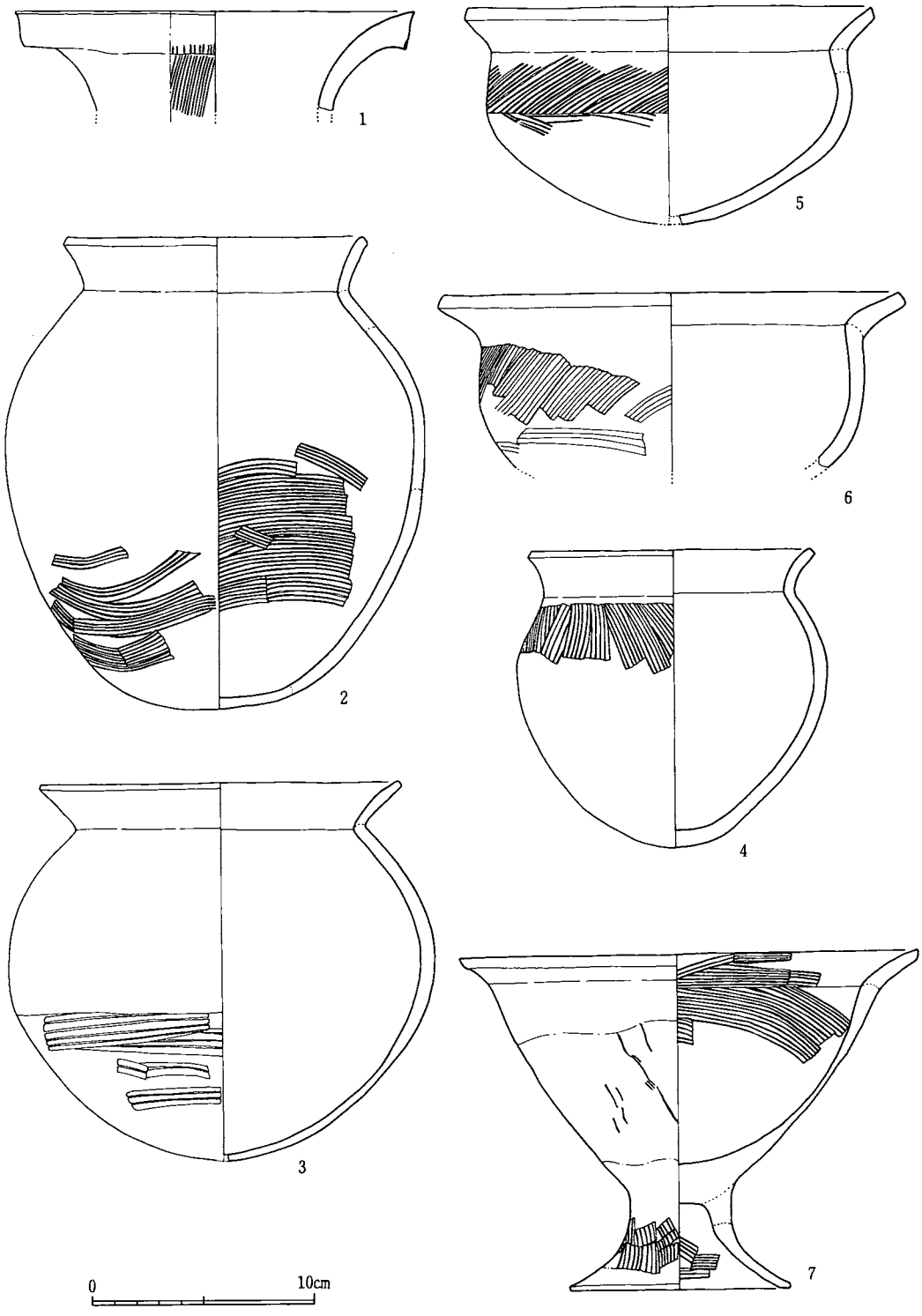
3　(a)器種…弥生土器・壷　(b)出土遺構…２号住居址№11・12・19・21・22・27　(c)大きさ…口径16.1cm・器高16.7cm・胴部最大径19.1cm　(d)色調…淡い褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部の下半部にハケ状工具による調整痕が残る。全面にナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…完形である。

4　(a)器種…弥生土器・壷　(b)出土遺構…２号住居址Ⅰ層№29　(c)大きさ…口径12.8cm・器高13.2cm・胴部最大径14.0cm　(d)色調…淡い茶褐色・外器面は焼成良好で赤褐色の部分あり。(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部の上半部にハケ状工具による調整痕が残る。全面にナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…完形である。

5　(a)器種…弥生土器・鉢　(b)出土遺構…29号土壙№12・19　(c)大きさ…口径18.4cm・復元器高9.6cm　(d)色調…淡い褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけてはナデ調整を施す。胴部上半部にはハケ状工具による調整痕が残る。胴部下半部以下は粗いハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）丁寧にナデ調整を施す。　(h)その他…胴部の屈曲は少し角張る。

6　(a)器種…弥生土器・鉢　(b)出土遺構…29号土壙№２・10・18・19　(c)大きさ…口径20.9cm・器高不明　(d)色調…淡い褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけてはナデ調整を施す。胴部上半部には縦方向のハケ状工具による調整痕が残る。胴部の中位には横方向のハケ状工具による調整を施す。胴部下半部以下は粗いハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）丁寧にナデ調整を施す。底面には指で押圧を加えて整形した後、ナデ調整を施したことがわかる。　(h)その他…胴部の屈曲は少し角張る。全体の1/2周を残す。

7　(a)器種…弥生土器・脚付鉢　(b)出土遺構…２号住居址Ⅰ層　(c)大きさ…口径20.7cm・器



第26図　2号住居址及び29号土壙出土遺物

高15.1cm・脚部裾部径10.0cm　(d)色調…茶褐色　(e)胎土…細かな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。脚部には縦方向のハケ状工具による調整痕が残る。（内器面）口縁部から胴部上半部にかけては横及び斜め方向にハケ状工具による調整を施す。胴部下半部にはナデ調整を施したと推定されるが、器面荒れが激しいので調整痕が明瞭でない。脚部にはハケ状工具による調整痕が残る。　(h)その他…鉢部の1/2周を欠失する。

３．29号土壙の遺構及び遺物

a　29号土壙の遺構（第23図参照）

発掘時の仮の名称は、２号土壙である。当遺構は、２号住居址の中央部を掘り抜く。　２号住居址の覆土にも、29号土壙にも多数の遺物が包含されている。しかも、それ等は、類似していることから、同一の遺構ではないかとも考えた事もあったが、覆土の層序が若干異なることから、２号住居址を切る遺構であると判断した。

29号土壙は、５つの層に分かれる。特に、第II層中に多数の遺物が包含される。

当遺構の平面形は楕円形状を呈し、長径2.0m・短径1.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.3mを測る。

29号土壙と２号住居址を完掘した状態は、一見１号住居状遺構（打越236番地より検出・奈良時代頃の遺構）と類似しているが、２つの遺構が重なってそのように見えるのであろう。当遺構から出土する土器と２号住居址から出土する土器は互いに接合出来る物がある。

４．３号住居址の遺構及び遺物

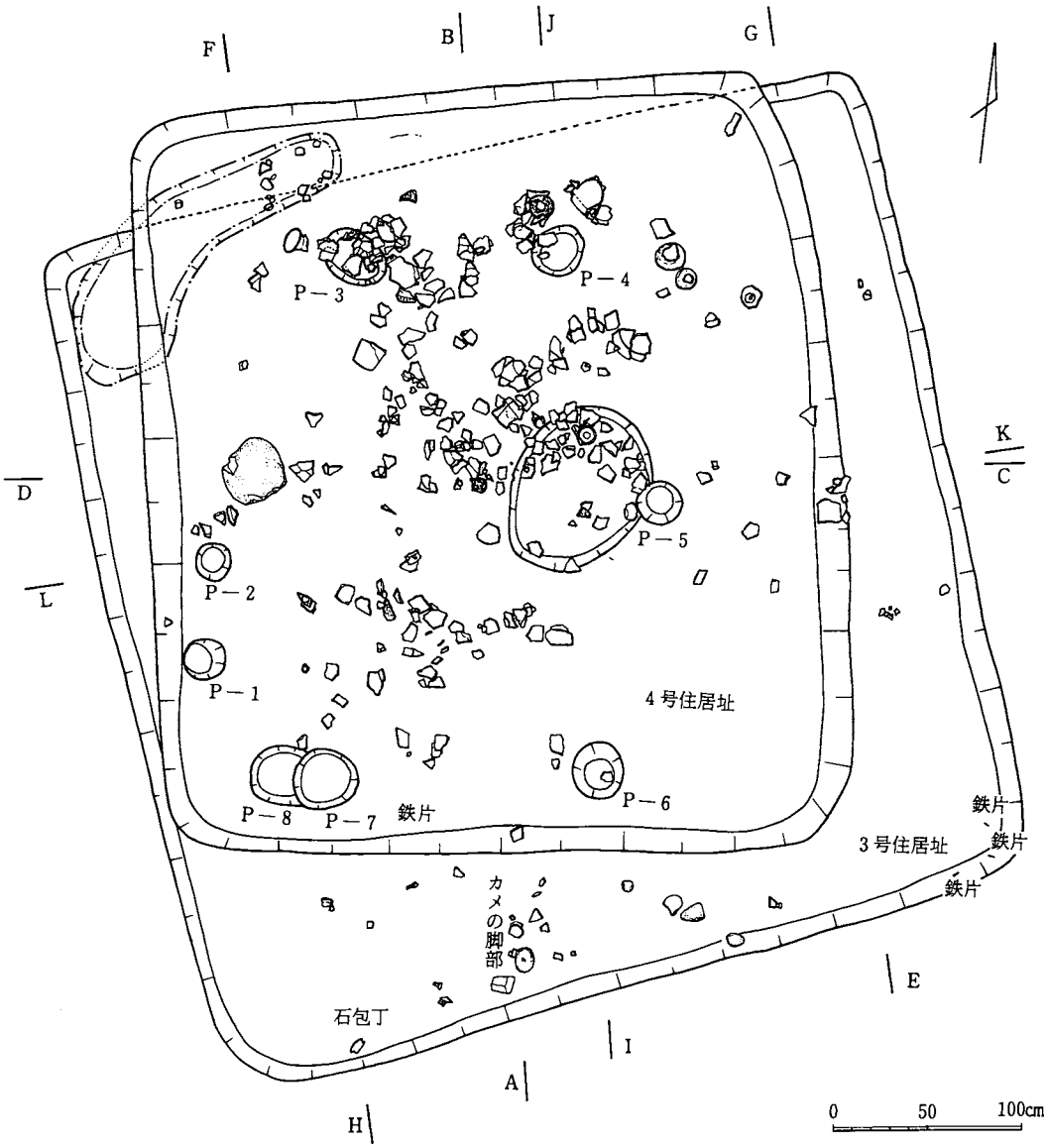
a　３号住居址の遺構（第27・28図参照）

３号・４号住居址は、打越237番地の中央付近から検出した。両者は、切り合っており、３号住居址が先行する。また、両遺構の北側には、柵列と思われる柱穴群が存在する。この柱穴群が、両遺構の何方かに伴うであろうと推定することは、検出位置や覆土が類似することから可能であるかもしれない。

３号住居址の発掘調査時における仮の名称は、弥生５号住居址である。当住居址の中央部は４号住居址によって切られている。そのため、３号住居址の遺構は「U」字状に残存するのみである。幸いにも、住居址の四隅の部分が残存することから、平面形がほぼ方形を呈する竪穴式住居址であることは明らかである。

壁の長さを北から右廻りに列挙すると、4.5m・4.3m・4.4m・4.5mを測る。遺構検出面から床面までの深さは15～25cmである。床面はほぼ水平であり、４号住居址の床面より５cm程高い。

３号住居址の柱穴と思われる掘り方を検出することはできなかった。



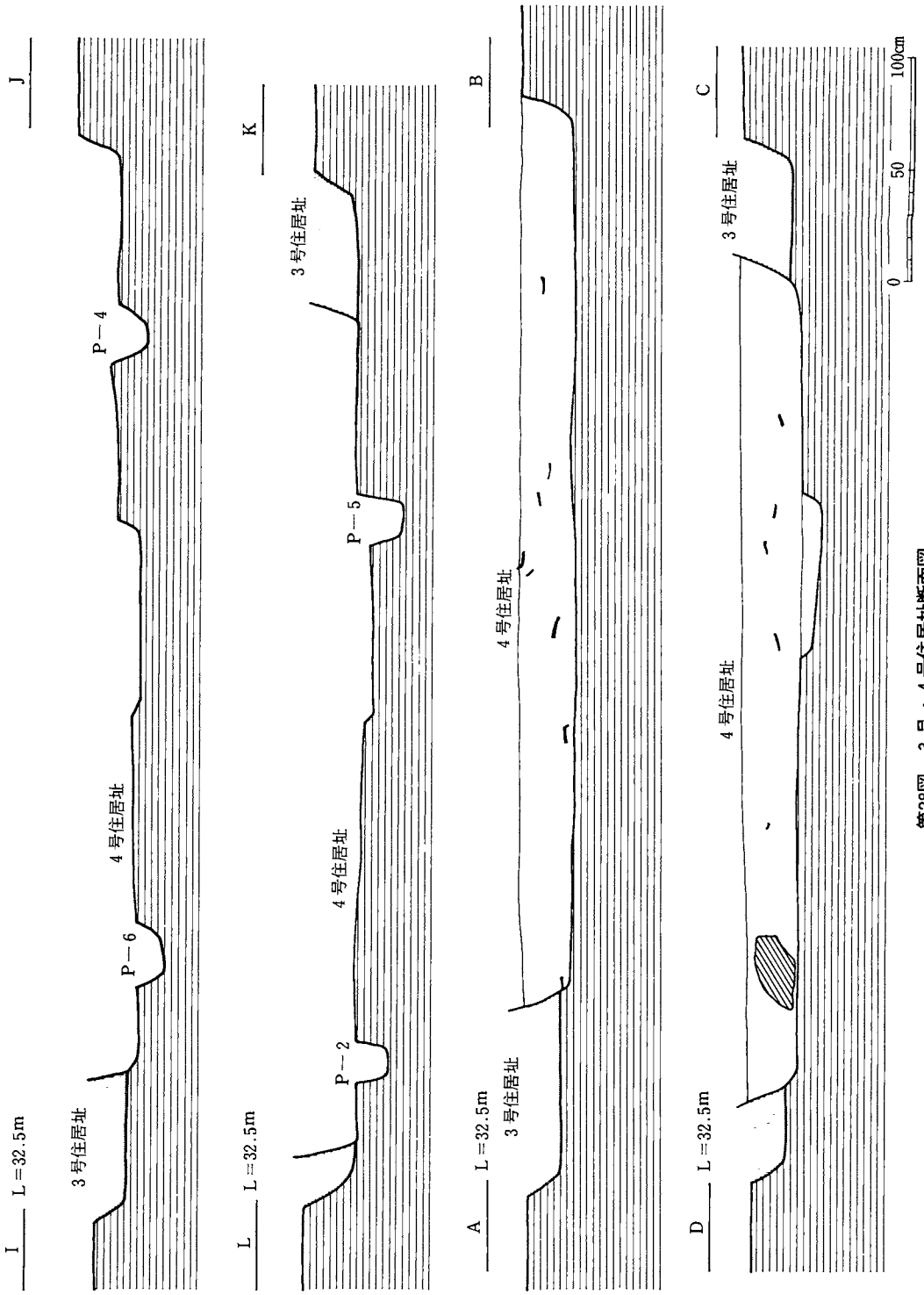
第27図　3号・4号住居址平面図

南西側の隅付近から石包丁、南東側の隅から鉄片が出土する。これ等は床や壁面に張り付いた状態で出土しており、特に注目される遺物である。

3号・4号住居址の北西側の隅から、「L」字状の掘り方を検出した。この遺構は、3号住居址を構築する以前の遺構である。この掘り方から弥生後期の土器片が少量出土する。第27図を見て、この掘り方を3号住居址の周溝の一部であろうとの誤解がないように、此処に記しておく。

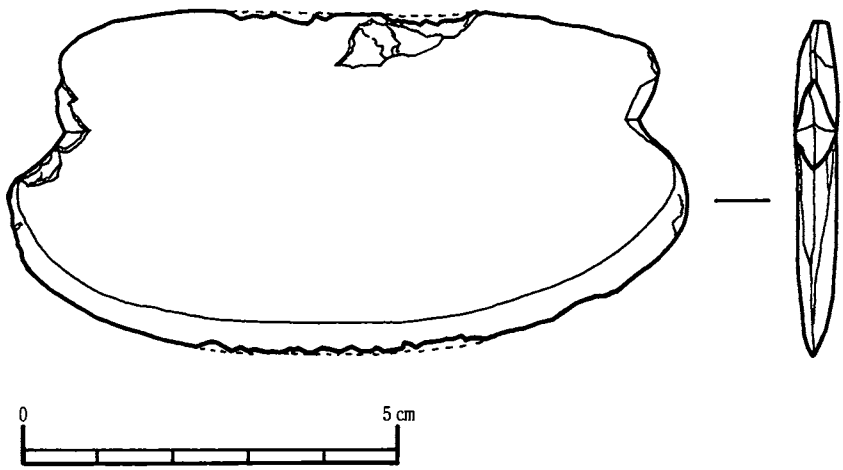
b－1　第29図　3号住居址出土遺物（石包丁）

1　(a)器種…粘板岩・石包丁　(b)出土遺構…237番地・3号住居址Ⅰ層№1　(c)大きさ…刃



第28図　３号・４号住居址断面図

部の長さ8.9cm・刀背部の長さ7.9cm・幅4.3cm・厚さ0.5cm　(d)色調…黒色　(h)その他…研磨により両面とも光沢がある。刃部は外彎しており、船底状を呈する。刃部の中央付近には刃毀が見られる。刃の形は両刃である。刀背部は平らに擦り切ったようになっており、4箇所の打ち傷が残る。左右の両側面には紐をかける為のV字形の切り込みを持つ。このV字形の切り込みも刃部と同様に両面から削り込む。当遺物を造り出す為の石材の素形は台形状を呈していたと思われる。



第29図　3号住居址出土遺物（石包丁）

b－2　第30図　3号住居址出土遺物（鉄器）

1　(a)器種…鉄器・鉄針　(b)出土遺構…237番地・3号住居址№9・10・床面直上から検出。(c)大きさ…残存する長さ3.2cm・直径0.1cm　(h)その他…やっと形状を確認出来る状態で検出する。赤く錆びており脆い。一端が少し曲がっていることから、糸通しの穴(針の目)の一部とも考えられる。

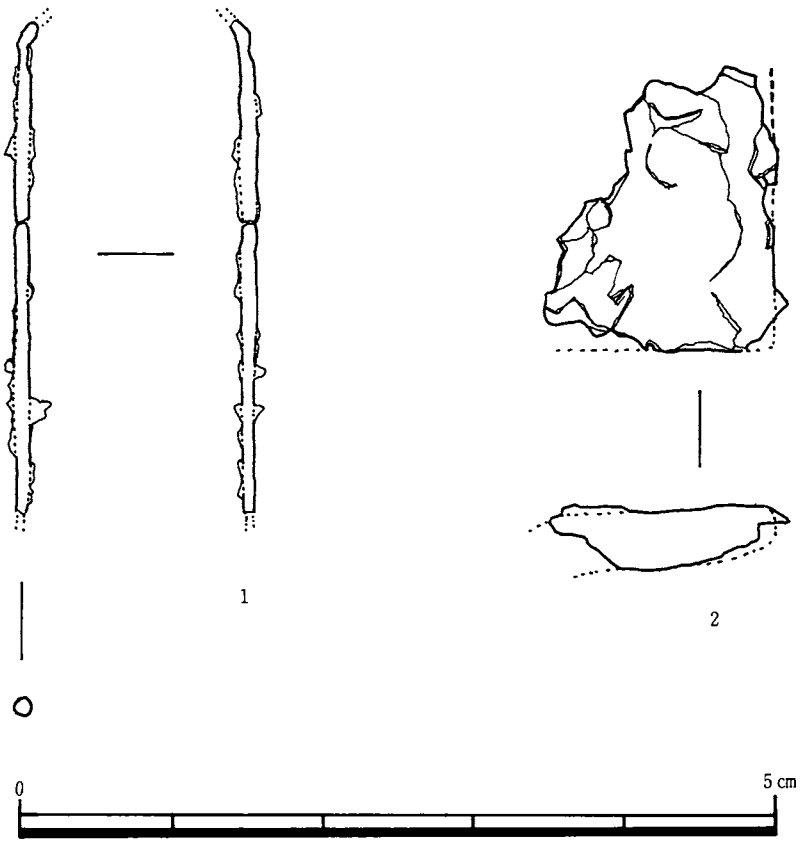
2　(a)器種…鉄器・手鎌？　(b)出土遺構…237番地・3号住居址№28　(c)大きさ…残存する長さ1.9cm・幅1.5.cm・厚さ0.4cm　(h)その他…錆びて脹れ上がった鉄片である。手鎌の可能性が強い。保存状態は良くない。

5．4号住居址の検出状況及び遺物

a　4号住居址の検出状況（第27・28図参照）

発掘調査時における仮の名称は弥生4号住居址である。当遺構と3号住居址との関係は先に述べたように、当遺構は3号住居址を切っている。

遺構内からは多量の弥生土器が出土する。覆土を何層かに区分しようと試みたが、これとい



第30図　３号住居址出土遺物（鉄器）

う決め手がないので、区分出来なかった。

平面形はほぼ方形である。壁の長さを北側から右廻りに列挙すると、3.4m・4.1m・3.6m・3.9mである。東側の壁は、三味胴状に外側へ少し張り出す。遺構検出面から床面までの深さは、23～28cmである。

床面はほぼ平坦であり、硬化はさほど進んではいない。

柱穴を８基検出した。各柱穴の直径は20～35cm・床面からの深さは15～25cmを測る。Ｐ－８はＰ－７によって切られていることから、柱の建て替えが行われたと推定される。

住居址のほぼ中央部に、平面の形は楕円形・断面の形はフライパン状を呈する窪みが存在する。窪みの大きさは、長径94cm・短径70cm・床面からの深さ5～10cmを測る。この窪みの検出位置は、炉址と推定される所であるが、焼土は出土しない。そのため、この窪みがどのような遺構であるかは明らかでない。

床面にほぼ密着した状態で、巨礫（砂岩・第39図）が一点出土した。この巨礫は台石と推定され、元の状態を保っている可能性がある。

b－1　第31図　4号住居址出土遺物

1　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色から黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び黒色の造岩鉱物を少し含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部及び頸部はナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による調整を施した後、指によるナデ調整を施す。（内器面）ハケ状工具による斜め方向の調整の後、指によるナデ調整を施す。　(h)その他…器面荒れが激しい。胴部の一端にススが付着する。口縁部から胴部の一部の破片である。

2　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）赤色がかった黒色・（外器面）灰色がかった褐色　(e)胎土…やや粗い。気泡が多く見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…ハケ状工具による調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

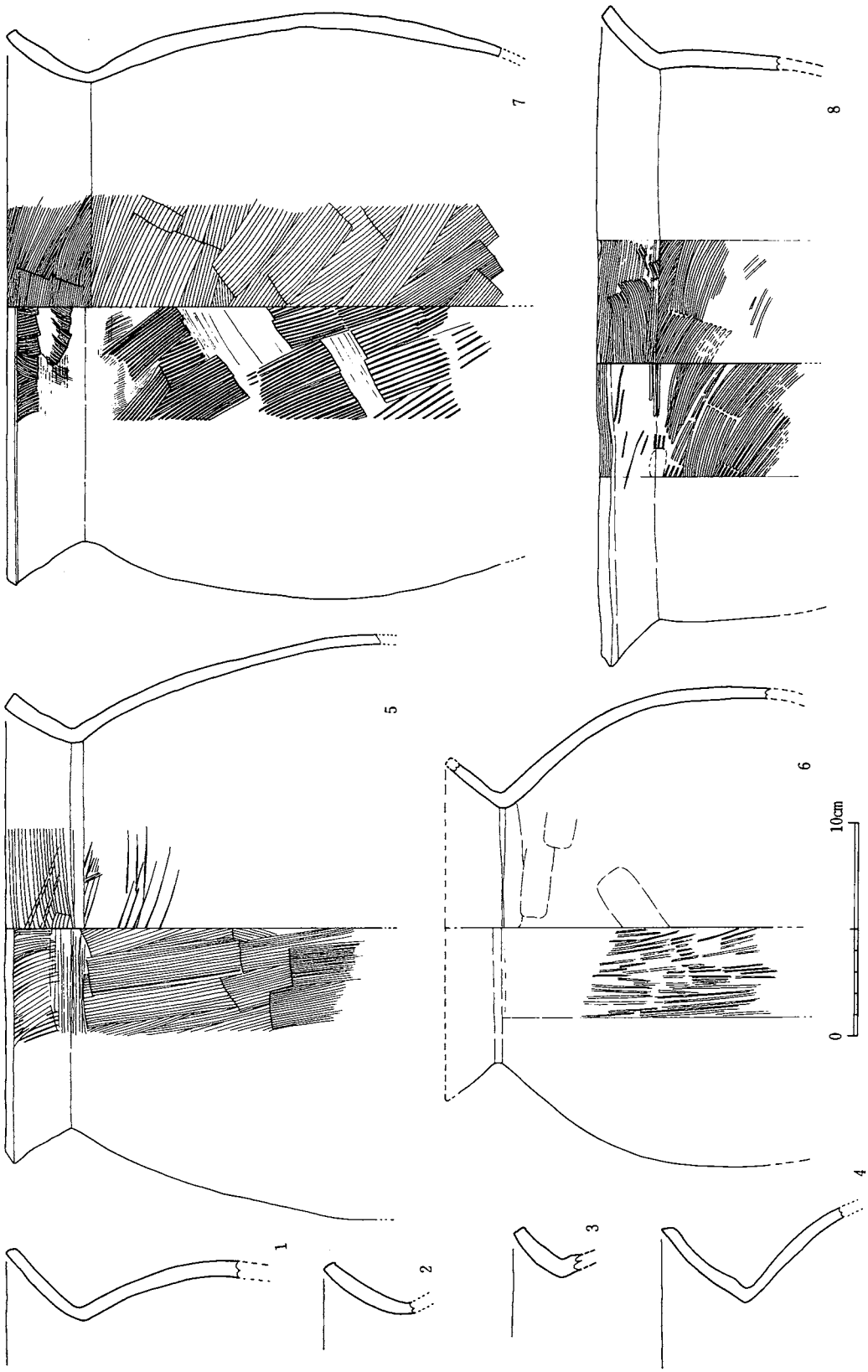
3　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜程の砂粒と直径1㎜程の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ハケ状工具による調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

4　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整を施す。(h)その他…口縁部外器面にススが付着する。口縁部から胴部の一部にかけての破片である。

5　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№13　(c)大きさ…復元口径22.0cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はハケ状工具の目が大きい工具を用いて調整を施す。胴部は目の小さい工具を用いて調整を施す。（内器面）口縁部は外器面と類似する。胴部はナデ調整を施すが、上部にはハケ状工具による調整痕が残る。　(h)その他…全面にうっすらとススが付着する。口縁部から胴部にかけての破片である。

6　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№17・28　(c)大きさ…復元口径16.2cm・器高不明　(d)色調…黄橙色から橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。締まっているがやや軽い感じを受ける。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から肩部にかけては丁寧にナデ調整を施す。肩部以下には縦方向にハケ状工具を用いて調整を施す。部分的にはその後にナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部を欠失する。

7　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層　(c)大きさ…復元口径25.7cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ状工具を用いて調整を施す。部分的にハケ調整の痕が途切れる。胴部の下方に行くに従っ



第31図　４号住居址出土遺物

て調整痕が粗くなる。(内器面) 丁寧にハケ調整を施す。 (h)その他…胴部の下部にはススが付着する。口縁部から胴部にかけての破片である。

8　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№28・12　(c)大きさ…復元口径30.0cm・器高不明　(d)色調…黄橙色から橙色　(e)胎土…緻密・黒色と白色の造岩鉱物を含む。締まっている。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口唇部は横方向にハケ状工具を用いて調整を施す。口縁部は斜め方向にハケ状工具による調整を施した後、横方向に指によるナデ調整を施す。胴部は横方向にハケ状工具による調整の後、左上から右下へ同様の調整を施す。(内器面) 口縁部は横方向にハケ状工具による調整を施す。胴部は斜め方向にハケ状工具による調整を施す。胴部の下位はハケ状工具による調整痕をナデ消している。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

b－2　第32図　3号・4号住居址出土遺物

1　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№10　(c)大きさ…裾部径10.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び石英を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ハケ状工具によって下から上へ調整した後、同工具によって横方向へ調整を施す。脚部の下方の3分の1程の所で粘土を継ぎ足したらしく、調整方向が異なる。(内器面) 脚部の内面は横及び斜め方向のハケ調整を施した後、指によるナデ調整を施す。カメの底面は下から上へハケ調整を施した後、指によるナデ調整を施す。　(h)その他…脚部を残す。

2　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№24・28　(c)大きさ…裾部径12.8cm　(d)色調…橙色から明るい橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び白色の造岩鉱物を含む。締まっていて重い。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも縦・横・斜め方向のハケ調整を施した後、指によるナデ調整を施す。　(h)その他…脚部及びカメの底部を残す。

3　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…4号住居址一括　(c)大きさ…裾部径13.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・白色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 上部はハケ状工具によって下から上へ縦方向の調整を施す。裾部はハケ状工具によって左上から右下へ調整を施した後、同工具によって横方向に調整を施す。裾部はハケ状工具によって横方向にナデて整形を行う。(内器面) 裾部にはハケ調整の痕が残る。天井部付近はハケ調整の後、指によるナデ調整を丁寧に行う。カメの部にもハケ調整の痕が残る。　(h)その他…脚部を残す。

4　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№16　(c)大きさ…裾部径11.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～8㎜の砂粒・小礫及び白色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともに器面荒れが激しく、調整痕の観察が困難である。脚部内面には砂粒が付着した痕跡が見られる。　(h)その他…脚部を残す。

5　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址№6・7・30　(c)大きさ…口径15.6

cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・白色の微粒子を含む。締まっている。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）胴部はハケ状工具によって縦方向の粗い調整を施す。部分的にはナデ調整を施した所も見られる。口縁部はハケ状工具による調整の後、横方向に丁寧にナデ調整を行う。（内器面）胴部には縦あるいは横方向にハケ調整の痕が残る。部分的にはナデ調整を施す。口縁部は外器面と同様である。　(h)その他…外器面には使用時に付着したと思われる黒色の付着物が残る。底部を欠失する。

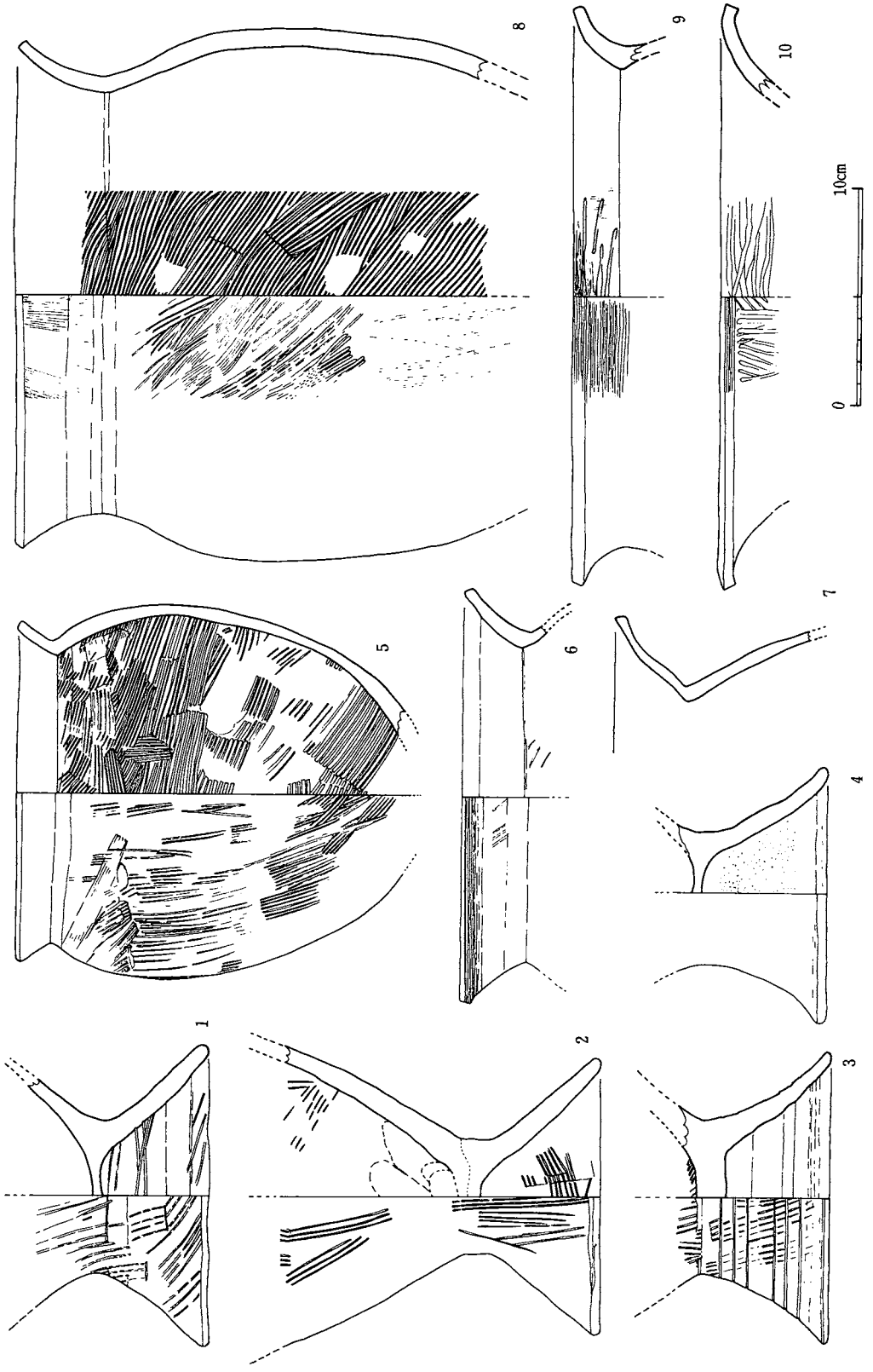
6　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径19.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・白色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも胴部はハケ状工具によって横方向の調整を施す。部分的には斜め方向の調整も見られる。口縁部は横方向にナデ調整を行う。　(h)その他…外器面にはススが付着した部分が見られる。口縁部の破片である。

7　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも胴部はハケ状工具によって調整を施す。口縁部は横方向にナデ調整を行う。　(h)その他…口縁部の外器面にはススが付着した部分が見られる。口縁部から胴部にかけての破片である。

8　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径23.3cm・器高不明　(d)色調…黄橙色から橙色　(e)胎土…緻密・白色及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口唇部はナデ調整を施す。口縁部はハケ状工具によって縦方向の調整を施す。頸部にはハケ状工具による調整の痕が残る。口縁部から頸部にかけてハケ調整の痕をナデ消す。胴部には斜め及び縦方向にハケ状工具による調整痕が残る。調整痕はかなり重複しており、部分的には調整痕をナデによって消す。底部に近くなるに従って調整痕が薄くなる。（内器面）頸部から胴部にかけては横あるいは斜め方向にハケ状工具による調整痕が残る。口縁部には右下から左上方向にハケ状工具による調整を施した後、ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

9　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址一括・3号住居址Ⅰ層№33　(c)大きさ…復元口径26.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）灰色がかった褐色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…やや粗い・砂粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）横及び縦方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。口縁部の1/5周を残す。

10　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径27.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径2㎜程の砂粒及び白色の造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口唇部はナデ調整を施す。それ以外の部分はハケ状工具による調整を施す。（内器面）ヘラ状工具による研磨を施す。　(h)その他…口縁部の破片



第32図　3号・4号住居址出土遺物

である。口縁部の1/5周を残す。

ｂ－３　第33図　３号・４号住居址出土遺物

１　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…４号住居址床面No.３　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）縦方向にハケ状工具による調整を施した後、，ナデ調整を施す。（内器面）ハケ状工具による調整痕を丁寧にナデ消す。(h)その他…脚部の付け根付近を残す。

２　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層No.12　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄色がかった橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）縦方向にハケ状工具による調整を施した後、，ナデ調整を施す。（内器面）ハケ状工具による調整痕を丁寧にナデ消している。　(h)その他…内器面は褐色に変色している。脚部の付け根付近を残す。

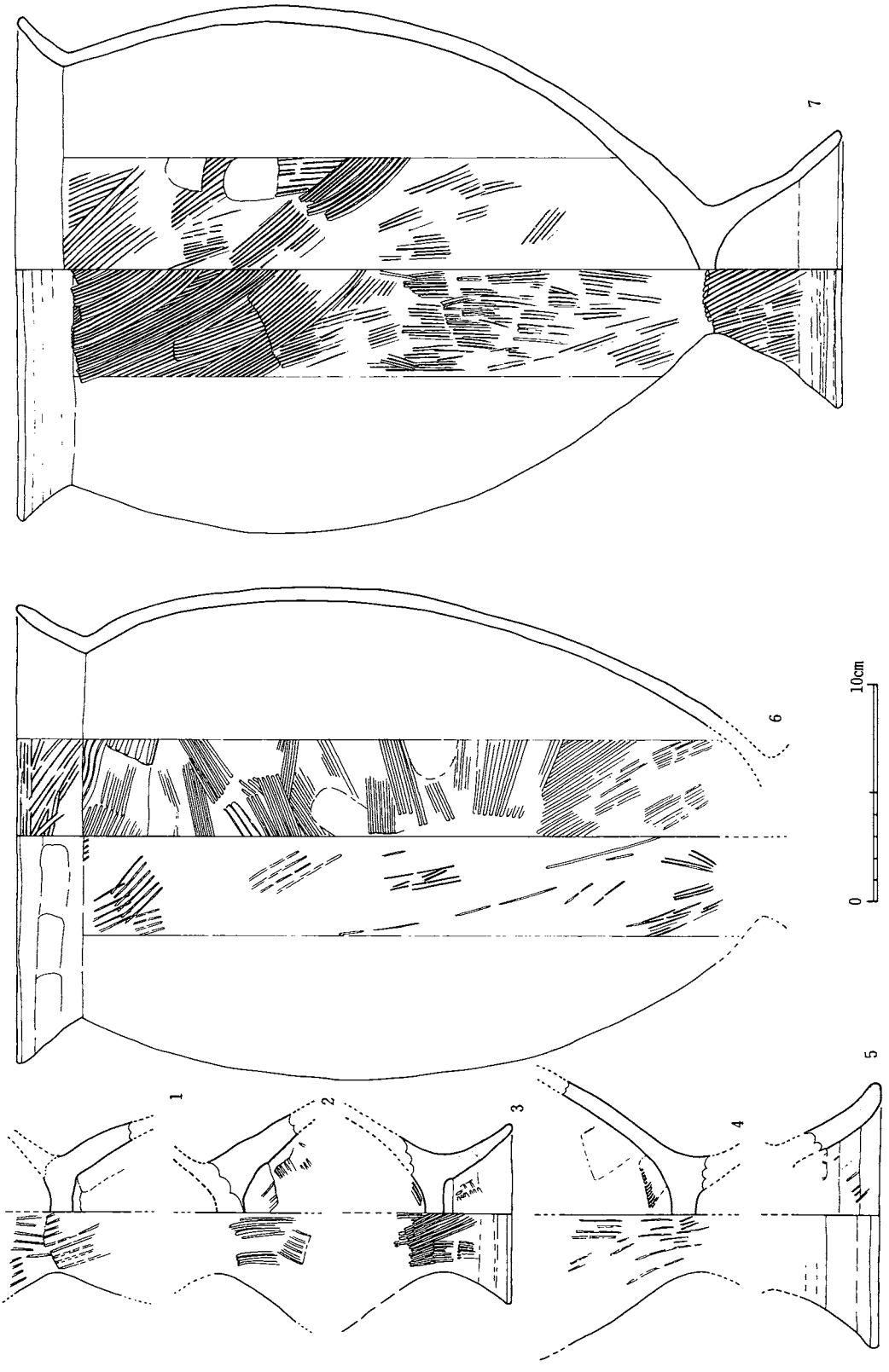
３　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層No.６　(c)大きさ…復元裾部径8.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）縦方向にハケ状工具による調整を施す。裾部においては同工具によって横方向にナデを施す。（内器面）縦及び横方向のハケ状工具による調整痕を丁寧にナデ消す。　(h)その他…脚部の破片である。

４　(a)器種…弥生土器・カメの底部　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層No.23・24　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…明るい橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）縦方向にハケ状工具による調整を施した後、指によるナデを施す。（内器面）外器面よりも丁寧にハケ状工具による調整痕をナデ消す。　(h)その他…カメの底部のみを残す。

５　(a)器種…弥生土器・カメの脚部　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層No.21　(c)大きさ…裾部径12.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。やや軽く感ずる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向にハケ状工具による調整を施す。（内器面）斜め方向にハケ状工具による調整を施した後、横方向に調整を施す。　(h)その他…脚部の裾部の破片である。

６　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層一括・３号住居址一括　(c)大きさ…口径21.1cm　(d)色調…橙色から黄橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。やや軽く感ずる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向にハケ状工具による調整の後、指による横方向のナデ調整を施す。胴部は斜め及び横方向にハケ状工具によって調整の後、指によるナデ調整を施す。（内器面）口縁部は斜め方向にハケ状工具による調整を施す。胴部は斜め方向にハケ状工具による調整を施す。部分的に指によるナデ調整を施す。　(h)その他…底部を欠失する。ススが器表に付着する。

７　(a)器種…弥生土器・カメ　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層一括　(c)大きさ…口径23.2cm・



第33図　3号・4号住居址出土遺物

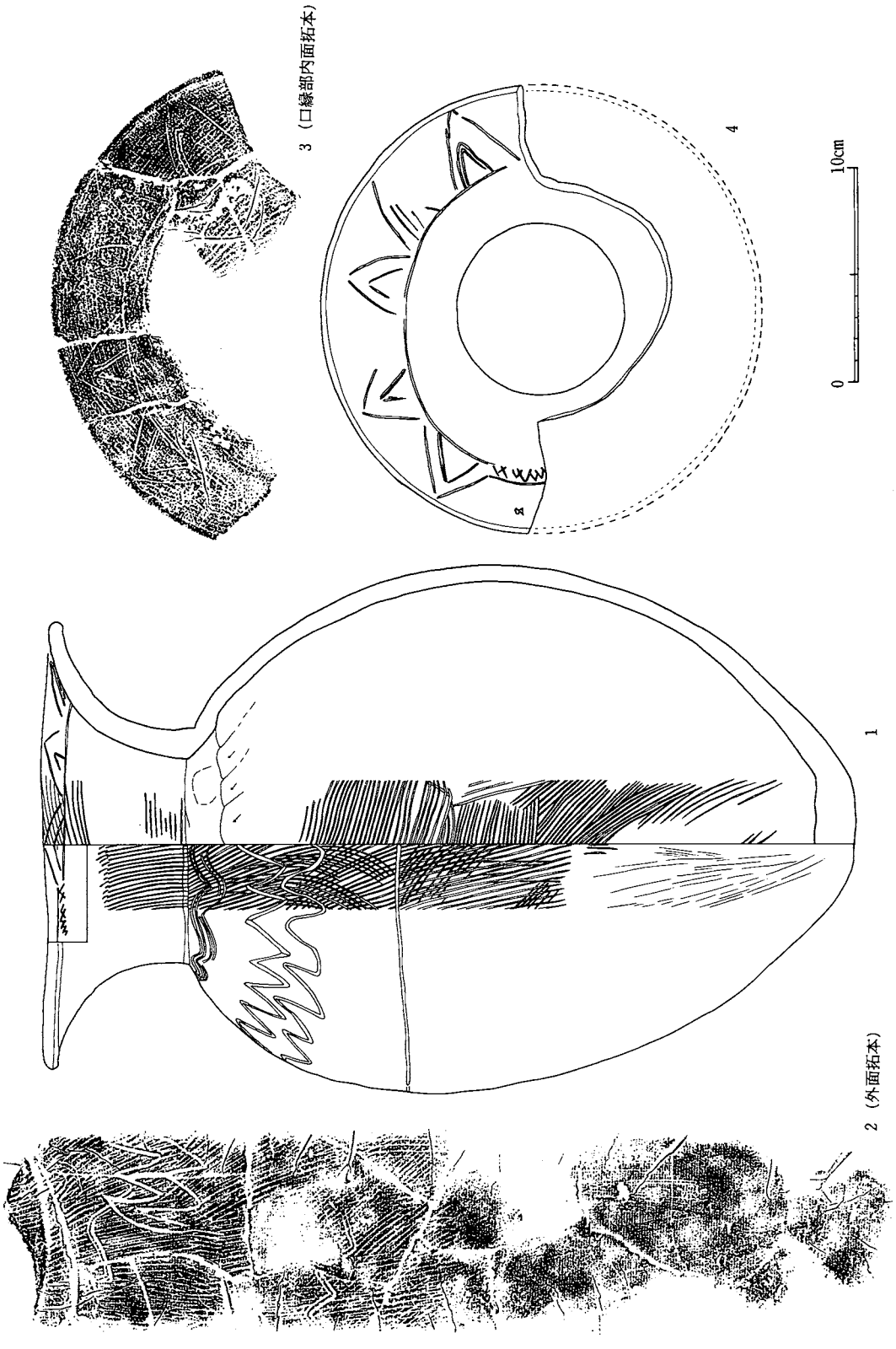
器高38.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部上位半分は斜め方向にハケ状工具によって調整を施す。胴部の中位以下はハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。脚部には斜め方向にハケ状工具による調整を施す。脚部の裾部はナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向にナデ調整を施す。胴部は斜め方向にハケ状工具による調整を施す。部分的に指によるナデ調整を施しており、底部に近くなるに従ってナデ調整が良く施されている。脚部内面には横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…ススが器表に付着する。ハケ状工具は２種類使用されているらしく、土器の表面に残る凹凸の幅が２㎜程のものと１㎜程のものがある。

ｂ－４　第34図　４号住居址出土遺物

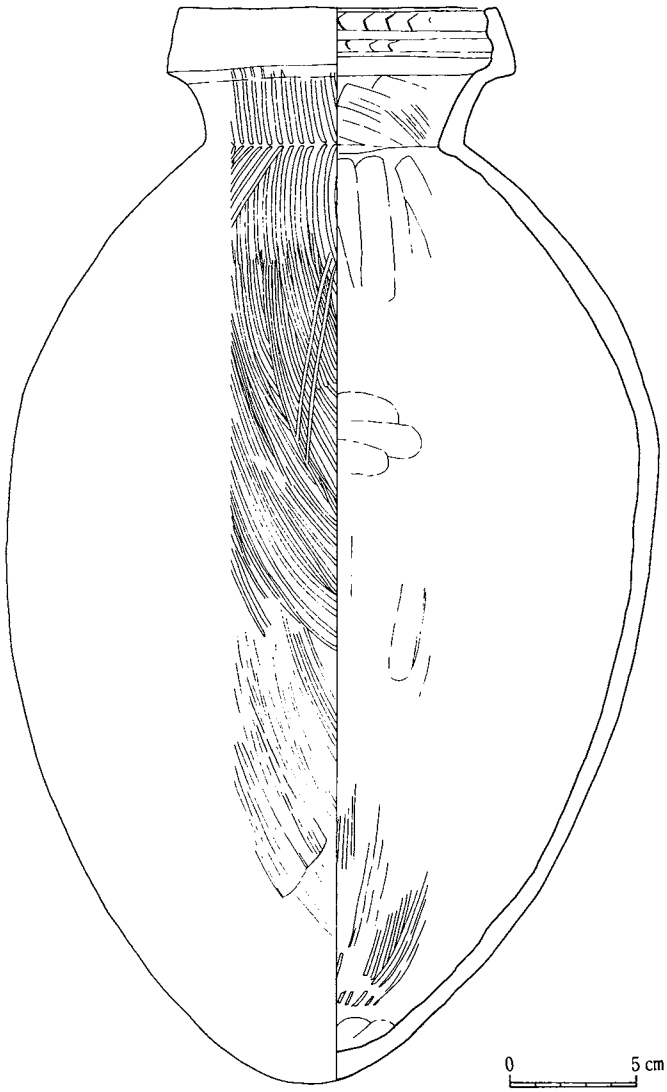
１　(a)器種…弥生土器・壷　(b)出土遺構…４号住居址　(c)大きさ…口径20.8cm・器高38.2cm・最大胴部径24.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い土と思われる。砂及び白色の微粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけてはハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。胴部の上部から中央部にかけては、縦方向もしくは横方向にハケ状工具による調整を施す。胴部から底部にかけてはハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向にハケ状工具による調整を施す。この部分に家屋を思わせる紋様がヘラ状の工具によって施されている。その周辺は調整痕が薄くなっている。頸部から胴部の中央部にかけてはハケ状工具による調整を斜め方向に施した後、指によるナデ調整を斜め方向に施す。胴部の中央部以下にはハケ状工具による調整を斜め方向に施す。　(h)その他…口縁部内面・肩部及び胴部中央部に、鋸歯状及び波状の紋様を沈線によって表す。施文具は断面が「Ｕ」字形をした割り竹状の工具の裏と表を使って、幅２㎜程の平行する２条の線と断面が「Ｕ」字形となる１条の線を描いたと思われる。口縁部はほぼ２分の１程残存する。その内面に家屋を示すような５つの三角形と柵状の紋様が線刻されている。また、地面を示すかのように、三角形を繋ぐように１条の線が見える。肩部の上方つまり頸部の少し下方に２条を一対とする２本の波状の沈線が施される。胴部最大部の少し上方に２条の波状文が線刻されている。胴部最大部付近に１条の沈線が施される。この沈線は約15cm程水平に延びるのみである。胴部最大部の他の一面には波状文が沈線で描かれる。ほぼ完形である。

ｂ－５　第35図　４号住居址出土遺物

１　(a)器種…弥生土器・複合口縁の壷　(b)出土遺構…237番地・４号住居址№４・５・７・13　(c)大きさ…口径12.8cm・器高42.1cm・最大胴部径25.7cm　(d)色調…明るい橙色から鈍い橙色　(e)胎土…緻密・白色の造岩鉱物を含む。締まりが良い。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部から胴部中央部にかけては目の粗いハケ状工具による調整痕が残る。ハケ状工具の目の凸部の幅1.5㎜・凹部の幅2.5㎜程である。胴部の下位から底部にかけてはヘラ削りによる整形の後、ハケ状工具による粗い調整を施した所にナデ調



第34図　4号住居址出土遺物

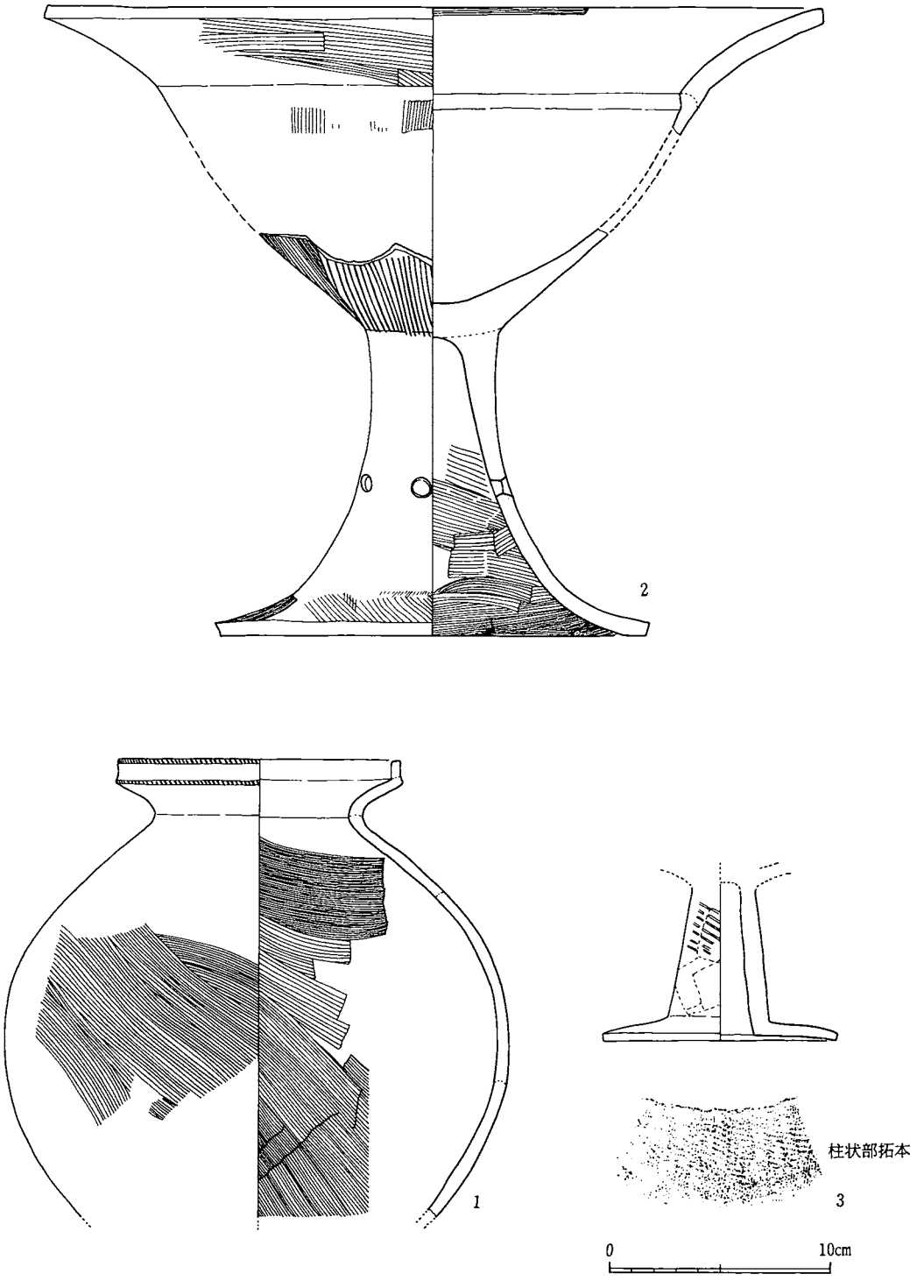


第35図　４号住居址出土遺物

整を施す。（内器面）口唇部にはナデ調整を施す。口縁の立ち上がり部には指頭圧痕が２段に平行に並び、その上にナデ調整を施す。頸部には横及び斜め方向にハケ状工具による調整を施した後、ナデ調整を施す。胴部上半部には指頭圧痕が良く残り、その上にナデ調整を施す。調整痕の様子から、胴部上半部は内面に一方の手を添えて外面を片方の手で敲いて整形したことが推定される。胴部の中央部はハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。底面付近にはハケ状工具の痕が良く残る。底面にはナデ調整を施す。　(h)その他…完形である。

ｂ－６　第36図　４号住居址出土遺物

１　(a)器種…弥生土器・壷　(b)出土遺構…４号住居址　(c)大きさ…復元口径12.9cm・器高不明　(d)色調…淡い褐色　(e)胎土…緻密・小さい砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器



第36図　4号住居址出土遺物

面ともハケ及びナデ調整を施す。　(h)その他…胴部は球形を呈する。器壁の厚さは薄い。

2　(a)器種…弥生土器・高坏　(b)出土遺構…４号住居址　(c)大きさ…復元口径35.3cm・復元器高28.2cm・裾部径19.4cm　(d)色調…淡い褐色　(e)胎土…緻密・小さい砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ状工具による調整を施す。脚の柱状部はヘラ状工具による研磨を施す。（内器面）坏部の口縁部はヘラ状工具による調整の後、研磨を施す。坏部の見込み部は磨滅しており、調整痕は明らかでない。脚部の内面にはハケ状工具による調整痕が良く残る。　(h)その他…坏部の中央部を欠失しており、図上で復元した。

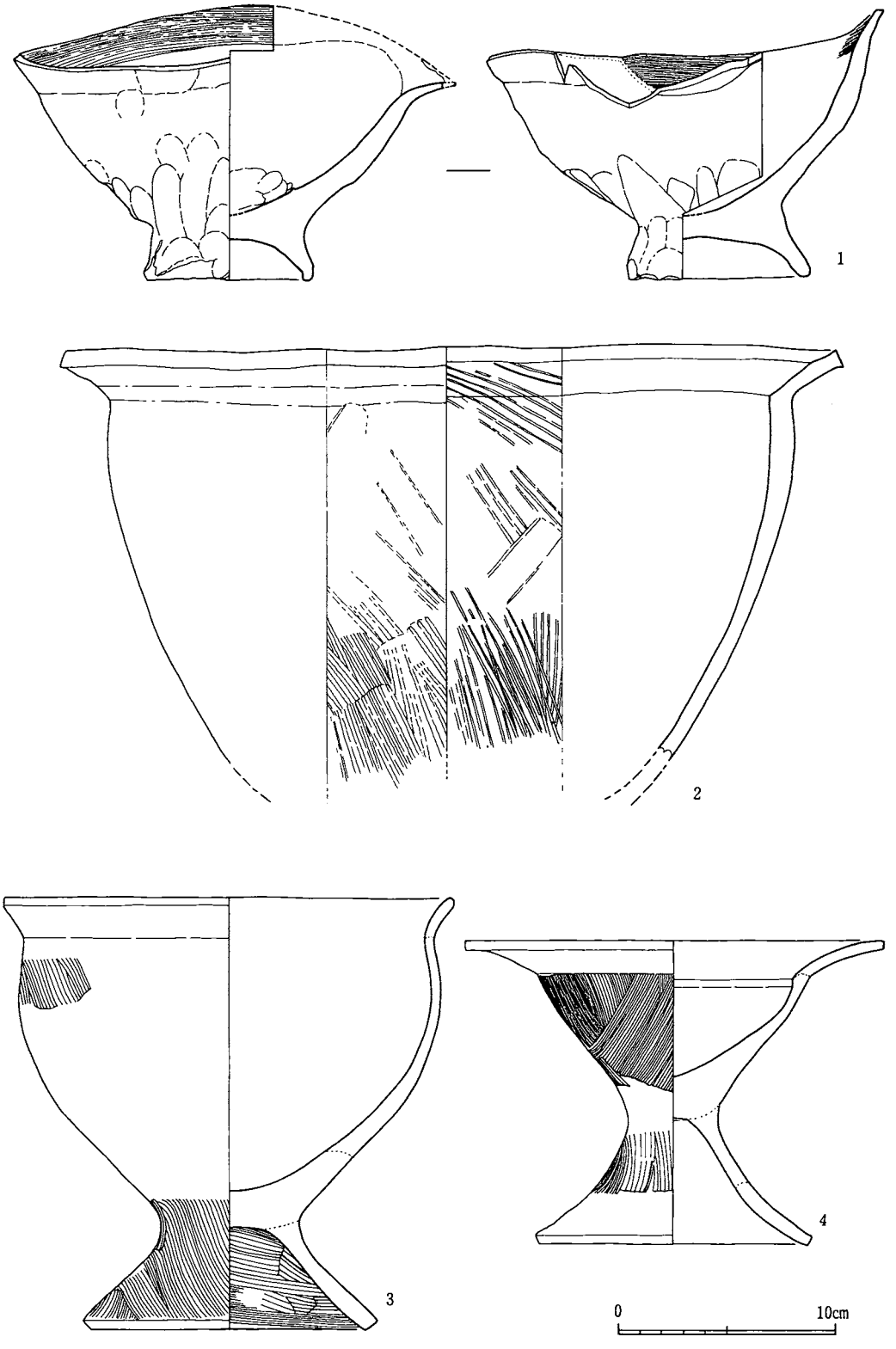
3　(a)器種…弥生土器又は土師器・高坏の脚部　(b)出土遺構…４号住居址Ⅰ層№21　(c)大きさ…裾部径10.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）裾部は横方向のナデ調整を施す。柱状部にはタタキによる整形の痕が残る。（内器面）横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…脚部のみ残す。器形から見ると、一般には土師器と判断される可能性が強い。

ｂ－７　第37図　４号住居址出土遺物

1　(a)器種…弥生土器・脚付鉢・片口　(b)出土遺構…４号住居址Ⅰ層№３～６・30　(c)大きさ…最大口径20.5cm・最小口径18.2cm・器高12.2cm・裾部径7.6～8.3cm　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・締まっている。黒色と白色の造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）手捏によって制作されたと推定される。口縁部は横方向のナデ調整を施す。脚部及び胴部には指による整形の痕が大変良く残る。（内器面）口縁部はハケ状工具による調整を施す。頸部以下はナデ調整を施す。胴部上半は器面荒れが激しい。見込み部には指頭圧痕が良く残る。その圧痕を消すためナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部は歪み、しかも波打っている。外器面には黒斑が見られる。

2　(a)器種…弥生土器・鉢　(b)出土遺構…４号住居址Ⅰ層№14・22・28　(c)大きさ…口径35.6cm・器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び黒色と白色の造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はハケ状工具による調整を横方向に施した後、指によるナデ調整を施す。頸部も同様な調整を施していると思われるが、指によるナデ調整によりハケ状工具による調整痕は消えている。胴部は斜め及び縦方向のハケ状工具による調整を施した後、ナデ調整を施す。胴部の下部に行くに従ってハケ状工具による調整痕が良く残る。（内器面）口唇部付近はハケ状工具による横方向の調整を施す。頸部より上方は斜め及び横方向の調整を施す。胴部は斜め及び縦方向のハケ状工具による調整を施す。調整痕は下位に行くに従って顕著になる。　(h)その他…内器面の一部に炭化物が付着する。

3　(a)器種…弥生土器・脚付鉢　(b)出土遺構…４号住居址　(c)大きさ…口径20.8cm・器高19.8cm・脚部外径13.5cm・脚部内径12.5cm　(d)色調…淡い茶褐色　(e)胎土…小さい砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部及び頸部はナデ調整を施す。鉢部



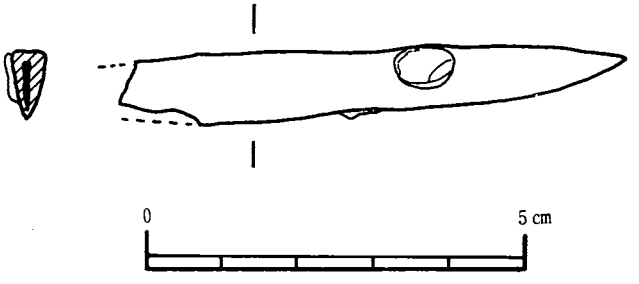
第37図　4号住居址出土遺物

の上半にはハケ状工具による調整痕が残る。鉢部の中央部から脚部の付け根にかけて、ヘラ状工具による削りによって整形を行う。脚部にはハケ状工具による調整痕が残る。脚部の端部にはナデ調整を施す。（内器面）鉢部にはナデ調整を施す。脚部にはハケ調整の痕跡が非常に良く残る。　(h)その他…完形である。

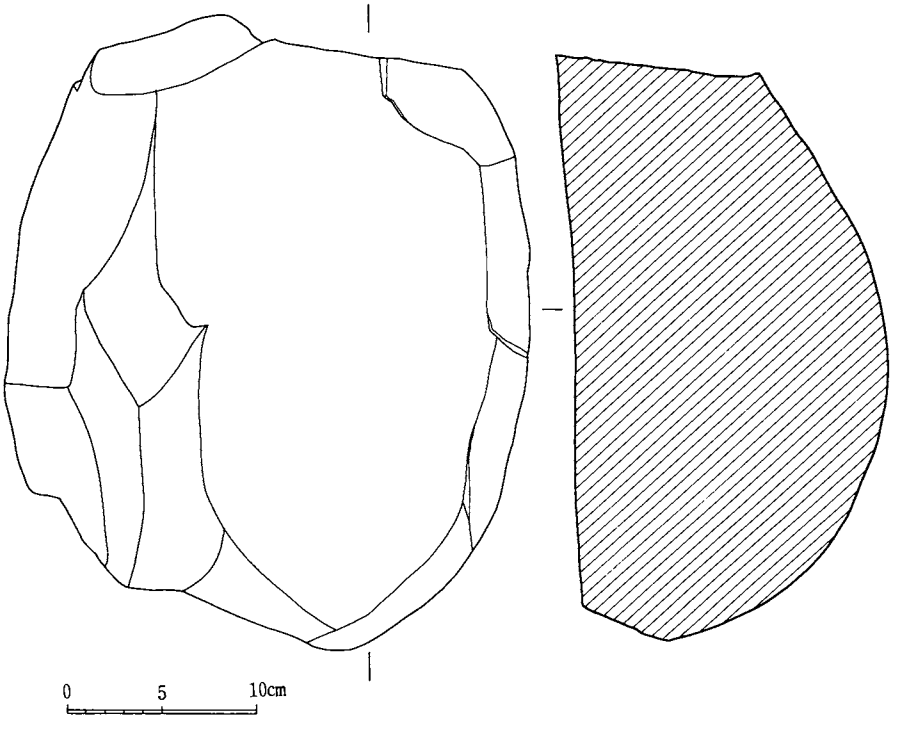
4　(a)器種…弥生土器・脚付鉢　(b)出土遺構…４号住居址　(c)大きさ…口径19.4cm・器高13.9cm・脚部外径12.8cm・脚部内径12.4cm　(d)色調…淡い茶褐色　(e)胎土…小さい砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部・鉢部と脚部との付け根付近・脚部の下半部にはナデ調整を施す。鉢部の胴部及び脚部上半部にはハケ状工具による調整痕が残る。（内器面）鉢部にはナデ調整を施す。　(h)その他…完形である。

ｂ－８　第38図　４号住居址出土遺物

1　(a)器種…鉄器・刀子　(b)出土遺構…４号住居址Ｉ層一括　(c)大きさ…現存する長さ6.6cm・幅0.9cm・刀背の厚さ0.4cm　(h)その他…一枚の鉄の板を折り曲げて鍛造したと思われる。細身であり、かなり研ぎ減りしている。



第38図　４号住居址出土遺物



第39図　４号住居址出土遺物

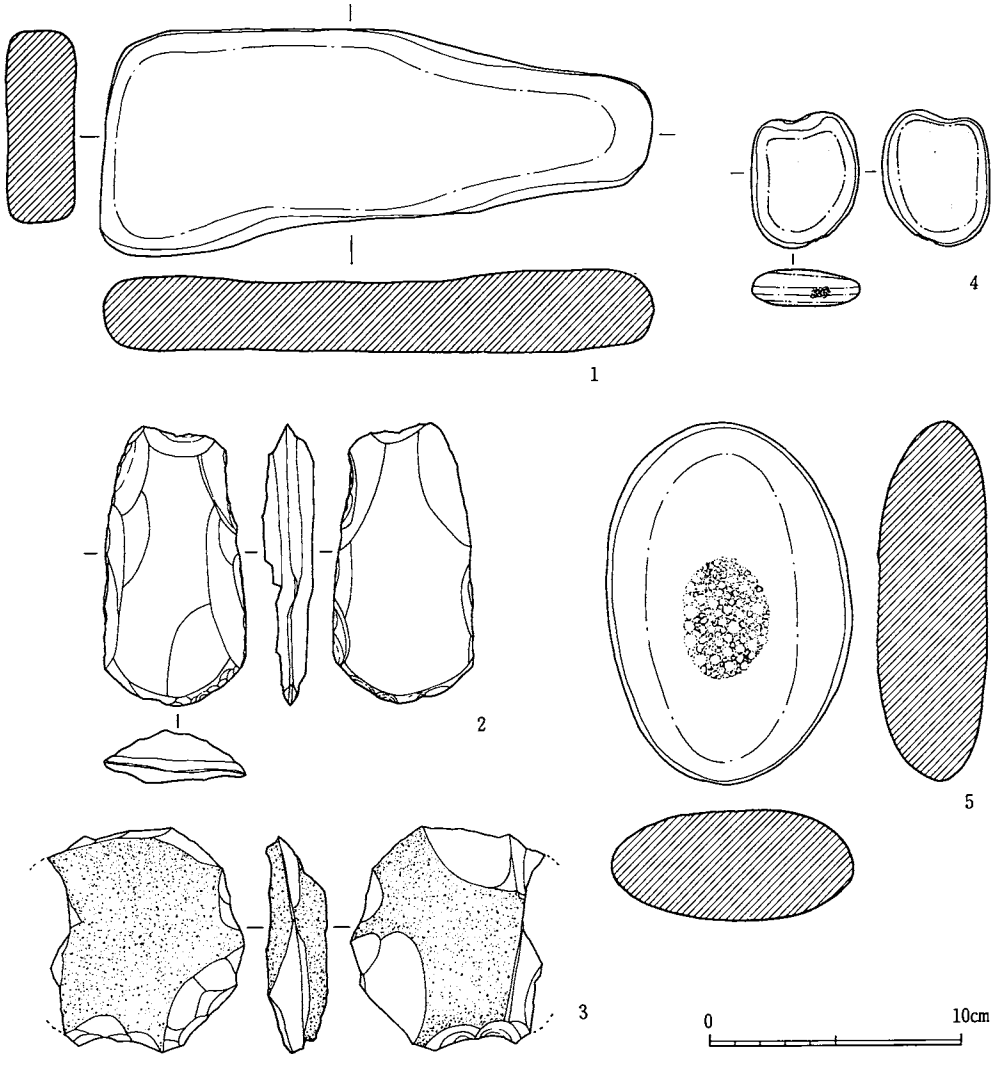
b－9　第39図　4号住居址出土遺物

1　(a)器種…砂岩・石皿又は作業台　(b)出土遺構…237番地・4号住居址・床面のほぼ直上から検出　(c)大きさ…長さ31.5cm・幅27.6cm・厚さ16.4cm・磨滅した部分の長さ30.5cm・磨滅した部分の幅17.3cm　(d)色調…緑色・表面は風化して白色がかった褐色　(h)その他…同種の岩石は、打越遺跡の西側にある採石場に露頭がある。当遺物は作業台の可能性もある。

b－10　第40図　打越237番地出土遺物（石器）

1　(a)器種…砂岩・砥石　(b)出土遺構…2号住居址Ⅰ層№27　(c)大きさ…長さ21.9cm・幅8.9cm・厚さ3.2cm　(h)その他…赤褐色を呈する砂岩である。両面を使用している。

2　(a)器種…片岩・打製石斧　(b)出土遺構…4号住居址Ⅰ層№24　(c)大きさ…長さ10.7cm・幅7.5cm・厚さ2.1cm　(h)その他…完形である。



第40図　打越237番地出土遺物（石器）

3　(a)器種…安山岩・円板状石器　(b)出土遺構…29号土壙Ⅰ層№3　(c)大きさ…長径8.4cm・短径6.9cm・厚さ2.3cm　(h)その他…両面に自然の礫面が残る。

4　(a)器種…安山岩・敲き石　(b)出土遺構…４号住居址Ⅰ層№23　(c)大きさ…長径4.9cm・短径4.2cm・厚さ1.5cm　(h)その他…安山岩の自然礫に敲打痕あり。

5　(a)器種…砂岩・敲き石　(b)出土遺構…３号住居址Ⅰ層№3　(c)大きさ…長径14.1cm・短径9.2cm・厚さ4.3cm　(h)その他…器面が擦れており、その中央部に敲打痕あり。

第２節　一括採取の弥生土器

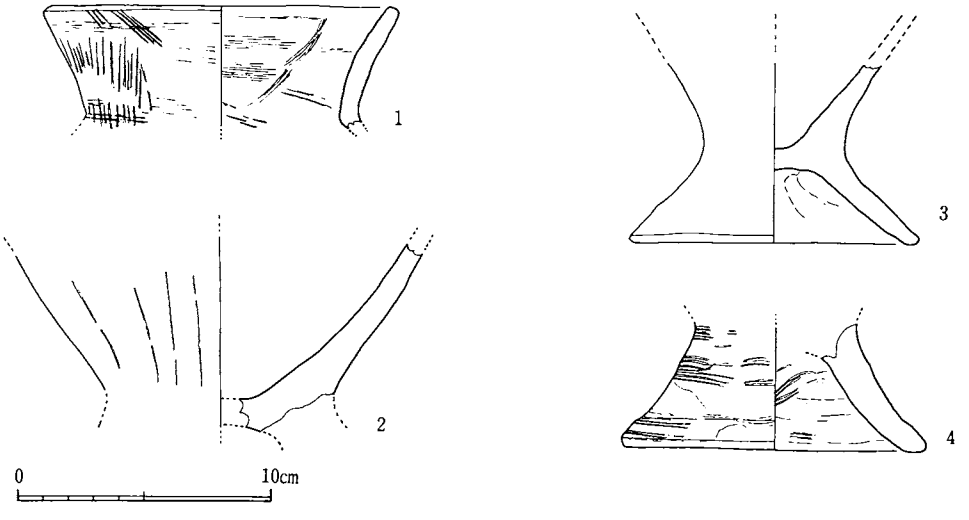
a　遺構不明又は弥生時代以外の遺構出土の土器

弥生時代の遺構から出土した土器ではなく、他の時代の遺構や表面採集の遺物である。土器片の多くは、弥生時代後期の遺物である。

b－1　第41図　打越遺跡出土の弥生土器

1　(a)器種…弥生・カメ　(b)出土遺構…1684番地Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・白色や黒色の造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）櫛状工具による調整を施す。（内器面）櫛状の工具により調整の後、下部は横方向のナデ調整を行う。　(h)その他…口縁部の破片である。口縁部の1/3周を残す。

2　(a)器種…弥生・台付カメ　(b)出土遺構…1684番地上層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）淡い黄橙色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・直径１～３㎜の砂粒を多く含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）櫛状工具による調整の後、ナデ調整を施す。



第41図　打越遺跡出土の弥生土器

（内器面）調整痕不明　(h)その他…カメの底部（脚部欠失）の破片である。底部の1/2周を残す。

3　(a)器種…弥生・台付カメ　(b)出土遺構…1687番地一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・裾部径11.4cm　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）櫛状工具による調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）脚部の内面は櫛状工具による調整の後、指でナデていると思われる。　(h)その他…カメの脚部の破片である。

4　(a)器種…弥生・台付カメ　(b)出土遺構…1684番地Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・裾部径12.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…やや粗い・直径2㎜程の砂粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）櫛状工具による調整の後、ナデ調整を施す。ナデの様子から見ると回転台を使用した可能性も考えられる。（内器面）脚部の内面は櫛状工具による調整の後、ナデ調整を施す。　(h)その他…カメの脚部の破片である。裾部の1/3周を残す。

第Ⅴ章　　歴史時代の遺構及び遺物

歴史時代の遺構と推定される遺構の大部分は奈良時代又は平安時代の遺構である。それ以外の遺構は近世末から明治初期の遺構と現代の遺構である。

奈良時代・平安時代の遺構としては、カマドを持つ竪穴式住居址（５号・６号）・住居状遺構（１号～７号）・掘建柱建物遺構（１号～４号）・土壙（貯蔵穴・炭焼き窯？・性格不明）・溝状遺構（道路遺構・溝遺構）である。

カマド付の竪穴式住居址は、奈良時代から平安時代の多くの遺跡で見られるほぼ方形のプランをもつ遺構である。

住居状遺構は、７基検出した。住居状遺構と言う名称は、遺構の名称としては適当でないとの指摘があると思われる。本来は、貯蔵用建物遺構あるいは貯蔵穴付竪穴式建物遺構と呼ぶべき遺構と思われる。遺構の詳細に付いては、後述の当遺構についての説明文を参照されたい。

掘建柱建物遺構の内、１号と２号は隣接した位置から、３号は５号住居址に隣接した位置から検出した。隣接した遺構の間の関係については、明らかでない。

数多く検出した土壙の中で、内部に木炭を多量に出土する遺構が見受けられる。しかも、それらの遺構の床面から焼土が検出される。また、遺構の周辺部の土には多くの炭素粒が含まれる。これ等の事から、炭焼き窯の遺構であろうと判断した。

溝状遺構と呼ぶ遺構は、溝遺構と道路遺構である。溝状遺構と称した理由は、遺構検出面では両遺構とも区別がつかず、底面或いは路面を確認して始めて溝或いは道路と確認出来るからである。

溝状遺構の中で、27号溝状遺構からは多くの土師器・須恵器が出土しており注目される。当遺構は溝遺構であり、遺構の切り込み面が住居状遺構（５号・６号）と異なると推定されることは土器の編年を考える上から重要と思われる。

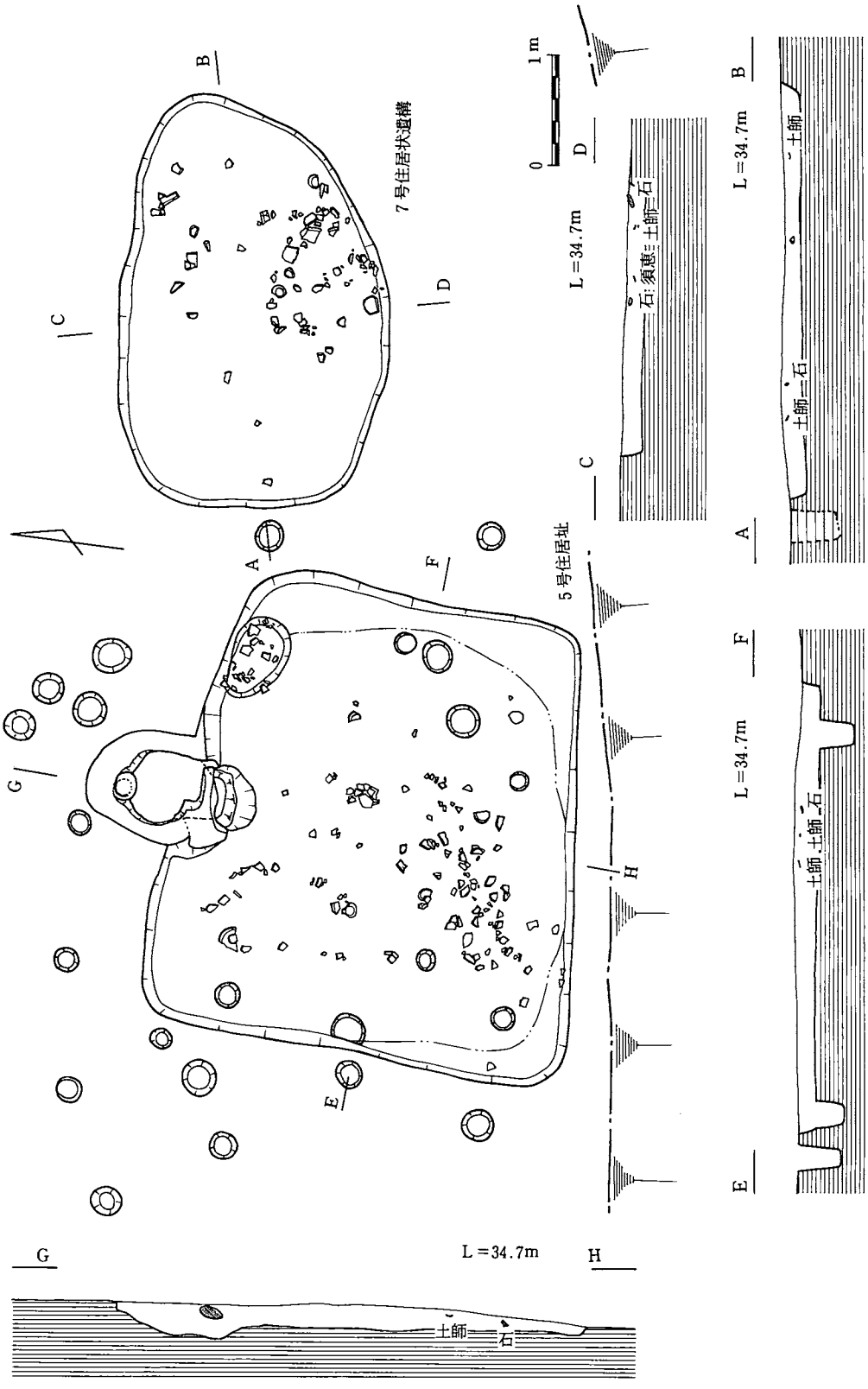
各遺構に付いての注目すべき点を少し述べた。以下、各遺構の検出状況及び遺構の特徴・出土遺物等について遺構毎に述べる。

第１節　竪穴式住居址

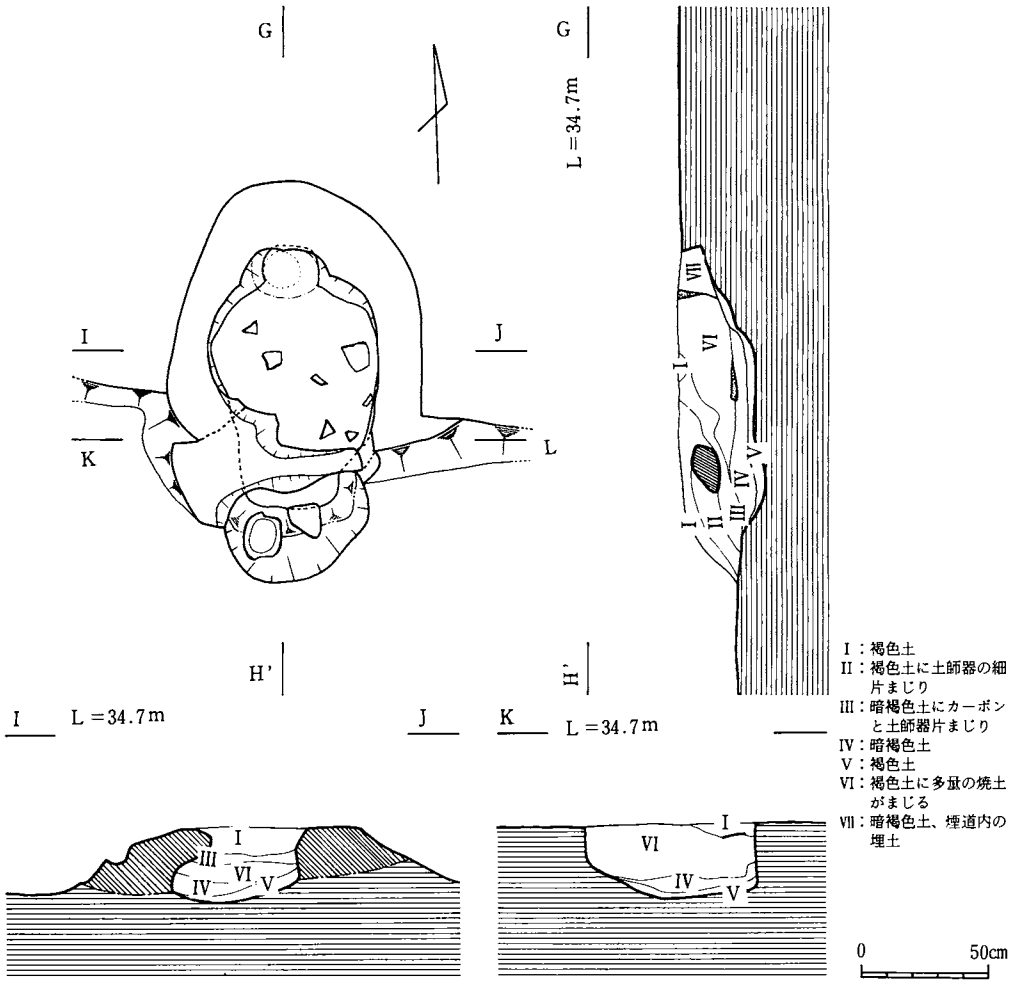
１．５号住居址の遺構及び遺物

a　５号住居址の遺構

発掘調査時の仮の名称は７号住居址である。打越1686―２番地から検出した。この畑には、



第42図　5号住居址・7号住居状遺構



第43図　５号住居址のカマド

切り花用の花卉類が栽培されていた。地力は他の畑と比較すると弱いようである。耕作土の下の土は黄褐色土であり、粘性の強い硬い土である。この土は乾燥すると亀甲状のひび割れが生ずる。以上のことから、耕作によって上部の土がかなり強く削平されたことがわかる。

５号住居址の東側に７号住居状遺構があり、両遺構とも上記の黄褐色土層を切って構築された遺構である。今回の発掘調査区域の中では、これ等の遺構が存在する畑（1686―２番地）が最も高い部分である。

５号住居址は、北側にカマドを持つ竪穴式住居址である。平面形は台形である。各壁の長さを北側から右廻りに列挙すると、4.2m・3.0m・4.2m・3.9mである。

床面はほぼ平坦であり、遺構検出面から床面までの深さは15～20cmである。屋内から８基の柱穴を検出した。恐らく、これ等の柱穴は当住居址の柱の掘り方と推定されるが、互いに対応する柱の掘り方を検出出来なかった。また、住居址の周辺からも対応するような柱穴群を検出

することは出来なかった。

b－1　第44図　5号住居址出土遺物

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居址No.1・貯蔵穴中　(c)大きさ…復元口径12.6cm・器高5.2cm　(d)色調…（外器面）黒褐色から明るい赤褐色・（内器面）黒色　(e)胎土…緻密・鉱物粒を含む。細かい気泡が見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラによる調整が見られる。底部には指頭圧痕が見られる。（内器面）ヘラによる研磨が施されている。(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居址No.2　(c)大きさ…復元口径16.6cm・器高4.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程度の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

3　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居址カマド　(c)大きさ…口径17.4cm・器高2.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～3㎜程度の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。外器面の天井部にヘラ削りによる調整痕が見られる。(h)その他…完形に近い。

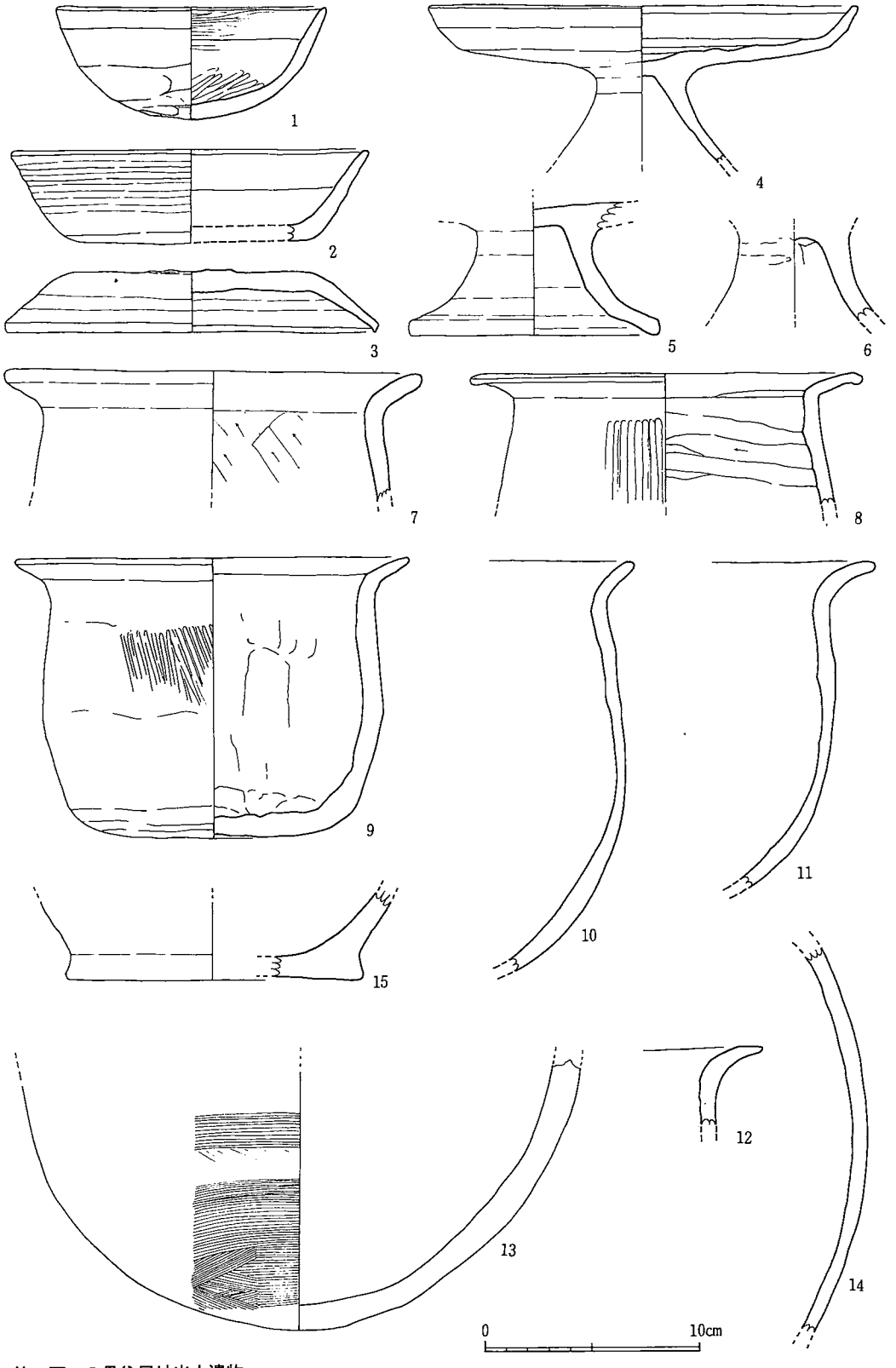
4　(a)器種…土師器・脚付の盤　(b)出土遺構…5号住居址No.12　(c)大きさ…復元口径19.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径3～4㎜程度の小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも粗いナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

5　(a)器種…土師器・盤の脚部　(b)出土遺構…5号住居址No.23　(c)大きさ…裾部径11.8cm・器高不明・残存部の高さ6.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…脚部のみを残す。

6　(a)器種…土師器・盤の脚部　(b)出土遺構…5号住居址No.20　(c)大きさ…裾部径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜の砂粒を含む。細かい気泡を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…脚部の上下の端を失う。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址上面一括　(c)大きさ…復元口径19.4cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・白色の鉱物や砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部はナデ調整を施す。胴部にはハケ調整の痕が僅かに残る。（内器面）口縁部から頸部はナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址No.14　(c)大きさ…復元口径18.2cm・器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部はナデ調整を施す。胴部はハケ調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）口縁部から頸部にかけてはナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。



第44図　５号住居址出土遺物

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址貯蔵穴中No.8　(c)大きさ…復元口径18.4cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部はナデ調整を施す。胴部はハケ調整の後、ナデ調整を施す。胴部の下部から底部はヘラ削りを施す。（内器面）口縁部から頸部にかけてはナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りの後ナデ調整を施す。底部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。底部は完全に残る。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址No.6　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…強く磨滅しており、器表の観察が困難である。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）赤褐色から黒色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…やや粗い。砂粒や鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はハケ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址No.20　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

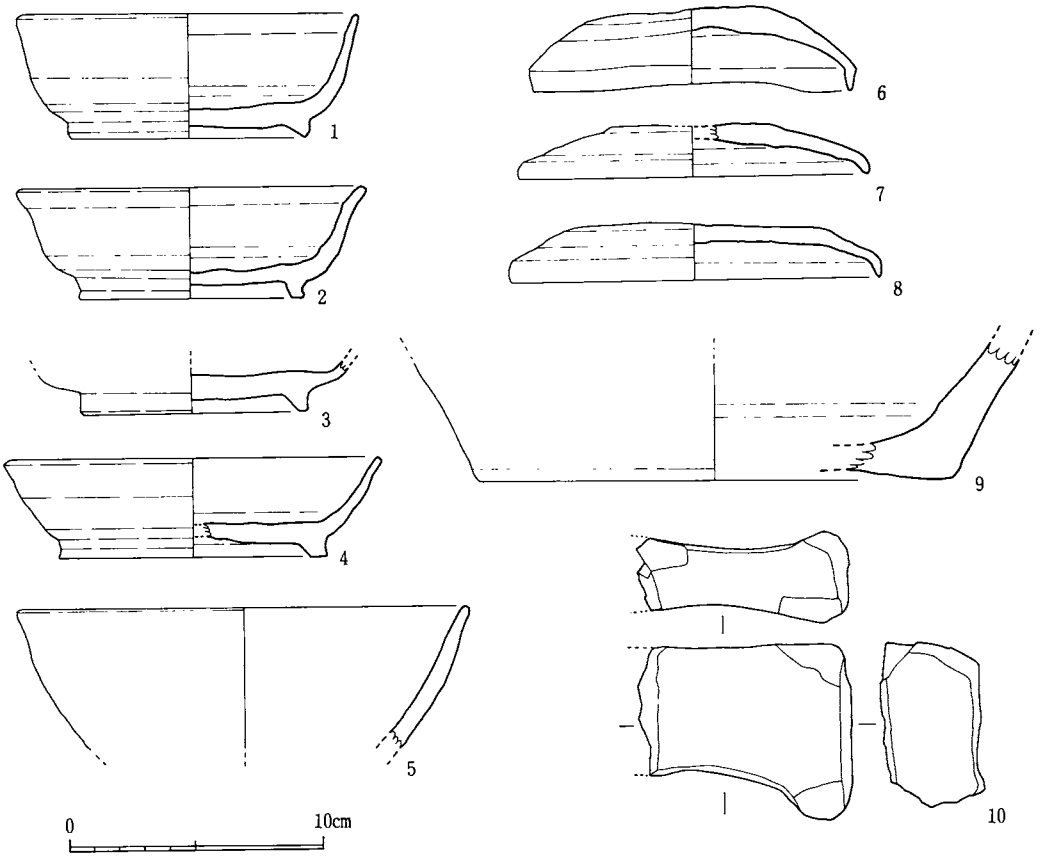
13　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址No.22　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

14　(a)器種…須恵器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒や白色の鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）平行タタキを施す。（内器面）同心円紋（青海波紋）タタキを施した後ナデ調整を施す。　(h)その他…胴部の破片であるため傾きが明らかでない。

b－2　第45図　5号住居址出土遺物

1　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居址No.3　(c)大きさ…復元口径23.6cm・器高4.9cm・高台径9.1cm・高台内径9.0cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…褐色を帯びた灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に焼きむらが見られる。

2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居址No.9　(c)大きさ…復元口径13.8cm・器高4.3cm・高台径8.8cm・高台内径8.0cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…オリーブ色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。



第45図　5号住居址出土遺物

3　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居址№19　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径9.0cm・高台内径8.4cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。高台内面は不定方向のナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。見込み部は不定方向のナデ調整を施す。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居址№21　(c)大きさ…復元口径15.0cm・器高3.9cm・高台径10.5cm・高台内径9.2cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。

5　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…5号住居址一括　(c)大きさ…復元口径18.0cm・器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部を残す。

6　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居址№25　(c)大きさ…復元口径約13cm・器高約3cm　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…歪みが大きい。焼きむらがあ

る。

7　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居址上面一括　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高2.0cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。

8　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居址№18　(c)大きさ…復元口径14.8cm・器高2.2cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。

9　(a)器種…須恵器・カメ　(b)出土遺構…5号住居址№9　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径18.8cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）胴部にはタタキの痕跡が残る。底面の付け根及び底面の周辺部にはヘラによる削りの痕が見られる。底面の中央部はナデを施す。（内器面）胴部にはタタキの痕跡が残る。立ち上がり部には強くナデを施す。

10　(a)器種…流紋岩・砥石　(b)出土遺構…5号住居址№27　(c)大きさ…長さ不明・幅7cm・厚さ4cm　(h)その他…一部を欠失する。軟質である。灰白色の斑晶が見られる。天草陶石である。

2．6号住居址の遺構及び遺物

a　6号住居址の検出状況

発掘調査時の仮の名称は9号住居址である。打越1686―1番地の北辺のほぼ中央部から検出した。この畑には牧草が主に栽培されていた。

土層の状態は、1684番地や1683―1番地と類似する。当遺構は耕作土を排除した直後の遺構検出作業によって検出したことから、第Ⅱ層（黄褐色土と黒色土が混じった土）を切る遺構である。第Ⅱ層を切ることから、5号住居状遺構と近い時代の遺構と推定される。

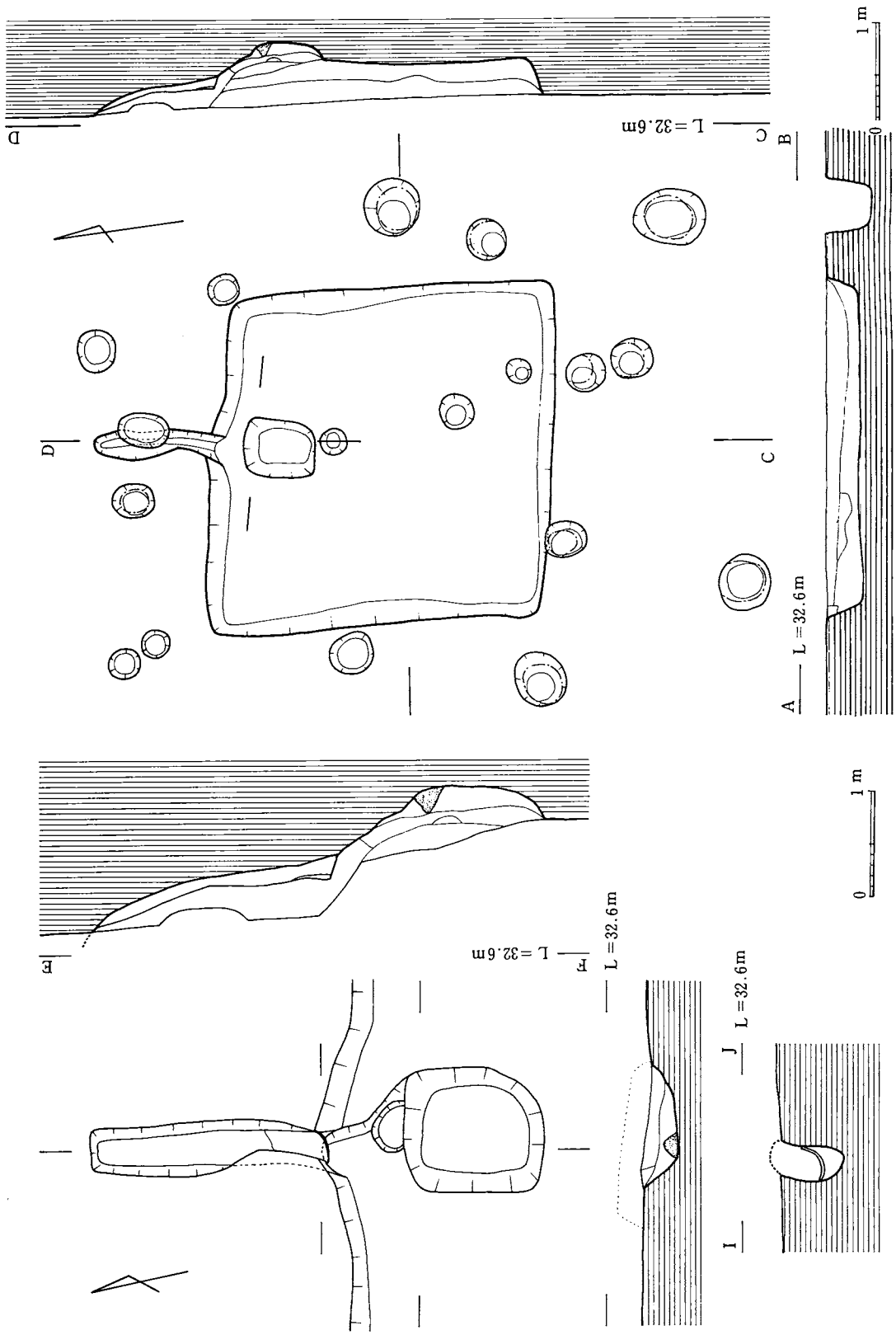
住居址の平面形は、方形（やや歪む）である。北側から右廻りに壁の長さを列挙すると3.1m・3.1m・3.2m・3.2mである。

北側の壁のほぼ中央部にカマドを持つ。カマドの煙道は壁から外側に1.1m程残存する。煙道の直径は15cmを測る。残存する煙道部の傾きは20度未満（カマドの付け根の部分と先端の部分の傾きが大きくなる）と推定される。

カマドの火床の大きさは、幅0.6m・奥行き1.0m・床面からの深さ0.2m未満である。火床の断面は円弧を描く。その中に、崩れたカマドの袖部の土や住居址の覆土が流れ込んでいる。

住居址の中央部の床面は硬化している。特に、カマドの前面（焚き口付近）は強く硬化している。

柱穴は3基（P―1・2・3）検出した。それ以外の柱穴を検出出来なかったので、対応関



第46図　６号住居址

係が摑めなかった。

遺物は、床面に張りついた状態で土師器の小片が出土した。

b－1　第47図　6号住居址出土遺物

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…6号住居址No.4　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの跡が残る。　(h)その他…底部の破片である。

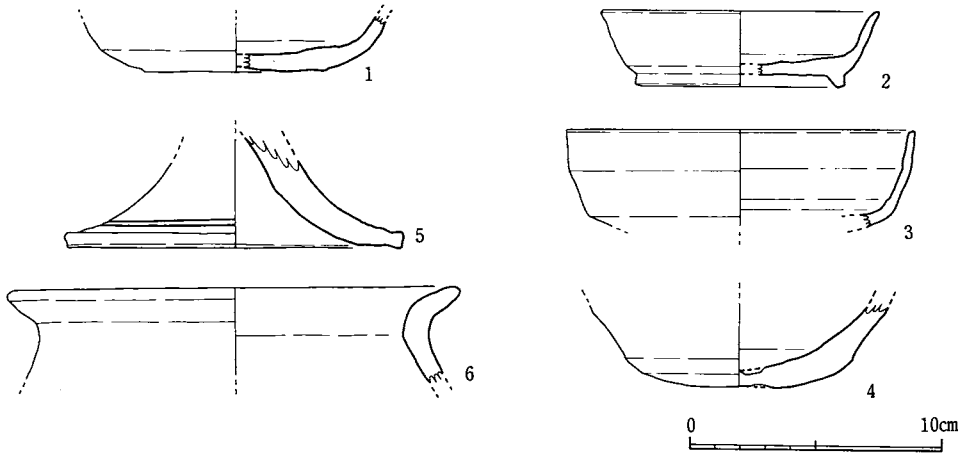
2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…6号住居址一括　(c)大きさ…復元口径11.0cm・器高3.0cm・高台径8.3cm・高台内径7.6cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…（外器面）青黒色・（内器面）灰青色　(e)胎土…緻密・砂及び白色の粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…6号住居址一括　(c)大きさ…復元口径13.7cm・器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白い砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…底部を欠失する。

4　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…6号住居址一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・底径8.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。赤焼き須恵器である。

5　(a)器種…土師器・盤の脚部　(b)出土遺構…6号住居址No.1　(c)大きさ…裾部径13.4cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。裾部に2本の沈線を廻らす。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…6号住居址No.2　(c)大きさ…復元口径18.0cm・器



第47図　6号住居址出土遺物

高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒をかなり多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下はヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。内面にはススが付着する。

第２節　住居状遺構の検出状況及び遺物

「住居状遺構」と余り明瞭でない遺構名を付した理由は、発掘当初、住居址と推定される遺構を確認し、発掘作業を進めて行くうちに、遺構形状及び覆土から見て、住居址であるとの確信が持てない遺構だからである。そのような遺構を７基検出した。

遺構の外形は方形又は長方形である。その中に円形又は長方形の貯蔵穴と思われる土壙を持つ。遺構の外形及び内部施設の様子からすると、「竪穴式住居址状をした、貯蔵を目的とする家屋」であろうと推定した。

遺構内から出土する土器は、須恵器・土師器である。

１．１号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　１号住居状遺構の検出状況

発掘調査時における仮の名称は１号住居址である。当遺構は236番地から検出した。畑の耕作土を排除したところ、黄褐色土に黒色土が混じった土（第II層）が現われた。この土には、奈良時代～平安時代の須恵器・土師器が含まれる。その他、弥生土器・縄文土器も含まれる。

第II層を切るような状態で４基の土壙（18号・19号・20号・21号）を検出した。それ以外の遺構は検出出来なかった。

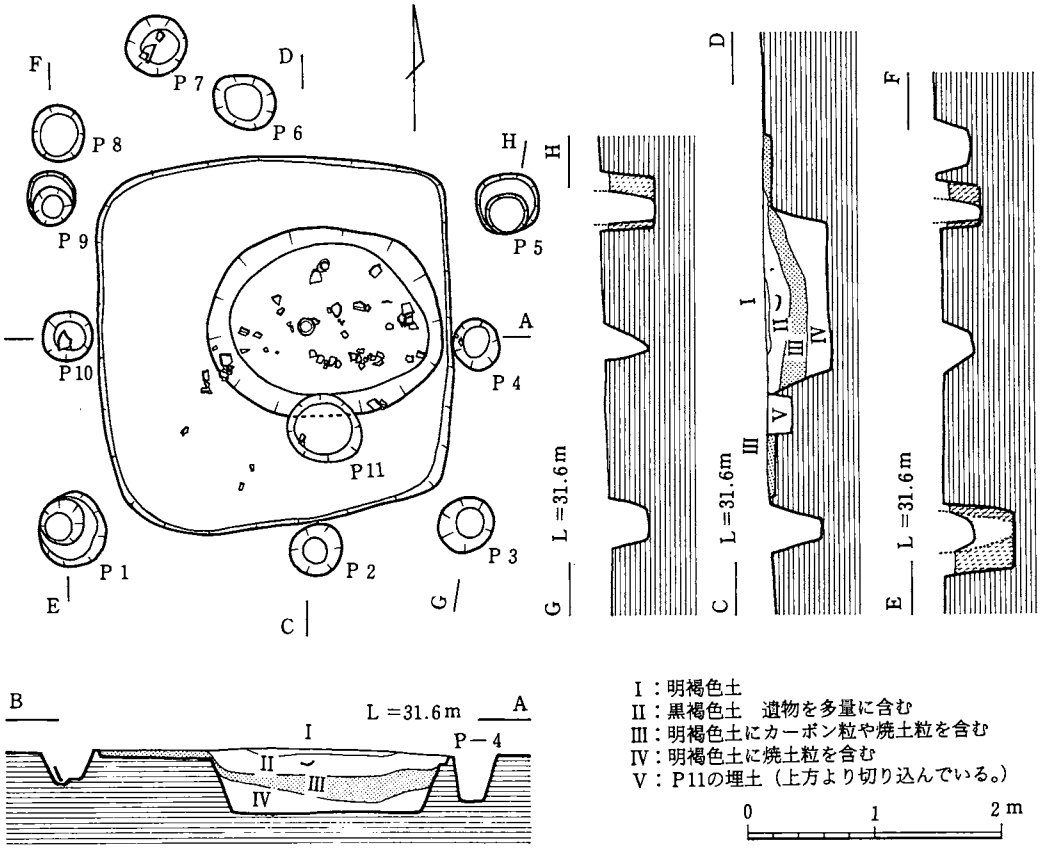
そこで、第II層（厚さ10～15cm）を人力により排除した。その後、遺構検出作業を行ったところ、黄褐色土層（第III層）上面から第48図に示すような方形の遺構と柱穴群を検出した。

１号住居状遺構を検出したことにより、撹乱を受けた土層（第II層・黄褐色土に黒色土が混じる土）を切る遺構とその下の層（第III層の上面）から検出される遺構があることに気付いた。しかし、第II層を切る遺構と第II層の下から検出される遺構との間に、大きな時間的隔たりがあるようには考えられない。

１号住居状遺構の平面形は、先にも述べたようにほぼ方形である。各辺の長さを北側から右廻りに列挙すると、2.7m・2.5m・2.6m・2.8mである。

北西側の隅と南西側の隅は、他の隅と比較すると隅丸になっている。北側の壁面と南側の壁面は外側に張り出ており、わずかながら三味胴状を呈する。

遺構を四分割し、畦を残すようにしながら西側の区画から発掘調査を進めた。床面を確認し



第48図　1号住居状遺構

たところで、床に沿って水平方向に発掘区域を拡げたところ、第48図に示すような楕円形の窪み（長径1.9m・短径1.5m・床面からの深さ0.4m）を検出した。

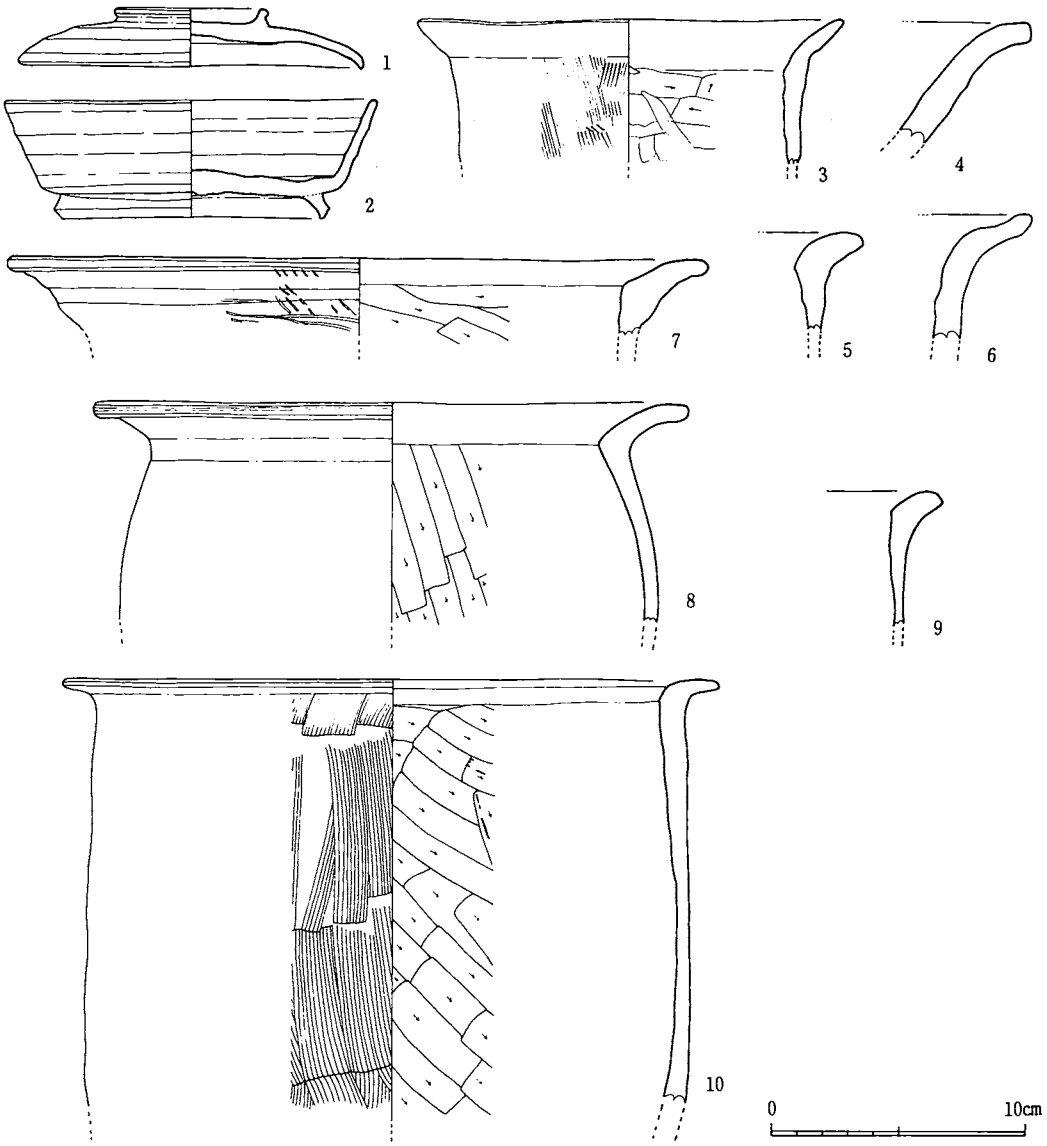
遺構内の覆土は4つの層に分けられる。楕円径の窪みの中心部ではⅠ～Ⅳ層までみられる。それ以外の部分（窪みの外側・方形プランの内側）は、第Ⅲ層（明褐色土に炭素粒や焼土粒を含む）によって被われている。また、楕円形の窪みの縁の部分も第Ⅲ層によって被われている。

以上述べた遺構発掘の経過及び遺構の形状から、本遺構の中央部の楕円形の窪み（土壙）は貯蔵穴であろうと推定した。また、外側の方形の竪穴式住居址状の遺構は、上記の貯蔵穴の覆屋であろうと推定した。

第48図に示した柱穴群（11基）の内、P－11は1号住居状遺構を切っているので、当遺構より新しい遺構である。それ以外の柱穴（P－1～10）は、竪穴式住居址状の方形プランを取り囲むように検出されたことから、当遺構の上屋を支える柱の掘り方と推定される。

b－1　第49図　打越236番地出土遺物

1　(a)器種…土師器・蓋　(b)出土遺構…1号住居状遺構№9及び同遺構内一括　(c)大きさ…



第49図　打越236番地出土遺物

復元口径13.6cm・器高2.3cm・輪状摘みの径4.8cm　(d)色調…鈍い橙色から明るい橙色　(e)胎土…緻密であるが脆い感じを受ける。砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。外器面の胴部にハケ状工具による調整痕が見られる。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…1号住居状遺構№11　(c)大きさ…復元口径14.7cm・器高4.6cm・高台径11.0cm・高台内径10.2cm・高台の高さ0.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い。白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。高台部の接合部には指により強く押さえてナデ調整を施す。高台の内面にはヘラ切りの痕

を残す。(内器面) 横ナデ調整を施す。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…1号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径17.0cm・器高不明　(d)色調…黒色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部にはナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による調整を施す。(内器面) 口縁部にはナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…調整及び整形ともに粗い。口縁部に少し山形の紋様状が見られるが、小破片であるため意図的に紋様をつけたものか或いは整形不良による傷か明らかでない。

4　(a)器種…土師器・カメ又は鉢　(b)出土遺構…1号住居状遺構№15　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良く、重たく感ずる。砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口唇部にはナデ調整を施す。口縁部にはナデ調整の後、斜め方向にハケ状工具による調整を施した痕が薄く残る。頸部には指によるナデ調整を施す。(内器面) 口唇部にはナデ調整を施す。口縁部にはナデ調整の後、ヘラ状工具による軽い研磨を斜め方向に施す。それ以下には横方向のヘラ削りが見られる。　(h)その他…口縁部の1/16周を残す。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…1号住居状遺構№10　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色から鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…甘い・割れ口は褐色がかった灰色を呈する。　(g)調整…(外器面) 口縁部には横方向のナデ調整を施す。(内器面) 口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。(h)その他…口縁部の1/12周を残す。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…1号住居状遺構№12　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色から灰色がかった黄褐色　(e)胎土…緻密であるがやや軽い感じを受ける。黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部は横方向のハケ状工具による調整を施す。頸部以下はハケ状工具による縦方向の調整を施す。(内器面) 口縁部は横方向のハケ状工具による調整を施す。頸部以下には横方向のヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/12周を残す。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…1号住居状遺構№17　(c)大きさ…復元口径27.9cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・やや重い感じを受ける。砂粒及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部は横方向のハケ状工具による調整を施す。頸部にはハケ状工具による横方向の調整の後、斜め方向の調整を部分的に同じ工具を用いて調整を施す。(内器面) 口縁部は横方向のハケ状工具による調整を施す。頸部以下には横方向もしくは斜め方向のヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Pit－7　(c)大きさ…復元口径23.6cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い。砂粒及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良

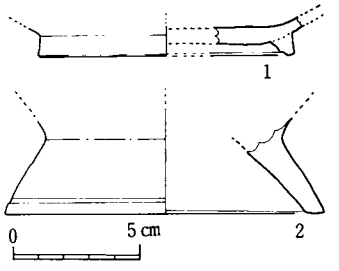
好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のヘラ状工具による軽い研磨を施す。頸部には横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。削りの幅は1cm程である。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Pit—7　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い。砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Pit—10　(c)大きさ…復元口径26.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い。造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のハケ状工具によるナデ調整の後、指によるナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による縦方向の調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを斜め方向に施す。

b—2　第50図　1号住居状遺構出土遺物

1　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…1号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径10.1cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・やや軟質である。　(f)焼成…良好・破れ口は赤味を帯びる。　(g)調整…ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…高台部の破片である。高台部の1/4周を残す。



第50図　1号住居状遺構出土遺物

2　(a)器種…須恵器・器種不明・脚部の破片　(b)出土遺構…1号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・脚部の裾部径12.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白色の微粒子を含む。硬質である。　(f)焼成…良好　(g)調整…ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…脚部の小片である。

2．2号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　2号住居状遺構の検出状況（第51・52図参照）

発掘調査時の仮の名称は2号住居址である。打越235番地のほぼ中央部から、2号・3号・4号住居状遺構を検出した。これ等3基の遺構は、第51図に示すように、遺構の大きさや平面形が極めて類似する。また、本遺跡検出の住居址と比較すると、幅が狭く・細長く・小型である上に、床の硬化面を3者共確認出来なかった。以上の理由から、一般に竪穴式住居址と判断している遺構とは異なる遺構と考えられる。

当遺構を検出した付近の狭い地域での地形は東に緩やかに傾斜する。また、遺構検出面の下の土は礫が混じる土であるので、3基の遺構を検出した付近は排水がよいと判断される。

以上のような観察結果から、３基の遺構は住居址ではなく、貯蔵を目的とした遺構であろうと考えて調査を進めた。

２号住居状遺構は、３基の遺構の中では西端の遺構である。当遺構の北西には、９号土壙がある。当遺構は黄褐色土層の下にある礫層の上面まで切り込まれている。遺構検出面にも所々に礫層が現われている。

２号住居状遺構の平面形は、ほぼ南北に長い長方形である。遺構の壁の長さを北側から右廻りに列挙すると、2.1m・3.8m・2.4m・3.8mである。遺構検出面から床面迄の深さは10cm未満である。

床面はほぼ平坦であり、先に述べたように床の硬化は見られない。北東の隅から柱穴（最大径34cm・深さ20cm未満）を１基検出したのみであり、上屋の構造物を支えるための柱の掘り方は検出出来なかった。

最初に記したように、遺構の形状は住居址状を呈しているが、住居址とは言い難い。打越遺跡から西方約１kmの所に曲野遺跡がある。この遺跡の調査地から、大きな土壙が検出されている。この土壙の平面形が当遺構と良く類似（遺構の検出面からの深さは異なる）する。

３．３号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　３号住居状遺構の検出状況（第51・52図参照）

発掘調査時の仮の名称は３号住居址である。先述の２号竪穴遺構の所で述べた３基の住居状遺構（２号・３号・４号）の中で、中央に位置する。

平面形は長方形に近い台形であり、南北に長い。遺構の壁の長さを北側から右廻りに列挙すると、2.4m・4.3m・1.9m・3.8mである。遺構検出面から床面までの深さは５～20cmである。床面はほぼ平坦である。床面全体は南方に傾斜（南端と北端とのレベル差は10cm）する。

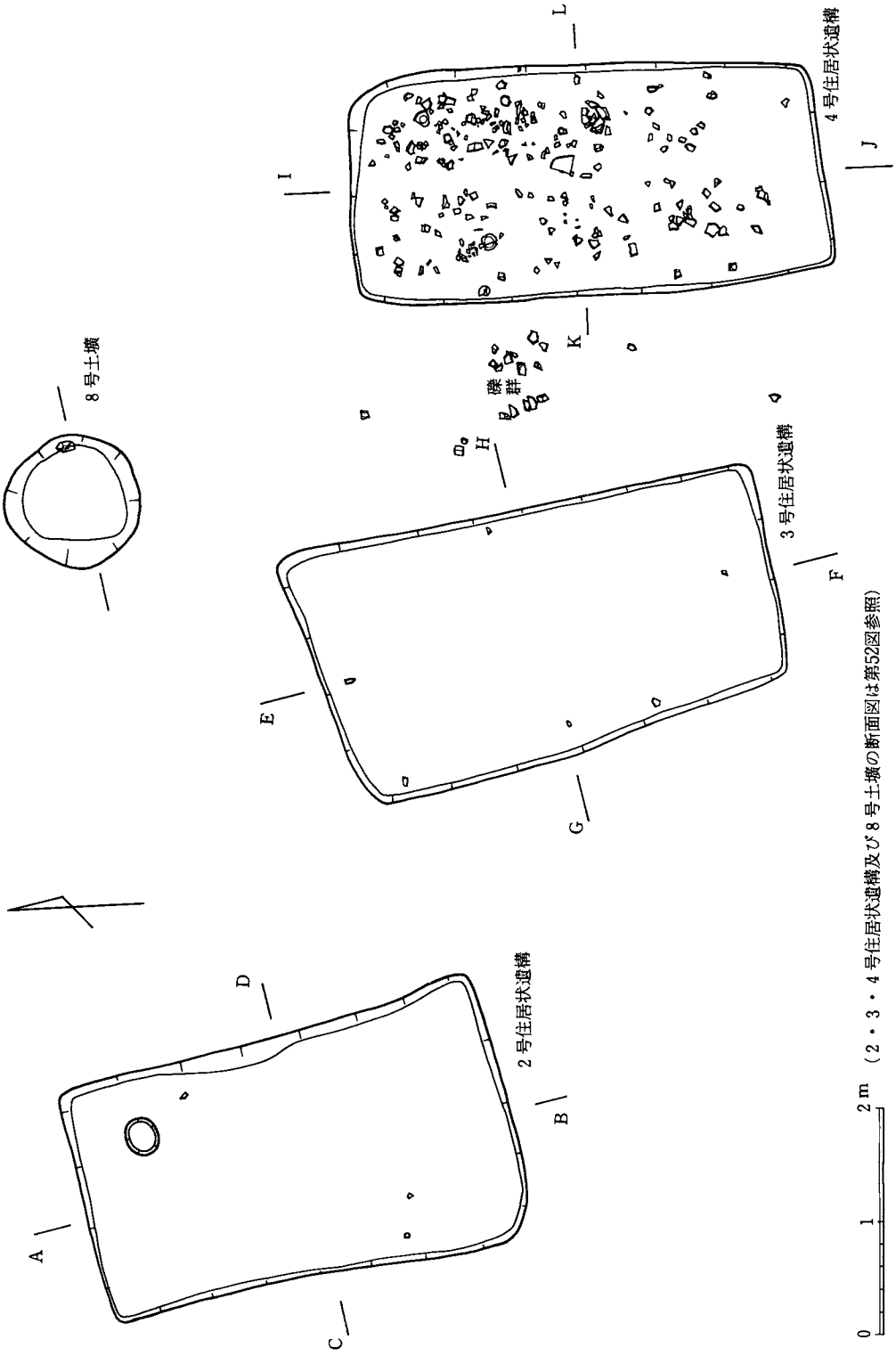
床面の硬化は見られず、しかも、柱穴も検出されなかった。遺物は、土師器・須恵器が少量出土した。

当遺構の形状が２号住居状遺構の内部施設の形状と類似することから、それと類似する遺構の性格を有すると思われる。

b－１　第53図　打越235番地出土遺物

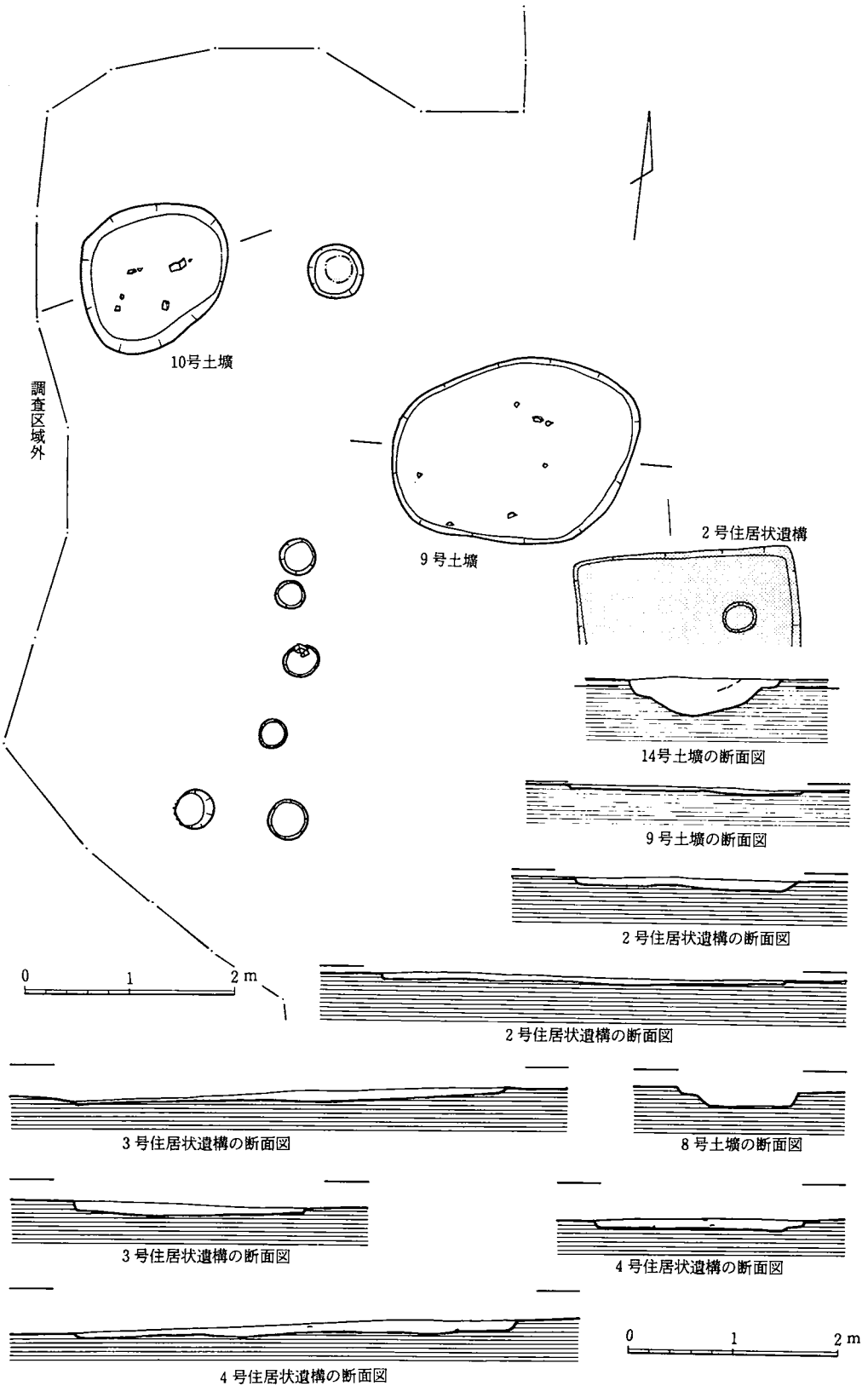
１　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…３号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径11.0cm・高台内径9.0cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

２　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…３号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径不明・器高3.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの痕が残る。

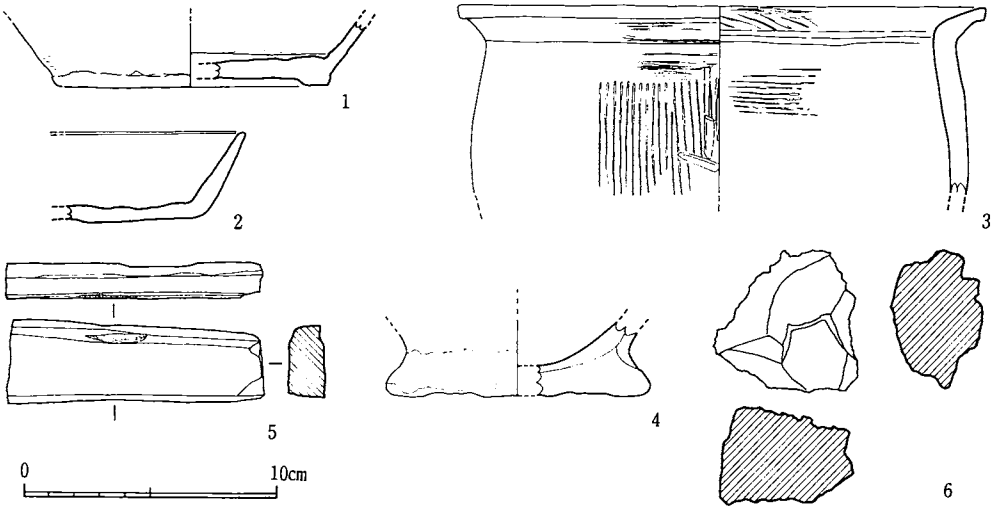


（２・３・４号住居状遺構及び８号土壙の断面図は第52図参照）

第51図　８号土壙及び２号～４号住居状遺構



第52図　2号～4号住居状遺構及び8号・9号土壙



第53図　打越235番地出土遺物

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…２号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径20.9cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部には粗いナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

4　(a)器種…縄文土器・深鉢の底部　(b)出土遺構…３号住居状遺構№２　(c)大きさ…復元底径10.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径１㎜程の砂粒や黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…底面の1/4周を残す。

5　(a)器種…砂岩・砥石　(b)出土遺構…２号住居状遺構№４　(c)大きさ…長さ10.2cm・幅2.9cm・厚さ1.5cm　(h)その他…表面が風化して剝落している。砥石の破片である。

6　(a)器種…器種不明・炉壁？　(b)出土遺構…15号土壙の東側№３　(h)その他…第216図の15によく類似する。強い火力を受けたと思われる。

４．４号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　４号住居状遺構の検出状況（第51・52図参照）

発掘調査時の仮の名称は４号住居址である。先に述べた３号住居状遺構の東側から遺構を検出した。前述の２号・３号住居状遺構と類似の遺構と推定される。

平面形は南北に長い長方形である。遺構の各辺の長さを北側から右廻りに列挙すると、1.9m・4.1m・1.8m・4.2mである。遺構検出面から床面までの深さは５～15cmである。

床面はなだらかに南方へ傾斜しており、南北の床面のレベル差は約10cmある。床面及び長方形の掘り方周辺から柱穴を検出することが出来なかった。

覆土中から第51図に示すように、多くの土器片（土師器・須恵器）が出土した。また、小礫も多く出土した。

b－1　第54図　4号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・皿又は盤　(b)出土遺構…4号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径22.0cm・器高2.0cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から底部にかけての破片である。口縁部の1/4周を残す。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…4号住居状遺構№12　(c)大きさ…口径13.2cm・器高4.4cm　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。底部はヘラ状工具による粗い調整を施す。（内器面）横方向のナデ調整を施す。

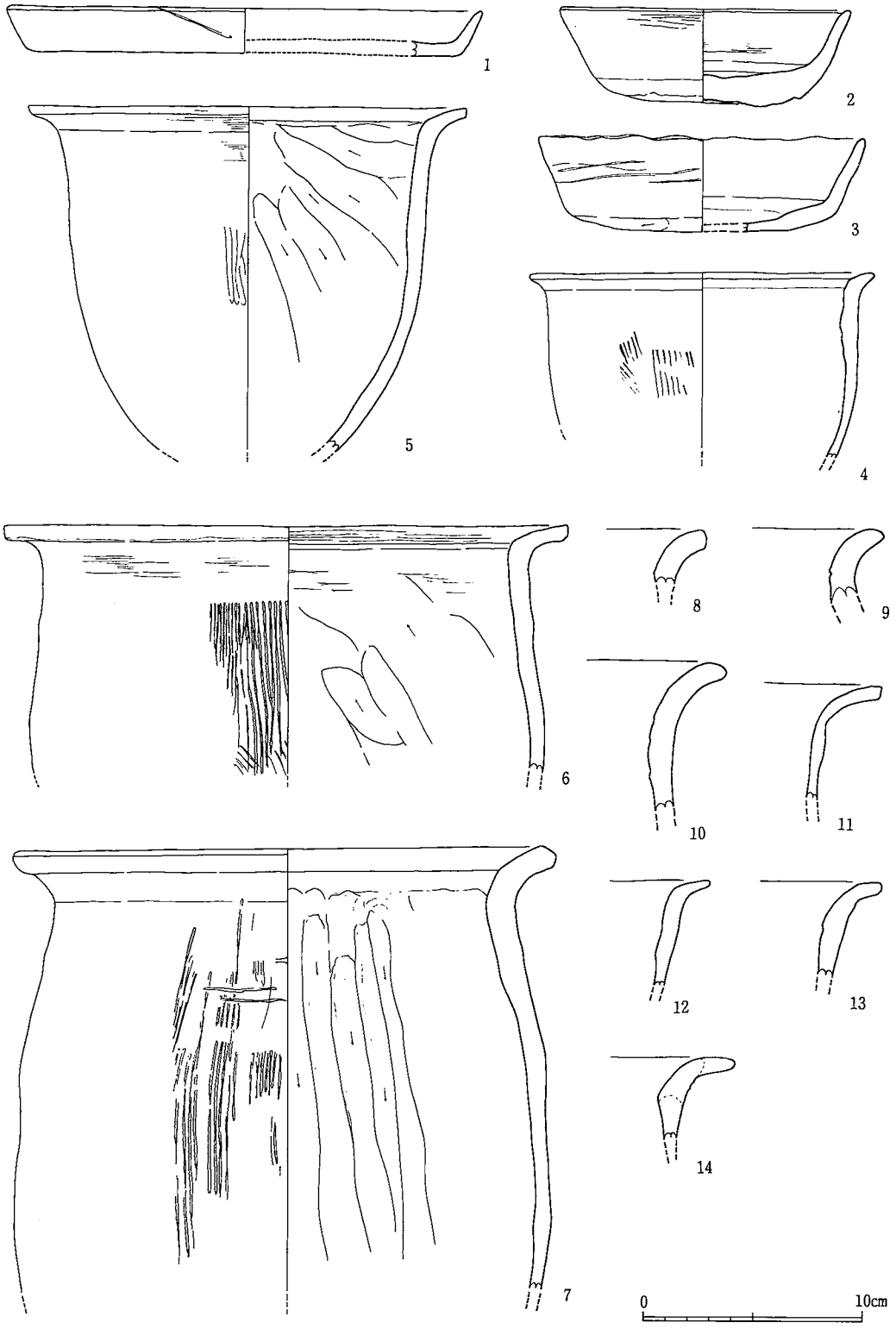
3　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…4号住居状遺構№20　(c)大きさ…復元口径14.8cm・器高4.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。底部はヘラ状工具による粗い調整を施す。（内器面）横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…底面にススが付着する。口縁部の1/2周を残す。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№6　(c)大きさ…復元口径15.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒をかなり多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りの後、ナデ調整を施す。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№15　(c)大きさ…復元口径20.2cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径2㎜程の砂粒を含む。気泡が多く見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は指によるナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による丁寧な調整を施す。調整痕の幅は2㎜程である。（内器面）口縁部は指による横方向のナデ調整を施す。胴部は粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/3周を残す。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№3　(c)大きさ…復元口径26.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…粗い・砂粒を含む。気泡が多く見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は指によるナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部は指による横方向のナデ調整を施す。胴部は粗いヘラ削りを施す。(h)その他…口縁部の1/5周を残す。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№12　(c)大きさ…復元口径25.0cm・器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は指による横方向のナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による調整の後、軽くナデ調整を施す。（内器面）口縁部は指による横方向のナデ調整を施す。胴部は粗いヘラ削りを



第54図　４号住居状遺構出土遺物（土師器）

施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№12　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密・締まりが良い。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/10周を残す。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№16　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）赤色・（内器面）赤褐色　(e)胎土…緻密・小礫や砂を多く含む。小礫の大きいものは直径が8㎜程もある。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。頸部以下は粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№14　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…赤橙色　(e)胎土…やや粗い・直径3㎜程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部はヘラ削りの後、ハケ状工具による調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№3　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・白色の小さい粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部内器面にススが付着する。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№7　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い橙色・（内器面）明るい橙色　(e)胎土…緻密・締まっているが、やや軽い。砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）丁寧な横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部は縦方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部内器面にススが付着する。

13　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・やや軽い。白色の微粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。器面が荒れている。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部は縦方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/16周を残す。

14　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号住居状遺構№5　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。頸部以下は斜め方向のヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/10周を残す。

b－2　第55図　4号住居状遺構出土遺物

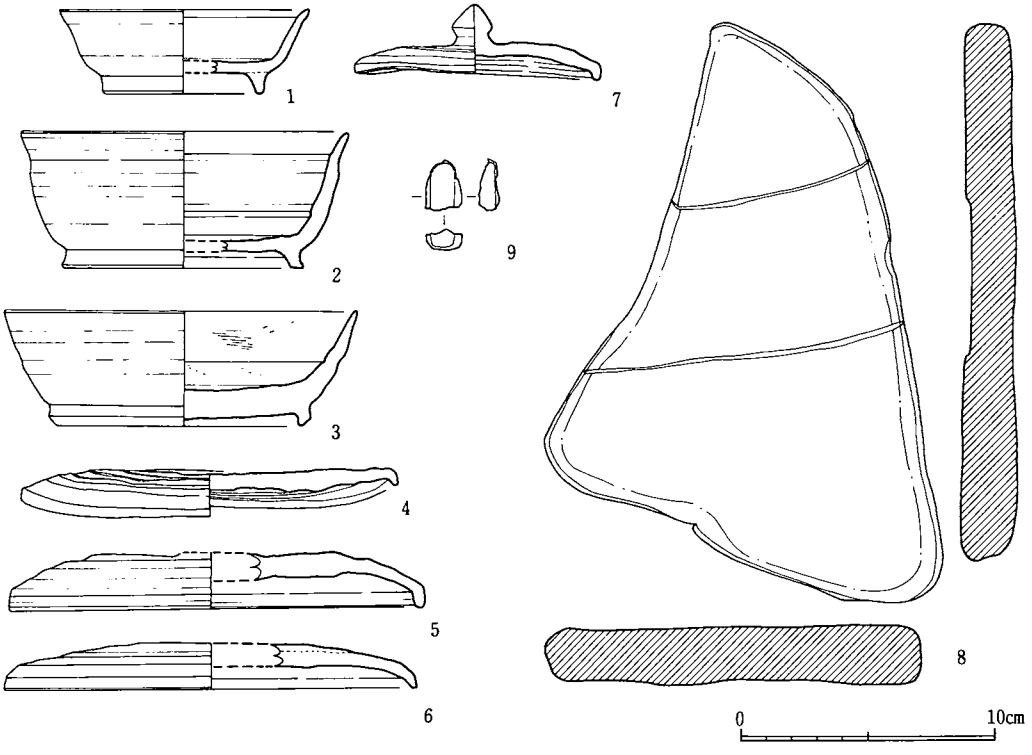
1　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…4号住居状遺構№8　(c)大きさ…復元口径

9.8cm・器高3.3cm・高台径6.4cm・高台内径5.6cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から底部にかけての破片である。口縁部を僅かに残す。高台部の1/3周を残す。

2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…4号住居状遺構No.5・9　(c)大きさ…復元口径13.0cm・器高5.3cm・高台径9.5cm・高台内径8.4cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）オリーブ色がかった灰色　(e)胎土…緻密・白色の微粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…口縁部から底部にかけての破片である。口縁部の1/2周を残す。

3　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…4号住居状遺構No.18　(c)大きさ…復元口径13.9cm・器高4.6cm・高台径10.3cm・高台内径9.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。高台内面は粗いナデ調整を施す。　(h)その他…ほぼ完形に近い。口縁部の一部を欠失する。

4　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…4号住居状遺構No.2　(c)大きさ…口径15.0cm・器高1.6cm　(d)色調…黄色がかった灰色・外器面の一部に青灰色の部分がある。　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。外器面の頂部はヘラ



第55図　4号住居状遺構出土遺物（須恵器・砥石・鉄片）

切りの後、粗いナデ調整を施す。　(h)その他…かなり焼き歪みがある。

5　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…4号住居状遺構№16　(c)大きさ…復元口径16.5cm・器高2.3cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。頂部はヘラ切りの痕を残す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の1/6周を残す。

6　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…4号住居状遺構№22　(c)大きさ…復元口径16.3cm・器高1.8cm　(d)色調…（外器面）明るい黄褐色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施すと思われるが、器面荒れの為調整痕は不明。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/6周を残す。

7　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…4号住居状遺構№17　(c)大きさ…口径9.9cm・器高2.7cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…焼き歪みが見られる。口縁部の一部を欠失するのみで、ほぼ完形に近い。

8　(a)器種…砂岩・砥石　(b)出土遺構…4号住居状遺構№11　(c)大きさ…長さ20.0cm・幅15.0cm・厚さ2.3cm　(h)その他…両面を砥石として使用している。右半分は二次焼成を受ける。

9　(a)器種…鉄器・不明　(b)出土遺構…4号住居状遺構　(c)大きさ…長さ1.8cm・幅1.4.cm・厚さ0.1～0.2cm　(h)その他…ヒトの爪の形を呈する鉄片である。器種及び用途は不明である。

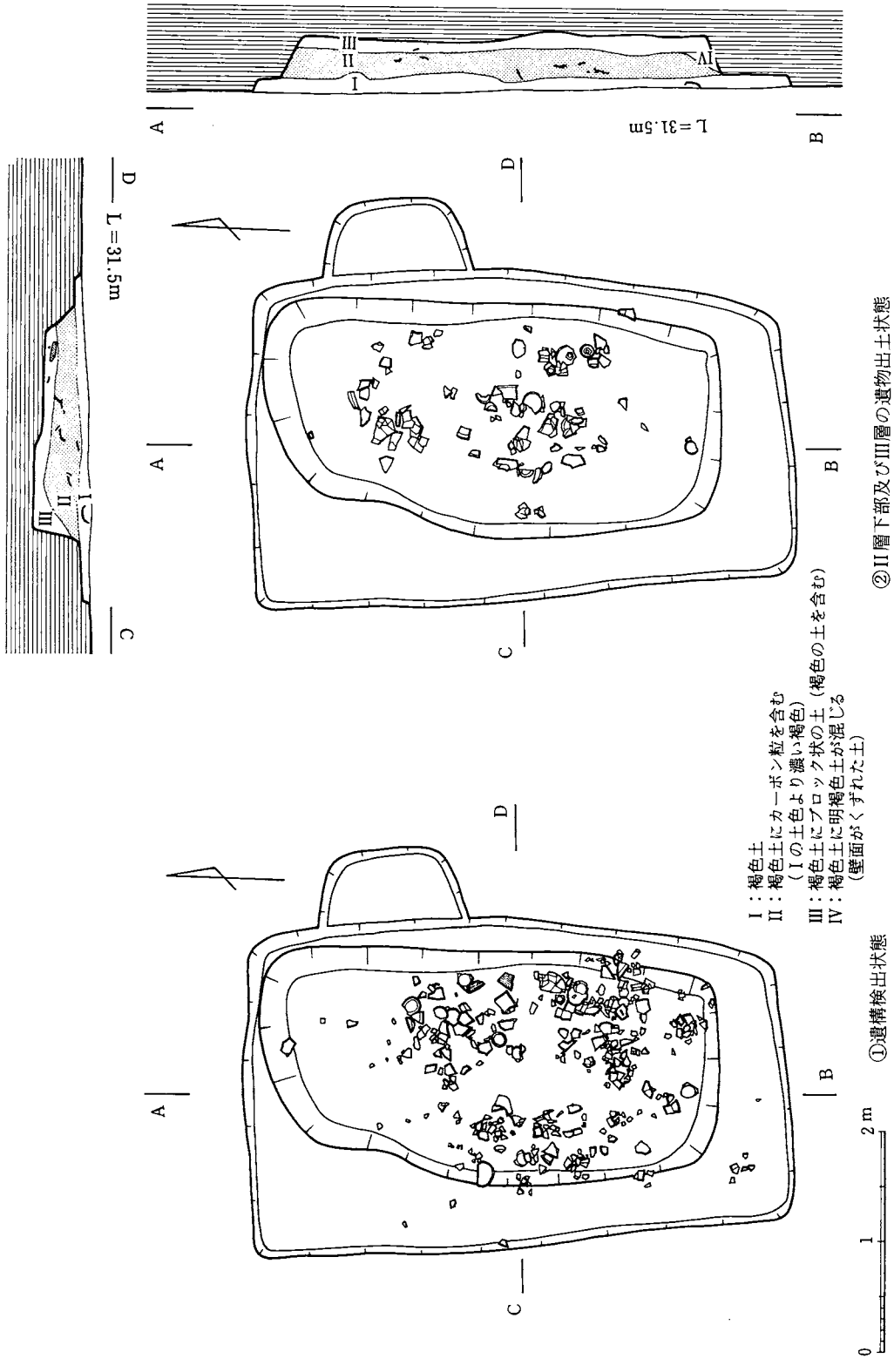
5．5号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　5号住居状遺構の検出状況（第56図参照）

発掘調査時の仮の名称は5号住居址である。打越1683―1番地の西側の端部から検出した。当遺構の西側で農道が西方から北方に急に屈曲する。この農道の西方には、先に述べた1号住居状遺構が存在する。

5号住居状遺構は、表土排除後の遺構検出作業の過程で多くの遺物が出土することから、遺構の存在に気付いた。しかし、遺構検出作業面が第Ⅱ層上面（黄褐色土に黒色土が混じった土）であり、遺構の検出作業が困難であった。

遺構の平面形は、南北に長い長方形（主体部）に、小さな台形の張り出し部が東側に張り付いた形状を呈する。主体部の壁の長さを北側から右廻りに列挙すると、2.9m・4.8m・2.8m・4.9mである。張り出し部の大きさを同様に記すと、0.6m・1.0m・0.7m・1.4m（主体部と接する部分）である。



①遺構検出状態

②Ⅱ層下部及びⅢ層の遺物出土状態

第56図　５号住居状遺構

張り出し部の床は主体部の床より5cm程高い。遺構検出面から主体部の床面までの深さは15cm未満である。

1号住居状遺構を発掘した時と同様に、遺構を四分割して、西側の一区画の一部を掘り下げて床面を確認した。その後、床面に沿って発掘を進めて立ち上がり部を確認した。床面を全体的に露出したところ、主体部の中央にいびつな長方形状の土壙を持つことが確認された。この土壙は北東の隅に接しており、南北に長い。南北の最大幅4.2m・東西の最大幅2.1mを測る。

主体部の床面はほぼ平坦である。内部の土壙の床面は緩やかに波打っており、全体的に西側が10cm程深くなっている。主体部の床面と土壙の床面までの差は、28～30cmである。

柱穴は、遺構の内側からも外側からも検出出来なかった。

b－1　第57図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径12.6cm・器高3.7cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～3㎜のパミス状の混入物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から立ち上がり部にかけてはロクロによるナデ調整・底部にはヘラ削りが施されていたと思われるが、風化が激しく器面調整痕は明らかでない。（内器面）ロクロによるナデ調整が施されていたと思われる。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径12.5cm・器高3.4cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜の砂粒を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラ削りの後、指によるナデ調整が施されていたと思われる。5条の沈線を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

3　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径12.0cm・器高3.8cm　(d)色調…（外器面）赤みをおびた灰色・（内器面）橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラによる研磨を施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部と底部を残す。

4　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径12.9cm・器高4.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデを施す。底部に削りの痕跡が見られる。（内器面）ナデ調整を施す。

5　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径13.0cm・器高4.5cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にはナデ調整を施す。胴部の一部にはヘラによる丁寧な調整を施す。（内器面）口縁部は横ナデ調整を施す。ヘラ状工具によって粗い調整の後、再び、ヘラ状工具による丁寧な調整を施す。調整痕の幅は5㎜程である。見込み部はナデ調整を施す。調整痕の幅は前記よりも広く8㎜である。　(h)その他…底部の内外器面にはススが付着する。口縁部から底部

にかけての破片である。口縁部の1/2周を残す。

6　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径13.5cm・器高3.1cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程のパミス状の混入物を僅かに含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラ削りの後、指によるナデ調整を施す。底面はヘラ切りの後、ヘラによるナデ調整を施す。（内器面）指によるナデ調整を施す。　(h)その他…僅かに口縁部を欠失するのみである。

7　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径14.2cm・器高3.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。底面に凹線が廻る。この凹線はヘラ切りによる痕跡と推定される。底面の調整は粗い。（内器面）ナデ調整を施す。

8　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径14.3cm・器高4.0cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）指によるナデ調整を施す。底面はヘラ切りの後、ナデ調整を施す。（内器面）指によるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の約1/3周を欠失するのみである。

9　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径15.4cm・器高4.3cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）指によるナデ調整を施す。底面はヘラ切りの後、ナデ調整を施す。（内器面）指によるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の約1/2周を残す。

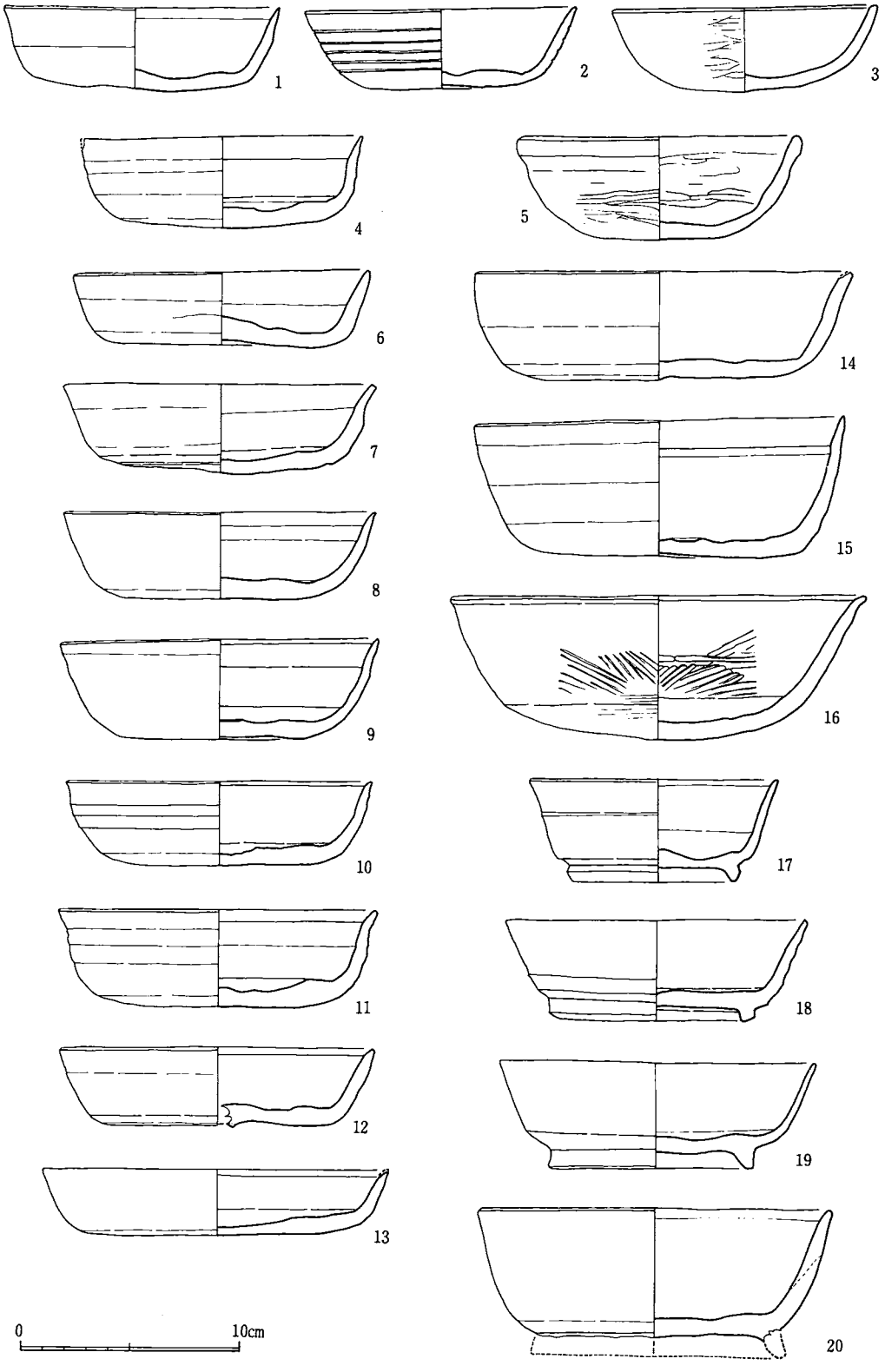
10　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№38　(c)大きさ…口径13.9cm・器高3.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの痕が残る。（内器面）ナデ調整を施す。

11　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径15.4cm・器高4.4cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径2～3㎜のパミス状の混入物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）指によるナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の約1/2周を残す。

12　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№44　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高3.5cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。

13　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径15.8cm・器高3.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともに横ナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛けする。

14　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径17.7cm・器高4.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…



第57図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

内外器面ともに粗い横ナデ調整を施す。部分によってはヘラ状工具による調整痕が残る部分がある。　(h)その他…整形が余り良好でない。

15　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径16.9cm・器高6.0cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともに横ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部を欠失する。

16　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径19.0cm・器高7.5cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整の後、粗いハケ調整を施す。　(h)その他…ほぼ全面にススが付着する。

17　(a)器種…土師器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径11.3cm・器高4.1cm・高台径7.8cm・高台内径6.6cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラによる研磨を施す。器面に光沢あり。高台の付け根には指によるナデを施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…全体の約1/2周を残す。

18　(a)器種…土師器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径13.8cm・器高4.0cm・高台径9.2cm・高台内径7.6cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデを施す。　(h)その他…器表の一部に赤色顔料が見られる。

19　(a)器種…土師器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№45　(c)大きさ…口径14.4cm・器高4.7cm・高台径9.3cm・高台内径8.2cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデを施す。

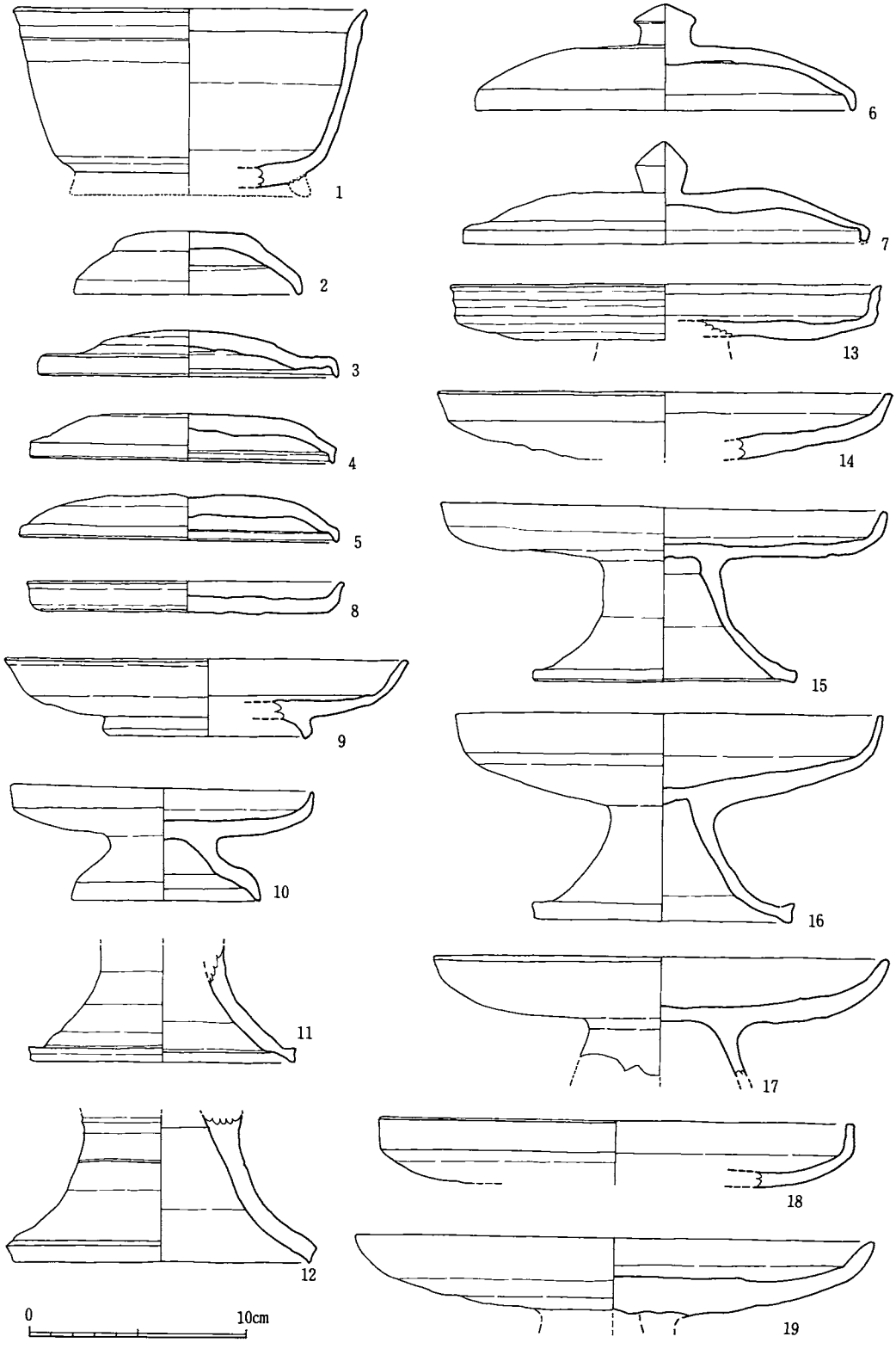
20　(a)器種…土師器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径16.1cm・器高6.7cm・高台径11.7m・高台内径5.7cm・高台の高さ1.0cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整の後、ヘラ状工具による研磨を施す。器面には光沢あり。（内器面）指によるナデ調整を施す。　(h)その他…高台部及び胴部の一部を欠失する。

b－2　第58図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径16.3cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜のパミス状の混入物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の約1/2周を残す。

2　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径10.4cm・器高2.9cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…不良　(g)調整…風化を受けているため磨滅していて調整痕は明らかでない。　(h)その他…口縁部の一部を少し欠失する。

3　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径13.8



第58図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

cm・器高2.1cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。上面はヘラ削りの後、ナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

4　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径13.9cm・器高2.2cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。上面の平らな部分は不定方向のヘラ削りを施す。（内器面）ナデ調整を施す。天井部のナデ調整は粗い。　(h)その他…口縁部を僅かに欠失するのみである。

5　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径14.7cm・器高2.0cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。上面の平らな部分はヘラ削りを施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の約1/2周を残す。

6　(a)器種…土師器・宝珠摘み付の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径17.4cm・器高4.8cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の約1/2周を残す。

7　(a)器種…土師器・宝珠摘み付の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径18.6cm・器高4.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・細かい砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも丁寧なナデ調整を施す。

8　(a)器種…土師器・盤　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径14.6cm・器高1.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。

9　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径18.6cm・器高3.5cm・裾部径9.5cm・脚部の高さ0.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…全面に赤色顔料を化粧掛する。

10　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径13.9cm・器高5.1cm・裾部径8.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。　(h)その他…全面に赤色顔料を化粧掛する。

11　(a)器種…土師器・盤の脚部　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・裾部径12.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。

12　(a)器種…土師器・盤の脚部　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・裾部径13.6cm　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜の砂粒や茶褐色のパミス状の混入物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。

(h)その他…脚部の1/5周を残す。

13　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径19.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。

14　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径21.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。

15　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径20.6cm・器高7.9cm・裾部径12.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛していたと思われる。

16　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径19.7cm・器高9.4cm・裾部径11.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施す。調整が粗い。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛していたと思われる。

17　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構№53　(c)大きさ…口径21.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横方向のナデ調整を施すと思われる。器面が磨滅しており、調整痕が明らかでない。　(h)その他…口縁部付近に僅かにススが付着する。

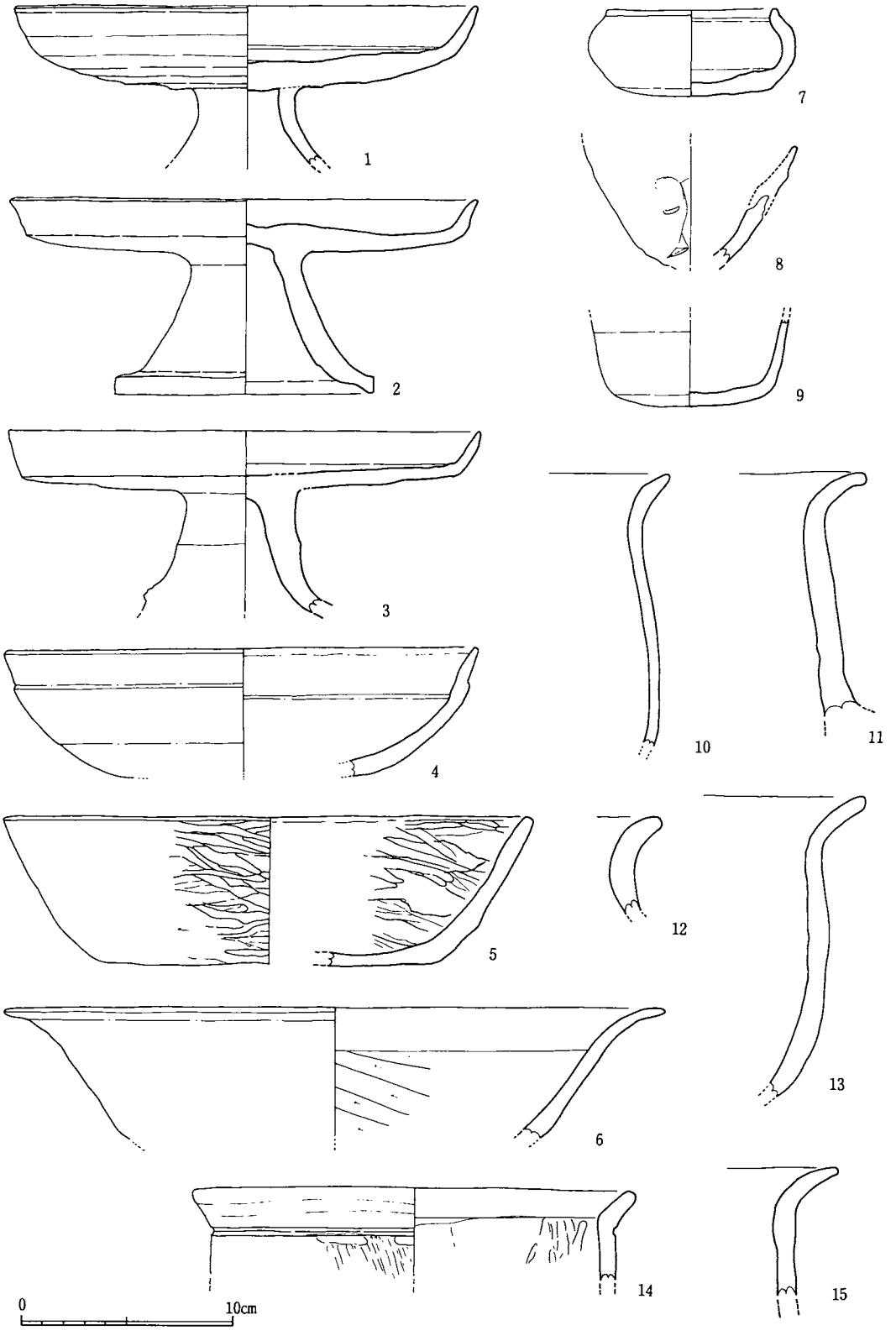
18　(a)器種…土師器・脚付盤？　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径22.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

19　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径24.0cm・器高3.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…粗いナデ調整を施す。　(h)その他…脚部を欠失する。全面に赤色顔料を化粧掛する。

ｂ－３　第59図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径21.9cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部付近は丁寧な横ナデ調整を施す。屈曲部から底面にかけては回転ヘラ削りを施す。脚部はロクロによるナデ調整を丁寧に施す。（内器面）横ナデを施す。　(h)その他…脚の裾部を欠失する。

2　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…５号住居状遺構№25　(c)大きさ…口径22.0cm・器高9.1cm・裾部径12.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部付近は丁寧な横ナデ調整を施す。屈曲部から底面にかけては回転ヘラ



第59図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

削りを施す。脚部はロクロによるナデ調整を丁寧に施す。(内器面) 横ナデを施す。 (h)その他…完形である。

3　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径22.3cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。 (f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部付近は丁寧な横ナデ調整を施す。屈曲部から底面にかけては回転ヘラ削りを施す。脚部はロクロによるナデ調整を丁寧に施す。(内器面) 横ナデを施す。 (h)その他…脚の裾部を欠失する。

4　(a)器種…土師器・高坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№49　(c)大きさ…復元口径22.3cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・小さい砂を含む。 (f)焼成…甘い　(g)調整…(外器面) ナデ調整を施す。(内器面) 器面荒れが激しい。 (h)その他…底部以下を欠失する。

5　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径23.0cm・器高6.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。 (f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ヘラ状工具による丁寧な研磨を施す。研磨痕の幅は4㎜である。(内器面) 外器面と類似の調整を施す。見込み部は研磨の後、ナデを施す。内器面の方がヘラ磨きの様子が良く観察出来る。(h)その他…内外器面ともにススの付着が見られる。口縁部の1/3周を残す。

6　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…5号住居状遺構№49　(c)大きさ…復元口径31.2cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。 (f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ナデ調整を施す。(内器面) 口縁部はナデ調整を施す。それ以下はヘラ削りを施す。

7　(a)器種…土師器・無頸壷　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径9.0cm・器高4.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。 (f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。器表の磨滅が激しい。整形はあまり良好でない。 (h)その他…赤色顔料を化粧掛したと思われるふしがある。

8　(a)器種…土師器・壷　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが砂粒をかなり多く含む。 (f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整及びヘラ調整を施す。調整及び整形が粗い。 (h)その他…用途が明らかでないが、底部が尖っている点と壷の直径が比較的に小さいことから考えると、塩壺の可能性があるのではなかろうか。

9　(a)器種…土師器・壷の底部　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ヘラ状工具による研磨を施す。器面に光沢がある。(内器面) ロクロ挽きの痕が残る。 (h)その他…底部の破片であり、約3/4周が残る。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№62　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ナデ調整を施す。(内

器面）ヘラ削りの後、ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下には細かいハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下はナデが緻密になる。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下には粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

13　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№32　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好・砂粒を含む。　(f)焼成…甘い　(g)調整…内外器面とも器面荒れが激しい。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

14　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径21.0cm・器高不明　(d)色調…淡い赤褐色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下にはハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラによる調整を施した後、横方向の粗いナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

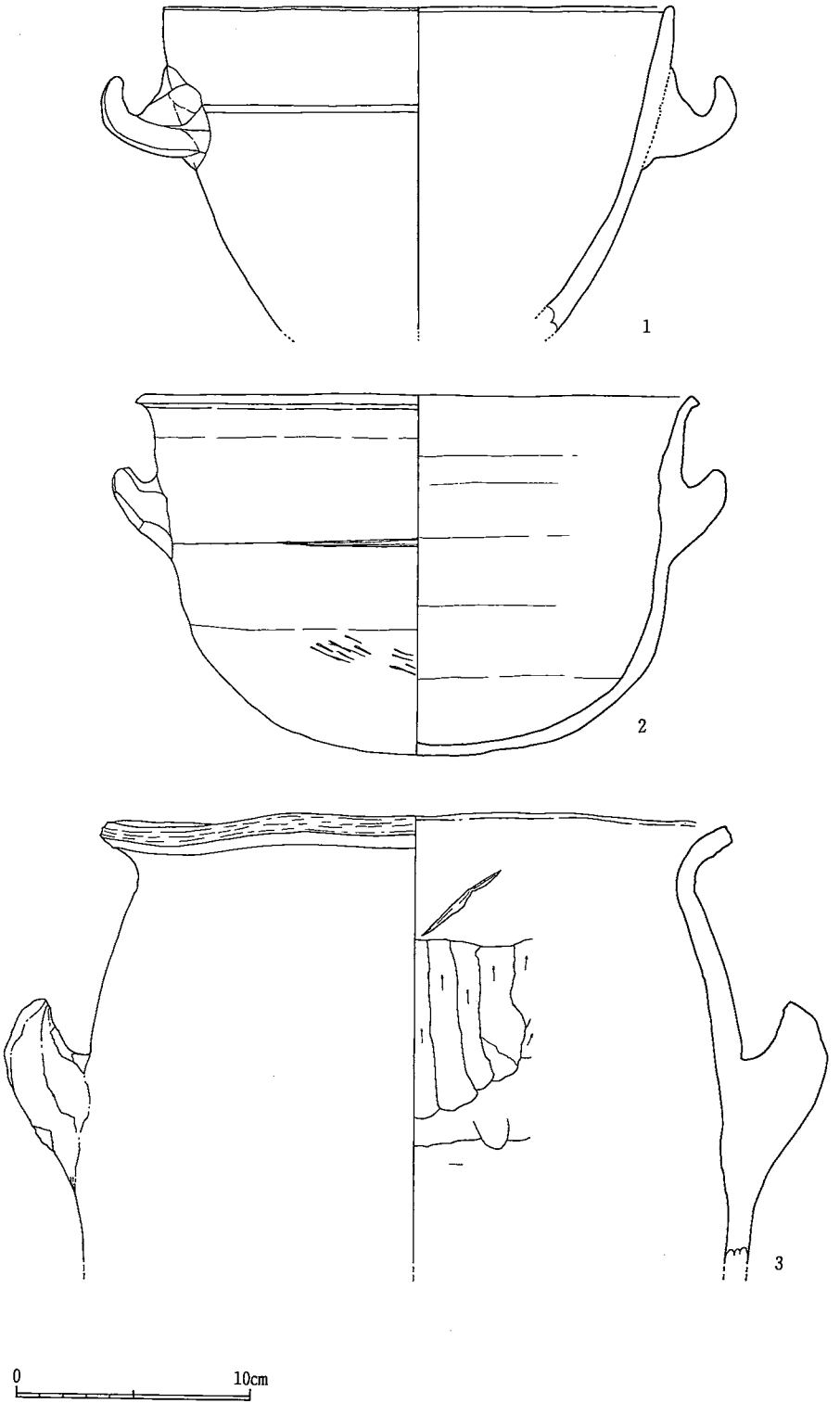
15　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色・一部赤みをびた灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下は粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

b－4　第60図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・甑　(b)出土遺構…5号住居状遺構№16　(c)大きさ…口径22.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…器面荒れが激しく、調整痕の観察は困難である。　(h)その他…器壁が厚ぼったくてぼってりとした感じを受ける。

2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径24.2cm・器高15.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）横ナデ調整を施す。　(h)その他…胴部に1条の沈線が廻る。甑の下カメの可能性がある。

3　(a)器種…土師器・甑　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径27.0cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ調整の後、ナデ調整を施す。把手の付け根及びその周辺部は、指で強く押さえた後に縦方向にナデている。



第60図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

（内器面）口縁部から頸部にかけて横ナデ調整を施す。胴部の中部より上方は縦方向のヘラ削りの後、軽くナデ調整を施す。中部より下方は縦横にヘラ削りの痕が見られる。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/2周を残す。

ｂ－５　第61図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

１　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径20.4cm・器高不明　(d)色調…橙色・胴部以下は部分的に黒褐色を呈する。　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を丁寧に施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…底部を欠失する。口縁部の約1/4周を残す。

２　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構№42　(c)大きさ…復元口径24.4cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径５㎜程もある小礫を少量含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部付近はナデ調整を施す。胴部は目の粗いハケ調整を施す。（内器面）口縁部付近はナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口唇部を欠失する。

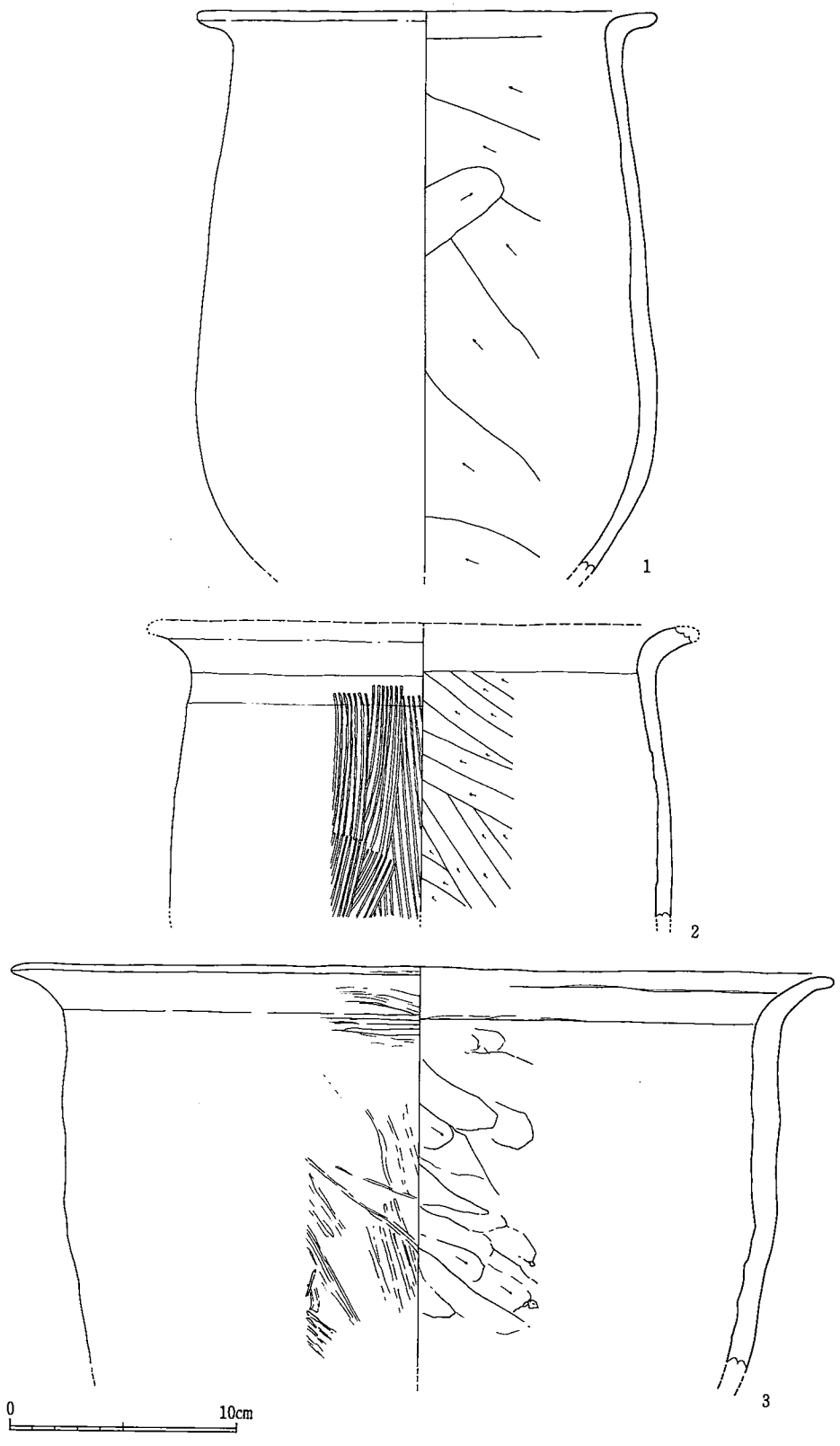
３　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径36.6cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径１～２㎜程の砂粒を少量含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部及びその少し下付近はハケ調整の後、ナデ調整を施したと思われる。胴部はハケ調整を施す。（内器面）口縁部付近はナデ調整を施す。胴部はかなり粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…外器面の頸部および胴部の一部にススが付着する。口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/3周を残す。

ｂ－６　第62図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

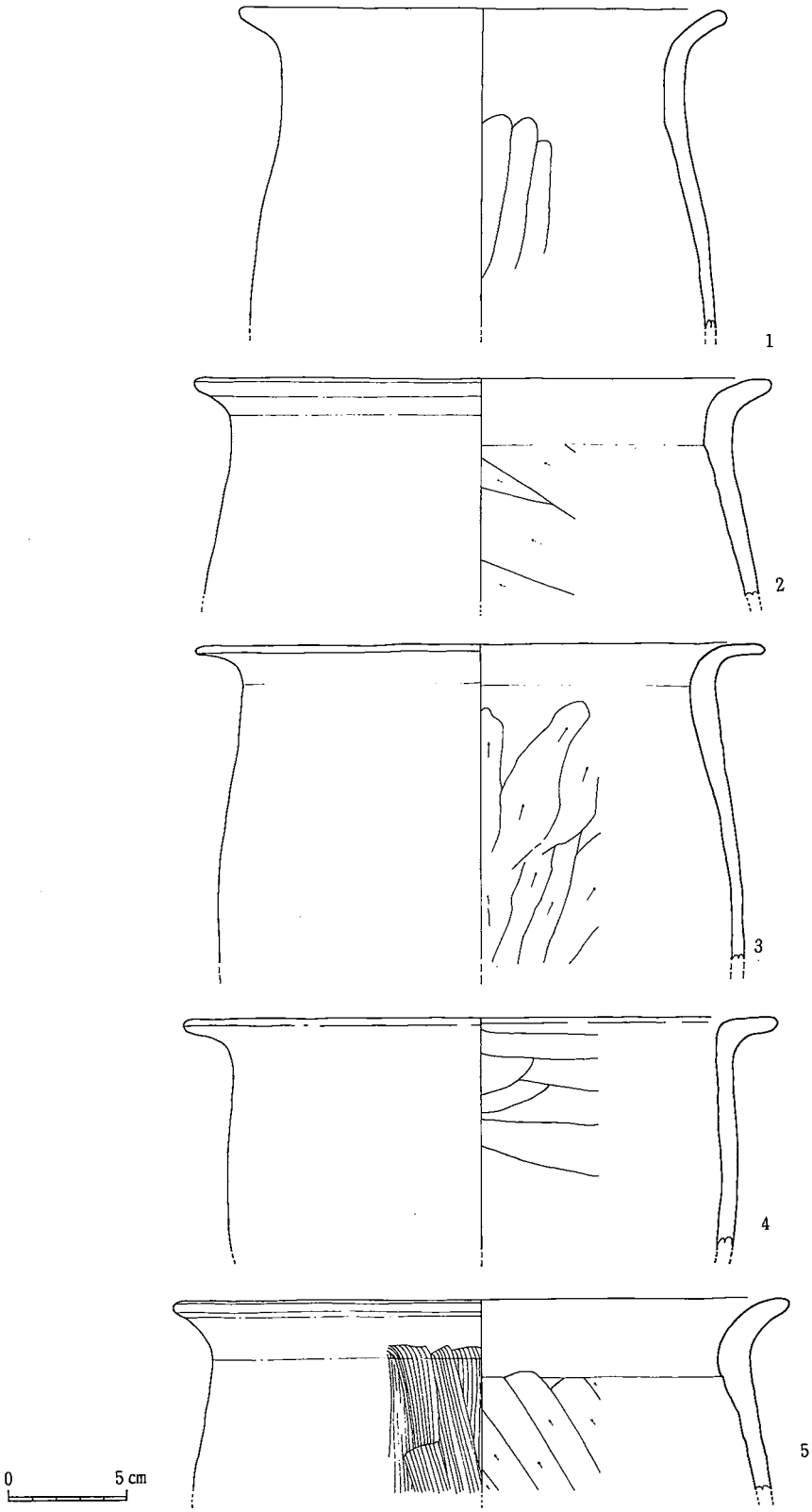
１　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径20.6cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径１㎜程の砂粒を含む。その他、パミス状の混入物あり。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には指による横ナデ調整を丁寧に施す。頸部以下はナデ調整の痕らしいものは確認出来るが、器表の風化により調整痕が不明瞭である。（内器面）口縁部から頸部にかけてナデ調整を施す。胴部には縦方向のヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部の最大部にかけての破片である。口縁部の約1/3周を残す。

２　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構№60　(c)大きさ…復元口径24.3cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径５㎜程もある小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部は丁寧なナデ調整を施す。頸部以下は薄くナデ調整の痕が縦方向に残る。（内器面）口縁部から頸部にはナデ調整を施す。胴部には縦方向に削りの幅３cmのヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

３　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径23.9cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径１～２㎜程の砂粒を含む。　(f)焼成…



第61図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）



第62図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部は丁寧なナデ調整を施す。胴部は縦横方向にナデ調整を施す。器表には少し光沢がある。（内器面）口縁部から頸部には横ナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/3周を残す。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径25.0cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径１㎜前後の砂粒の他、パミス状の混入物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部は横ナデ調整を丁寧に施す。頸部以下は縦方向にハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部から胴部にかけては横方向にヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/5周を残す。

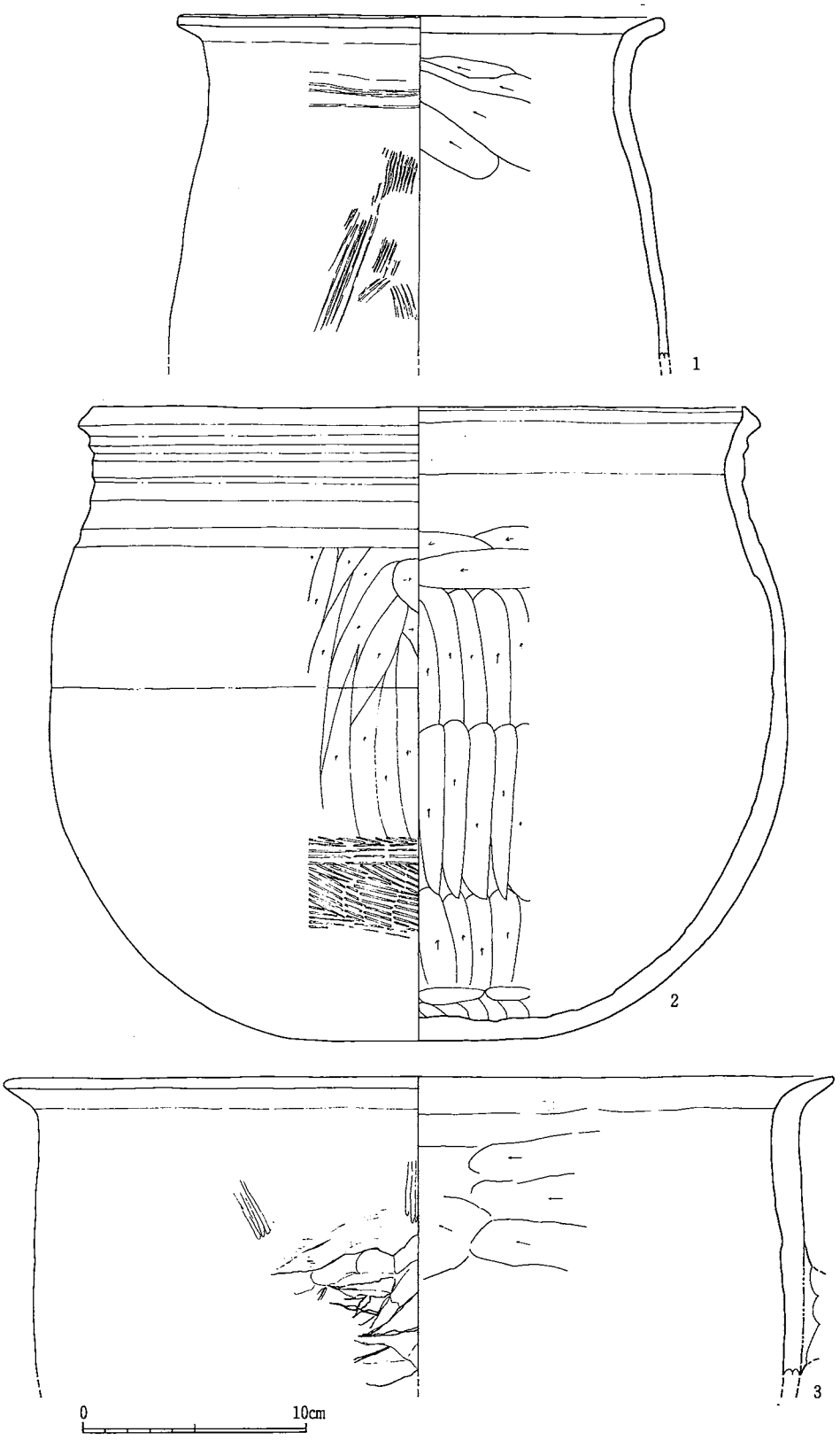
5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構№48　(c)大きさ…復元口径26.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径３㎜程の小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部は横ナデ調整を施す。頸部以下には縦方向にハケ調整の痕が薄く残る。器面が荒れている。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部には縦方向にヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

ｂ－７　第63図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径21.9cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径３㎜前後の小礫を少し含むこともあるが、比較的に良質である。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は指による横ナデ調整を施す。頸部及びその少し下付近は横方向のハケ調整を施す。胴部には縦方向のハケ調整を施す。全体的に調整が粗い。（内器面）口唇部から頸部はヘラ状工具による横方向の削りによる調整とナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部の中央部にかけてはほぼ完形である。

2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径30.7cm・器高28.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横ナデ調整を施す。頸部には５条の凹線を施す。それより下方はヘラ削り後、ナデ調整を施す。底面近くには、平行タタキによる整形の後にナデ調整を施したことが観察される。（内器面）口唇部から頸部にかけてはナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。底面及びその近くは指で強く押さえて整形している。

3　(a)器種…土師器・カメ又は甑　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径37.0cm・器高不明　(d)色調…明るい赤褐色　(e)胎土…緻密・直径1㎜前後の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけては横ナデ調整を施す。胴部はヘラ削りの後、横ナデ調整を施したと思われる。（内器面）口縁部は横ナデ調整を施す。胴部は粗い



第63図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

ヘラ削りを施す。　(h)その他…甑の把手部の欠落部と思われる刻み目が胴部の破損の端部に残ることから甑の可能性が強い。

b－8　第64図　5号住居状遺構出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№29　(c)大きさ…復元口径18.9cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部には指頭の圧痕が一列に残る。胴部には上方から下方に指先でナデ降ろした痕跡が残る。　(h)その他…口縁部から胴部の中央部にかけての破片である。

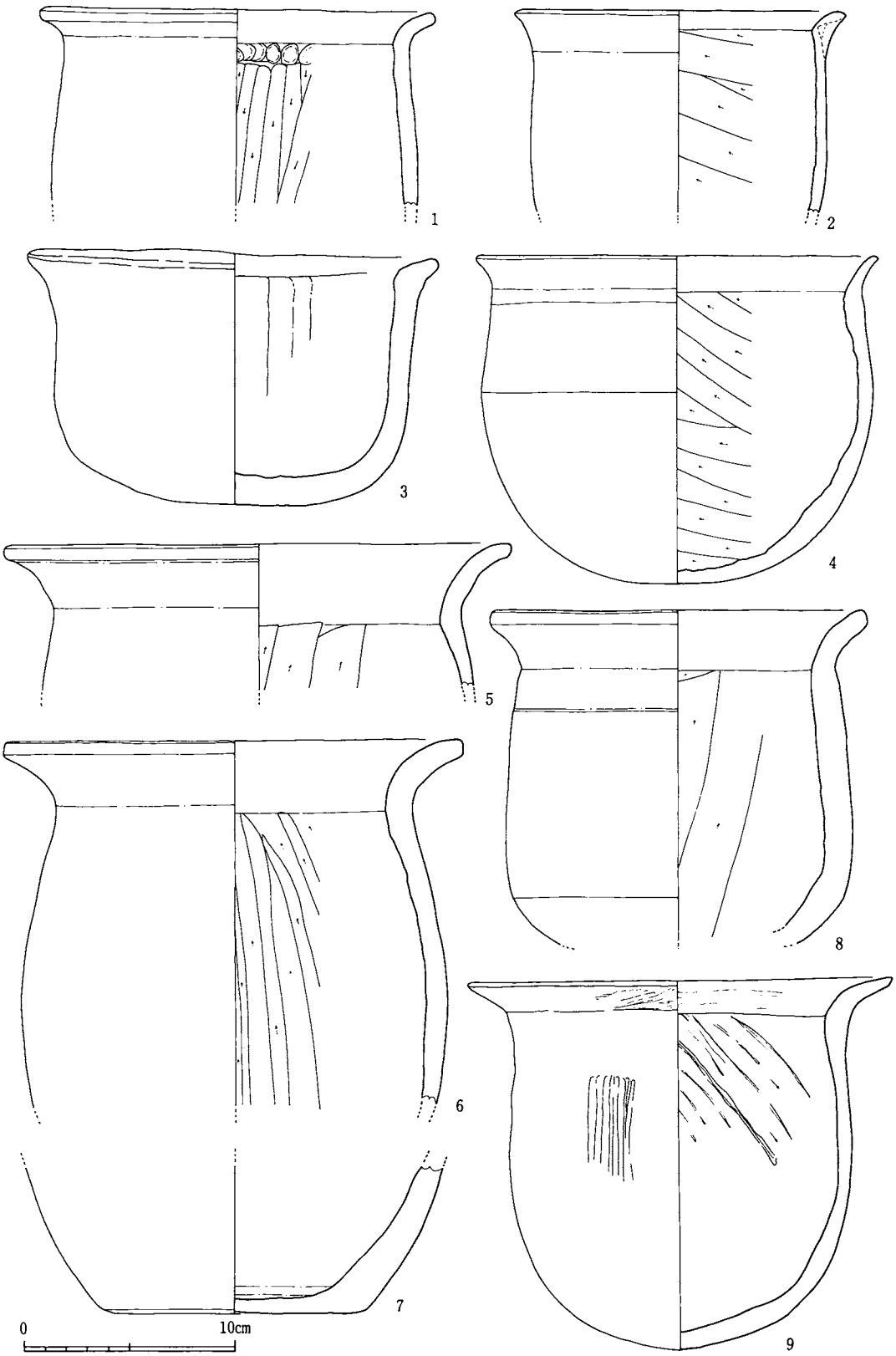
2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№38　(c)大きさ…復元口径15.6cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）器面荒れが激しく、調整痕の観察は困難である。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。一つの削りの痕跡の幅は約2cm（7分程）である。　(h)その他…口縁部から胴部の中央部にかけての破片である。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径19.5cm・器高11.7cm　(d)色調…淡い黄色　(e)胎土…緻密・直径3mm以下の砂や礫を含む。　(f)焼成…不良　(g)調整…（外器面）器面が風化を激しく受けており、調整痕の観察は困難である。器面は多孔質である。口縁部にはナデ調整、胴部にはヘラ削りの後ナデ調整を施したと思われるが明らかでない。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の約4/5周を残す。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№45　(c)大きさ…口径19.1cm・器高15.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）丁寧なナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りの後、指先で押さえるようにしてナデによる整形をしている。　(h)その他…口縁部から底部まで残す破片である。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№21　(c)大きさ…復元口径24.2cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・褐色の砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。(h)その他…口縁部の破片である。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号住居状遺構№53　(c)大きさ…復元口径21.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。ヘラ削りの幅が所々で異なり、ヘラの角が部分部分で押しつけられたようになっている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。



第64図　５号住居状遺構出土遺物（土師器）

7　(a)器種…土師器・カメ又は壺　(b)出土遺構…５号住居状遺構№20　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径11.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）器面荒れが激しい。ナデ調整を施す。（内器面）ロクロ挽きの痕が残る。胴部の器壁の厚さに比較して底部の厚さは薄い。　(h)その他…底部1/4周が残る。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構№38　(c)大きさ…復元口径17.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂及び小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施す。(h)その他…器壁が厚く、ぽってりとした感じを受ける。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…５号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径20.4cm・器高17.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径１㎜程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部から底部にはナデ及びハケ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部は粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から底部にかけての破片である。口縁部の1/3周を欠失する。

ｂ－９　第65図　５号住居状遺構出土遺物（須恵器）

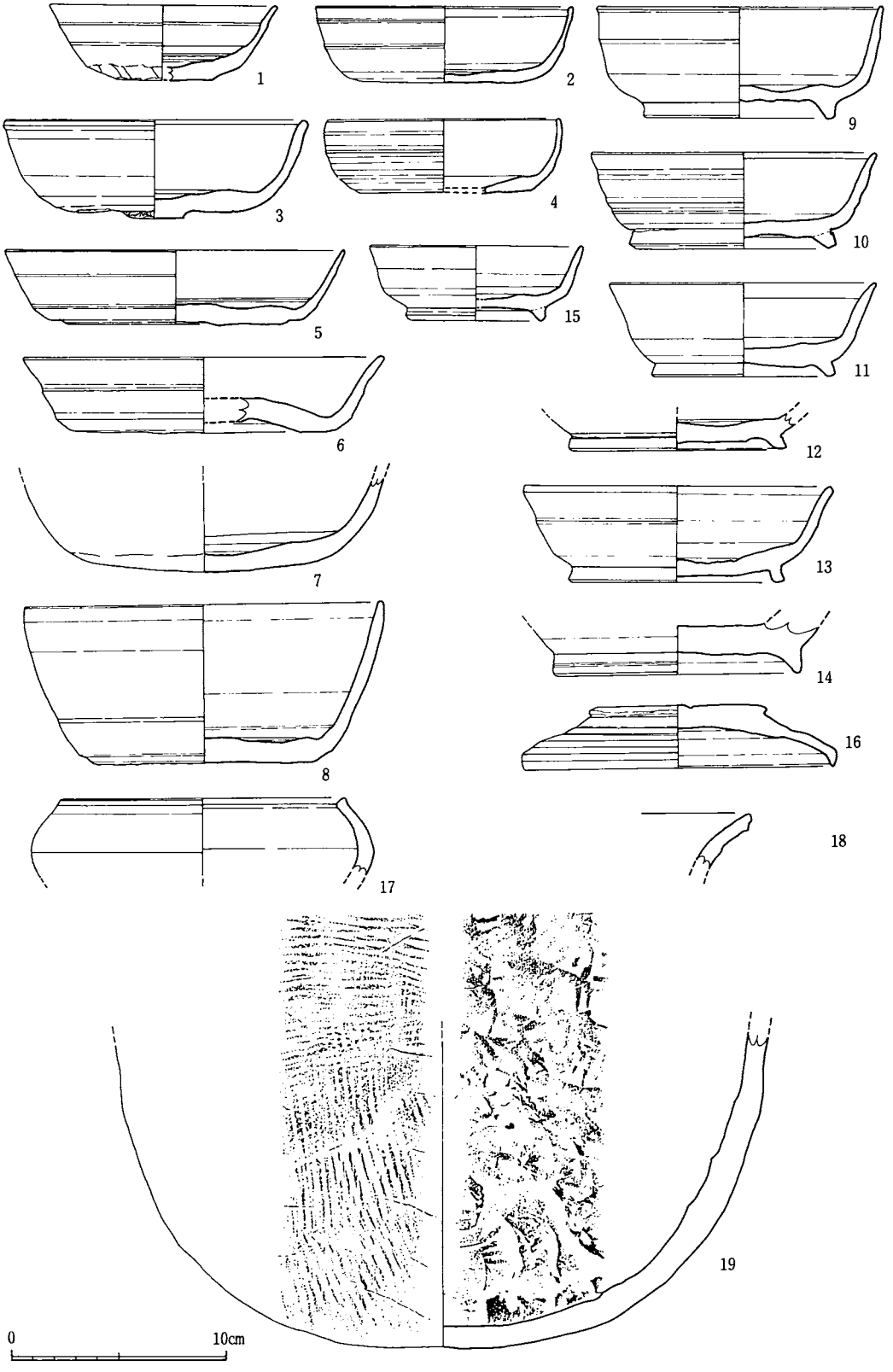
1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№50　(c)大きさ…復元口径10.6cm・器高3.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№15　(c)大きさ…復元口径12.0cm・器高3.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・微細な気泡が見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№39　(c)大きさ…復元口径14.1cm・器高4.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部及び底部を残す。

4　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№27　(c)大きさ…復元口径11.0cm・器高3.5cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…良好・気泡が見られ、器面に小さい凹凸がある。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部及び底部を残す。

5　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№47　(c)大きさ…復元口径15.8cm・



第65図　５号住居状遺構出土遺物（須恵器）

器高3.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…器面は磨滅している。口縁部の1/4周、全体の約1/2を残す。

6　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№50　(c)大きさ…復元口径16.7cm・器高3.4cm　(d)色調…（外器面）灰色からオリーブ色・（内器面）暗いオリーブ色　(e)胎土…緻密・直径１～２㎜の砂粒を含む。細かい気泡が見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）磨滅が激しく調整痕は明らかでない。　(h)その他…外器面には底面を除いて一面に自然釉がかかる。内器面は風化して剝落している。釉のかかりかたは場所によって異なる。

7　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№36　(c)大きさ…口径及び器高不明・底径11.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径２～４㎜の砂及び小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部を欠失する。

8　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№44・55　(c)大きさ…復元口径16.8cm・器高7.2cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部はヘラ削りの後、横方向のナデ調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…完形である。

9　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№47　(c)大きさ…口径13.2cm・器高5.2cm・高台径8.9cm・高台内径7.8cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…暗い青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部を欠失する。

10　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№31　(c)大きさ…復元口径13.2cm・器高4.4cm・高台径9.6cm・高台内径7.6cm・高台の高さ0.9cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面には粗いヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周と底部を残す。

11　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…５号住居状遺構№29　(c)大きさ…復元口径12.4cm・器高4.3cm・高台径8.4cm・高台内径7.6cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰色がかった黄色　(e)胎土…緻密・細かい気泡が見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面には粗いヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その

他…口縁部の1/2周と底部を残す。

12　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№47　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径10.0cm・高台内径9.0cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…（外器面）灰白色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や白い粒を含む。　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面はヘラ削りの後、粗いナデ調整を施す。（内器面）粗いナデ調整を施す。　(h)その他…底部のみの破片である。

13　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№45・53　(c)大きさ…口径14.4cm・器高4.4cm・高台径10.0cm・高台内径8.8cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…（外器面）明るい赤褐色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部を欠失する。

14　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構№35　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径11.4cm・高台内径10.6cm・高台の高さ1.0cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・細かい砂粒や白い粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台付け根付近は特に丁寧にロクロによるナデ調整を施す。（内器面）見込み部は粗いナデ調整を施す。　(h)その他…底部のみの破片である。

15　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号住居状遺構下層一括　(c)大きさ…復元口径10.0cm・器高3.5cm・高台径6.5cm・高台内径5.8cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…青灰色・高台付近はオリーブ色がかった黒色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

16　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号住居状遺構№9　(c)大きさ…復元口径14.2cm・器高2.9cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。頂部はヘラ削りを施す。（内器面）口縁部から屈曲部にかけてロクロによるナデ調整を施す。中央部（天井部）は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/3周を残す。

17　(a)器種…須恵器・無頸壷　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径13.4cm・器高不明　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・白い粒を含む。細かい気泡が見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

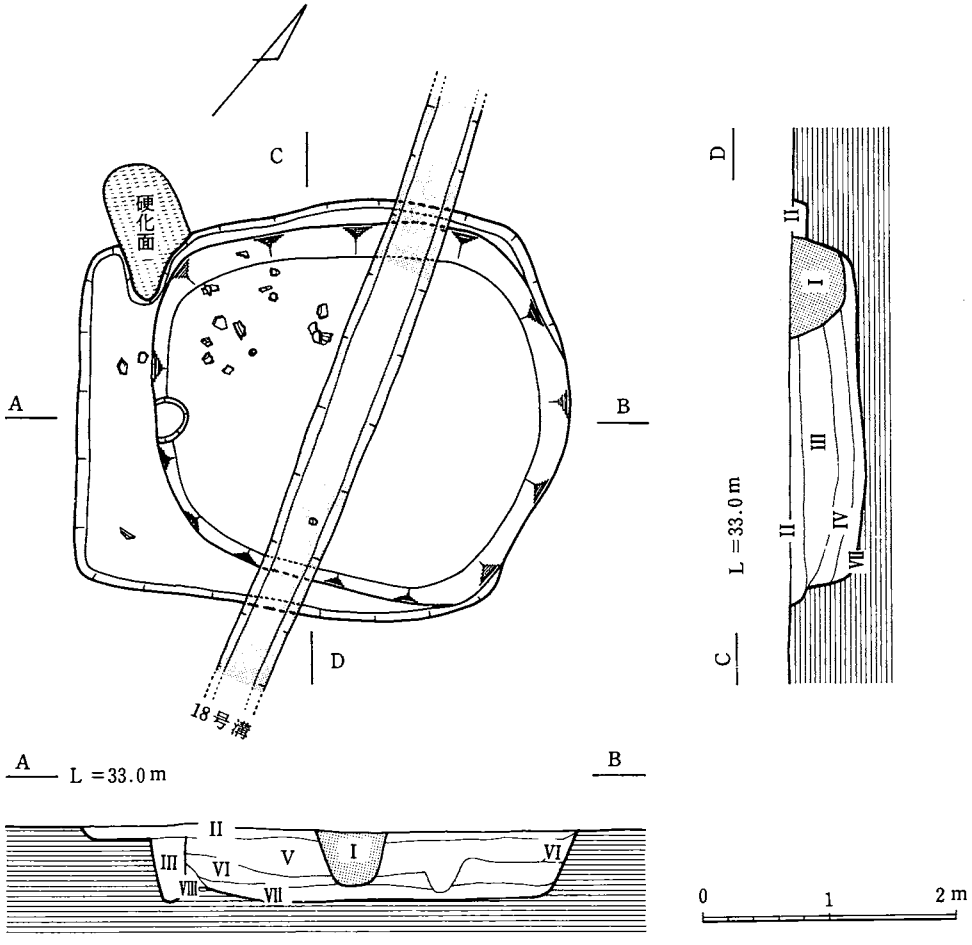
18　(a)器種…須恵器・壷の口縁部　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の小片である。

19　(a)器種…須恵器・壷の底部　(b)出土遺構…5号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径・器高・胴部最大径不明　(d)色調…（外器面）赤褐色・（内器面）淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…（外器面）平行タタキを施す。（内器面）車輪文タタキを施す。　(h)その他…底部の破片である。

6．6号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　6号住居状遺構の検出状況（第66図参照）

発掘調査時の仮の名称は6号住居址である。打越1684番地の中央部から検出した。調査区の



I：黒褐色土層　多址の黒色土粒子を主体とし、粘性、しまりに欠ける。
II：暗褐色土層　多址の黒色土粒子を主体とし、粘性、しまりに富む。多址のカーボン、焼土粒子を混入する。
III：黄褐色土層　多址の黄色土粒子を主体とし、パサつく層
IV：黄褐色土層　多址の黄色土粒子を主体とし、若干の粘性がある。色調はIII層より若干暗い。
V：暗黄褐色土層　多址の黄色土粒子を主体とし、若干の粘性がある。色調はIII層より暗い。
VI：暗黄褐色土層　多址の黄褐色土粒子を主体し、粘性がありしまりに富む。色調はIV層より暗い。
VII：暗黄褐色土層　粘性・しまりがかなり強い。VI層より暗い。
VIII：黄褐色土層　パサつく層、III層より暗い。

第66図　6号住居状遺構

東端から遺構を検出したため、調査区を少し東に拡げて遺構の全体を露出した。

6号住居状遺構の中央を南北に18号溝状遺構が切る。18号溝状遺構の覆土は黒褐色土であり、他の遺構と対比すると平安時代もしくはそれ以後の遺構と思われる。

6号住居状遺構の掘り方は、黄褐色土に黒色土が混じった土層（第II層）を切っている。このことから、1号住居状遺構より新しく3号土壙や15号土壙と近い時代の遺構と推定される。

遺構検出開始当初は、平面形が長方形（2.8m×3.9m）の住居址であろうと推定した。発掘に当たっては、住居址の発掘と同様に、十字に畦を残すように遺構を四分割した形に発掘区を設定して、調査を進めた。

主体部（長方形状の掘り方部）を発掘した時点（第66図に示す第II層を発掘した時点）で、平らな床面を確認したところ、第66図に示すような土壙が検出された。土壙の東側壁は、主体部の東側壁を外側に張り出す様な形に成っている。土壙が主体部のどちらかに接するか、又は、主体部の壁を少し外側に張り出すような形に成っている点や土壙検出の過程が、1号住居状遺構及び5号住居状遺構に類似する。

土壙の東西幅の3.3m・南北幅2.9m・遺構検出面からの深さ0.6m・主体部の床面と土壙の床面との差0.5mを測る。

土壙の西端部に一つの柱穴を検出した。この柱穴（第66図参照）は、遺構内土層（第V・VI・VIII層）を切っている。また、柱穴の周辺を第VIII層が取り囲む状態になっていることから、何か筒状の物か柱状の物が存在し、それが無くなって空洞化した所に第III層の土が流入したと思われる。第III層の土（柱穴の埋土）は、第IV・V層の土と類似する。

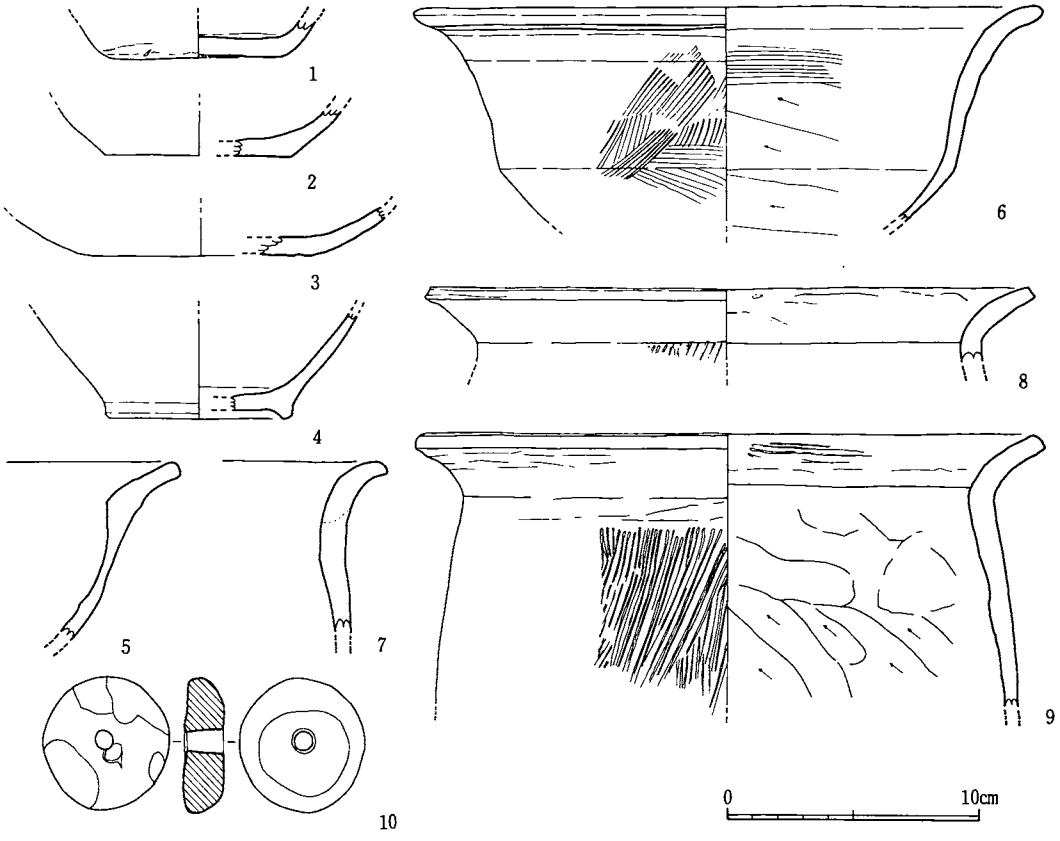
長方形の掘り方（主体部）に付随するような硬化面を検出した。検出位置及び形状が、土壙の縁辺部に残存するステップと推定される。このステップ状の遺構は、5号住居状遺構に付随する張り出し部と同様の遺構と推定される。

土壙の床面は緩やかに波打っている。出土遺物は主に第VI層から出土した。出土遺物の多くは床面より少し浮いていた。

b－1　第67図　6号住居状遺構出土遺物（土師器・紡垂車）

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構I層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・底径6.5cm　(d)色調…淡い黄色　(e)胎土…緻密・微細な砂粒と白色の粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。底面にはヘラ削りの後、ナデ調整を施す。（内器面）ヘラ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。一部に工具の痕が残る。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構I層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ハケ状工具による調整の後、横方向にナデ調整を施す。器面にハケ目が僅かに残る。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。



第67図　6号住居状遺構出土遺物（土師器・紡垂車）

3 (a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。一部にススが付着する。

4　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。

5　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…6号住居状遺構No.4　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口唇部から頸部にかけて横方向のナデ調整を施す。胴部はハケ状工具による横方向の調整を施す。（内器面）口縁部にはハケ状工具による横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。

6　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径25.0cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好

(g)調整…（外器面）口唇部から頸部にかけて横方向のナデ調整を施す。頸部に乱れた沈線が廻る。胴部にはハケ状工具による横方向の調整を施す。（内器面）口縁部にはハケ状工具による横方向の調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…外器面の一部にススが付着する。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…6号住居状遺構II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ状工具による調整の後、横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。頸部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…胴部の外器面にススが付着する。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…6号住居状遺構一括　(c)大きさ…口径24.2cm・器高不明　(d)色調…（外器面）赤橙色・（内器面）橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。頸部以下にはハケ状工具による調整を施す。（内器面）粗いナデ調整を施す。　(h)その他…内器面にススが付着する。口縁部の1/4周を残す。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…6号住居状遺構I層一括　(c)大きさ…復元口径25.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒及び黒色の造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口唇部から頸部にかけてはナデ調整を施す。頸部はハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部から頸部にかけてはやや粗いナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを施し、上部にはナデ調整を施す。(h)その他…口縁部から胴部にかけてススが広い範囲に付着する。口縁部の1/4周を残す。

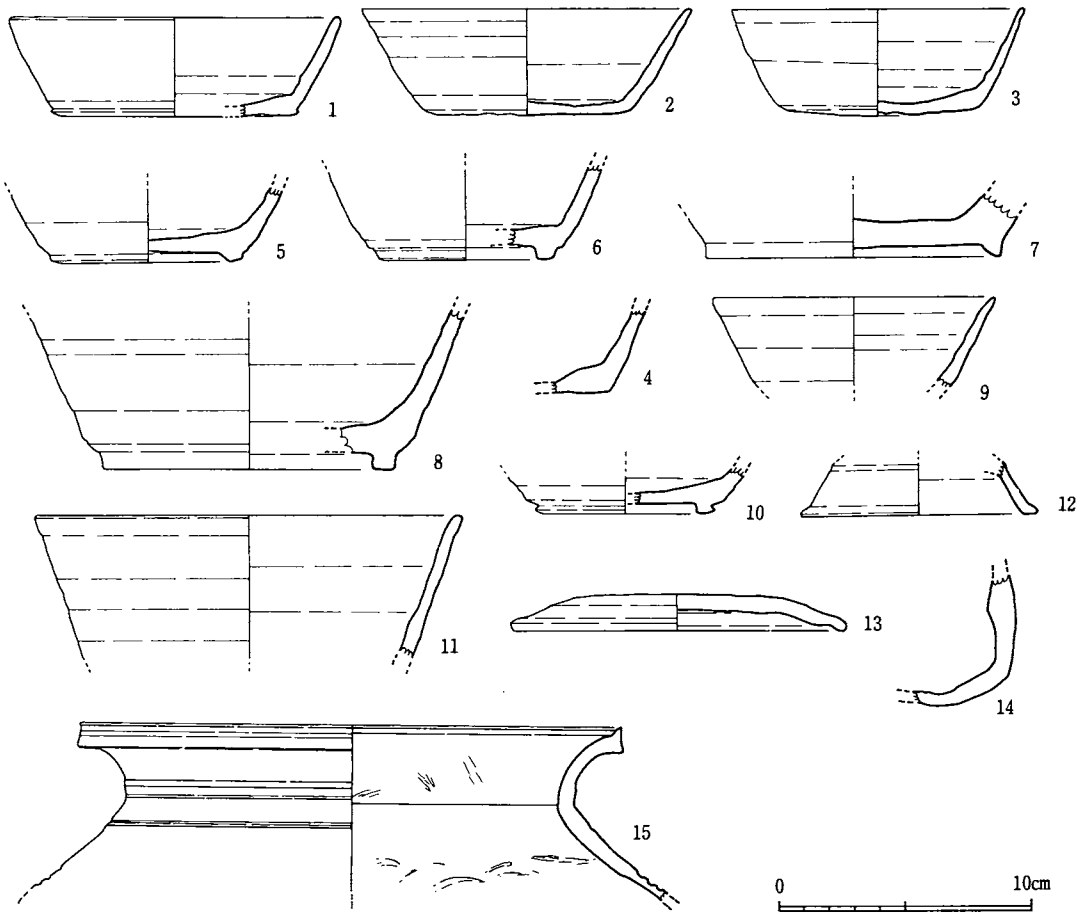
10　(a)器種…土師器・紡垂車　(b)出土遺構…6号住居状遺構№5　(c)大きさ…直径5.0～5.3cm・厚さ1.6cm　(d)色調…灰色・部分的に淡い褐色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…厚い土器片を擦り減らして円板状に加工して、中央に穴を開けたと見られる。一見、瓦質土器と見誤るような器表の色を呈する。　(h)その他…完形である。

b－2　第68図　6号住居状遺構出土遺物（須恵器）

1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構I層一括　(c)大きさ…口径13.2cm・器高3.9cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ヘラ状工具による調整の後、ナデ調整を施す。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構IV層一括　(c)大きさ…口径13.2cm・器高4.2cm　(d)色調…（外器面）口縁部から胴部の上部は褐色がかった灰色・（内器面）口縁部は褐色がかった灰色・他の部分は灰白色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構№7　(c)大きさ…口径11.6cm・器高4.2cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整



第68図　6号住居状遺構出土遺物（須恵器）

を施す。

4　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.4cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。高台内面にヘラ削りの痕が残る。

6　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.0cm・高台内径5.4cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

7　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径11.6cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含

む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

8　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構№4　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径11.6cm・高台内径9.4cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

7．7号住居状遺構の検出状況及び遺物

a　7号住居状遺構の検出状況（第42図参照）

発掘調査時における仮の名称は8号住居址である。打越1686—2番地検出の5号住居址（カマド付竪穴式住居址）の東側から当遺構を検出した。

遺構検出当初、隅丸の長方形状を呈する遺構ではなかろうかと想定した。床面を確認しながら発掘を進めて、壁面の立ち上がり部を検出したところ、予想に反して、第42図に示すような歪みのある楕円形の遺構であることが判った。

遺構の覆土は暗い褐色土である。長径3.7m・短径2.5m・遺構検出面から床面までの深さ0.2mを測る。覆土中には、土師器・須恵器・石等を含む。遺物の多くは、床から少し浮いた位置（約5cm）から出土する。床面はほぼ平坦であり、硬化面は見られない。

当遺構の形状は、5号住居状遺構内の土壙に類似していることから、遺構の主体部（上部）が強く削平されて土壙の部分が残存したと推定される。以上の様に考えると、5号住居状遺構と同様に貯蔵を目的とした遺構であろう。

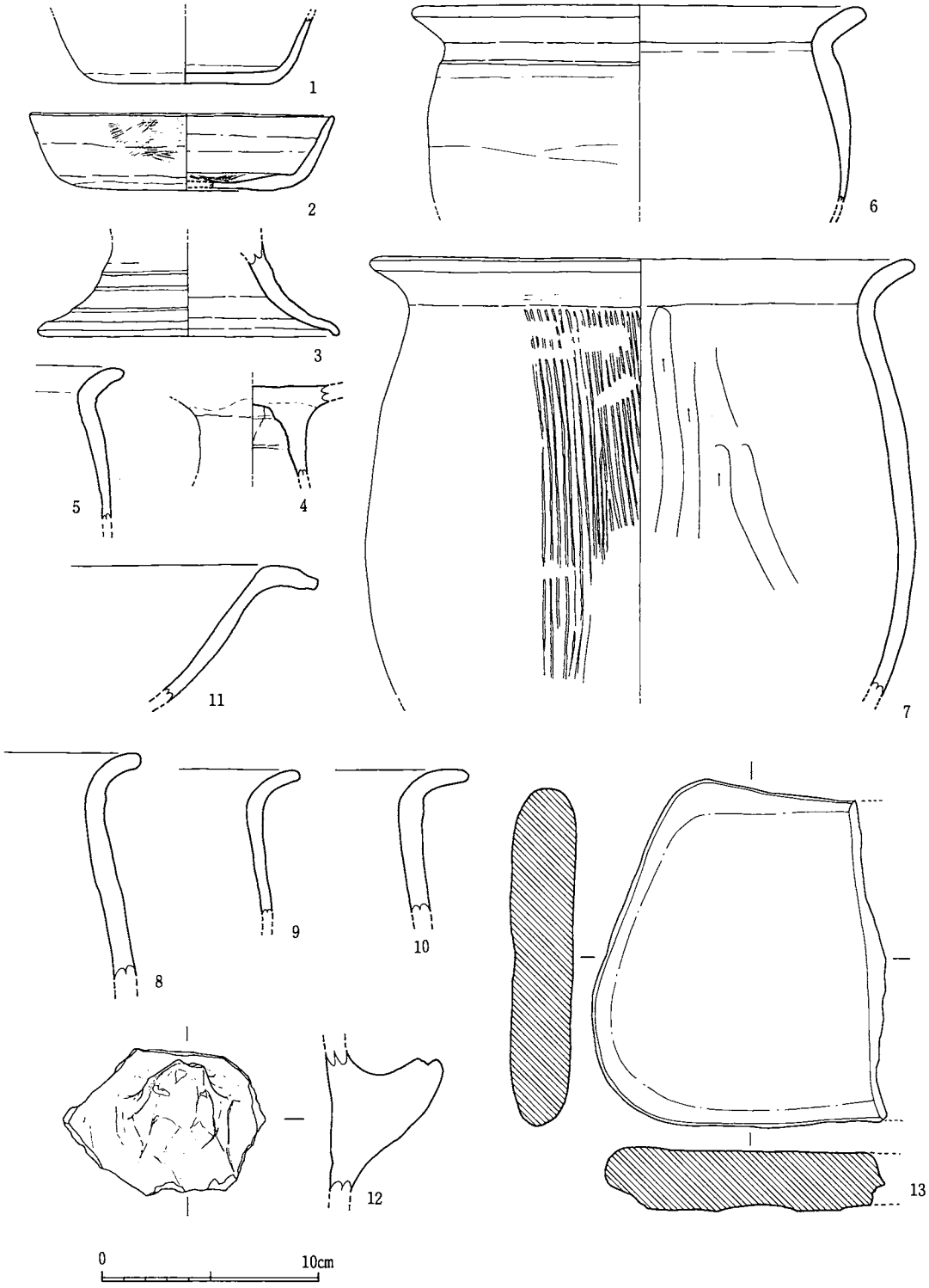
b－1　第69図　7号住居状遺構出土遺物（土師器・砥石）

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…7号住居状遺構№10　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。底部にはヘラ切りの痕が残る。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部を欠失する。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…7号住居状遺構№25　(c)大きさ…復元口径14.1cm・器高3.5cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径2～3mm程の小礫や微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

3　(a)器種…土師器・盤又は高坏の脚部　(b)出土遺構…7号住居状遺構№10　(c)大きさ…裾部径14.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒や白い粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…脚部の裾の1/4周を残す。

4　(a)器種…土師器・盤又は高坏の脚部　(b)出土遺構…7号住居状遺構№10　(c)大きさ…脚の付け根の部分の径5.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1mm程の砂粒や微細な鉱物粒及び白い粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともに横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…脚部の付け根のみの破片である。器表にひび割れが走る。このひび割れは粘土を接



第69図　７号住居状遺構出土遺物（土師器・砥石）

合した位置であることがよく判る。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…7号住居状遺構№26　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横ナデ調整を施す。頸部以下は縦方向のナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…7号住居状遺構№11　(c)大きさ…復元口径21.0cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・鉱物粒（白色・黒色）を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部は横ナデ調整を施す。頸部以下はヘラ削りの後、横ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…7号住居状遺構一括　(c)大きさ…復元口径25.2cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてはハケ調整を施す。頸部にはハケ調整の後、ナデ調整を施す。部位によっては調整痕が明らかでない所もある。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/3周を残す。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…7号住居状遺構№9　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒や鉱物粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてはハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部以下はヘラ削りの後ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…7号住居状遺構№6　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜程の砂粒や鉱物粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には粗いナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてはハケ調整を施す。（内器面）口縁部には粗いナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…7号住居状遺構上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径2～3㎜程の小礫や微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてはハケ調整を施した後にナデ調整を施す。（内器面）口縁部には粗いナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施した後に粗いナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

11　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…7号住居状遺構№11　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜程の砂粒や微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部

にはヘラ削りを施した後に粗いナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

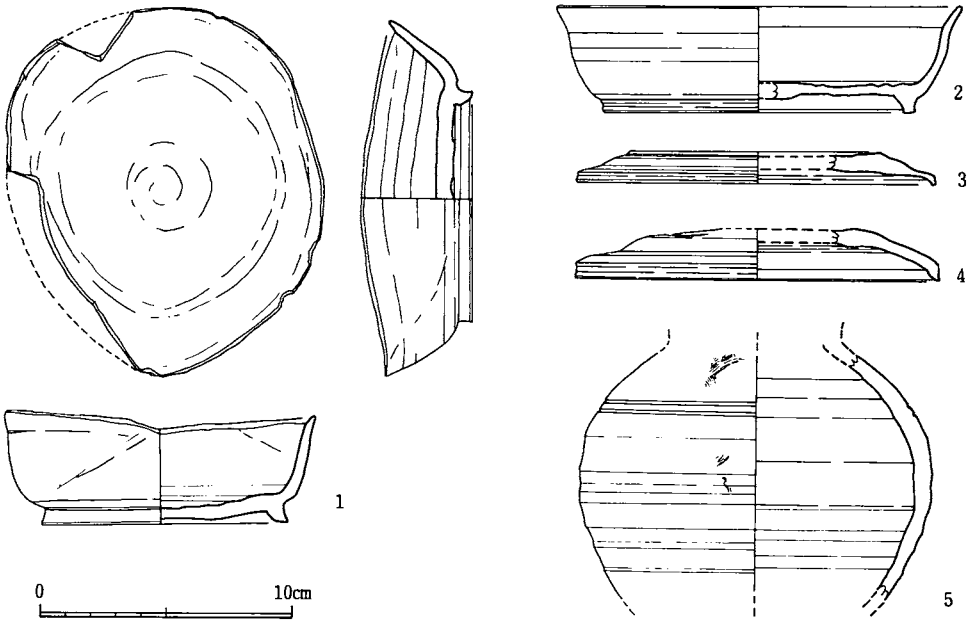
12　(a)器種…土師器・甑の把手　(b)出土遺構…７号住居状遺構№６　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…やや粗い・直径１～４㎜程の砂粒や礫及び鉱物粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）ヘラ削りを施す。　(h)その他…把手の部分のみを残す。

13　(a)器種…砂岩・作業台又は砥石　(b)出土遺構…７号住居状遺構№18　(c)大きさ…残存する長さ12.9cm・幅15.5cm・厚さ2.7cm　(h)その他…平たい板状の石であり、表面が滑らかである。

ｂ－20　第70図　７号住居状遺構出土遺物（須恵器）

1　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…７号住居状遺構№12　(c)大きさ…最大口径14.0cm・最小口径12.0cm・器高4.4cm・高台径9.8cm・高台内径9.0cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面には回転ヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…正円の口縁部の一方を押さえることにより口縁部を歪ませて、小さな片口を造り出している。口縁部の1/3周を欠失する。

2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…７号住居状遺構上面一括　(c)大きさ…復元口径16.0cm・器高4.2cm・高台径12.4cm・高台内径11.4cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面に



第70図　７号住居状遺構出土遺物（須恵器）

は回転ヘラ削りの痕が残る。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。 (h)その他…口縁部の1/2周を欠失する。

3　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…7号住居状遺構№5　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高1.2cm　(d)色調…黄色がかった灰色　(e)胎土…緻密・直径3㎜程度の礫を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ロクロによるナデ調整を施す。中央部は回転ヘラ削りを施し、部分的にナデ調整を施す。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。 (h)その他…口縁部の1/2周を欠失する。

4　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…7号住居状遺構№17　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高2.0cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・微細な白色の粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 粗いナデ調整を施す。中央部は回転ヘラ削りを施し、部分的にナデ調整を施す。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。中心部には不定方向のナデ調整を施す。 (h)その他…口縁部の1/2周を欠失する。

5　(a)器種…須恵器・壷　(b)出土遺構…7号住居状遺構上面一括　(c)大きさ…胴部最大径14.0cm　(d)色調…(外器面) 灰白色・(内器面) 明るい赤褐色　(e)胎土…緻密・微細な白色の粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。 (h)その他…肩部に2条の沈線を施す。胴部の破片である。

第3節　掘建柱建物遺構

当遺跡から4基の掘建柱建物遺構(1687番地から2棟・1686―1番地から2棟) を検出した。これ等4棟の掘建柱建物遺構の検出過程は、他の遺構の検出過程と類似していることから、新旧の2期に分けることが出来る。特に、1号掘建柱建物遺構は1687番地の第II層を剝ぎ取ることによって、遺構の存在を明らかにすることができた。このことは、236番地検出の1号住居状遺構の検出過程と極めて類似する。

検出過程から、4基の掘建柱建物遺構の中で、1号掘建柱建物遺構が一番旧く、1号住居状遺構の年代と近いと推定される。以下、各掘建柱建物遺構の検出状態について述べる。

1．1号掘建柱建物遺構(第71・95図参照)

31号溝状遺構(道路遺構) の東側から検出した。3間×2間の掘建柱建物遺構であり、棟の方向は南北である。柱穴を初めて確認し、掘建柱建物遺構の存在を知るきっかけとなったのは土層を確認する為に試掘したところ柱穴(P―4) を偶然検出したことによる。この柱穴は第II層よりも下の層から掘り込まれていた。そのため、急遽、第II層を剝ぎ取り、遺構の確認作業

を行った。この作業によって、1号掘建柱建物遺構及び2号掘建柱建物遺構を検出した。

柱穴（掘建柱の掘り方）の平面形は楕円形である。柱穴の長径1.1～0.7m・短径0.7～0.5m・柱痕跡の径0.3～0.8m・遺構検出面から柱穴の底面までの深さ0.4～0.6mを測る。

柱穴の切り合いの様子から見て、少なくとも2回は柱穴の掘り替え（建て替え）が行われていると思われる。また、柱痕跡が余りに大きいのは、2つの柱痕跡が重なっているからであろうと思われる。柱穴P－1・P－10の柱痕跡からすると、当掘建柱建物遺構の柱の直径は30～45cm（1尺～1尺5寸）程度と推定される。

柱と柱との間隔を調べるために柱痕跡の実測図上に1尺（30cm）の方眼を引くと、桁の方向に7尺間隔で3間・梁の方向に6尺間隔で2間の間隔で柱痕跡が並ぶことがわかる。ところで、先に柱の大きさ（直径）は1尺から1尺5寸と推定した。このことから、柱と柱の間隔を推定すると、6尺3寸～6尺5寸と推定される。以上のことから当建物遺構の大きさは、南北3間（0.3m×6.5×3）・東西2間（0.3m×6.5×2）・面積6坪と推定した。

柱穴の中の土は強く突き固められていて、その中から土師器の小片（坏）が出土した。

遺構検出過程の所で述べたように、当遺構は第Ⅱ層よりも下から検出したことから、遺構の年代は2号掘建柱建物遺構・1号住居状遺構・27号溝状遺構等と近い年代と推定される。

2．2号掘建柱建物遺構（第72図参照）

1号掘建柱建物遺構の北側の隣接した位置から検出した。遺構の検出過程は1号掘建柱建物遺構の所で述べたのと同様である。1号掘建柱建物遺構の棟の方向は南北であるのに対し、当遺構の棟の方向は東西になっている。

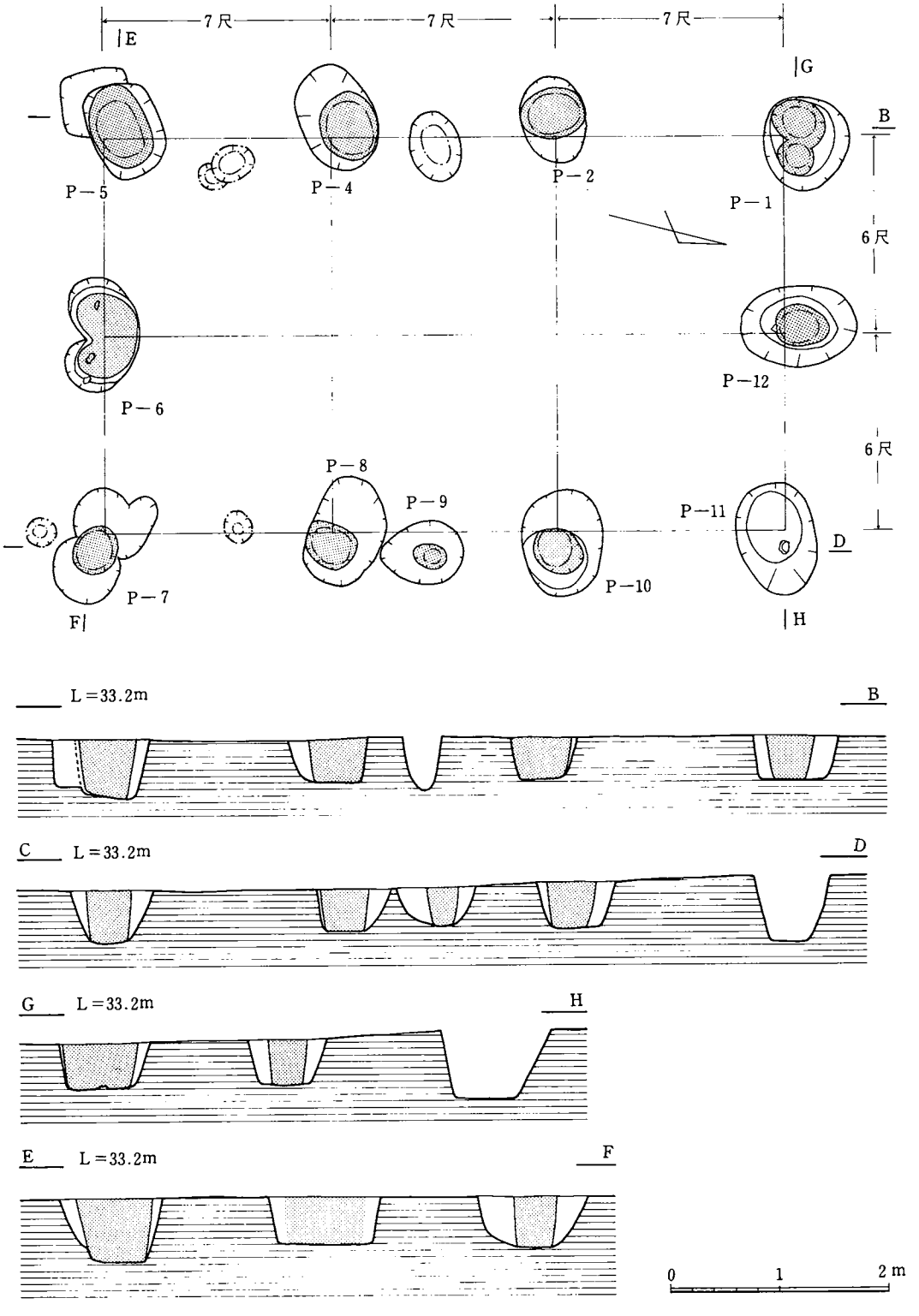
柱穴の並び方は少し千鳥になっていて、対応する柱と柱を結ぶ線と線が直角に交わらない。このことから、2号掘建柱建物遺構は柱・梁・桁を臍を用いてきちんと組み合わせた建物ではなく、柱・張り・桁を縄又は葛等を用いて縛りつけて建てた小屋のような建物と推定される。

柱穴は円形である。柱穴の直径0.3～0.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.3～0.5mを測る。柱と柱の間隔を1号掘建柱建物遺構の所で述べた同じ方法で測ると、桁の方向は6尺間隔で3間（0.3m×6×3）・梁の方向は7尺5寸間隔で2間（15尺・0.3m×15）・面積7坪半の建物と推定される。

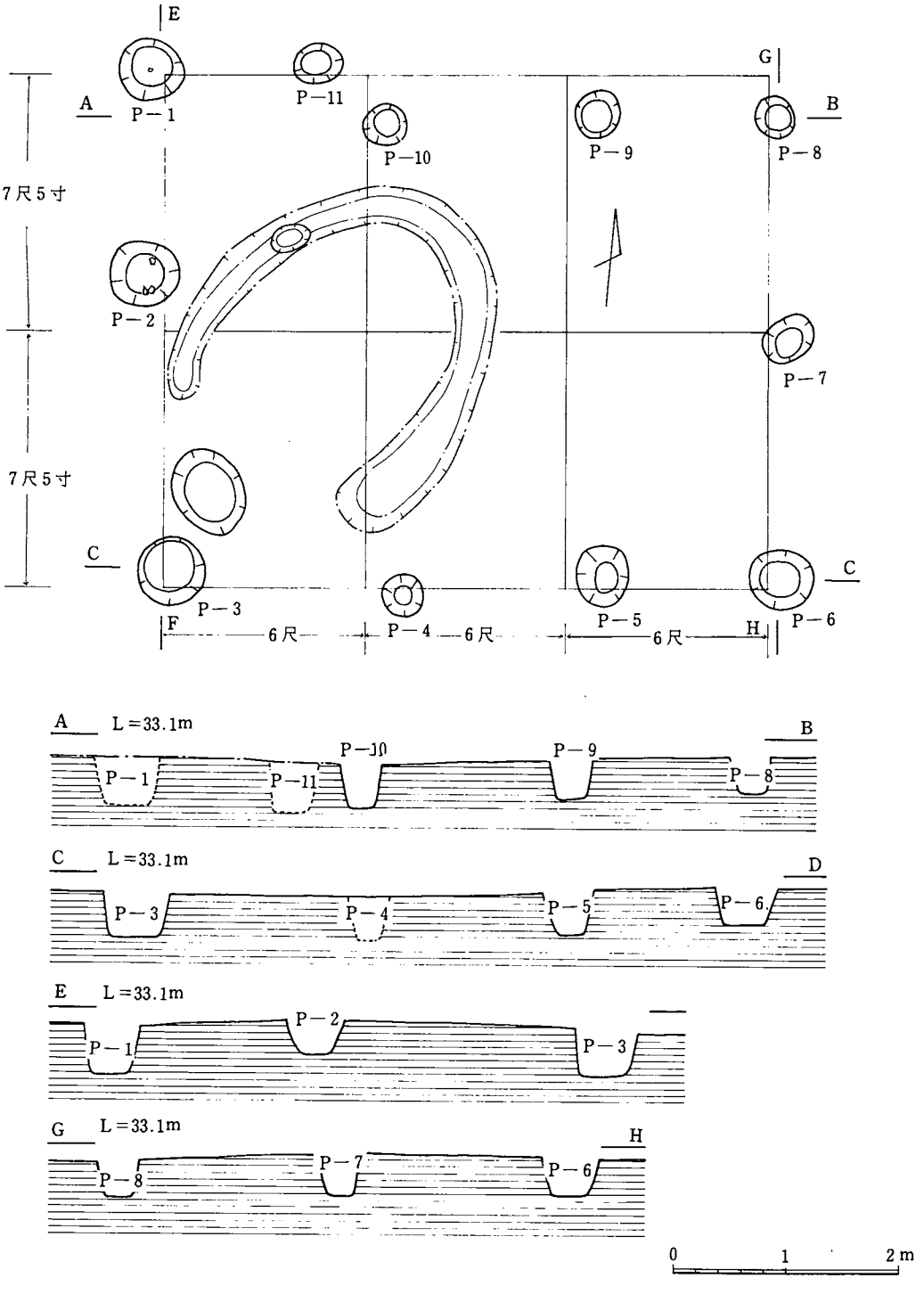
先に述べたように、当遺構の構築年代は遺構検出過程から、隣接の1号掘建柱建物遺構・1号住居状遺構・27号溝状遺構等と近いと推定される。

3．3号掘建柱建物遺構（第73図参照）

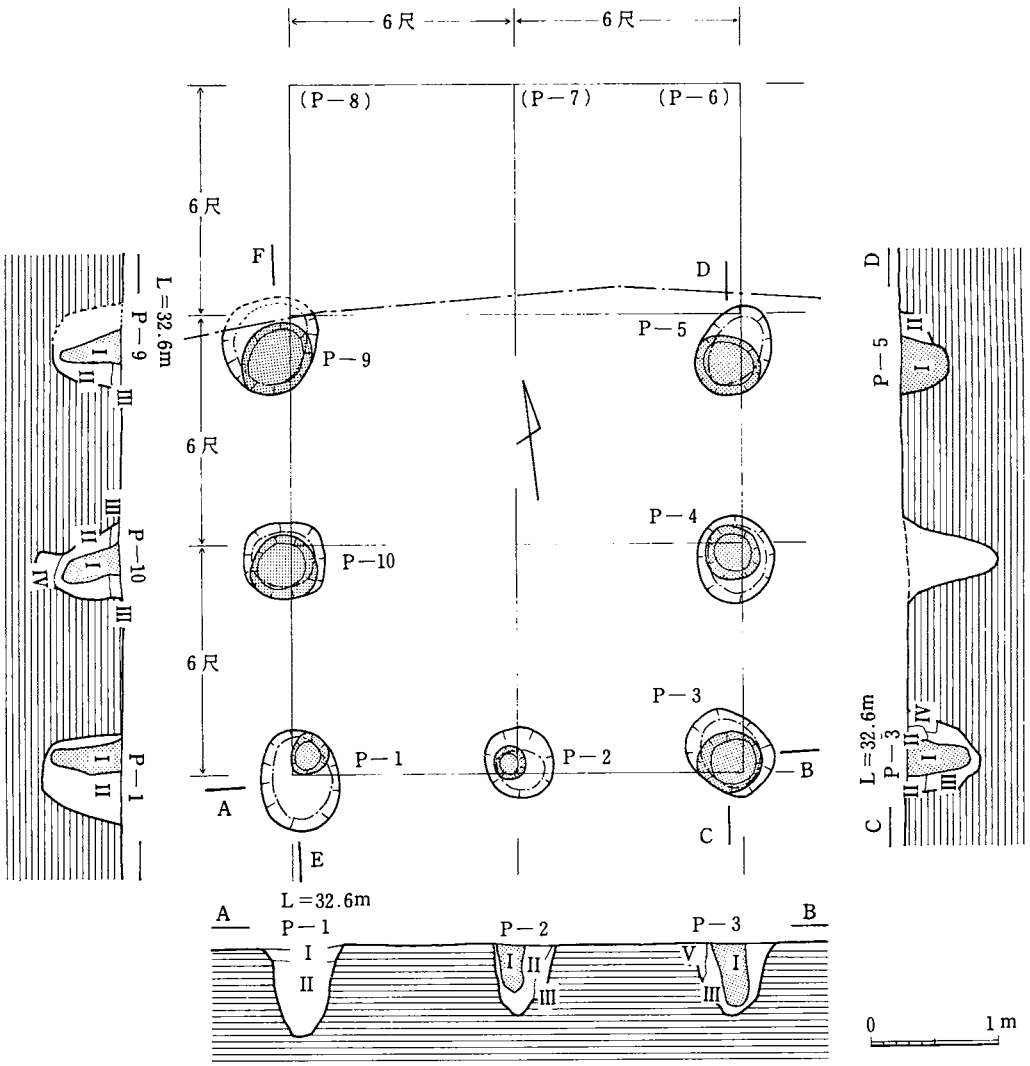
1686－1番地検出の6号住居址（カマド付竪穴式住居址）の東側に隣接して、7基の柱穴からなる柱穴群を検出した。柱穴の並びを見ると、P－1とP－3の間にP－2が存在するが、



第71図　1号掘建柱建物遺構



第72図　2号掘建柱建物遺構



第73図　３号掘建柱建物遺構

一方Ｐ－９とＰ－５の間には柱穴がない。このことから、北の方（調査区域外）にもう１間程延びると推定されるので、当遺構は南北３間（推定）・東西２間・棟の方向は南北（推定）の掘建柱建物遺構と思われる。

柱穴の平面形はほぼ円形である。柱穴の直径0.5～0.8m・遺構検出面から底面までの深さ0.4～0.7m・柱痕跡の直径25～60cmを測る。

柱穴の中の土（柱痕跡周辺の土）は強く突き固められている。

１号・２号掘建柱建物遺構の所で行った方法で柱と柱の間隔を推定すると、桁の方向の間隔

は6尺・梁の方向の間隔は6尺である。柱痕跡から見た柱と柱との推定される間隔と柱痕跡の直径及び柱穴の並び方から推定すると1間は6尺（0.3m×6）から6尺3寸（0.3m×6.3）と思われる。以上のことから当遺構の大きさは、南北3間（0.3m×6.3×3）・東西2間（0.3m×6.3×2）・面積6坪と推定した。

当遺構は隣接した位置から検出した6号住居址と同じ調査過程で検出したことから、両遺構の構築年代は互いに近いと思われる。

4．4号掘建柱建物遺構（第46図参照）

6号住居址の周辺部から柱穴群を検出した。この柱穴群の中で互に対応する柱穴を検出出来なかった。しかし、おそらく4号掘建柱建物遺構が存在したと推定される。

第4節　土　壙

調査区全域から30基を越える数の土壙を検出した。これ等の遺構は、貯蔵穴・炭焼き窯と思われる遺構・遺構の性格が未詳の土穴（つちあな）等種々様々である。また、遺構が造られたと推定される時代も、縄文時代から現代までである。このように、性格も時代も異なる遺構であるが、大地に穴（つちあな）があることを見出して、これを当調査においては「土壙」と呼ぶこととした。本来、「土壙」と言うのは「墓穴」を指し示すと考えられる。その意味からすると本報告書において此処に示す遺構を「土壙」と呼ぶのは適切でないかもしれないが、適当な言葉が思い当たらないので、単に「つちあな（土穴）」と言う意味で「どこう（土壙）」と呼ぶこととする。

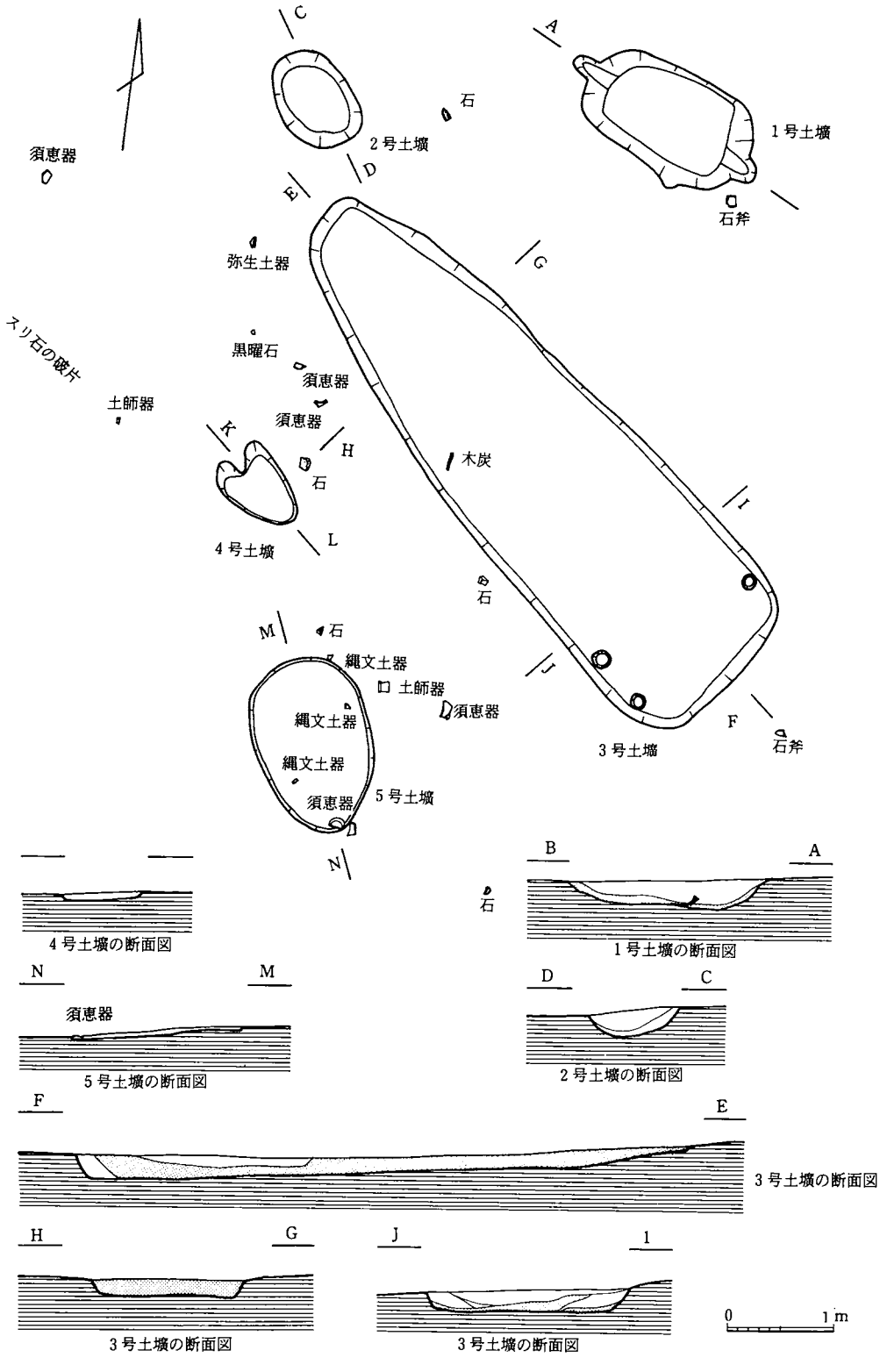
出土遺物は、第5節溝状遺構出土の遺物と取りまとめて、出土した地番ごとに第5節において述べる。

1．1号土壙（第74図参照）

発掘調査時の仮の名称も同じく1号土壙である。遺構の平面形は隅丸の長方形状を呈し、左右の中央部が把手状に対応する形で突出する。長辺の長さ1.4～1.5m・幅0.7～0.9m・遺構検出面から床面までの深さ0.3m未満を測る。

遺構内には木炭及び木灰が充満する。床面は少し波打つ。床及び壁面は、焼けて赤変している部分が見られる。遺構検出面は、第II層（黄色土に黒色土が混じった土）の上面である。当遺構はこの層を切る。

遺構内出土遺物は、上記の木炭・木灰の他に、土師器の小片（器種不明）が出土した。


C
A
石
2号土壙
1号土壙
須恵器
D
E
石斧
弥生土器
G
スリ石の破片
黒曜石
須恵器
土師器
須恵器
K
H
木炭
石
I
4号土壙
L
石
M
石
縄文土器
土師器
須恵器
縄文土器
縄文土器
須恵器
5号土壙
J
F
3号土壙
石斧
N
石
B
A
4号土壙の断面図
1号土壙の断面図
N
M
D
C
須恵器
5号土壙の断面図
2号土壙の断面図
F
E
3号土壙の断面図
H
G
J
1
0
1m
3号土壙の断面図
3号土壙の断面図

第74図　1号～5号土壙

2．2号土壙（第74図参照）

発掘調査時の仮の名称も2号土壙である。遺構の平面形は小判状を呈し、長径1.0m・短径0.7m・遺構検出面から床面までの深さ0.2～0.3mを測る。床面の断面形は、碗状を呈する。

遺構内には、1号土壙と同様に、多量の木炭が詰まった状態で出土する。その中から、土師器の小片が出土する。

遺構検出状態は、1号土壙と同様に、第Ⅱ層を切る。このことから、遺構の年代も両者は近いと推定される。

3．3号土壙（第74図参照）

発掘調査時の仮の名称も3号土壙である。遺構の平面形は船形状を呈する。長軸は、ほぼ北西方向に延びる。

長軸方向の長さ5.3m・最大幅1.9m・遺構検出面から床面までの深さ0.2mを測る。

遺構の検出状態及び覆土は、1号・2号土壙と極めて類似する。遺構内には木炭と木灰がぎっしりと詰まっている。また、底面及び壁面が焼けて赤変している部分が見られる。

遺構内からの出土遺物は、木炭・木灰の他は、土師器の細片（器種不明）である。

4．4号土壙（第74図参照）

発掘調査時の仮の名称も4号土壙である。遺構の平面形はハート形状を呈する。底面は平坦である。長軸は、ほぼ北西方向に延びる。

最大の長さ0.8m・最大の幅0.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.1m未満を測る。遺構内の覆土は黒色土である。遺構の検出状況は1号～3号土壙と類似する。

5．5号土壙（第74図参照）

発掘調査時の仮の名称も5号土壙である。遺構の平面形は卵形状を呈する。底面は少し傾斜している。遺構内の覆土は黒色である。遺構の検出状態は、1号～4号土壙と類似する。

長径1.7m・短径1.1m・遺構検出面から底面までの深さ0.1m未満を測る。

遺構内出土遺物は、須恵器・縄文土器の破片が出土した。また、遺構周辺から須恵器・土師器が出土した。

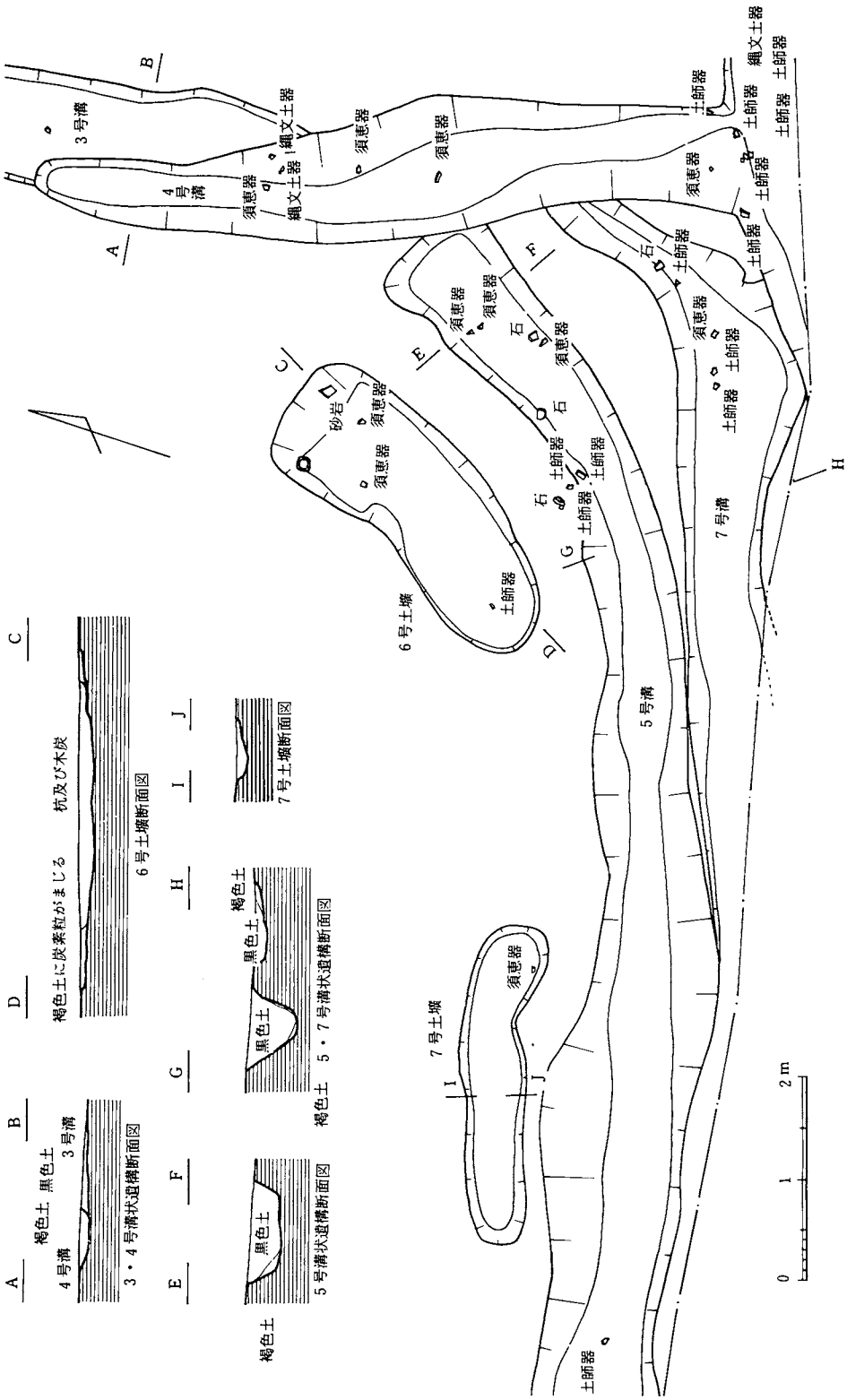
6．6号土壙（第75図参照）

発掘調査時の仮の名称も6号土壙である。遺構の平面形は、少し歪んだ船形状を呈する。遺構の形状及び検出状況は、3号土壙に類似する。長軸は、北北東方向に延びる。

長軸の長さ3.3m・最大幅1.3m・遺構検出面から床面までの深さ0.2m未満を測る。

遺構内の覆土は、上下二層に分けられる。上層は木炭及び木灰が堆積している。特に、草本類の炭化した物（イネ科植物？・カヤの類と思われる）が目を引く。下層は褐色土に炭素粒が混じった土である。

遺構内出土遺物は、須恵器・土師器がある。



第75図　6号・7号土壙及び3号～7号溝状遺構

7．7号土壙（第75図参照）

発掘調査時の仮の名称も7号土壙である。遺構の平面形は不定形で細長い。遺構検出開始時においては、東西に走る溝遺構の一部ではないかと思われたが、そうではなかった。

遺構の東西の長さ3.1m・南北の幅0.7m・遺構検出面から底面までの深さ0.1mを測る。遺構内の覆土は黒色土である。遺構の検出状況は、1号～6号土壙と類似する。

遺構内出土遺物は、須恵器片がある。

8．8号土壙（第51図参照）

発掘調査時の仮の名称も8号土壙である。3号住居状遺構の北側から検出した。遺構の平面形は、少し歪んだ円形である。遺構の直径1.2m・遺構検出面から底面までの深さ0.2m未満を測る。遺構内の覆土は褐色土である。覆土の色は9号土壙と類似する。遺構中から土器は出土しなかった。

当遺構の覆土の色が1号～7号土壙の覆土の色と明らかに異なることから、8号土壙と1号～7号土壙との間に時代的な差異があることは明らかである。ところで、遺構内から遺物を検出出来なかったので遺構の構築の時代は明確ではないが、9号土壙と時間的に近い時代の遺構と推定される。

9．9号土壙（第52図参照）

発掘調査時の仮の名称は15号土壙である。2号住居状遺構の北側に隣接して、当遺構を検出した。遺構の平面形は、歪な楕円形状を呈する。底面は比較的に平坦である。

遺構の長径2.4m・短径1.7m・遺構検出面から底面までの深さ0.1m未満を測る。覆土は褐色土である。出土遺物は、土師器・須恵器の小片が少量出土した。

10．10号土壙（第52図参照）

第Ⅲ章　第1節を参照のこと。

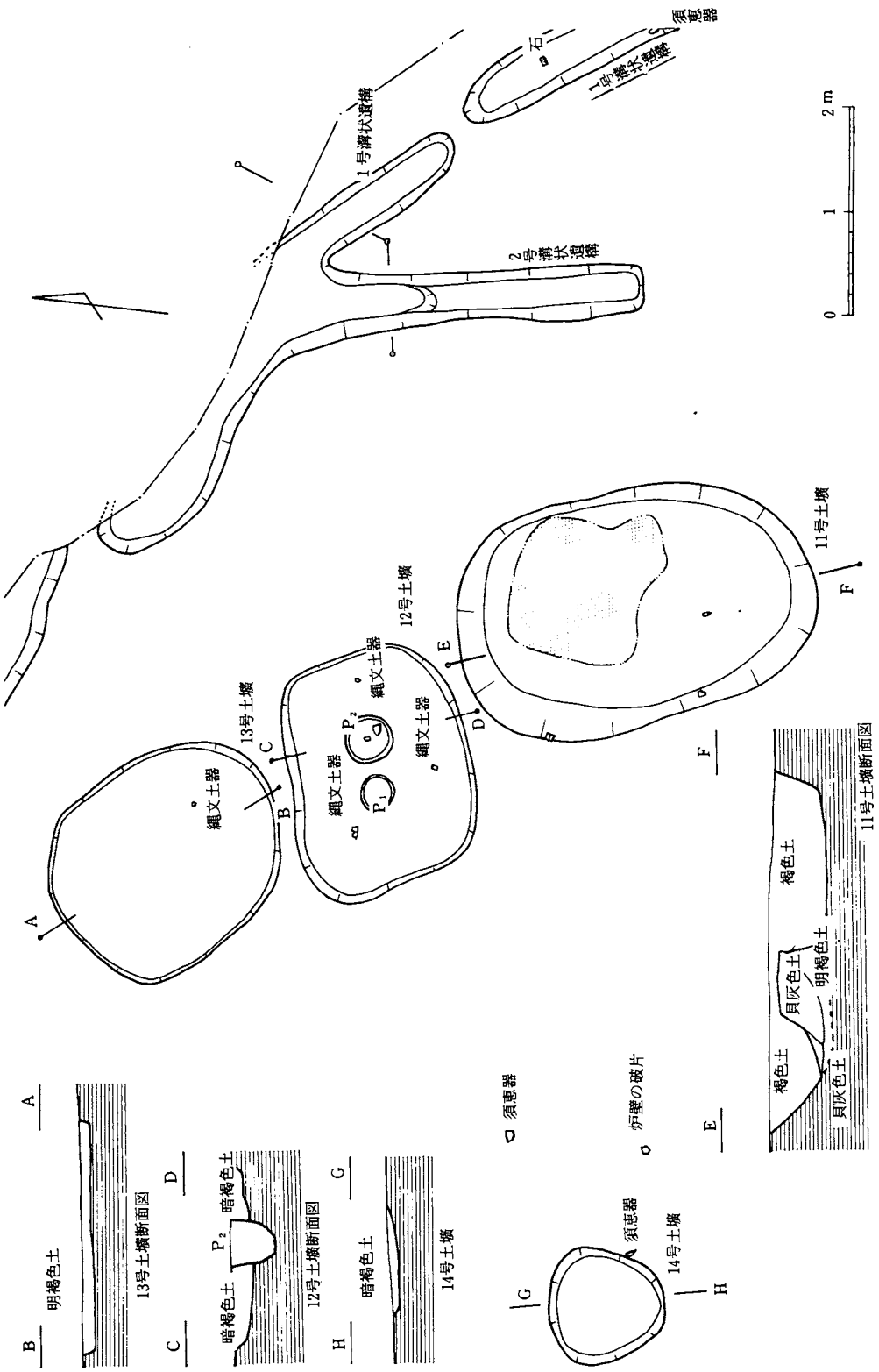
11．12号土壙（第76図参照）

11号土壙（風倒木の痕跡）と13号土壙の間に位置する。遺構の平面形は、東西に長い歪な長方形である。壁の長さを北側から右廻りに列挙すると、2.1m・1.1m・2.1m・1.6mを測る。遺構検出面から底面までの深さは、0.2mである。底面はほぼ平坦である。

遺構の中心部を2基の柱穴（P－1・P－2）によって切られている。これ等の柱穴の覆土中には須恵器を含む。12号土壙の覆土は暗褐色土である。当遺構の覆土には黒色磨研系の土器片（縄文時代後期～晩期）を含む。

出土遺物は縄文土器片のみであることから、当遺構は縄文時代の遺構の可能性があると推定されがちであるが、遺構内の覆土を他の遺構と比較してみると、即座にそれを肯定し難い。遺構の時期は未詳である。

12．13号土壙



第76図　11号～14号土壙

第Ⅲ章　第１節参照のこと。

13. 14号土壙（第76図参照）

12号土壙の西側（３号土壙の北側）から検出した。遺構の平面形はほぼ円形であり、遺構の検出面から底面までの深さは浅く、フライパン状を呈する。遺構の直径1.1m・遺構検出面から床面までの深さ0.1m未満を測る。

覆土は暗褐色土である。遺構内から遺物は検出出来なかった。ところで、遺構の縁部から須恵器が出土した。しかし、この須恵器が当遺構に伴う遺物であると云う確証はない。その訳は、当遺構を検出した面（第二層の上面）から各時代（縄文時代～平安時代）の遺物が出土するからである。

14. 15号土壙（第77図参照）

発掘調査時の仮の名称も15号土壙である。遺構の平面形は、草鞋状を呈する。底面は平滑であり、北西側が少し高くなるように傾斜する。床面から1基の小さい柱穴（直径0.1m）を検出した。この柱穴は断面の様子から杭の痕跡と思われる。遺構の長軸はほぼ北西方向に延びる。長軸方向の長さ4.6m・短軸方向の長さ1.6m・遺構検出面から床面までの深さ0.2mを測る。

当遺構は第Ⅱ層（黄褐色土と黒色土の混じった土）を切っている。このことは、３号土壙の遺構検出状況と極めて類似する。

遺構内の覆土は、上下二層に分かれる。上層は暗褐色土に木炭が混じる層であり、下層は木炭の層である。床面上からは木炭が交互に積み重ねたような状態で出土した。木炭の並びを見ると、長軸方向に木材を並べて置き、それに交差するように木材を交互に積み重ねて置いたものが蒸し焼きになったと推定される状態である。木材の直径は５～15cmである。

遺構内出土遺物は、土師器の小片（器種不明）である。

遺構の検出状況及び出土遺物は３号土壙と極めて類似することから、遺構の構築年代及び使用目的も同じと推定される。

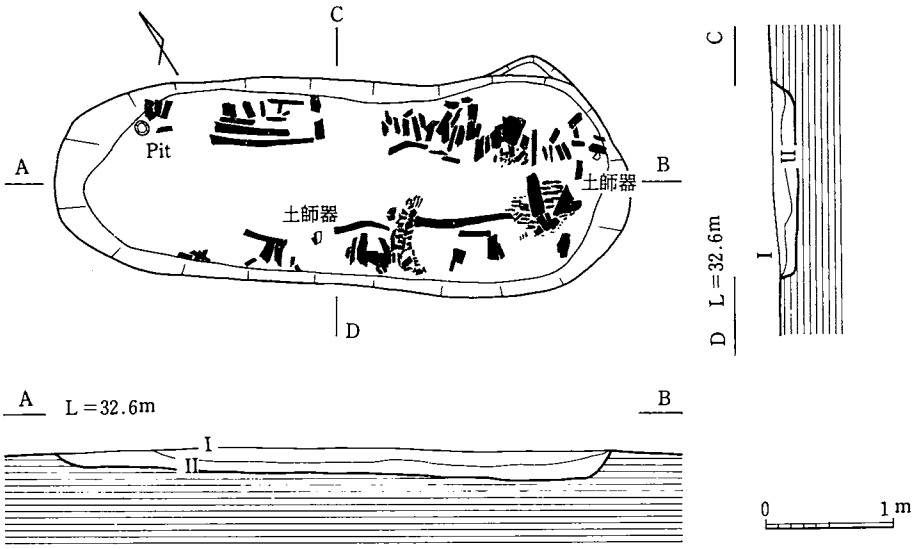
当遺構から多量の木炭が出土する点と遺構の周辺部の土中から多量の炭素粒が出土することから、当遺構は炭焼き窯の跡の可能性が極めて強い。

15. 16号土壙（第77図参照）

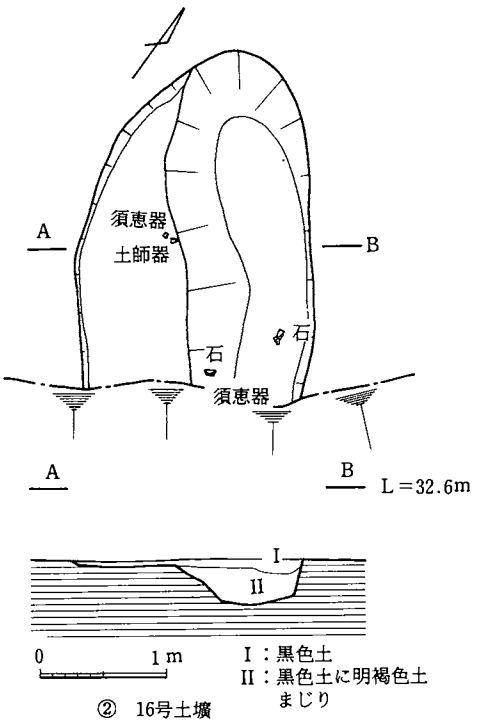
発掘調査時の仮の名称も16号土壙である。遺構の一部は他の遺構（溝遺構？・攪乱あり）によって切り取られている。

床面は、西側が浅く、東側は強く掘り込まれて２段になっている。浅い方は平坦であり、遺構検出面からの深さが0.1m未満である。深い方は、遺構検出面からの深さ0.4m未満である。

覆土は二層になっており、深い方に黒色土に明褐色土混じりの土が堆積し、その上に、黒色土が遺構全体を被っている。この黒色土（第Ⅱ層）は、発掘調査時において、平安時代の遺構であろうと推定した他の遺構の覆土と類似する。

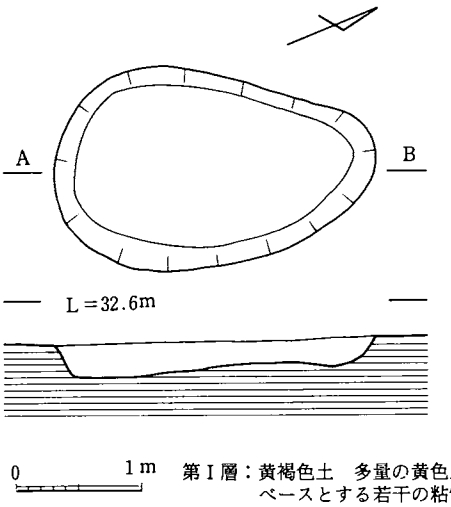


① 15号土壙　　I：暗褐色土に木炭が混じる
II：木炭の層



I：黒色土
II：黒色土に明褐色土まじり

② 16号土壙



第I層：黄褐色土　多量の黄色土粒子をベースとする若干の粘性を持つ

③17号土壙

第77図　15号～17号土壙

遺構からの出土遺物は、土師器・須恵器である。

16. 17号土壙（第77図参照）

6号住居址の西側から検出した。平面形は洋梨状を呈する。底面は少し波打つ。長軸は北東方向に延びる。長軸方向の長さ2.5m・短軸方向の長さ1.6m・遺構検出面から床面までの深さ0.3m未満を測る。

覆土は黄褐色土であり、若干粘性をもつ。遺構内からの遺物の出土は見られなかった。このため、遺構の時期は、未詳である。

17. 18号土壙（第78図参照）

発掘調査時の仮の名称は1号土壙である。平面形は隅丸の長方形である。底面の縦断面の形状は、洋式の浴槽状を呈する。

遺構の長さ2.9m・幅1.2m・遺構検出面から底面までの深さ0.4mを測る。

覆土は黒色土であり、その中に土師器・須恵器の小片を含む。床面の直上からも土師器片が出土する。

18. 19号土壙（第78図参照）

発掘調査時の仮の名称は2号土壙である。平面形は細長い洋梨状を呈する。底面の縦断面の形は、隣接する18号土壙に類似していて、洋式の浴槽状を呈する。

遺構の長さ2.8m・幅1.5m・遺構検出面から底面までの深さ0.4m強を測る。覆土は黒色土であり、その中に須恵器片・土師器片を含む。

19. 20号土壙（第78図参照）

発掘調査時の仮の名称は3号土壙である。平面形は歪んだ長方形である。底面は少し波打っていて、南方へ傾斜する。東側半分は21号土壙によって切り取られていることから、遺構の幅は明らかでない。

遺構の長さ2.3m・遺構検出面から底面までの深さ0.2mを測る。畑地の削平状況からすると、本来の遺構の深さは0.5m以上はあったと推定される。

覆土は黒色土であり、その中に土師器片が含まれる。覆土の色及び出土遺物から、南北に並ぶ3基の土壙（18号・19号・20号）の年代は極めて近接していると推定される。

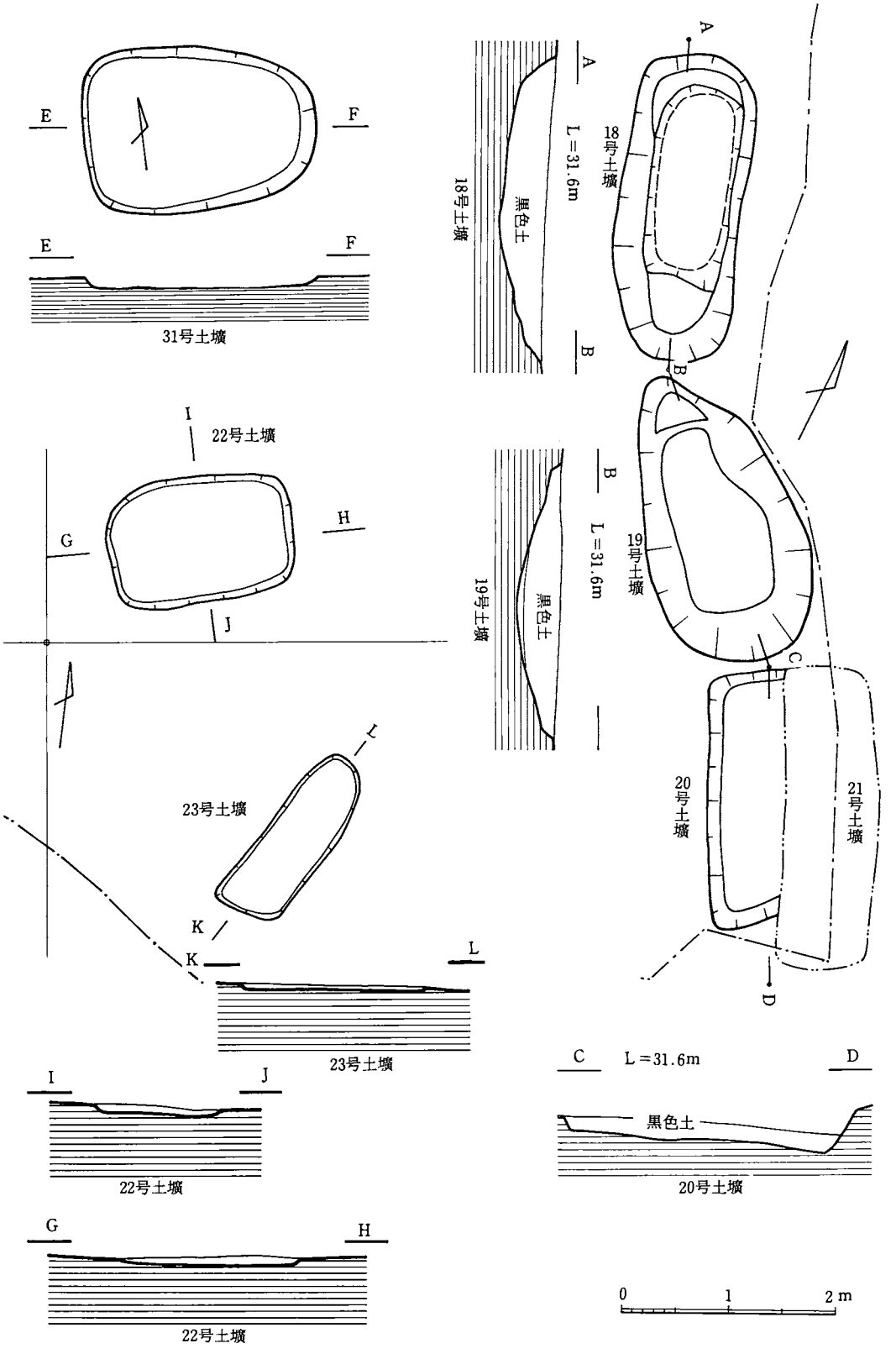
20. 21号土壙（第78図参照）

20号土壙の東半分を切っている。当遺構内からは、未だ腐敗があまり進んでいない籾殻や藁が出土した。このことから、薩摩芋を保存するための貯蔵穴（イモ穴）であると思われる。

以上の点から、当遺構は最近の芋穴と判断した。

21. 22号土壙（第78図参照）

平面形は東西に長い長方形である。底面はほぼ平坦である。遺構の東西の幅1.8m・南北の幅1.2m・遺構検出面から底面までの深さ0.1m弱を測る。



第78図　18号～23号土壙及び31号土壙

遺構内には、木炭及び木灰が詰まっている。底面はうっすらと赤変していることから、火を受けたことは明らかである。遺構検出面は第Ⅱ層（耕作土の下の層・黄褐色土に黒色土が混じった土）であり、この層を当遺構は切っている。

遺構内出土遺物は、土師器の細片（器種不明）である。

22．23号土壙（第78図参照）

平面形は細長い長方形である。長軸は北東方向に延びる。遺構の長さ1.8m未満・幅0.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.1m未満を測る。

覆土は、木炭と木灰が黄褐色土に混じった状態である。出土遺物は土師器の細片が少量あるのみである。

遺構及び遺物の検出状態が22号土壙に類似することから、両遺構の年代は互いに近いと推定される。

23．24号土壙（第4・5図参照）

平面形は円形である。1683―1番地と1682番地の境界近くから検出した。遺構の最大径2.0m・最小径1.8m・遺構検出面から底面までの深さ0.2～0.3mを測る。

当遺構は11号溝状遺構と切り合っている。両者の覆土は類似する。切り合いの上下関係は明らかではない。土壙内からの出土遺物はない。しかし、11号溝状遺構からは江戸時代後期から明治時代初期の磁器が出土するので、遺構の年代はそれらの遺物が示す時代と推定される。

24．25号土壙（第4・5図参照）

11号・12号溝状遺構を切る遺構を検出した。遺構の平面形は2つの円形の遺構形が切り合ったような形をしているが一つの遺構である。内部は少し袋状に裾が広がっている所がある。

遺構の東西幅1.4m・南北幅1.0m・遺構検出面から底面までの深さ0.7m・12号溝状遺構の底面から当遺構の底面までの深さ0.4mを測る。

当遺構は11号溝状遺構を切ることから、明治時代の遺構であると思われる。

25．26・27号土壙（第79図参照）

27号土壙は、26号土壙を切る遺構である。平面形は靴底状の形状を呈する。遺構の長軸は北西方向に延びる。長軸方向の長さ4.3m・幅1.7m・遺構検出面からの深さ0.1mを測る。

覆土は黒褐色土である。覆土中に炭素粒を含み、粘性と締まりに富む。出土遺物は土師器の細片（器種不明）が少量あるのみである。

覆土及び出土遺物を他の遺構と比較すると、打越遺跡検出の遺構の中では新しい時代の遺構（平安時代頃）と推定される。

26号土壙は掘り込み面が27号土壙に切られている。26号土壙の底面は平坦である。平面形は、ほぼ円形？を呈する。遺構の年代は不詳であるが、縄文時代の可能性が強い。第Ⅲ章第1節を参照されたい。

26. 28号土壙（第79図参照）

3号・4号住居址（弥生時代の竪穴式住居址）の南東側（21号溝状遺構の西側）から検出した。平面形は長楕円形状を呈する。遺構の長径1.5m・短径0.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.1mを測る。

覆土は黒褐色土であり、炭素粒子を含み、粘性及び締まりに富む。覆土の様子は27号土壙に極めて類似する。遺構内から遺物は出土しなかった。しかし、遺構の北側（0.2〜0.3m）から坏（土師器）が出土した。恐らく、遺物の検出位置及び遺構と当遺物の検出面の関係を考えると、この坏が示す年代と遺構の年代とは近いと推定される。

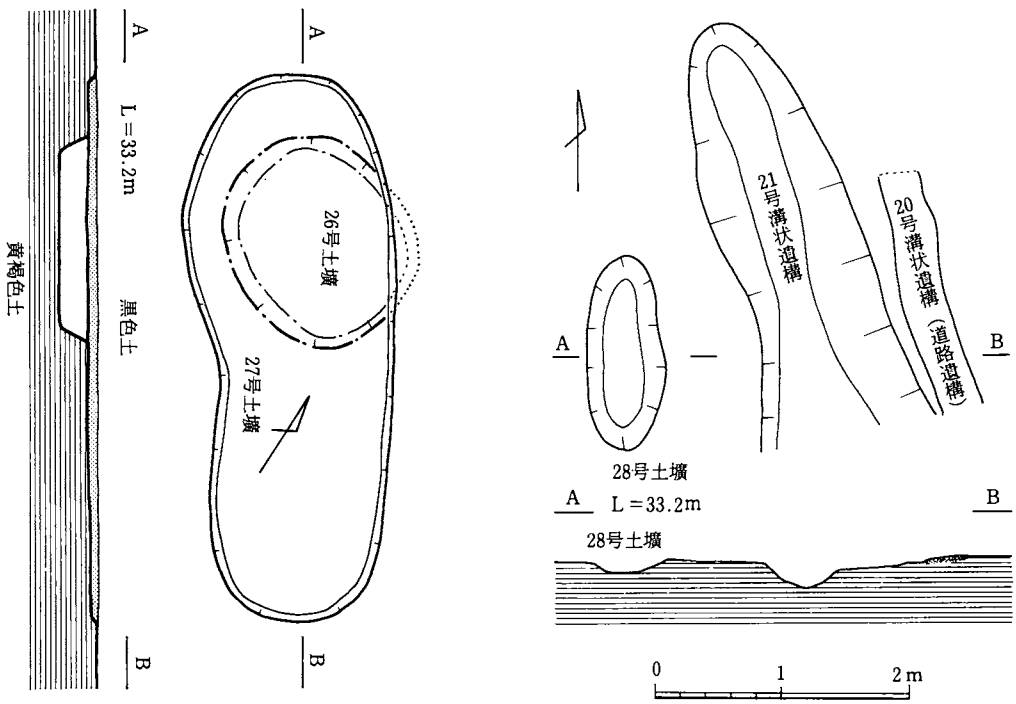
27. 29号土壙（第Ⅳ章第1節参照）

弥生時代の住居址との関係で第Ⅳ章第1節に示す。参照されたい。

28. 31号土壙（第78図参照）

237番地と1684番地の境界となっている農道の東側から遺構を検出した。平面形は釣り鐘状を呈する。主軸の方向はほぼ東西である。

遺構の主軸方向の長さ2.2m・幅1.5m・遺構検出面から底面までの深さ0.1mを測る。覆土は暗褐色土である。遺構内出土遺物はない。そのため、遺構の年代は未詳である。



①26・27号土壙　　②28号土壙及び20・21号溝状遺構

第79図　26号〜28号土壙及び20号・21号溝状遺構

第５節　溝状遺構及びその周辺の出土遺物

発掘調査区域全域から帯状に延びる遺構を検出して、これを「溝状遺構」と名付けた。この溝状遺構と名付けた遺構の大部分は、「溝遺構」であるが、その他に、「道路遺構」がある。また、本来道路遺構と思われるが排水路としての機能を持っていたと推定される遺構もある。これ等の遺構の数は、30本を越える。勿論、各遺構ごとに数度の掘り替えが行われている遺構もある。

溝状遺構が使用された時代も、奈良時代～江戸時代末（又は明治時代初め頃）まで、種々様々である。

特に注目されるのは、1687番地の東側（1686－１番地との境界付近）から検出した「27号溝状遺構（溝遺構）」である。この遺構から、多数の土師器・須恵器が出土した。

以下、各遺構毎に、遺構の検出状況及び出土遺物について述べる。

１．235番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

ａ－１　１号溝状遺構

235番地の東側の農道に沿って延びる溝遺構である。発掘当初、検出位置から畑の排水路のように見えたが、耕作土の深さに対して溝の深さや覆土の様子からそのようには考えられない。

遺構検出面から底面までの深さ0.1m・幅0.6m未満を測る。覆土は暗褐色を呈する。出土遺物は、土師器・須恵器・縄文土器・礫等である。

遺構の年代は明らかでないが、覆土の様子からすると平安時代又はそれ以後（中世頃）であろうと推定される。

ａ－２　２号溝状遺構

溝遺構である。２号溝状遺構の掘り替えをしたのが１号溝状遺構と推定される。当遺構は切れ切れに成っており、遺構検出面から底面までの深さは0.1m以下である。幅は0.6m未満を測る。

覆土及び出土遺物は、先述の１号溝状遺構と類似する。遺構の年代も同遺構と近い年代と推定される。

ａ－３　３号溝状遺構

235番地の調査区の中央部を南北（４号住居状遺構と３号土壙との間）に走る溝遺構である。溝の南端部は掘り替え（４号溝状遺構によって切られている）が行われている。

溝の幅0.4～0.8m・遺構検出面から底面までの深さ0.1m未満を測る。覆土は黒色土である。

出土遺物は土師器・須恵器の小片である。

遺構検出面の様子からすると、235番地の畑は数筆の畑を合筆して一筆にしたと思われる。もし、そうであるならば、畑の境界にある排水路の可能性が考えられる。

遺構の年代は、明らかでないが、覆土の様子から推定すると1号・2号溝状遺構より先行すると思われる。

a－4　4号溝状遺構

上述の3号溝状遺構（溝遺構）を掘り替えた溝遺構である。当遺構は、5号・6号溝状遺構を切る。また、東西に走る8号溝状遺構と「T」字状に繋がる。このことから、8号溝状遺構と当遺構は一連の遺構であることがわかる。

遺構検出面から底面までの深さ0.1m強・幅0.6～1.3mを測る。覆土は黒色を呈する。この覆土は平安時代頃と推定した他の遺構の覆土に類似する。

出土遺物は土師器・須恵器である。

a－5　5号溝状遺構

6号・7号土壙の南側に近接する東西に走る遺構である。当遺構は6号溝状遺構を拡充するかのように切っている。その上また、7号溝状遺構も切っている。しかし、4号溝状遺構からは逆に切られている。

遺構検出面から底面までの深さ0.3～0.5m・幅0.6～1.0mを測る。遺物は底面から少し浮いた状態（0.1～0.2m）で出土する例が多い。遺物は土師器・須恵器である。

覆土は2層に分けられる。上層は黒色土である。下層は褐色土であり、溝が掘られた直後に流れ込んだと思われる薄い土層（厚さ5cm未満）である。

遺構の年代は、6号・7号土壙とさほどのひらきがないと思われる。

a－6　6号溝状遺構

先にも述べたように、5号溝状遺構に先行する溝遺構である。遺構検出面から底面までの深さ0.2m・幅0.6mを測る。

覆土及び出土遺物は5号溝状遺構と類似する。

a－7　7号溝状遺構

5号溝状遺構の南側に沿って走る溝遺構である。当遺構は4号・8号溝状遺構（溝遺構）によって切られている。当遺構を掘り替えたのが8号溝状遺構と推定される。

遺構検出面から底面までの深さ0.1～0.2mを測る。幅は狭い所で0.5mを測り、広い所は先述の遺構によって切られているので明らかでない。

覆土は黒色である。出土遺物は土師器・須恵器である。

a－8　8号溝状遺構

先に述べたように、4号溝状遺構（溝遺構）と一連の遺構であり、東西に走る溝遺構である。

遺構を検出した位置が畑の境界近くであることから、遺構の半分は縦割りにされて欠失する。

覆土及び出土遺物は4号溝状遺構と類似する。

② 出土遺物

b－1　第80図　打越235番地出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…1号溝状遺構№5　(c)大きさ…復元口径38.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・小礫や砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともナデ調整を施す。内器面の頸部から胴部にかけては粗いナデ調整である。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

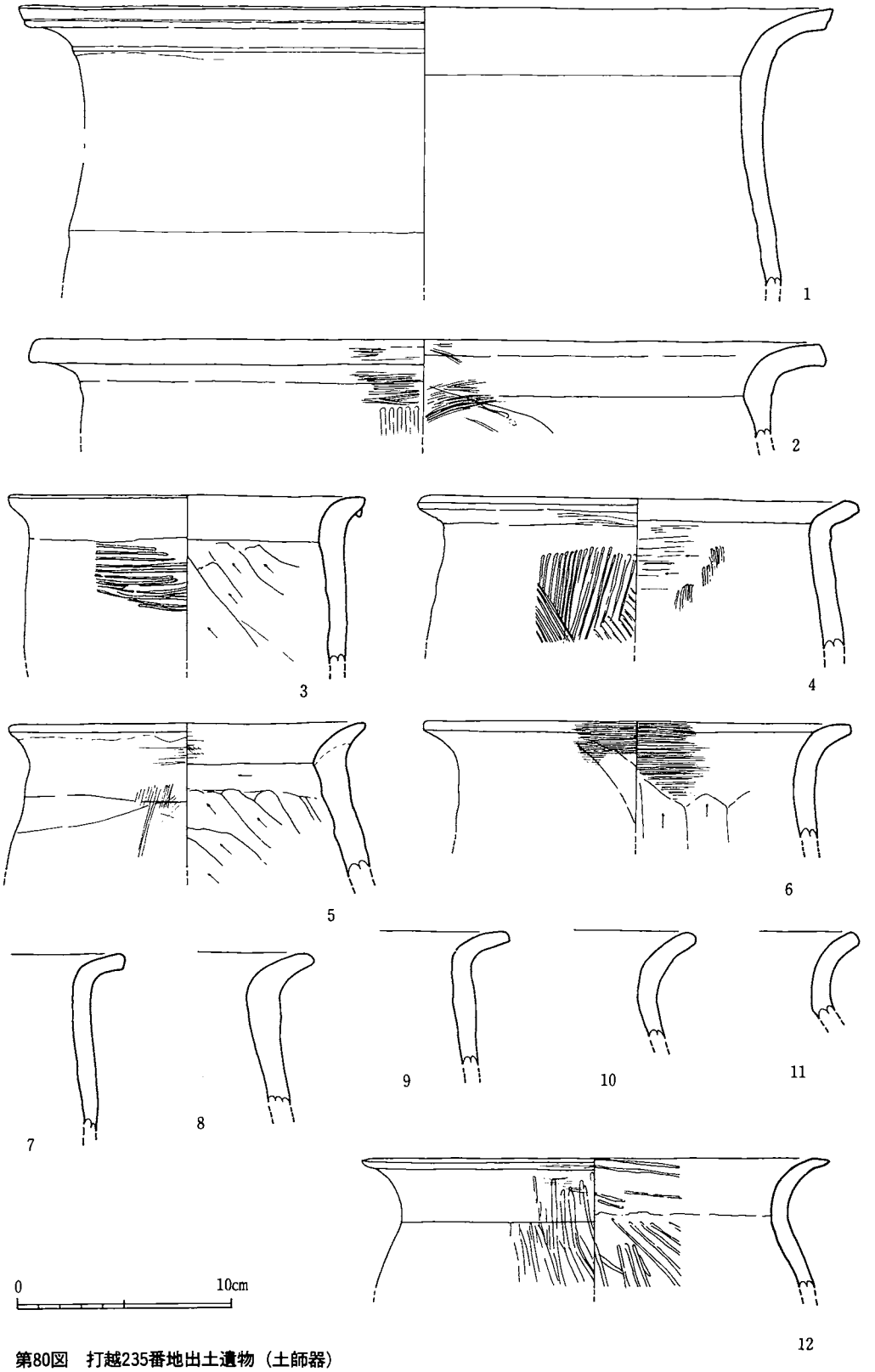
2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号溝状遺構№5　(c)大きさ…復元口径37.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～4㎜程の小礫や砂粒及び微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけてナデ調整を施す。胴部にはナデ調整を施す。（内器面）口縁部から頸部にかけてナデ調整を施す。胴部はヘラ削りの後ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/5周を残す。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号溝状遺構№3　(c)大きさ…復元口径16.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…やや粗い・直径1㎜程の造岩鉱物を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部に指頭圧痕が残る。口縁部にススが付着する。口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号溝状遺構№2　(c)大きさ…復元口径20.5cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけて横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による調整を施す。（内器面）横方向のナデ調整を施す。胴部にはやや粗いナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号溝状遺構№9　(c)大きさ…復元口径16.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）灰色がかった黄色　(e)胎土…やや粗い・砂粒と微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部にはナデ調整を施す。胴部には粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号溝状遺構№3　(c)大きさ…復元口径20.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）赤橙色・（内器面）暗い赤褐色　(e)胎土…緻密・砂粒と造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部には粗いナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを



第80図　打越235番地出土遺物（土師器）

施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/6周を残す。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…試掘溝の西側№4　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・頸部は淡い橙色・（内器面）橙色　(e)胎土…緻密・白色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ状の工具による調整後、ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には縦方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りの後、縦方向のナデ調整を施す。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号土壙の東側№9　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には丁寧な横方向のナデ調整を施す。胴部には指による縦方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部には斜め方向のナデ調整を施す。(h)その他…頸部付近にススが付着する。口縁部の1/5周を残す。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号土壙の東側№5　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…器面の荒れが激しい。ナデ調整が施されていたと思われる。　(h)その他…内外器面に赤色顔料を化粧掛していたと推定される。口縁部の1/6周を残す。

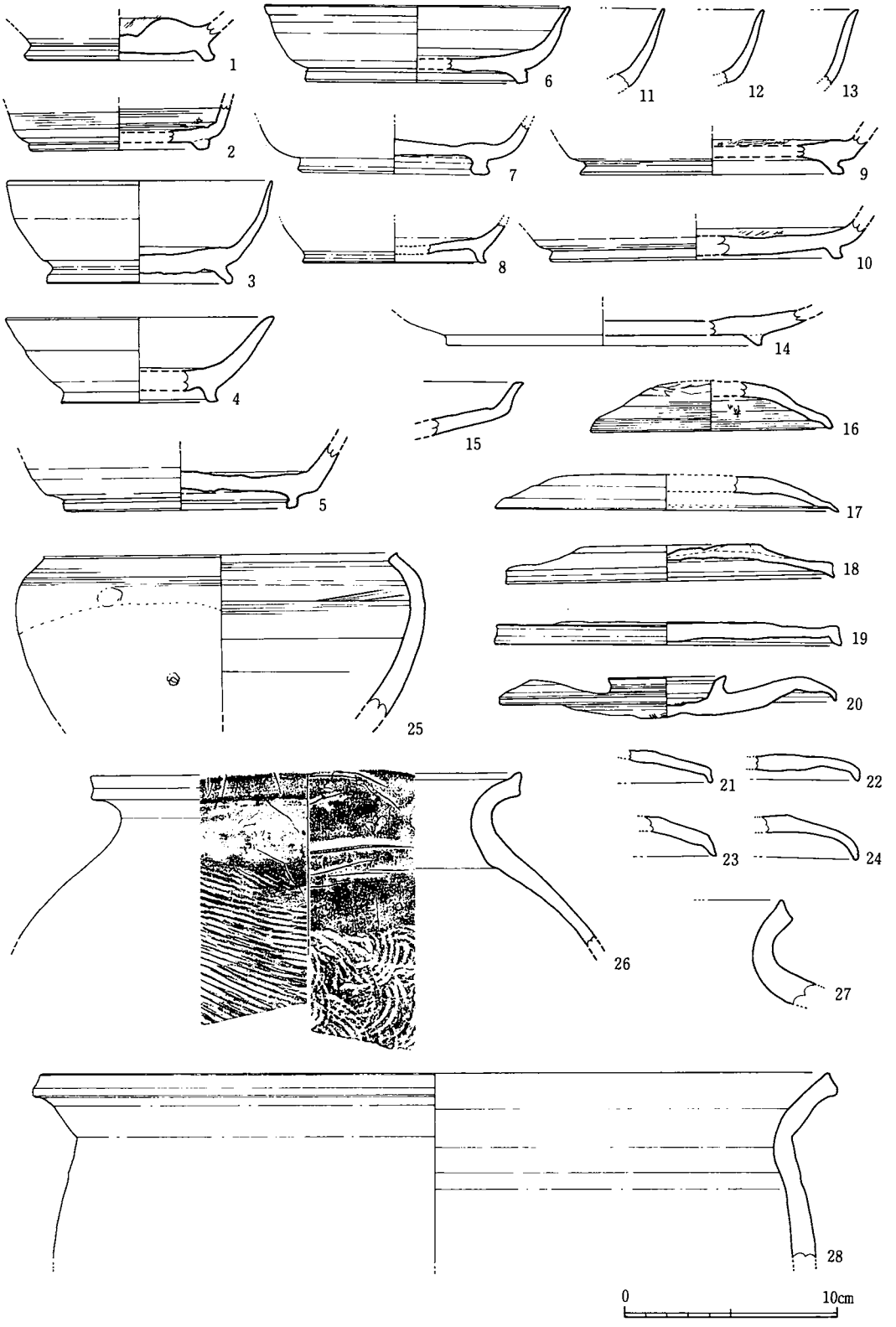
10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…5号土壙の東側№7　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密であるが、やや軽い感じを受ける。白色の微粒子を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…器面の荒れが激しいので調整痕の観察が困難である。口縁部には丁寧なナデ調整を施したと思われる。当遺物の下端部にタタキによる整形痕らしい痕がある。　(h)その他…内外器面に赤色顔料を化粧掛していたと推定される。口縁部の1/6周を残す。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…試掘溝の西側№1　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…やや粗い　(f)焼成…良好　(g)調整…口唇部から頸部にかけては横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ状の工具による調整を施す。（内器面）口縁部から頸部には横方向のナデ調整を施す。胴部には粗いヘラ削りを施す。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…4号溝状遺構№10　(c)大きさ…復元口径21.8cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1～3㎜ほどの砂粒と微細な造岩鉱物を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…ハケ状工具による調整の後、横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。口縁部の1/6周を残す。

b－2　第81図　打越235番地出土遺物（須恵器）

1　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…3号溝状遺構の東側№19　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.0cm・高台内径7.8cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…（外器面）黄色がかった灰色・（内器面）灰色がかった黄色　(e)胎土…やや粗い。気泡が見られる。黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面



第81図　打越235番地出土遺物（須恵器）

には回転ヘラ切り痕が残る。(内器面) 不定方向のナデ調整を施す。 (h)その他…外器面には自然釉がかかる。高台部の1/3周を残す。

2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…5号溝状遺構の西側No.3　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径8.5cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…緑がかった灰色 (e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…見込み部に指頭圧痕が残る。高台部の1/3周を残す。

3　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径12.6cm・器高4.8cm・高台径8.8cm・高台内径8.2cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰青色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。高台内面には回転ヘラ切りの痕が残る。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…3号土壙の西側No.5　(c)大きさ…復元口径12.6cm・器高4.0cm・復元高台径7.4cm・高台内径6.2cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…(外器面) 黄色がかった灰色を呈するが、高台付近はやや赤みを帯びる。・(内器面) 淡い黄色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には指によるナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に薄く自然釉がかかる。口縁部から底部にかけての破片である。口縁部の一部と高台部の1/2周を残す。

5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径11.0cm・高台内径9.6cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰色がかった黄色　(e)胎土…緻密・白色の微粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…高台部の1/4周を残す。

6　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Pit－3・No.1　(c)大きさ…復元口径14.6cm・器高3.6cm・復元高台径10.6cm・高台内径9.4cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・気泡が僅かに見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

7　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径9.1cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…内外面に自然釉がかかる。底面のみ残る。歪みが大きい。

8　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径8.8cm・高台内径8.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密 (f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に

自然釉がかかる。

9　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…4号溝状遺構No.6　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径12.4cm・高台内径11.2cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。（内器面）不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…高台部の1/4周を残す。

10　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…3号溝状遺構No.19　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径13.8cm・高台内径12.8cm・高台の高さ0.2cm　(d)色調…（外器面）暗い灰色から黒色・（内器面）緑がかった灰色　(e)胎土…緻密・白色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによる整形痕が良く残る。高台内面にはヘラ切りの痕が残る。（内器面）口縁部から胴部にかけてはロクロによるナデ調整を施す。見込み部には指による不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…高台部の1/4周を残す。

11　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…II層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面にロクロによる整形痕が残る。(h)その他…外器面に自然釉がかかる。

12　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…II層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面にロクロによる整形痕が残る。

13　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面にロクロによる整形痕が残る。

14　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…13号土壙No.1　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径14.9cm・高台内径14.6cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…青灰色・胎土は淡い黄色を呈する。　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒を含む。気泡もかなり見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）器面が荒れている。一部にロクロによるナデ調整の痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…内器面に盛り上がった部分がある。これは、胎土中の空気が焼成時に膨張した為と推定される。高台部の1/6周を残す。

15　(a)器種…須恵器・高坏　(b)出土遺構…15号土壙No.2　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜程の白色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）指によるナデ調整の痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。

16　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…5号溝状遺構西半分一括　(c)大きさ…復元口径11.4cm・器高2.3cm　(d)色調…緑灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部付近にはロクロによるナデ調整を施す。上面の中央部にはヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…内器面の天井部には指頭圧痕

が残る。口縁部の1/6周を残す。

17　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…復元口径16.2cm・器高1.7cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。外器面中央部には回転ヘラ削りの痕が残る。

18　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…５号土壙№３　(c)大きさ…復元口径15.4cm・器高1.7cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にはロクロによるナデ調整を施す。頂部には指による粗いナデ調整を施す。（内器面）口縁部にはロクロによるナデ調整を施す。天井部には指による丁寧なナデ調整を施す。　(h)その他…天井部は全て残存する。口縁部の1/5周を残す。

19　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径16.3cm・器高1.1cm　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はロクロによるナデ調整を施す。頂部は回転ヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…少し歪む。

20　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…３号溝状遺構の東側№８　(c)大きさ…復元口径15.9cm・器高1.9cm・摘みの径5.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・白色の粒子を僅かに含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から胴部にかけてはロクロによるナデ調整を施す。摘み部の内面にはヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。天井部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…摘みの内外面に自然釉がかかる。摘み部の1/2周を残す。

21　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。

22　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。

23　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。

24　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。

25　(a)器種…須恵器・無頸壷　(b)出土遺構…12号土壙№４　(c)大きさ…復元口径16.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・細かい気泡が見られ

る。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に自然釉がかかっているが、風化により器面がかなり剝落する。口縁部の1/5周を残す。

26　(a)器種…須恵器・壺　(b)出土遺構…5号土壙№6　(c)大きさ…復元口径20.4cm・器高不明　(d)色調…（外器面）赤褐色・（内器面）赤橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけてはロクロによるナデ調整を施す。胴部には平行タタキを施す。頸部はタタキによる整形痕をナデている。（内器面）口縁部から頸部にかけてはロクロによるナデ調整を施す。胴部には青海波文タタキを施す。頸部はタタキによる整形痕をナデている。　(h)その他…一般に赤焼き須恵器と呼ばれる遺物である。口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/5周を残す。

27　(a)器種…須恵器・壺　(b)出土遺構…II層上面　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…赤焼き須恵器である。

28　(a)器種…須恵器・カメ　(b)出土遺構…第I層下面・第II層上面　(c)大きさ…復元口径38.0cm・器高不明　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にはナデ調整を施す。胴部には格子タタキを施す。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…一見、土師器状を呈する。

2．1683—1番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

a—1　9号溝状遺構

道路遺構である。236番地と1683—1番地との境となっている農道の東側に沿って遺構を検出した。当遺構の東側に隣接して5号住居状遺構が存在する。

道路遺構の幅は1.3m程である。遺構検出面と路面との差は10～15cmである。路面の硬化は良く進んでいる。硬化した土中に土師器の細片が含まれる。

当遺構は現存する農道に先行する道路遺構と推定される。遺構の確実な年代は明らかではないが、江戸時代以前の道路遺構と推定される。

a—2　10号溝状遺構

5号住居状遺構の北側を東西に走る溝遺構である。遺構検出面から底面までの深さ0.1～0.2m・幅0.3mを測る。

覆土は黒色土であり、須恵器を包含する。遺構検出面は5号住居状遺構と同一であることから、遺構の年代もそれと近いと推定される。

②　出土遺物

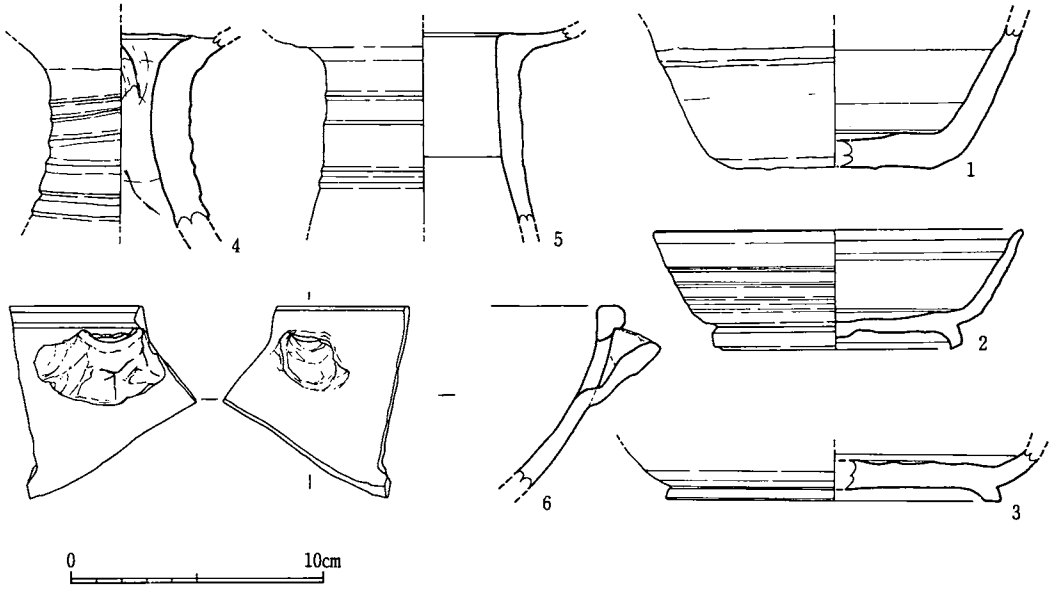
b－1　第82図　打越1683－1番地出土遺物（須恵器・陶器）

1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…第Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.2cm　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底面にはヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…第Ⅱ層№16　(c)大きさ…復元口径14.6cm・器高4.7cm・高台径9.8.cm・高台内径9.0cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）やや粗いロクロによるナデ調整を施す。底面にはヘラ削りを施す。（内器面）やや粗いロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/5周を残す。

3　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…第Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径13.4cm・高台内径11.8cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・白色の細かい粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底面にはヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…底部のみの破片である。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…第Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不



第82図　打越1683－1番地出土遺物（須恵器・陶器）

明　(d)色調…（外器面）オリーブ色がかった黒色から黒色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…器表には自然釉がかかる。脚部の破片である。

5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…第II層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…赤みをおびた灰色　(e)胎土…緻密・直径１㎜程の砂粒と白い粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。少し手法が粗い。

6　(a)器種…陶器・片口　(b)出土遺構…11号溝状遺構（1683－１番地と1682番地の境界付近）　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…素地は赤褐色を呈する。濃い緑釉がかかり、その上に白い釉が垂れる。又、器表には細かな貫入が走る。　(h)その他…江戸時代末から明治時代初期の遺物と推定される。

３．1682番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

ａ－１　11号溝状遺構

溝遺構である。西側の端部はラッパ状に広がり、勾配が急に緩やかになる。底面には水が流れた時抉ったと思われる穴が所々にみられる。

溝の中の堆積物の中から近世の陶磁器（黒牟田焼と思われる黒褐色の鉄釉のかかったカメの破片や波佐美焼と思われる染付けの碗等）を数点検出した。

当遺構は従来から畑の境界となっていたと思われる。「Ｌ」字状に屈曲した溝遺構の上に現在の畑の畦（1683－１番地と1682番地の境界）が乗っている。

溝の底面（11の２～４号溝状遺構）が取り残されていることから、当遺構は数回掘り替えが為されている（第83図参照）と推定される。

ａ－２　12号溝状遺構

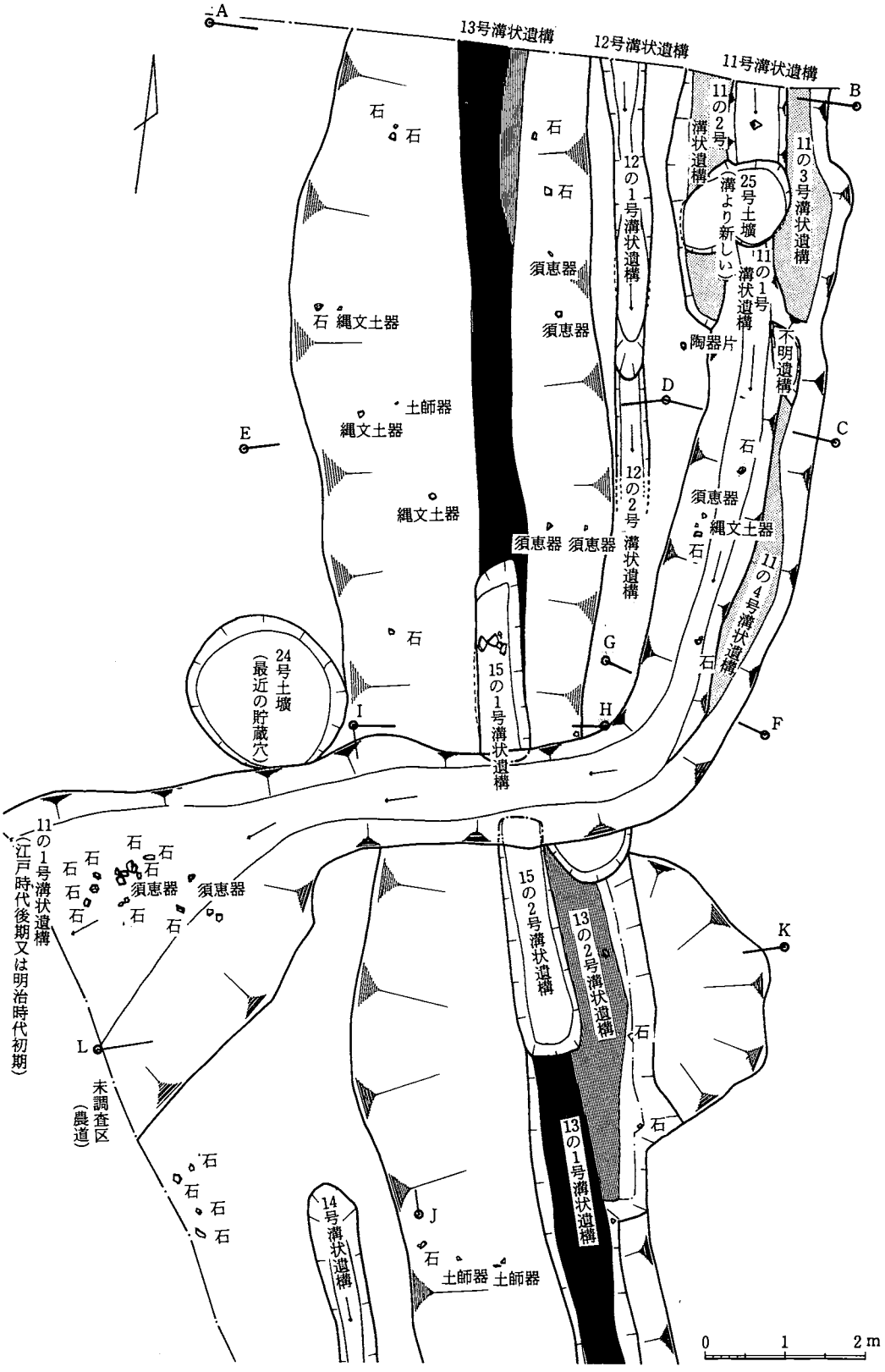
11号溝状遺構の西側を南北に走る溝遺構である。第83図からわかるように、一度掘り替えが為されている。また、南端部が11号溝状遺構によって切り取られている。

覆土及び出土遺物は11号溝状遺構に類似する。この点と遺構の検出位置及び形状から、当遺構を拡充して新たに掘削した溝が11号溝状遺構であろうと推定される。

ａ－３　13号溝状遺構

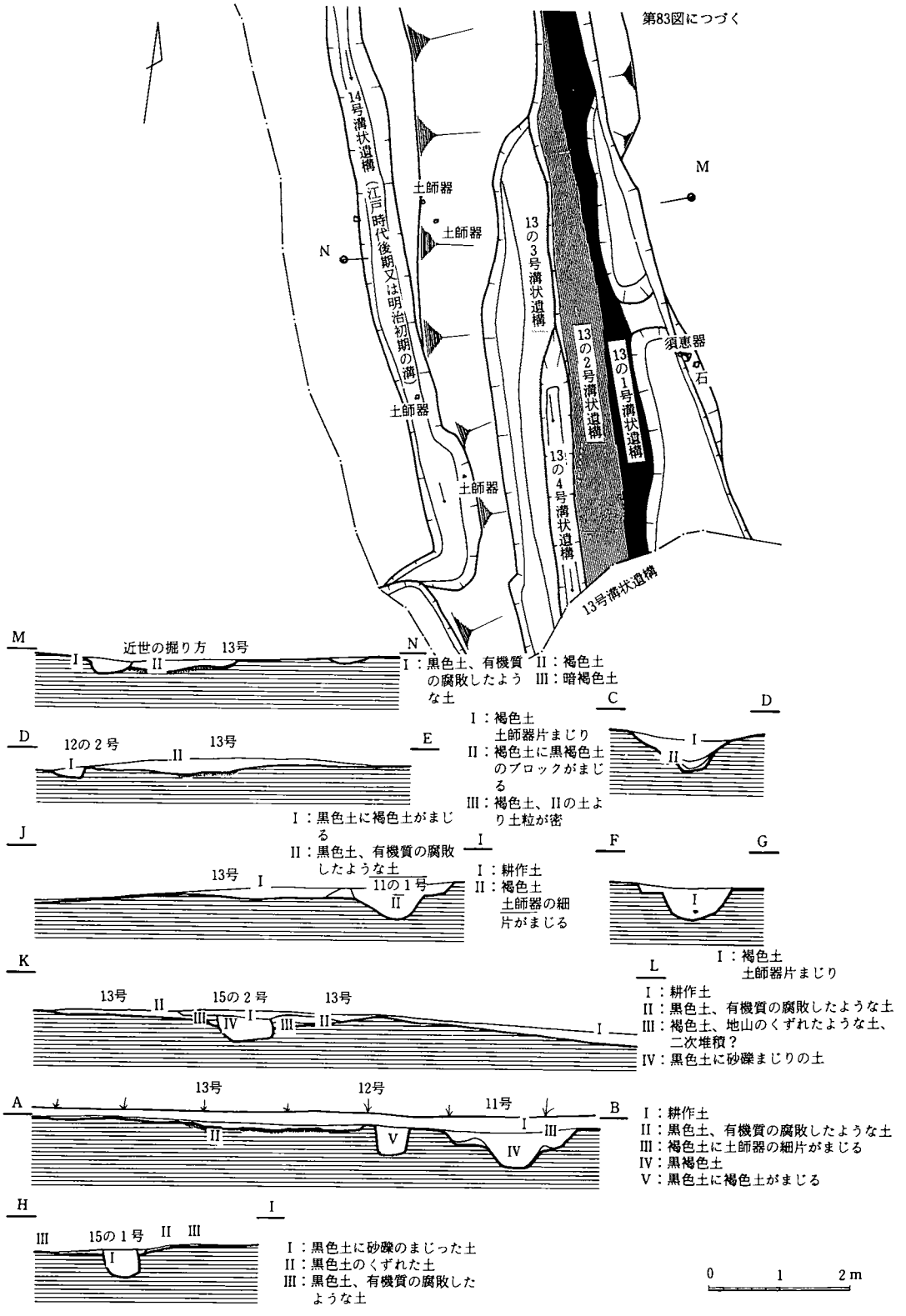
南北に走る道路遺構である。断面は浅い皿状を呈する。覆土は黒色土である。路面は硬化しており、３枚の硬化面が見られる。３枚の硬化面（３本の道路）の中で、13の１号溝状遺構（道路遺構）が最も新しく、13の３号溝状遺構（道路遺構）が古い遺構である。

13の４号溝状遺構は、13の２号・13の３号溝状遺構（道路遺構）を切る溝遺構（道路又は畑の排水路）と推定される。



第83図　11号～15号溝状遺構実測図　その1

第84図につづく



第84図　11号～15号溝状遺構実測図　その２

13号溝状遺構からの出土遺物は、土師器・須恵器である。

13号溝状遺構の覆土・出土遺物及び遺構の走る方向から推定すると、29号溝状遺構又は28号溝状遺構と一連の遺構と推定される。

a－4　14号溝状遺構

13号溝状遺構の西側を南北に走る溝遺構（畑の排水路？）である。覆土中から近世の陶磁器の破片が少量出土したので、江戸時代後期～明治時代初期の遺構と推定される。

a－5　15号溝状遺構

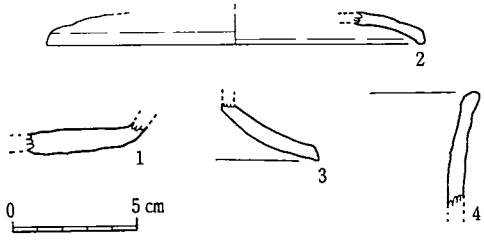
13号溝状遺構の中央部を切る遺構である。また、11の１号溝状遺構によって南北に二分されている。覆土の様子からすると近世の遺構と思われる。

溝遺構のように長く延びる遺構ではあるが、途中でぷっつりと切れているので単なる溝遺構ではないと思われる。何かの貯蔵穴とも推定されるが詳らかではない。

②　出土遺物

b－1　第85図　打越1682番地出土遺物（土師器・須恵器）

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…1682番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…底部の小片である。



第85図　打越1682番地出土遺物（土師器・須恵器）

2　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…1682番地・一括　(c)大きさ…復元口径14.9cm・器高不明　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）鈍い黄褐色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。(h)その他…外器面に釉がかかる。

3　(a)器種…土師器・器種不明　(b)出土遺構…1682番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。(h)その他…一部にススが付着する。何かの口縁部又は脚部と思われる。

4　(a)器種…土師器・器種不明・口縁部　(b)出土遺構…1682番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄褐色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…壷又はカメの口縁部と思われる。

４．1686－１番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

ａ－１　16号溝状遺構

1686－１番地の西側の縁部（1684番地との境界）から遺構を検出した。発掘調査区域の関係で極一部しか発掘出来なかったが、南北に走る近世の溝遺構であることを確認した。

覆土の様子及び検出位置から推定すると、11号溝状遺構及び26号溝状遺構と一連の遺構と思われる。

ａ－２　17号溝状遺構

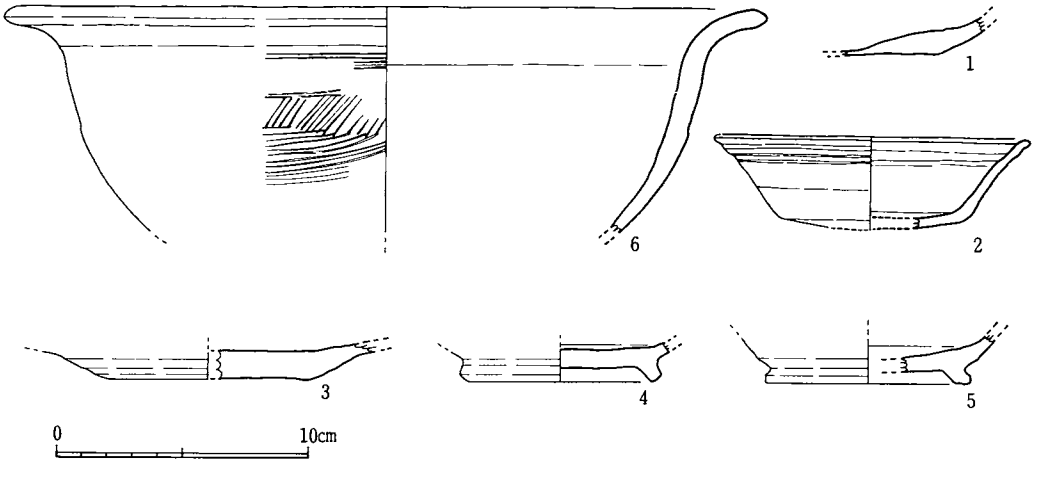
1686－１番地の南端部を東西に走る遺構である。底面は平らであることから、溝遺構とも道路遺構とも判断しかねる。ただし、硬化面が明瞭でないことから、道路遺構である可能性は少し弱い。覆土は黒色土であり、出土遺物は土師器・須恵器である。

②　打越1686－１番地出土遺物

第86図　打越1686－１番地出土遺物（土師器・須恵器）

１　(a)器種…土師器・皿の底部　(b)出土遺構…３号掘建柱建物遺構柱穴（II層下面）　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの跡が残る。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛した可能生がある。

２　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ　口径12.4cm・器高3.1cm　(d)色調…赤橙色　(e)胎土…緻密・直径1mm程度の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛している。



第86図　打越1686－１番地出土遺物（土師器・須恵器）

3　(a)器種…須恵器・皿　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.3cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径7.4cm・高台内径6.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…16号土壙№1　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径8.1cm・復元高台内径6.6cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

6　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径30.3cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や雲母等を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横ナデ調整、胴部にはハケ調整を施す。（内器面）口縁部は丁寧な横ナデ調整、胴部はヘラ調整の後に粗いナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に僅かにススが付着する。

5．1684番地出土の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

a－1　18号溝状遺構

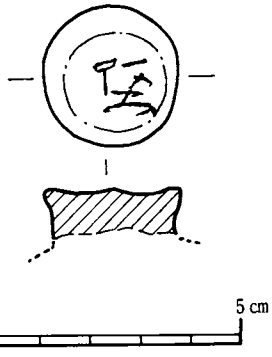
1684番地の中央部を南北に走る溝遺構である。6号住居状遺構の中央部を切る。出土遺物は土師器・須恵器の細片である。覆土は黒褐色土であり、粘性及び締まりにかける。

遺構の幅0.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.4m強を測る。

②　1684番地出土の遺物

b－1　第87図　打越1684番地出土の墨書土器

1(a)器種…土師器・坏の蓋の摘み　(b)出土遺構…1684番地・Ⅰ層一括　(c)大きさ…直径2.7cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…摘みの上面に墨書あり。書名は明らかでない。



第87図　打越1684番地出土の墨書土器

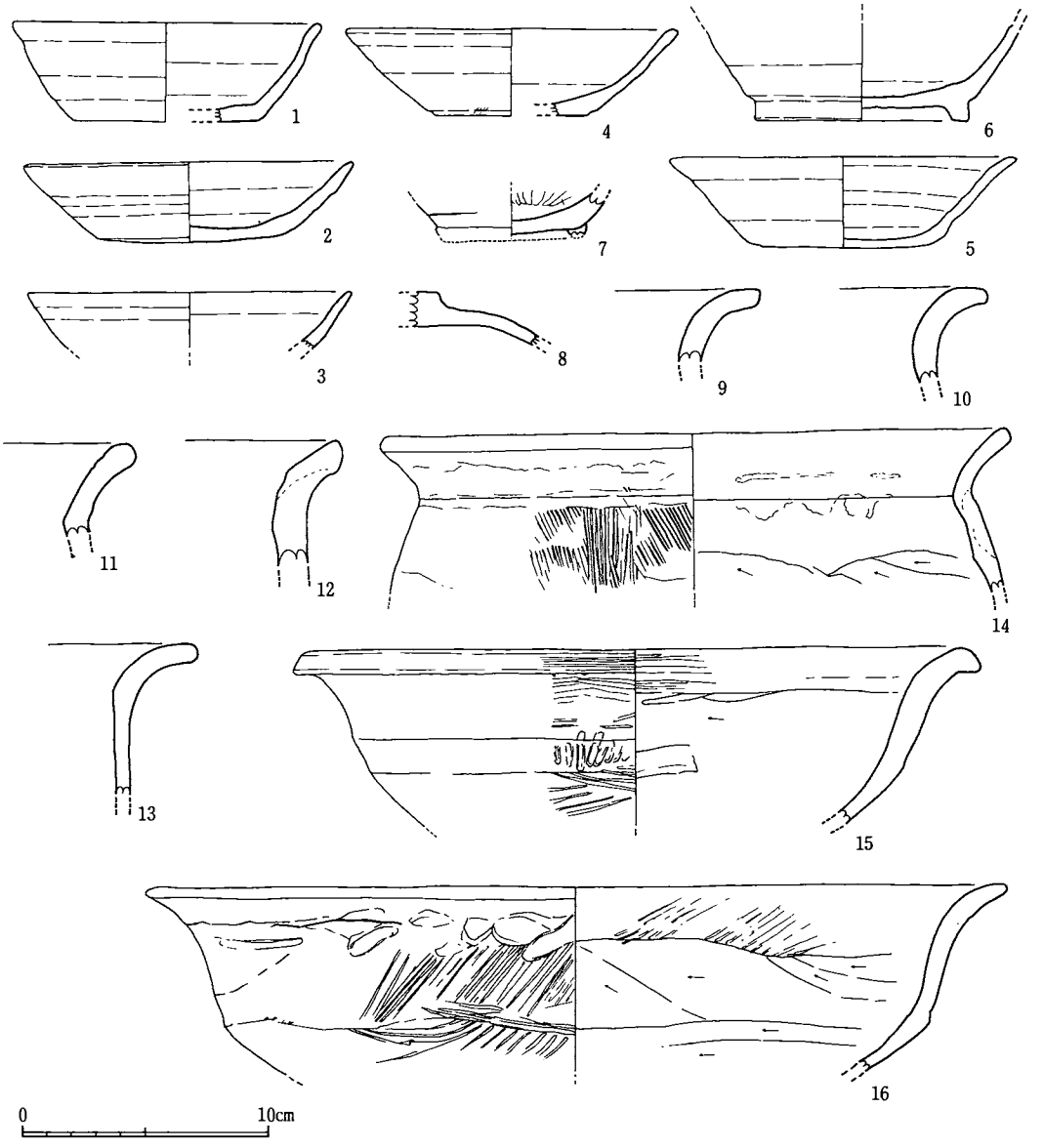
b－2　第88図　打越1684番地出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…Pit－19　(c)大きさ…復元口径12.6cm・器高4.0cm　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…6号住居状遺構IV層一括　(c)大きさ…復元口径13.2cm・器高4.2cm　(d)色調…口縁部付近は褐色がかった灰色・胴部から底部は灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

3　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…II層上面　(c)大きさ…復元口径13.2cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。

4　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…Pit—19　(c)大きさ…復元口径13.5cm・器高3.5cm



第88図　打越1684番地出土遺物（土師器）

(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。底部にハケ状工具による調整痕が残る。

5　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…Ⅱ層上面　(c)大きさ…口径13.9cm・器高3.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。

6　(a)器種…土師器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径8.1cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…器表の磨滅が激しく、調整痕は不明である。横ナデ調整とヘラ状工具による研磨を施した可能性が強い。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛していた可能性がある。

7　(a)器種…土師器・高台付坏・黒色土器　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）黒色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）ヘラ状工具による研磨を施す。

8　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横ナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横ナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも横ナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Pit－6　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部には横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部にはヘラ削りの後ナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。(h)その他…口縁部の破片である。外器面の胴部にはススが付着する。

13　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅰ層№3　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…やや粗い・直径1㎜程の砂粒及び黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部には横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部から頸部には横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。(h)その他…口縁部の破片である。

14　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Pit－9　(c)大きさ…復元口径25.6cm・器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部は横ナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部付近には粗いナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。(h)その他…口縁部の1/5周を残す。

15　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…上層一括　(c)大きさ…復元口径28.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）赤みを帯びた黒色から赤みを帯びた灰色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向の粗いナデ調整を施す。胴部以下には櫛状の工具による調整を施す。（内器面）口縁部には横方向の粗いナデ調整、胴部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/6周を残す。

16　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径35.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）灰色がかった褐色・（内器面）淡い橙色　(e)胎土…やや粗い・直径1m程の砂粒と黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部にはハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部にはハケ状工具による調整の後、横方向のナデ調整を施す。所々に良く調整痕が残る。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

b－3　第89図　打越1684番地出土遺物（須恵器・瓦）

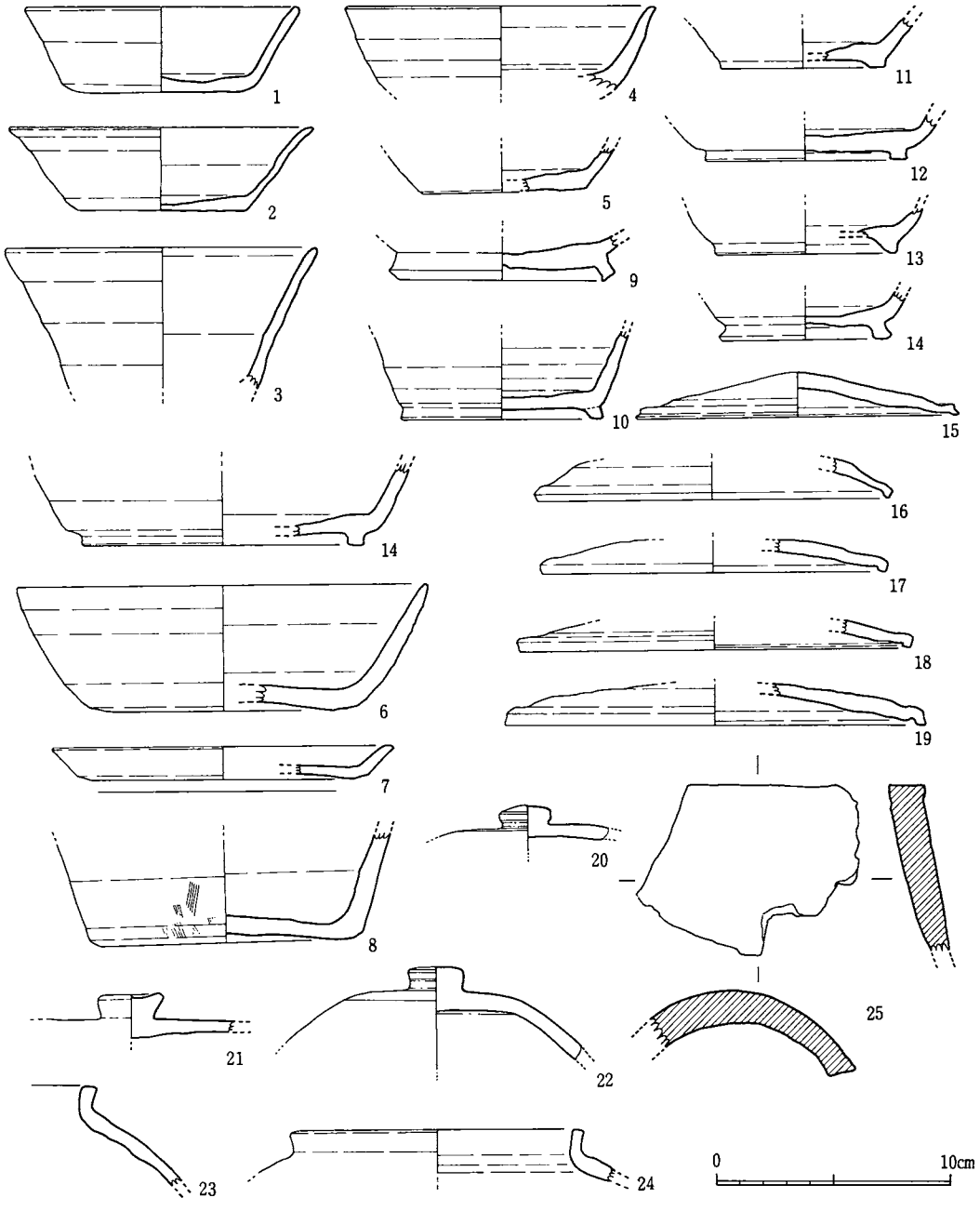
1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径10.6cm・器高3.7cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径13.0cm・器高3.5cm　(d)色調…（外器面）口縁部から胴部の中位にかけては灰白色・胴部の中位以下は褐色がかった灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・粒の大きな砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径13.2cm・器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

4　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径13.4cm・器高不明　(d)色調…（外器面）灰色と黒色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面には焼きむらが見られる。

5　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.1cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。



第89図　打越1684番地出土遺物（須恵器・瓦）

6　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径17.6cm・器高5.2cm　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面には焼きむらが見られる。

7　(a)器種…須恵器・皿　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径14.5cm・器高1.4cm

(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

8　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径11.6cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。外器面に僅かにハケ調整の痕が残る。

9　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.0cm・高台内径8.4cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

10　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径8.7cm・高台内径7.6cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

11　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径7.0cm・高台内径5.6cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

12　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径8.6cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

13　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径7.8cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

14　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径7.4cm・高台内径5.6cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・小礫及び白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

15　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Pit－4　(c)大きさ…復元口径13.8cm・器高1.8cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。ハケ状工具による調整の痕が僅かに見られる。　(h)その他…整形が不良である。

16　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径15.0cm・器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

17　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径14.8cm・器高不明　(d)色調…口縁部の外器面は褐色がかった灰色・それ以外は灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…器面の磨滅が激しい。ナデ調整を施すと考えられる。

18　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径16.7cm・器高不

明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…少し歪みがある。

19　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径18.0cm・器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…少し歪みがある。

20　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

21　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

22　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

23　(a)器種…須恵器・短頸壷　(b)出土遺構…Ⅱ層上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒をかなり多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

24　(a)器種…須恵器・短頸壺　(b)出土遺構…Ⅰ層上面一括　(c)大きさ…復元口径12.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

25　(a)器種…瓦・丸瓦　(b)出土遺構…6号住居状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…長さ7.2cm・幅9.5cm・厚さ1.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好

6．237番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

a－1　19号溝状遺構

当遺構は、237番地の東側の農道に沿って南北に走る溝遺構である。遺構の南端部は「L」字状に東側へ屈曲する。屈曲部は近世の溝遺構（22号・23号溝状遺構）によって切られている。しかし、当遺構は20号溝状遺構（道路遺構）及び21号溝状遺構（溝遺構）を切っている。遺構検出面から底面までの深さ0.1m・溝の幅0.4～0.8mを測る。覆土は黒褐色土であり、土師器・須恵器の破片を含む。

a－2　20号溝状遺構

南北に走る道路遺構である。硬化面が19号溝状遺構と21号溝状遺構によって切られている。硬化面の幅0.3～0.4m・残存する長さ約3mを測る。硬化した土の中に土師器の細片を含む。

ａ－３　21号溝状遺構

28号土壙の東側を南北に走る溝遺構である。当遺構は20号溝状遺構（道路遺構）を切り、19号・22号・23号溝状遺構によって切られている。

溝の幅1.8m・遺構検出面から底面までの深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色土であり、炭素粒を含み、粘性がある。

ａ－４　22号・23号溝状遺構

237番地の南端を東西に走る溝遺構である。22号溝状遺構と23号溝状遺構は並行して延びており、23号溝状遺構が先行する遺構である。両遺構とも排水路と思われる遺構である。これ等は掘り替えをして、規模を拡充したものと推定される。

溝の幅0.8～2.1m・遺構検出面から底面までの深さ0.2～0.5mを測る。覆土中から染付けの碗（波佐美焼等）が出土する。

ａ－５　24号溝状遺構

弥生時代の住居址（１号・２号住居址）の西側を南北に走る溝状遺構である。溝遺構か、又は、道路遺構か明らかでない。

遺構の断面は皿状を呈し、緩やかに中央部が窪む。遺構検出面から底面までの深さは0.1m未満である。覆土は暗褐色土である。

遺構の年代は詳らかでない。

ａ－６　25号溝状遺構

24号溝状遺構の西側を南北に走る溝遺構と推定される。遺構の幅0.6m・遺構検出面から底面までの深さ0.1～0.2mを測る。覆土は暗褐色土である。

遺構の年代は詳らかでない。

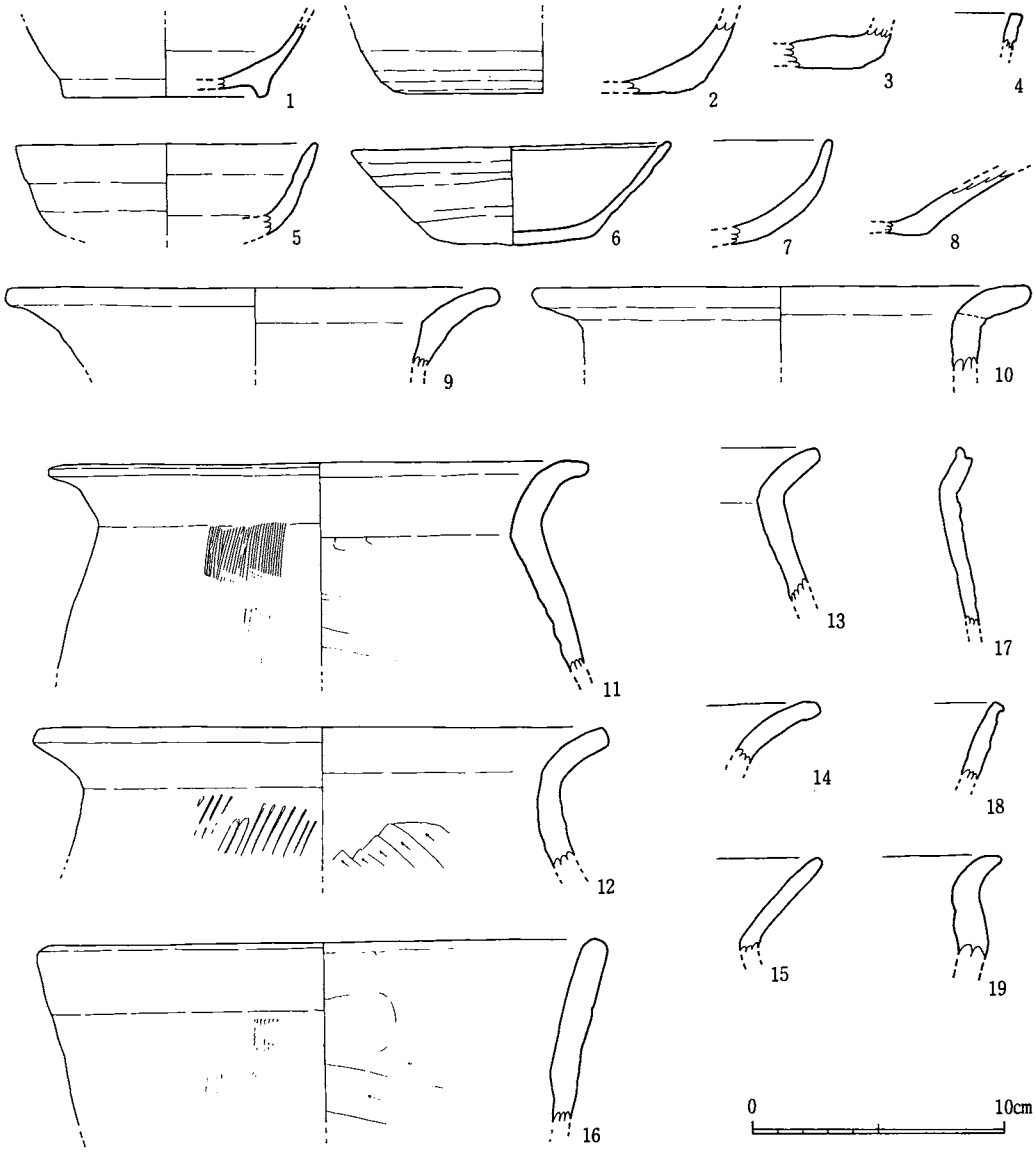
②　出土遺物

ｂ－１　第90図　打越237番地出土遺物（土師器）

１　(a)器種…土師器・高台付坏・黒色土器　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径8.2cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…（外器面）鈍い橙色・（内器面）黒色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部を欠失する。

２　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・底径11.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。底面にヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…立ち上がり部の破片である。赤色顔料を化粧掛する。

３　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…立ち上が



第90図　打越237番地出土遺物（土師器）

り部の破片である。

4　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰色がかった黄褐色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。外器面に２本の凹線が廻る。　(h)その他…口縁部の破片である。

5　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層　(c)大きさ…復元口径12.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径２㎜程の礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…下方にススが付着する。

6　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…第Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径12.8cm・器高3.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…内外器面に赤色顔料を化粧掛する。しかし、見込み部には赤色顔料が見られないことから、この部分には化粧掛がなされていなかった可能性がある。外器面の剝落が激しい。口縁部の1/2周を欠失する。

7　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…23号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

8　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…25号溝状遺構№2　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径19.6cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…口縁部には横ナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径19.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…口縁部に横ナデ調整を施す。内器面の頸部付近にヘラ削りの痕が僅かに残る。(h)その他…口縁部の破片である。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径21.6cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはハケ調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）「V」字形の工具で削っている。　(h)その他…小片である。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径23.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部には削りを施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。赤色顔料を化粧掛する。

13　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部には縦方向の大きなハケ調整の後、ナデ調整を施す。（内器面）口縁部にはナデ調整を施す。頸部以下には粗いヘラ削りを施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛する。

14　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…23号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

15　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。一部に、ハケ調整の後、ナデ調整を施した所が見られる。　(h)その他…口縁部の破片である。

16　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径22.7cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び黒色造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはハケ調整の後、横ナデ調整を施す。(内器面) 口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

17　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…25号溝状遺構No.2　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ハケで横方向に調整した後、再び縦方向に調整している。(内器面) ナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の破片である。

18　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ハケ調整を施す。(内器面) ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

19　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…やや粗い。砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) ナデ調整を施す。(内器面) 口縁部にナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

b－2　第91図　打越237番地出土遺物（須恵器）

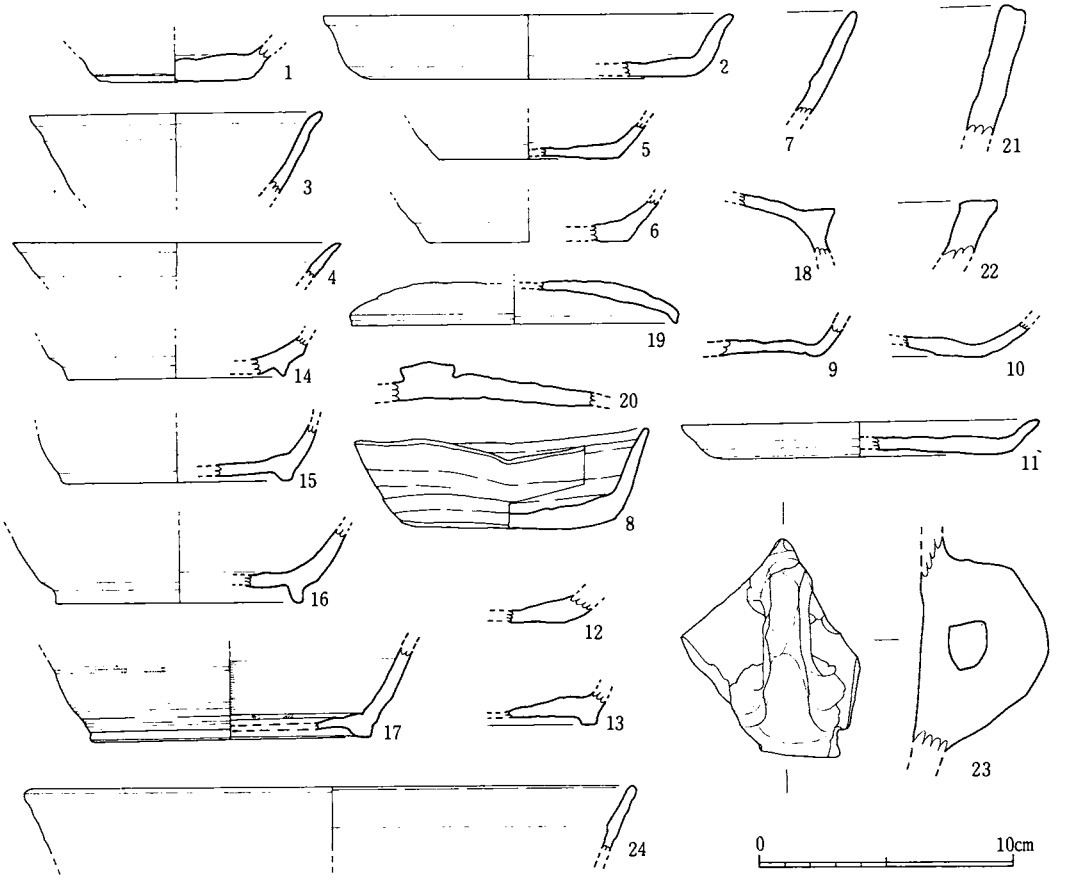
1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底形6.0cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…底部の破片である。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径16.4cm・器高2.5cm・復元底形13.0cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径11.6cm・器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

4　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径13.0cm・器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

5　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層　(c)大きさ…復元口径7.2cm・器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ



第91図　打越237番地出土遺物（須恵器）

調整を施す。

6　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…23号溝状遺構II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.0cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・僅かに白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。底部にはハケによる調整が見られる。（内器面）ナデ調整を施す。見込み部にはナデとハケによる調整が見られる。

7　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ｉ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黒褐色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に自然釉がかかる。

8　(a)器種…須恵器・坏・片口　(b)出土遺構…Pit内　(c)大きさ…口径11.8cm・器高3.4cm・底径8.4cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・白色の微粒子を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも丁寧なナデ調整を施す。底面はヘラ切りの後、ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部を歪ませて、片口になっている。少し焼き歪みがある。完形である。

9　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…青灰

色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。

10　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…一部に自然釉がかかる。

11　(a)器種…須恵器・皿　(b)出土遺構…第Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径14.2cm・器高1.4cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。底部にはヘラ切りの痕が残る。

12　(a)器種…須恵器・皿又は坏　(b)出土遺構…第Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

13　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。(h)その他…一部に自然釉がかかる。

14　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.6cm　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

15　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅱ層　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.2cm・高台内径8.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

16　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.8cm・高台内径9.0cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

17　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径11.2cm・高台内径9.6cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。上部には縦方向のナデ調整も見える。(内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

18　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…23号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…自然釉がかかる。

19　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…23号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径13.0cm・器高不明　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナ

デ調整を施す。

20　(a)器種…須恵器・坏の宝珠摘み付の蓋　(b)出土遺構…23号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。

21　(a)器種…須恵器・鉢　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

22　(a)器種…須恵器・鉢　(b)出土遺構…22号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黒褐色・（内器面）褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面に自然釉がかかる。

23　(a)器種…須恵器・器種不明・把手　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…胴部にはタタキを施す。把手の部分はナデ調整を施す。

24　(a)器種…陶器・鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径24.4cm・器高不明　(d)色調…暗い赤褐色　(e)胎土…緻密・僅かに白い砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…擂鉢の可能性がある。胴部内面以外には褐色の釉をかける。

7．1687番地検出の溝状遺構及び周辺の出土遺物

①　溝状遺構の検出状況

a－1　26号溝状遺構

1687番地と1686－1番地の境界付近を南北に走る溝遺構である。先に述べた11号溝状遺構と一連の遺構と判断される溝遺構である。

遺構の幅0.7～1.0m・遺構検出面から底面までの深さ0.2～0.3m・底面の勾配5.4％を測る。

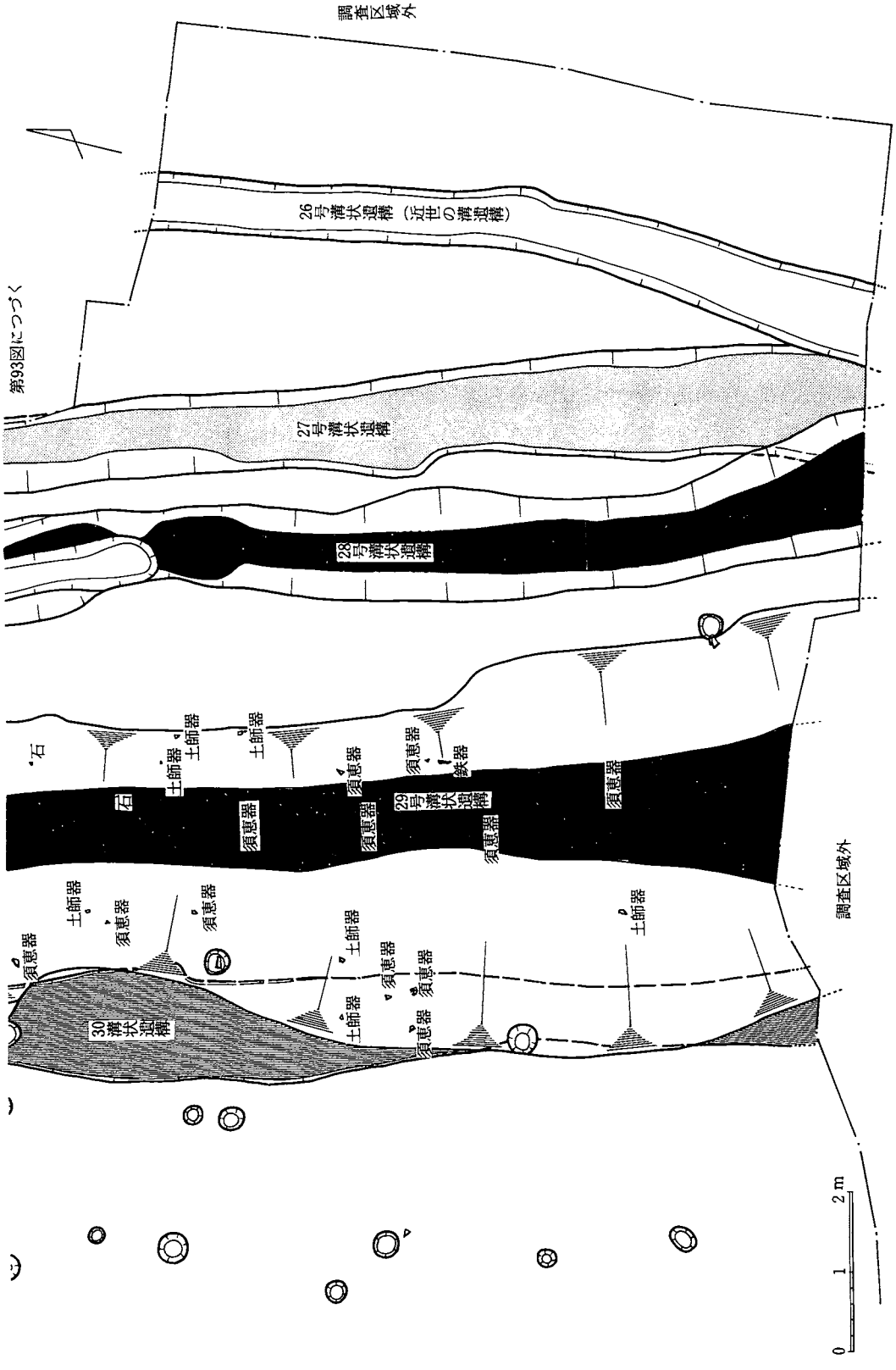
a－2　27号溝状遺構

1687番地の東側の境界に沿って南北に走る溝遺構である。当遺構は、26号溝状遺構と28号溝状遺構によって切られている。

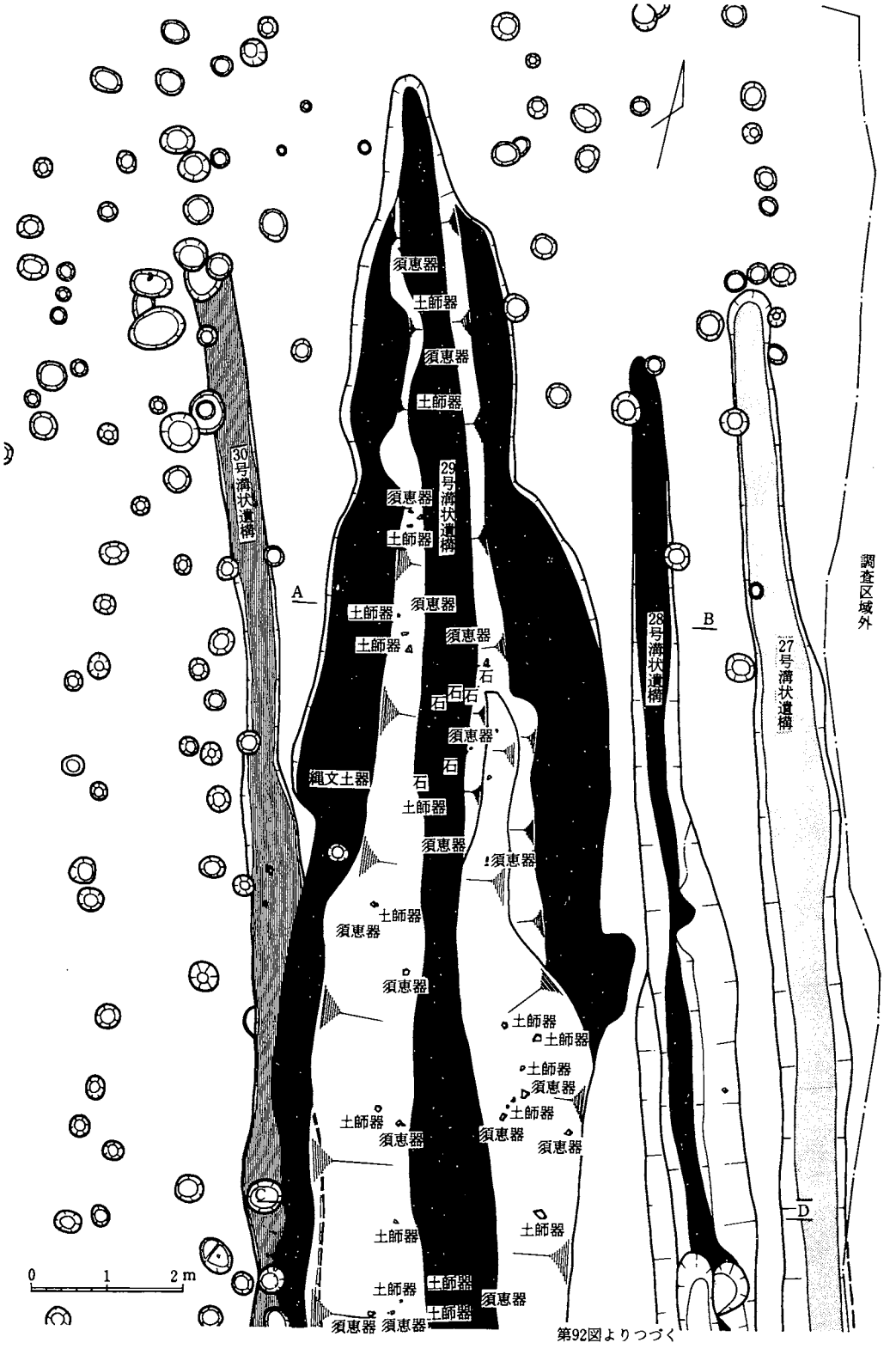
覆土は少し暗い褐色土であり、1号住居状遺構の覆土と類似する。また、遺構検出過程も双方とも似ており、第Ⅱ層（黄褐色土と黒色土の混じった土層）の下から検出された。

遺構の存在は、試掘調査の時に確認されていた。しかし、遺物が多量に出土すること・試掘溝に遺構のほんの一部が掛かり掘り込みがあることを確認したことから、竪穴式住居址であろうと考えられていた。

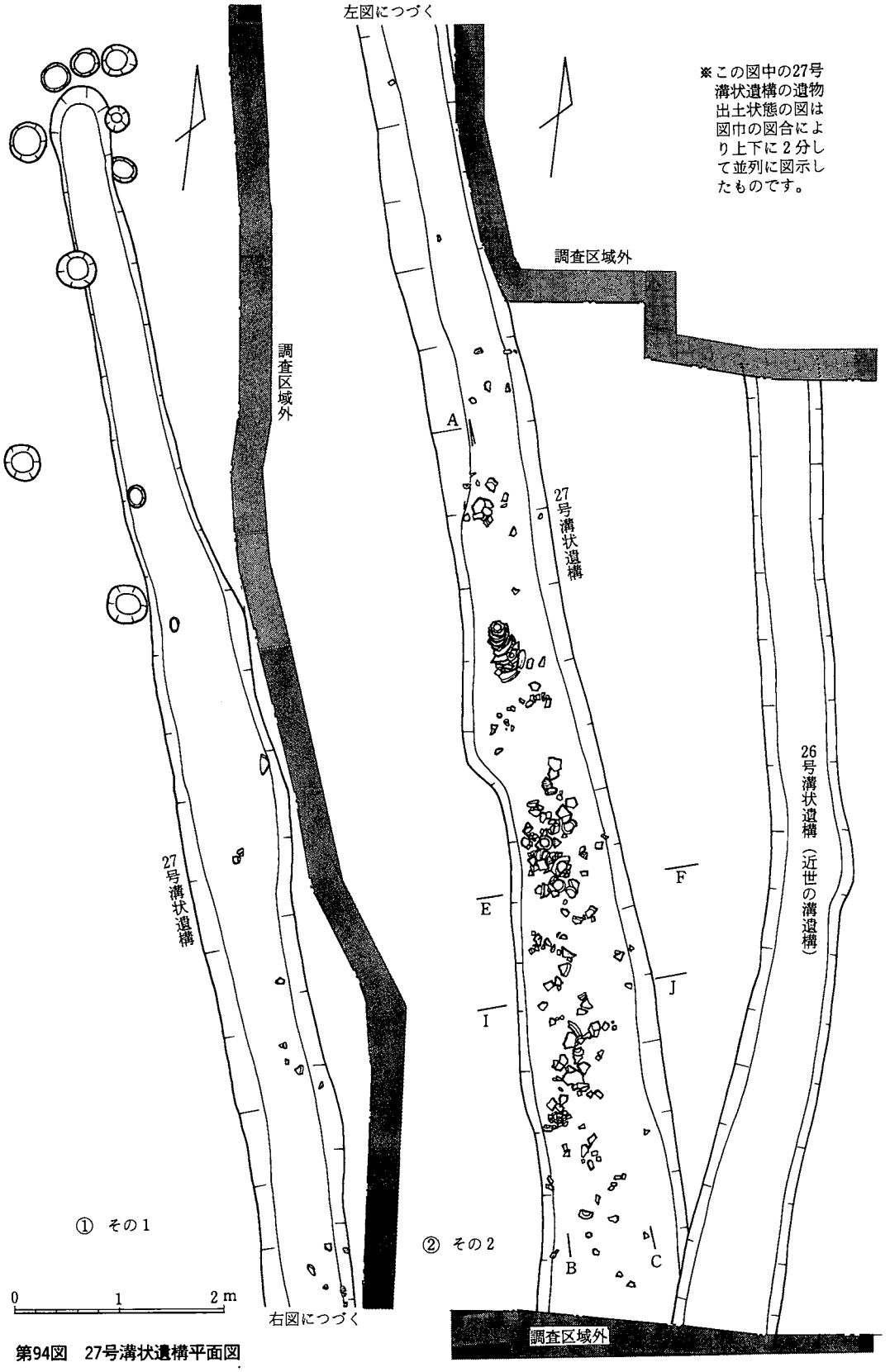
遺構が存在する所の地形が、北の方から南の方へ緩やかに下がるため、溝の幅が北に行くに



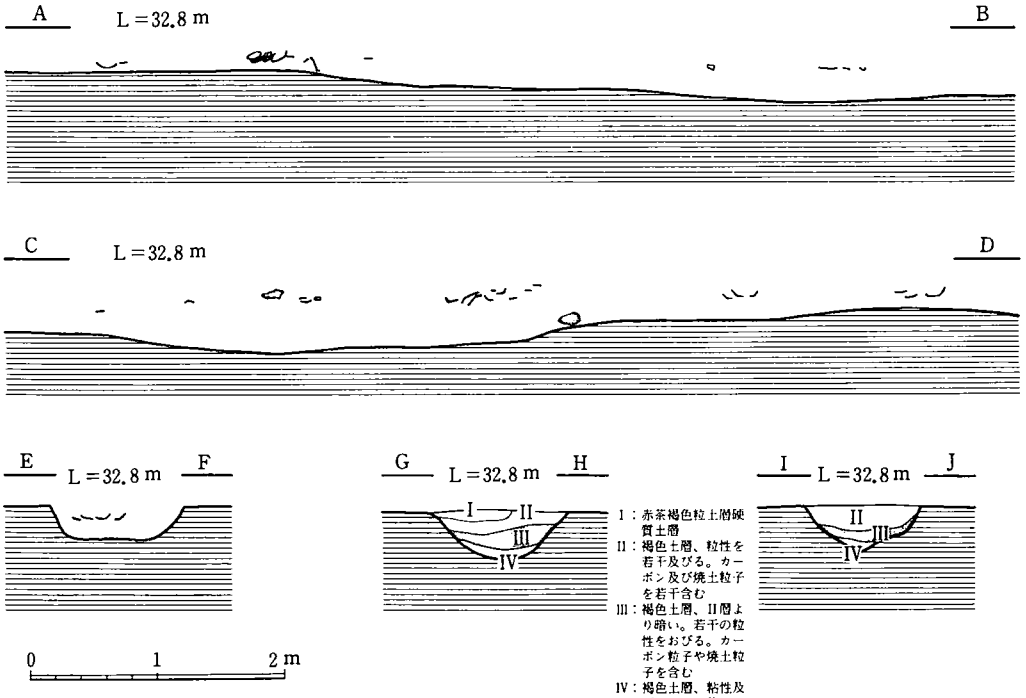
第92図　26号～30号溝状遺構　その1



第93図　26号～30号溝状遺構　その２

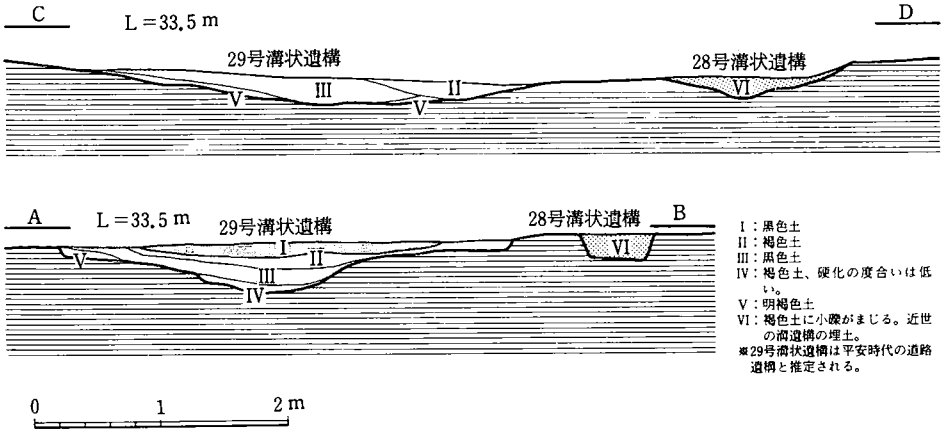


第94図　27号溝状遺構平面図



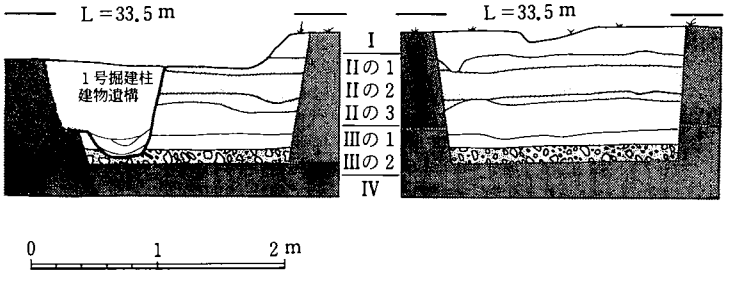
Ⅰ：赤茶褐色粒土層硬質土層
Ⅱ：褐色土層、粒性を若干及びる。カーボン及び焼土粒子を若干含む
Ⅲ：褐色土層、Ⅱ層より暗い。若干の粒性をおびる。カーボン粒子や焼土粒子を含む
Ⅳ：褐色土層、粘性及びしまりが強い。第Ⅱ・Ⅲ層より明るい。

① 第94図27号溝状遺構断面図



Ⅰ：黒色土
Ⅱ：褐色土
Ⅲ：黒色土
Ⅳ：褐色土、硬化の度合いは低い。
Ⅴ：明褐色土
Ⅵ：褐色土に小礫がまじる。近世の溝遺構の埋土。
※29号溝状遺構は平安時代の道路遺構と推定される。

② 第92・93図28・29号溝状遺構断面図



Ⅰ：耕作土
Ⅱの１：黄褐色土、Ⅱの２より褐色が強い。
Ⅱの２：黄褐色土
Ⅱの３：黄褐色土に黒色土がまじる。第３層の遷移層
Ⅲの１：黒色土、阿蘇溶結凝灰岩のⅣ層？乾燥すると灰色となる。火山灰と思われる。
Ⅲの２：黒色土に紫色の土がまじる。また、小豆大の礫もまじる。第Ⅳ層の遷移層。
Ⅳ：礫岩の風化した土、紫色を呈し硬い土である。木原山の母岩（白亜期の礫岩）の風化した土。

③ 第71図１号掘建柱建物遺構付近の土層図

第95図　27号～29号溝状遺構の断面図及び同遺構付近の土層断面図

従って狭くなる。

遺構検出面から底面までの深さ0.3～0.4m・幅0.8～1.4mを測る。底面の勾配は約5％である。出土遺物は土師器・須恵器が多数出土した。第94図にも示すように、一ケ所に6枚もの坏が重なった状態で出土した例もある。

これ等の出土遺物は、溝の中に単に投棄された物であるのか、あるいは、何かの目的の為に溝の中に置かれた物であるのか、断定しがたい。しかし、これ等の遺物が完形に近い物が多い点・一ケ所に重ねて置かれたような状態である点には注目しておく必要があろう。

a－3　28号溝状遺構

29号溝状遺構と27号溝状遺構の間を南北に走る溝遺構である。当遺構は先にも述べたように、27号溝状遺構を切る遺構である。

覆土・出土遺物・溝の走る方向等を検討すると、11号溝状遺構に連なる溝遺構の一部と推定される。

a－4　29号溝状遺構

道路遺構である。先にも述べたように、地形的に北の方が高くなっているために、検出した道路遺構の幅は北に行くほど狭くなる。遺構の中央部は窪んでおり、流水の為に浸食されたと推定される。　遺構の最大幅5m・遺構検出面から路面までの深さ0.2mを測る。覆土・出土遺物・遺構の延びる方向等を検討すると、13号溝状遺構（道路遺構）に連なる道路遺構と推定される。

a－5　30号溝状遺構

29号溝状遺構に先行する遺構である。道路遺構の可能性が強い。

遺構の幅1.4m・遺構検出面から底面までの深さ5cm未満である。覆土は暗褐色土である。出土遺物は土師器・須恵器である。

a－6　31号溝状遺構

1号及び2号掘建柱建物遺構の西側を南北に走る道路遺構である。

道路幅0.5～0.4m・遺構検出面から路面までの深さ0.2～0.3mを測る。路面はほぼ平坦であり、硬化はさほど進んでいない。覆土は黒褐色土である。覆土中からの出土遺物は土師器・須恵器の小片である。

②　出土遺物

b－1　第96図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その1

1　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№12　(c)大きさ…復元口径13.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、軽い感じを受ける。白色の微粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも磨滅しており調整は判り難い。恐らく、ロクロによるナデ調整を施していると思われる。

2　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№8　(c)大きさ…口径不明・器高不明・復元底径8.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、軽い感じを受ける。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも磨滅しており調整は判り難い。恐らく、ロクロによるナデ調整を施していると思われる。　(h)その他…内器面に褐色の付着物（有機物か？）が見られる。

3　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径15.2cm・器高3.8cm・復元底径10.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、軽い感じを受ける。造岩鉱物（黒色・白色）、砂粒や赤色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）幅6㎜程度のヘラ状工具によるナデ調整を施す。（内器面）ロクロを使用したナデ調整を施す。(h)その他…全体の1/2周を残す。

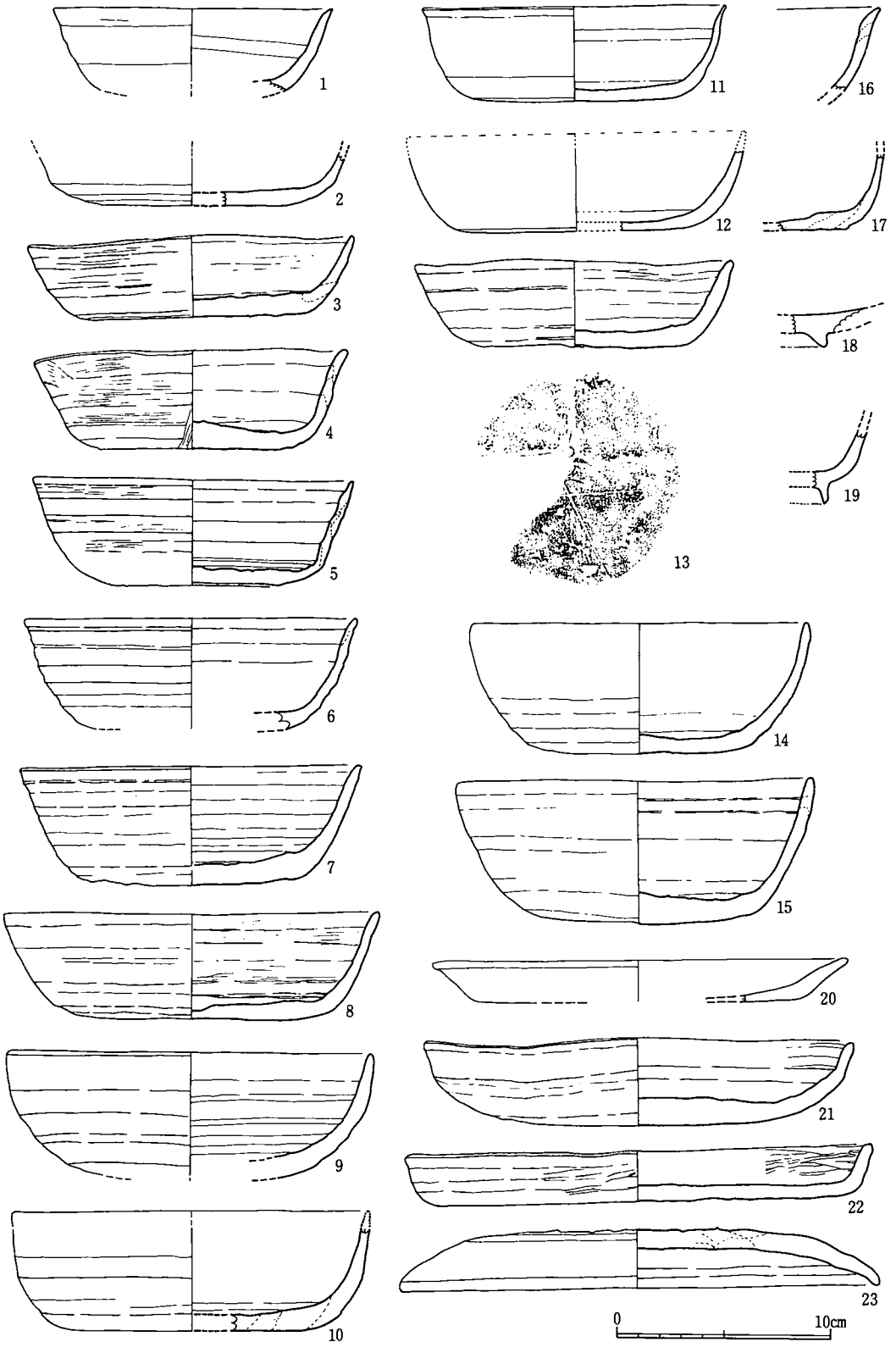
4　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…口径14.5cm・器高4.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）底面と立ち上がり部（屈曲部）にはヘラ削りの痕が見られる。特に、底面部の調整は粗い。基本的にはロクロによる横方向のナデ調整を施すが、部分的に、底面から口縁部の方（縦方向）へナデ調整を施した痕が見られる。（内器面）幅1.4cm間隔の横方向のロクロを使用したナデ調整を施す。　(h)その他…全体の1/2周を残す。

5　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径15.1cm・器高4.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物と茶色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラ状工具による横方向のナデ調整（幅6㎜）を施す。場所によっては条痕が残る。底面の中央にはヘラ切りの痕が残り、その周囲には縦横にナデによる調整の痕跡が残る。（内器面）口縁部から屈曲部にかけて幅6㎜間隔の横方向のロクロを使用したナデ調整を施す。見込み部には指による横方向のナデ調整が施されている。　(h)その他…底面の端部に一ケ所黒斑が見られる。

6　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層一括　(c)大きさ…復元口径15.5cm・器高不明　(d)色調…橙色から黄橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロを使用したナデ調整を施す。　(h)その他…全体の1/3周を残す。

7　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構一括　(c)大きさ…復元口径15.9cm・器高4.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。底面はヘラ切りの後、指によるナデ調整を施す。（内器面）幅5㎜間隔の横方向のロクロを使用したナデ調整を施す。

8　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№14　(c)大きさ…復元口径17.6cm・器高4.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・黒色の造岩鉱物と茶色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによる横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部から屈曲部にかけて幅6㎜間隔の横方向のロクロを使用したナデ調整を施す。ハケによる調整痕も



第96図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その１

見られる。　(h)その他…全体の2/3周が残る。

9　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№3　(c)大きさ…復元口径17.1cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物（白色・黒色）を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…全体の1/4周が残る。

10　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№20　(c)大きさ…復元口径16.8cm・復元器高5.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの痕が残る。（内器面）ロクロによる整形痕をナデた跡が残る。

11　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅱ層№23　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高4.4cm　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…良好　(f)焼成…少し甘い　(g)調整…上記10に類似する。　(h)その他…器面荒れが激しい。

12　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅱ層№23　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…良好　(f)焼成…少し甘い　(g)調整…器面荒れが激しく調整痕不明　(h)その他…底部及び口唇部を欠く。

13　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№11　(c)大きさ…復元口径15.0cm・器高3.9cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径0.5～1.0cm程もある砂や礫を含む。それらの粒子が器表から剝落した跡が見られる。(f)焼成…良好(g)調整…（外器面）口縁部から立ち上がり部（屈曲部）にかけてロクロによるナデ調整を施す。底面にはヘラ記号（図中の拓影参照）が残る。（内器面）口縁部から立ち上がり部にかけてロクロによる横ナデを施す。底面にもナデ調整を施す。

14　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…復元口径16.0cm・器高6.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を少々含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施した後に、器面の研磨を行ったと思われる。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…ローリングを受けたらしく、内外器面とも激しく器面が荒れている。

15　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№14　(c)大きさ…復元口径16.8cm・器高6.5cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・気泡が少し見える。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによる横ナデ調整を施した後に、ヘラ状工具により器面の研磨（研磨痕の幅4㎜）を行っている。手法はあまり丁寧ではない。（内器面）口縁部から胴部にかけて横ナデ調整を施す。底面には、指による横ナデを施す。　(h)その他…内外器面とも所々器面が剝落しており、アバタ状を呈する部分がある。

16　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・良く締まっている。　(h)焼成…良好　(g)調整…内外器面と

も横ナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

17　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№17　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・硬質の白い微粒子を少量含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによる横ナデ調整を施す。底面にはヘラ切りの痕をナデた跡が見られる。(h)その他…底部の破片である。

18　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№1　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・硬質の白い微粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによる横ナデ調整を施す。　(h)その他…高台部の破片である。

19　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№16　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…軟質・触れるとサラサラした感じがする。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによる横ナデ調整を施す。高台部の付け根の部分はヘラ状工具によって横方向の削りが施される。(内器面）ロクロによる横ナデ調整を施す。　(h)その他…高台部の破片である。

20　(a)器種…土師器・皿　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層　(c)大きさ…復元口径19.5cm・器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密であるが、やや軟質の感を受ける。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによる横ナデ調整を施していたと思われる。器面が磨滅しており調整痕の観察が困難である。

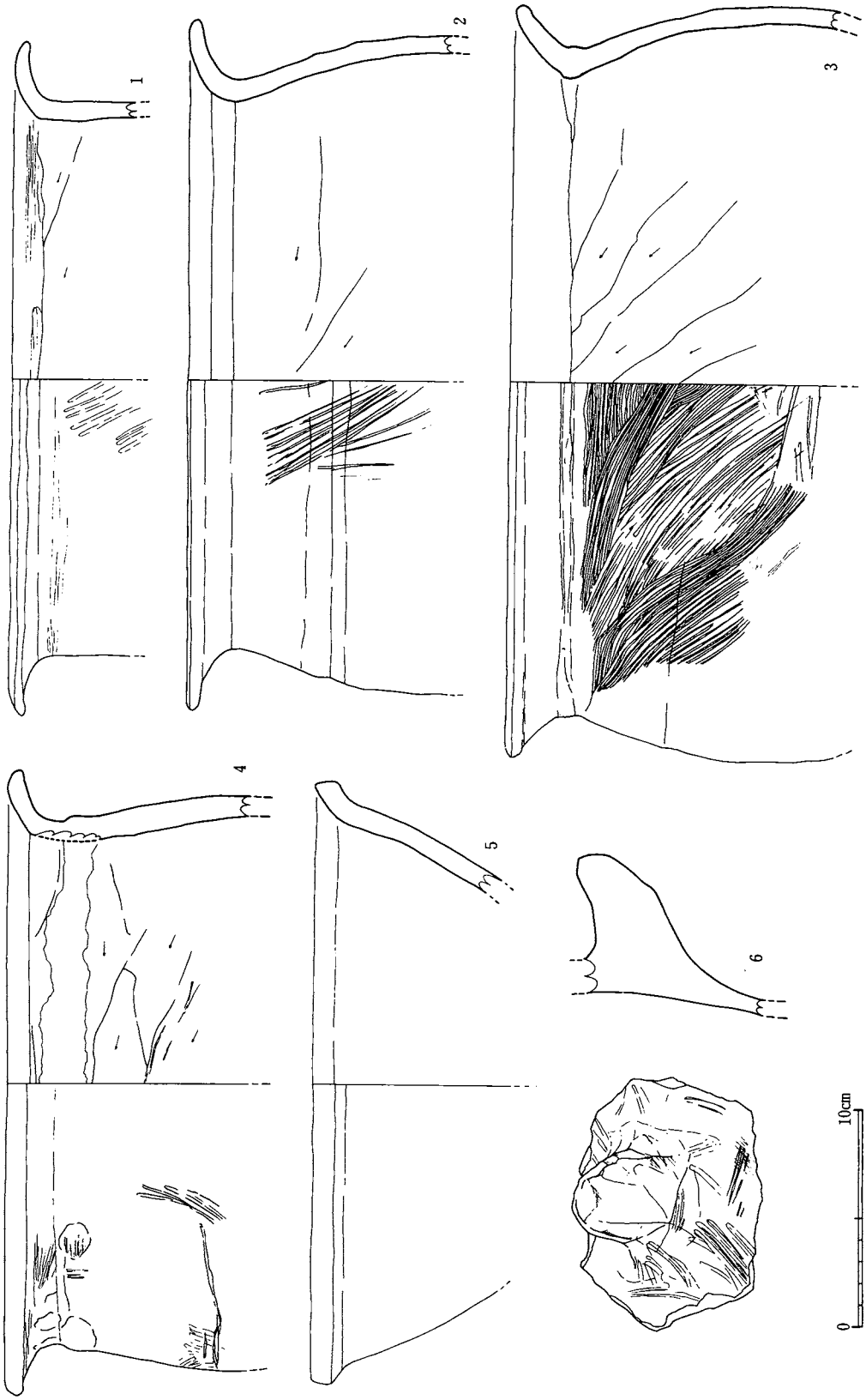
21　(a)器種…土師器・皿　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…復元口径20.2cm・器高4.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、やや軟質の感を受ける。白い微粒子を含む。触れるとサラサラした感じがする。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによる横ナデ調整を施した後、ヘラ状工具により研磨（幅2mm）を施す。(内器面）ロクロによる横ナデ調整を施す。口縁部にはヘラ磨き又はヘラ削り状の痕が見られる。　(h)その他…器面が磨滅しており調整痕の観察が困難である。

22　(a)器種…土師器・皿　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…復元口径22.0cm・器高2.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、やや軟質の感を受ける。直径5mm程の小礫を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施した後、先細りのヘラ状工具により研磨を施しているので、光沢のある部分が見られる。(内器面）ロクロによる横ナデ調整を施す。

23　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№14　(c)大きさ…復元口径22.5cm・器高2.8cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、やや軟質の感をうける。白色の微粒子を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。

b－2　第97図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その2

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構№3　(c)大きさ…復元口径30.6cm・



第97図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その２

器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…やや粗い　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横方向のナデ調整が施されている。胴部にはヘラによる丁寧な調整を施した後に、ナデ調整を施す。一部にはヘラによる調整痕が残る。（内器面）口縁部にはナデ調整を施す。胴部には丁寧なヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の約1/6周を残す。

2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構一括　(c)大きさ…復元口径31.3cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径１～２㎜の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にナデ調整を施こす。胴部には櫛状工具による調整の後に、ナデ調整を施す。一部には櫛状工具による調整痕が残る。（内器面）口縁部にナデ調整を施す。頸部から胴部にかけては丁寧なヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。外器面にはススが付着する。口縁部の約1/3周を残す。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№14　(c)大きさ…復元口径34.3cm・器高不明　(d)色調…（外器面）　淡い黄橙色・（内器面）淡い黄色　(e)胎土…緻密・砂粒（１～４㎜）と微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）縁部から頸部にかけてはナデ調整が施されている。頸部以下は櫛状の工具による調整を行っている。（内器面）口縁部にはナデ調整を施す。頸部以下はヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の約1/2周を残す。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…復元口径20.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部にはナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の約1/5周を残す。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…復元口径27.6cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒（直径１㎜程）を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整が施されている。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りの後に、横方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の約1/6周を残す。

6　(a)器種…土師器・甑の把手　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№11　(d)色調…淡い赤橙色　(e)胎土…緻密・砂粒と鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ及びヘラによる調整を施す。（内器面）粗いナデ調整を施す。　(h)その他…把手のみの破片である。

ｂ－３　第98図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その３

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№4　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。ハケによる調整痕が残る。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部は上方へ

向かってヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構　27号溝状遺構上面　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）丁寧に横ナデ調整を施す。（内器面）幅の狭いヘラで凹凸が少ないように丁寧に上方へ向かってヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはハケ調整を施す。（内器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部には丁寧にヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

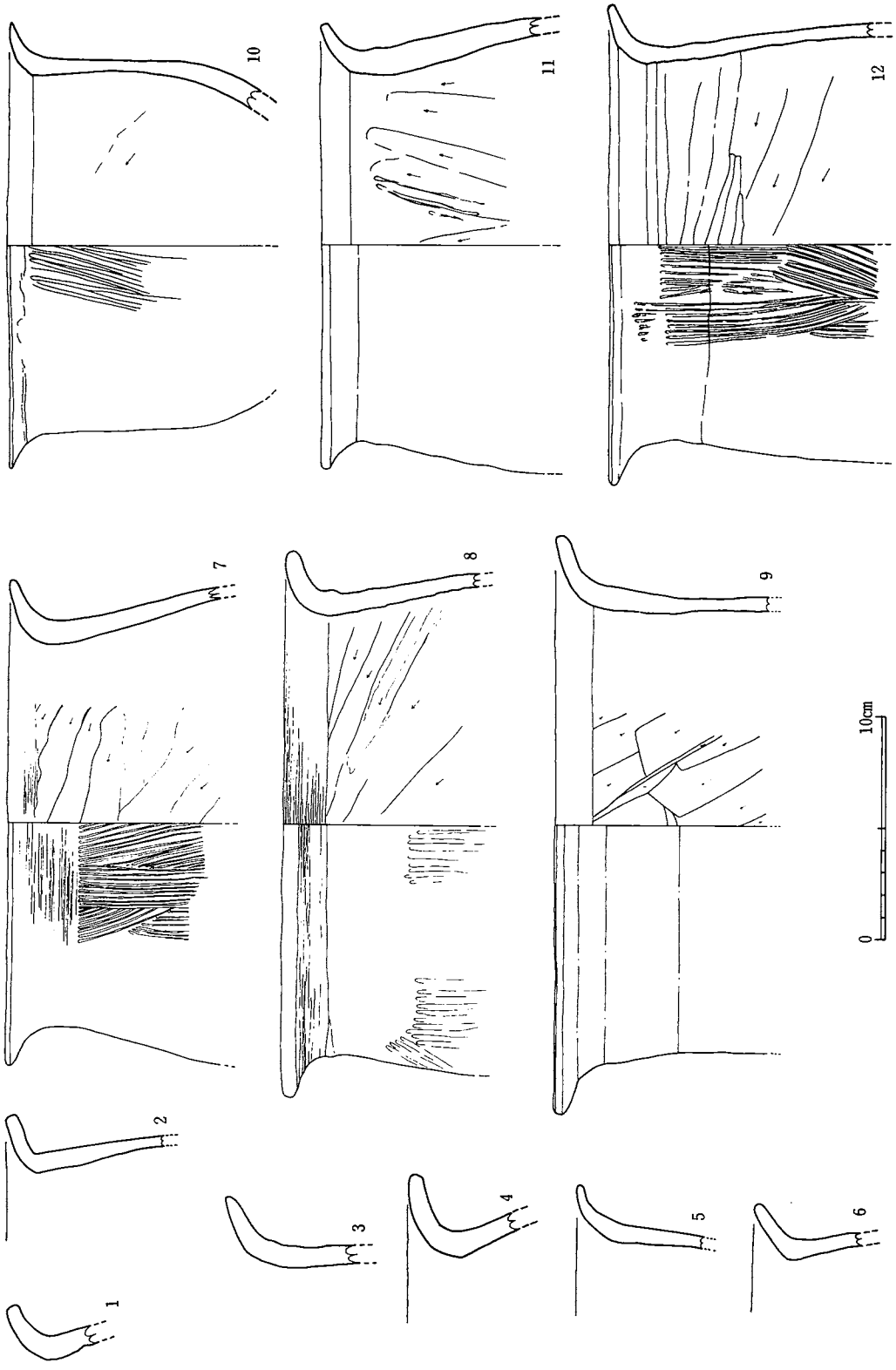
4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはハケ調整を施す。（内器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ調整（ハケの幅1.2cm・筋の数4本）を施した後、ナデ調整を施すと思われる。（内器面）口縁部にはハケ調整の痕が残る。胴部にはヘラ削りを丁寧に施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№1　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部から胴部には、丁寧にヘラ調整（幅3㎜）を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部から胴部にはヘラ削りを上方に向かって丁寧に施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径21.8cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部には横ナデ調整を施す。胴部には、ハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを上方に向かって行う。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/4周を残す。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№8　(c)大きさ…復元口径24.6cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒を多く含む。その他、もっと大粒の砂粒や黒雲母を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から胴部にかけてナデ調整を施す。胴部には、ハケ調整による痕が僅かに残る。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部には粗いヘラ削りを上方に向かって行う。　(h)その他…口縁部から胴部にかけて



第98図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その3

の破片である。

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…復元口径26.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）整形が非常に丁寧である。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部は平滑になるようにヘラ削りを行っている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№1　(c)大きさ…復元口径20.2cm・器高不明　(d)色調…（外器面）淡い橙色から鈍い赤褐色・（内器面）頸部付近は黒褐色、他の部分は淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒や造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にナデ調整を施す。頸部以下には、ヘラによる研磨（幅2㎜）を施す。化粧掛した後、研磨した可能性がある。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部以下には丁寧にヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/2周を残す。

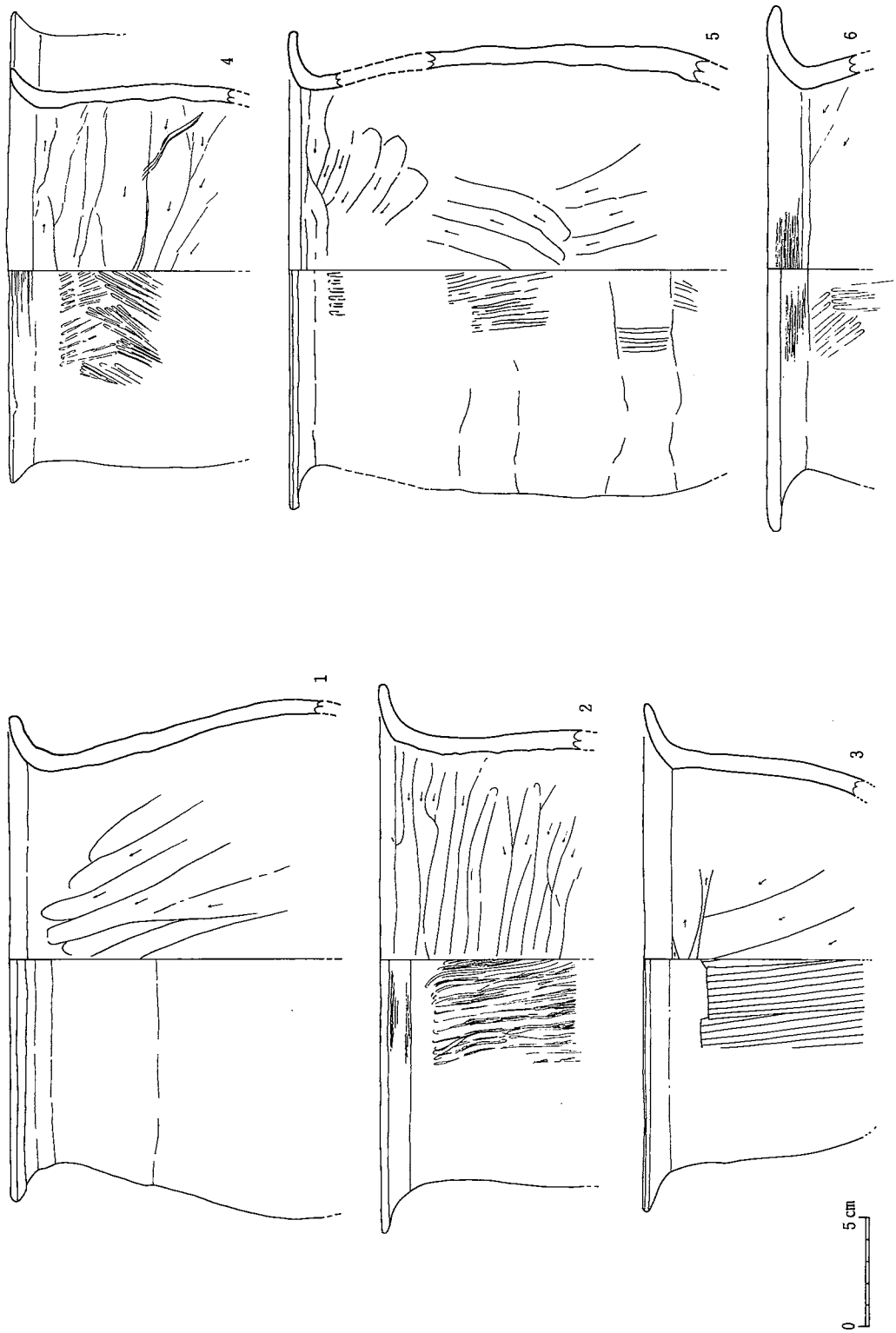
11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…復元口径20.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。胴部は丁寧にヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/5周を残す。

12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…復元口径21.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色　(e)胎土…緻密・直径1㎜程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にナデ調整を施す。頸部以下には、ハケ調整（粗いハケ目）を施す。（内器面）口縁部には横ナデ調整を施す。頸部付近にはヘラによる調整が、胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/4周を残す。

b－4　第99図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その4

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径21.9cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1～2㎜の砂粒や微細な鉱物粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施した後、ナデ調整を行っている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の4/5周を残す。

2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径24.8cm・器高不明　(d)色調…（外器面）灰色がかった黄褐色・（内器面）淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・微細な砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけて横ナデ調整を施す。胴部にはハケ目調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。胴部はヘラ削りを丁寧に行っている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁



第99図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その4

部の1/4周を残す。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構II層No.23　(c)大きさ…復元口径23.0cm・器高不明　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ハケ調整の痕をナデている。（内器面）口縁部は横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りを凹凸が少ないように丁寧に行っている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層No.10　(c)大きさ…復元口径の長径23.2cm・同短径18.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部は横ナデ調整を施す。胴部には粗いハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてヘラ削りを行った後に、頸部を軽くナデている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部は楕円形である。口縁部の1/2周を残す。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層No.4　(c)大きさ…復元口径21.6cm・器高不明　(d)色調…（外器面）明るい赤みを帯びた灰色から橙色・（内器面）鈍い赤褐色　(e)胎土…緻密・直径１～２㎜程の砂粒や微細な造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部には粗いハケ調整を施した後に、軽くナデている。（内器面）口縁部には横方向のナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/2周を残す。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層No.3　(c)大きさ…復元口径23.6cm・器高不明　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密・直径１㎜程の砂粒や黒色造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはハケ調整を施す。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。胴部には丁寧なヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/5周を残す。

ｂ－５　第100図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その５

1　(a)器種…土師器・皿　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層No.5　(c)大きさ…復元口径20.4cm・器高3.6cm　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密であるが少し気泡が見られる。やや軟質である。白色と赤色の粒子を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。部分によっては、ヘラ状の工具によって軽く研磨したと思われる。　(h)その他…器面はかなり磨滅する。内器面にはススが付着した部分がある。

2　(a)器種…土師器・盤の脚部　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層No.10　(c)大きさ…裾部径14.4cm・残存高8.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密であるが、やや軟質である。白色の微粒子を多くを含む。　(f)焼成…良好・破れ口を見ると灰色を呈する部分がある。　(g)調整…内外器面ともに、ロクロによるナデ調整を施す。

3　(a)器種…土師器・蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…口径14.4cm・器高3.1cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・直径1mm程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面とも丁寧に研磨が施されている。しかし、一部にナデ調整の跡も見える。　(h)その他…口縁部の1/3周を欠失する。下記4の壷の蓋の可能性が強い。

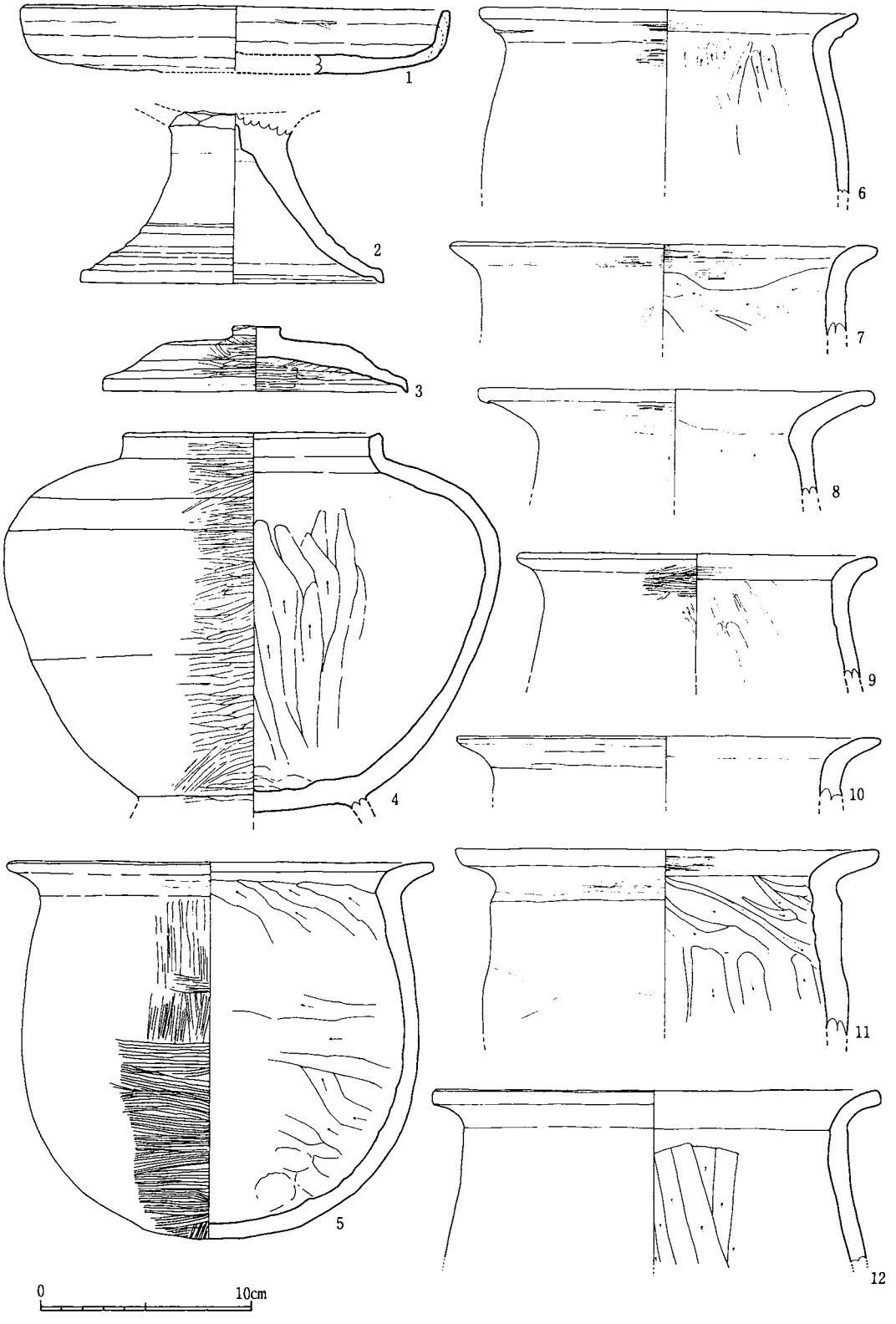
4　(a)器種…土師器・台付短頸壷　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№16　(c)大きさ…復元口径12.4cm・器高不明・壷部の高さ17.7cm　(d)色調…（外器面）赤色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密・直径1mm程の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口唇部にナデ調整を施す。それ以外は赤色顔料を化粧がけした後に研磨が施されており、下部になるにしたがってその手法が粗くなる。（内器面）口縁部から頸部にかけてナデ調整を施す。胴部以下はヘラ削りが施される。底部には指頭圧痕が見られる。　(h)その他…底面には高台もしくは脚台があったが、欠失している。その剝離部分の凹凸を擦り切って再利用している。ほぼ完形に近いが、口縁部の1/2周を欠失する。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…復元口径20.2cm・器高17.7cm　(d)色調…（外器面）赤色から暗い赤褐色・（内器面）赤褐色　(e)胎土…緻密・直径1～3mmの砂粒や微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にナデ調整を施す。頸部にはハケ調整の後に、ナデ調整を施す。胴部以下にはハケ調整を丁寧に施す。（内器面）口縁部にナデ調整を施す。頸部から胴部にかけてはヘラ調整を施す。底部（見込み部）には指頭圧痕が見られる。　(h)その他…外器面にはススが付着する部分がある。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径17.9cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りが施されている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/3周を残す。

7　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…復元口径20.2cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・微細な黒色造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。胴部にハケによる調整痕が僅かに残る。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りが施されている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/3周を残す。

8　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№11　(c)大きさ…復元口径18.7cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。胴部にハケによる調整痕が残る。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。胴部には粗いヘラ削りが施されている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/5周を残す。



第100図　27号溝状遺構出土遺物（土師器）その５

9　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№7　(c)大きさ…復元口径17.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）黒色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。胴部にはハケ調整が丁寧に施される。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。胴部には粗いヘラ削りが施されている。(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/4周を残す。

10　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…復元口径20.0cm・器高不明　(d)色調…淡い橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。胴部にはヘラ削りが施されていると思われる。　(h)その他…口縁部の破片である。口縁部の1/6周を残す。

11　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径20.0cm・器高不明　(d)色調…（外器面）鈍い赤褐色・（内器面）橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。頸部から胴部には粗いヘラ削りが施されている。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部の1/4周を残す。

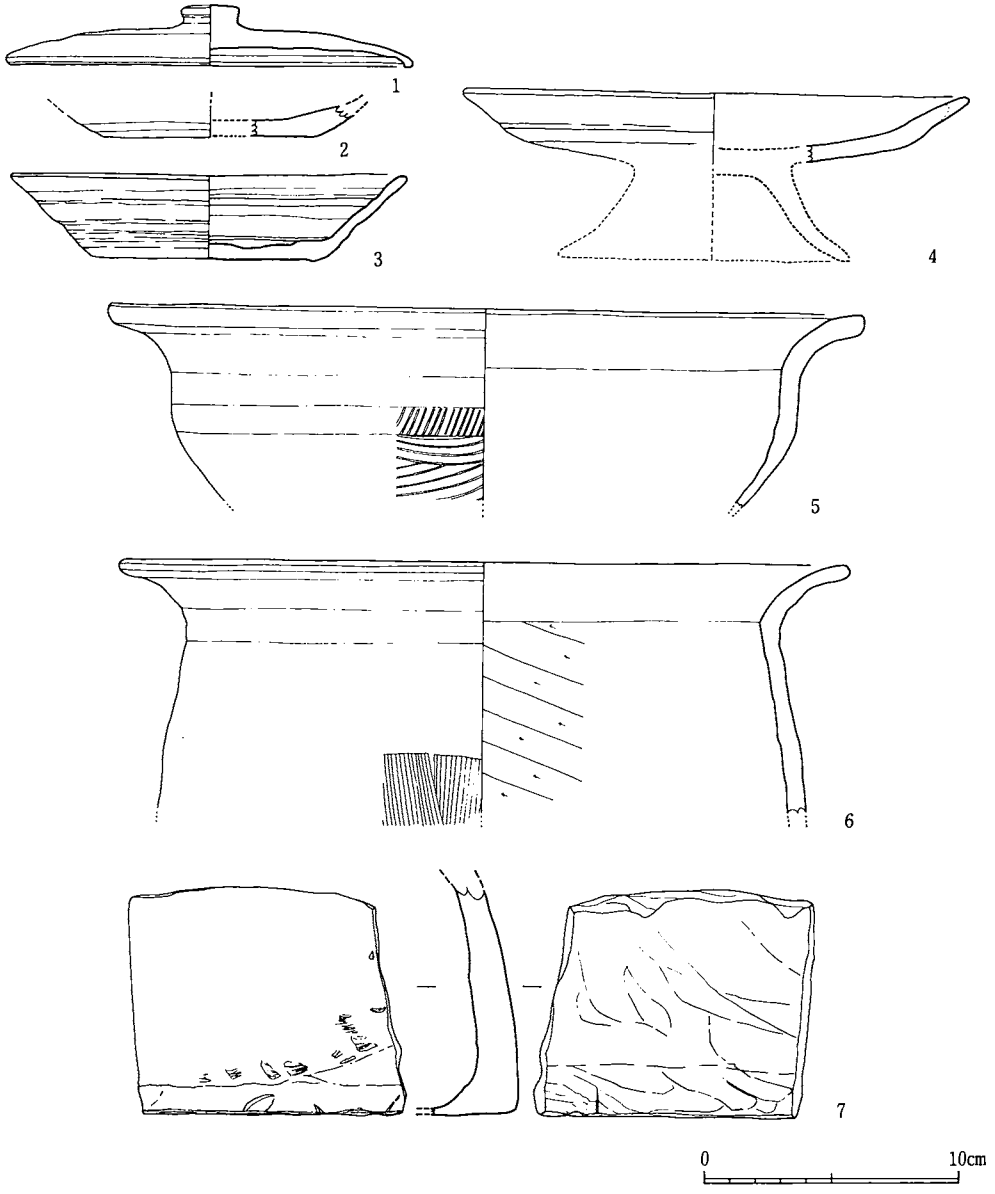
12　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅱ層№23　(c)大きさ…復元口径21.2cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部に横方向のナデ調整を施す。頸部から胴部にはヘラ削り（幅2cm）が施されている。削りは一ケ所を数度に分けて施す。　(h)その他…口縁部から胴部にかけての破片である。

b－6　第101図　打越1687番地出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・坏の蓋　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径16.2cm・器高2.4cm　(d)色調…淡い黄橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラ状工具によって磨きをした後、赤色顔料を化粧掛けしている。（内器面）ナデ調整の後、赤色顔料を化粧掛けしている。

2　(a)器種…土師器・黒色土器皿又は坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.2cm　(d)色調…（外器面）鈍い黄橙色・（内器面）黒褐色　(e)胎土…緻密・白色の微粒子を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。（内器面）研磨している。　(h)その他…底部の小破片である。

3　(a)器種…土師器・坏　(b)出土遺構…Pit—11№2　(c)大きさ…復元口径15.8cm・器高3.3cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部にはヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込みの部分には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…全体の1/2周を残す。赤色顔料と



第101図　打越1687番地出土遺物（土師器）

思われるものが付着する。

4　(a)器種…土師器・脚付盤　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径10.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・硬い黒色の鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）底部から立ち上がり部にはヘラ削りを施す。口唇部付近にはヘラ磨きを施す。（内器面）前面にヘラ磨きを施す。　(h)その他…内外器面に黒色もしくは褐色の付着物が見られる。

5　(a)器種…土師器・鉢　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径30.0cm・器高不明　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…良好・細長い黒色の造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器

面）頸部より上方にはナデ調整を施す。他の部分にはハケ調整を施す。（内器面）頸部から口唇部にかけてナデ調整を施す。他の部分にはヘラ削りを施す。　(h)その他…内面の器面荒れが激しい。

6　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径29.0cm・器高不明　(d)色調…赤褐色　(e)胎土…極めて良好　(f)焼成…極めて良好　(g)調整…（外器面）頸部より上方にはナデ調整を施す。胴部にはハケ調整を施す。（内器面）頸部から口唇部にかけてナデ調整を施す。胴部のヘラ削りは幅1.5cm間隔（５本間隔？）で丁寧に行っている。　(h)その他…口縁部から頸部にかけての破片である。

7　(a)器種…土師器・不明　(b)出土遺構…29号溝状遺構　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒や造岩鉱物を多く含む。細かい気泡が多く見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）指で強く押さえて粘土を引き延ばした後、ナデ調整を施す。　(h)その他…磚のような形であるがそうではない。カマドの破片の一部とも考えられる。

ｂ－７　第102図　27号溝状遺構出土遺物（須恵器）その６

1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№8　(c)大きさ…復元口径11.5cm・器高3.6cm　(d)色調…緑灰色　(e)胎土…緻密・やや大粒の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底部にはヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の円周の約2/3周を残す。一部に緑色を帯びた黒色の釉がかる。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№13　(c)大きさ…口径不明・底部径8.6cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）底部にはヘラ切りの痕が残る。その他の部分にはロクロによるナデ調整を施す。（内器面）不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…底部のみを残す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№14　(c)大きさ…復元口径12.6cm・器高4.6cm　(d)色調…（外器面）灰色～暗いオリーブ色がかった灰色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。底面には回転ヘラ削りの痕跡が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…器全体の約1/2周を残す。器面の内外に釉がかかる。特に、見込み部には一面に釉がかかる。器表の風化が激しく、器表の剝落が見られる。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…口径不明・器高不明・高台径8.4cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・白い粒（造岩鉱物？）を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナ

デ調整を施す。高台の内面（底面）には回転ヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…高台部は完全に残る。

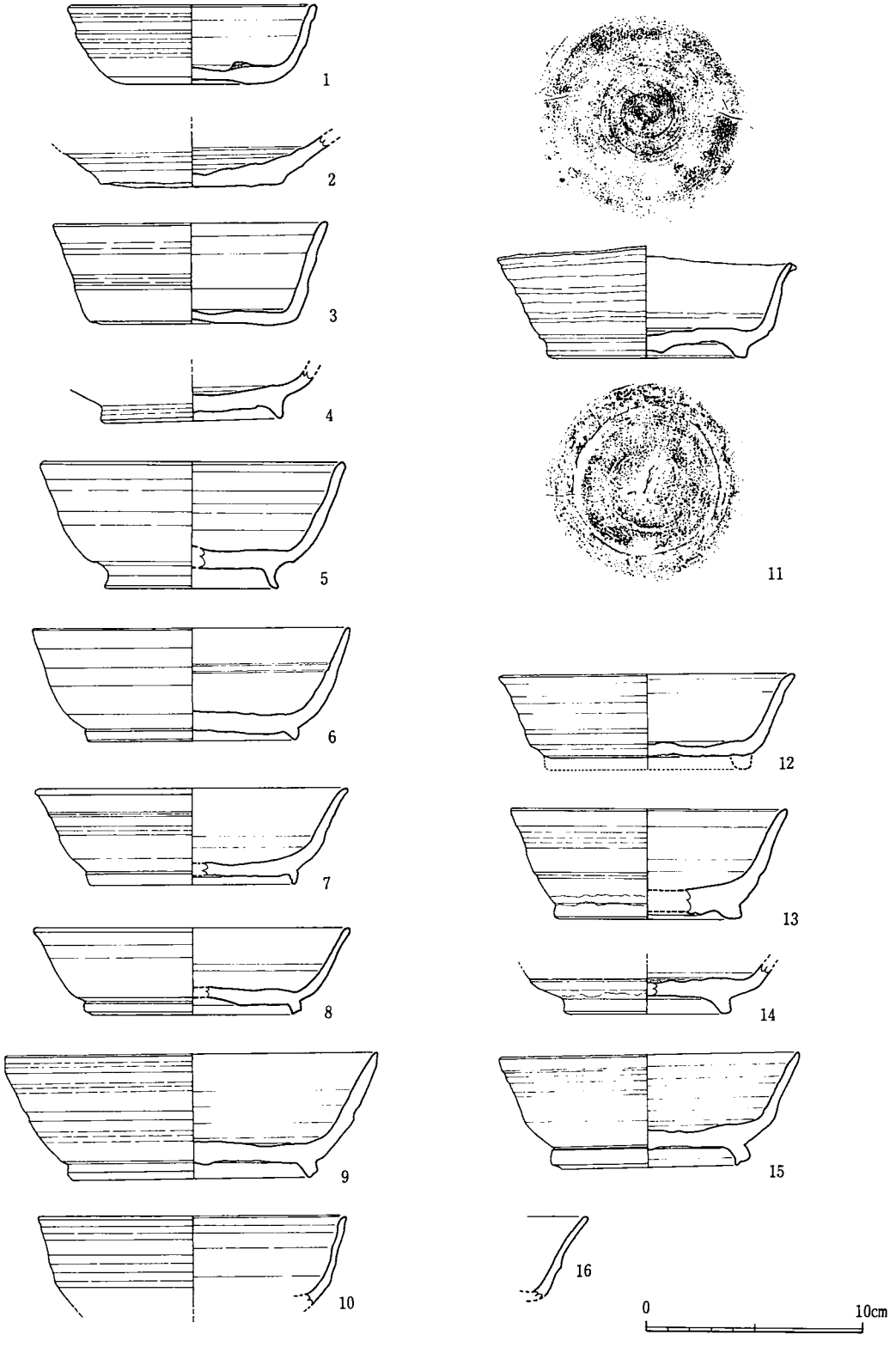
5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高5.8cm・復元高台径8.0cm・復元高台内径7.2cm・高台の高さ1.0cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒（造岩鉱物？）を多く含む。細かい気泡が見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から高台部までロクロによるナデ調整を施す。その手法はやや粗い。高台の内面（底面）には回転ヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部にはナデ調整を一部に施した痕が残るのみである。　(h)その他…高台部の約1/2周と口縁部の一部を残す。

6　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径14.6cm・器高5.1cm・高台径9.8cm・高台内径9.2cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…（外器面）青灰色、一部は暗い青灰色・（内器面）灰黄色、一部は暗い赤灰色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒（黒雲母？）が僅かに見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。高台の内面（底面）には回転ヘラ削りの痕が残る。見込み部にはナデ調整を不定方向に施す。　(h)その他…高台部は完全に、口縁部は1/2周を残す。

7　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№21　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高4.4cm・復元高台径9.7cm・復元高台内径9.0cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…（外器面）淡い黄色の部分と緑灰色の部分あり。（内器面）淡い黄色の部分と暗い青灰色の部分あり。　(e)胎土…緻密・白い鉱物粒が多く見られる。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるやや粗いナデ調整が施されている。高台の内面（底面）には、ヘラによる調整が施されている。（内器面）ロクロによるナデ調整が施されている。見込み部にはナデ調整が不定方向に施されている。調整はあまり丁寧ではなく、器面が荒れている。　(h)その他…全体の約1/2周を残す。

8　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№5　(c)大きさ…復元口径14.6cm・器高4.0cm・復元高台径9.9cm・復元高台内径9.2cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…（外器面）灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・直径1～2mmの砂粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整が施されている。高台の内面（底面）には、ヘラ削りによる調整が施されている。（内器面）ロクロによるナデ調整が施されている。見込み部にはナデ調整が不定方向に施されている。　(h)その他…全体の約1/2周を残す。外器面には口縁部から高台部まで釉薬をかけたと見紛う程に自然釉が均等にかかる。器面荒れが激しい。

9　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…口径17.0cm・器高5.8cm・高台径11.5cm・高台内径10.6cm・高台の高さ0.8cm　(d)色調…（外器面）灰色から灰白色・（内器面）淡い黄色　(e)胎土…やや粗い。細かい気泡が多く見られる。　(f)焼成



第102図　27号溝状遺構出土遺物（須恵器）その6

…やや甘い。 (g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台の内面（底面）には、ヘラ削りによる調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部にはナデ調整を不定方向に施す。 (h)その他…完形品である。

10 (a)器種…須恵器・坏 (b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括 (c)大きさ…復元口径14.2cm・器高不明 (d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰色 (e)胎土…緻密・白い粒（造岩鉱物？）を多く含む。 (f)焼成…良好 (g)調整…（外器面）粗いナデ調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。 (h)その他…口縁部の約1/4周を残す。底部も欠失する。外器面には自然釉がかかる。

11 (a)器種…須恵器・高台付坏 (b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括 (c)大きさ…復元口径13.8cm・器高5.1cm・高台径9.2cm・高台内径8.0cm・高台の高さ0.8cm (d)色調…（外器面）灰色・（内器面）灰白色 (e)胎土…緻密 (f)焼成…良好 (g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整が施されている。高台の内面（底面）には、ヘラ削りによる調整が施されている。（内器面）ロクロによるナデ調整が施されている。見込み部にはナデ調整が不定方向に施されている。 (h)その他…ほぼ完形に近く、口縁部の一部を欠失する。器形はかなり歪んでおり口縁は片口となっている。

12 (a)器種…須恵器・高台付坏 (b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10 (c)大きさ…復元口径13.3cm・器高3.8cm (d)色調…（外器面）灰白色であり、一部は赤みを帯びた灰色・（内器面）灰白色 (e)胎土…緻密・直径1mm程の砂粒を含む。(f)焼成…良好 (g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台の内面（底面）には、ヘラ削りによる調整を施す。（内器面）右廻りのロクロによるナデ調整を施す。 (h)その他…口縁部の1/2周を残す。高台部を欠失する。

13 (a)器種…須恵器・高台付坏 (b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№12 (c)大きさ…復元口径12.7cm・器高5.0cm・復元高台径8.2cm・復元高台内径7.2cm・高台の高さ0.7cm (d)色調…灰色 (e)胎土…緻密・白い粒（造岩鉱物？）を僅かに含む。 (f)焼成…良好 (g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。 (h)その他…口縁部の約1/4周を残す。

14 (a)器種…須恵器・高台付坏 (b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括 (c)大きさ…口径及び器高不明・高台径7.2cm・高台内径6.6cm・高台の高さ0.7cm (d)色調…（外器面）灰色がかったオリーブ色・（内器面）灰白色 (e)胎土…緻密・砂粒を含む。 (f)焼成…良好 (g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台の内部（底面）には、不定方向のナデ調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。 (h)その他…底部の約1/2周を残す。外器面には灰色がかったオリーブ色の自然釉がかかるが、高台部付近（畳付け及びその近く）は釉が剝落する。

15　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№8　(c)大きさ…復元口径13.8cm・器高5.2cm・高台径9.2cm・高台内径8.0cm・高台の高さ0.9cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰白色　(e)胎土…緻密・直径が1㎜に満たない小さな砂粒から3㎜程もあるやや大粒の砂粒まで含む。その他、白い造岩鉱物と思われる粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。高台の内部（底面）には、ヘラ削りによる調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。見込み部にはナデ調整を不定方向に施す。　(h)その他…高台は完形であり、口縁部の一部を残す。外器面には自然釉（オリーブ色がかった黒色）がかかっていたと思われるが、風化により剝落している。釉が特に強くかかっていたと思われる所は、口縁部から高台部である。

16　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅱ層№23　(c)大きさ…口径及び器高の計測値記載省略　(d)色調…（外器面）明青灰色・（内器面）明るいオリーブ色　(e)胎土…緻密・微細な白い造岩鉱物と思われる粒を多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整が施されている。（内器面）ロクロによるナデ調整が施されている。　(h)その他…外器面には自然釉（黒褐色）がかかっていたと思われるが、風化により剝落している。

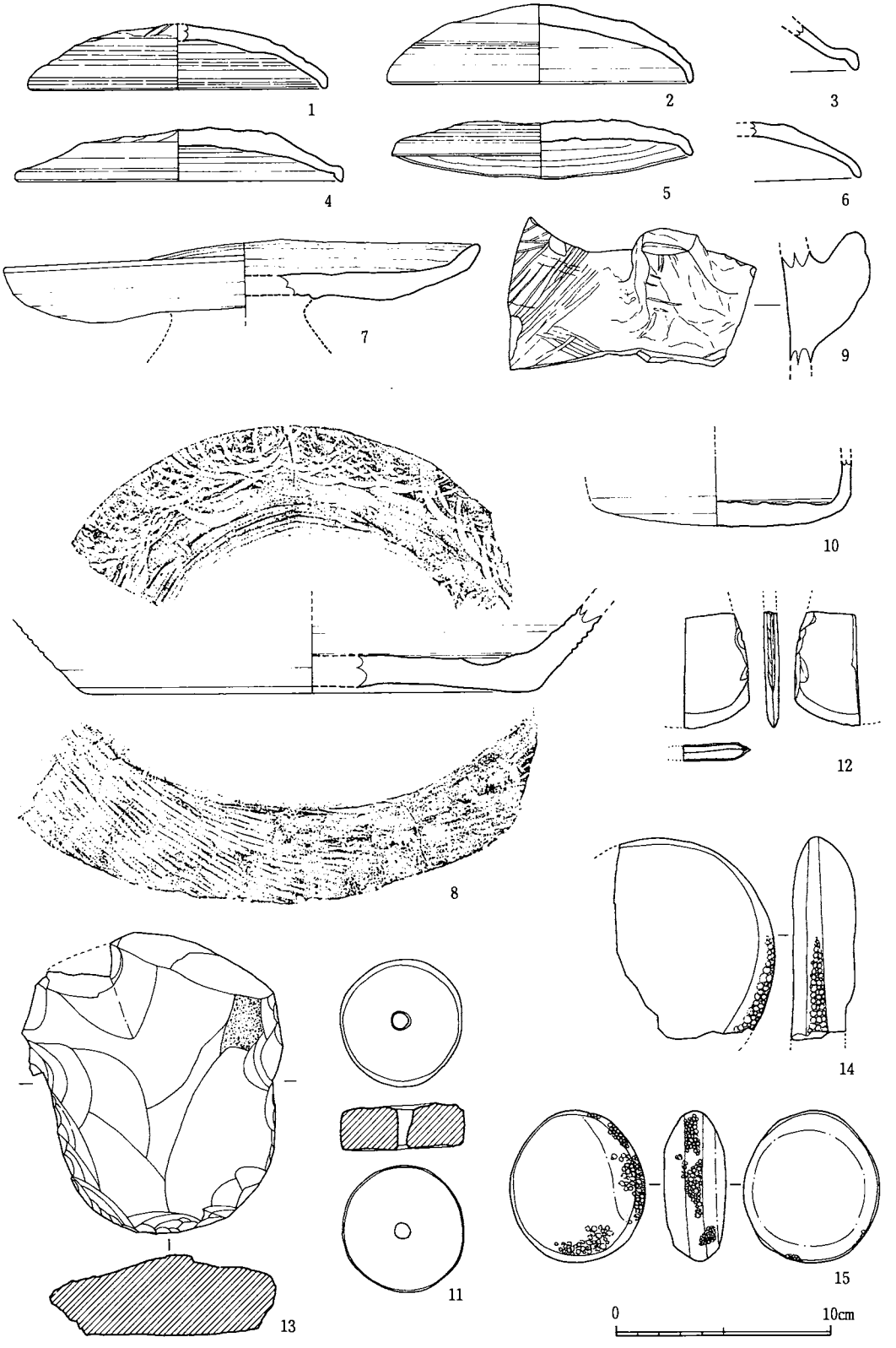
b－8　第103図　27号溝状遺構出土遺物（須恵器・紡垂車・石器）その7

1　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№12　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高3.0cm　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）明るい青灰色　(e)胎土…緻密・白色の粒子（造岩鉱物）を多く含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。上部は粗いヘラ削りを行う。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。中央部（天井部）には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周を残す。

2　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№2　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高3.7cm　(d)色調…淡黄色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。一部分にはこの後、縦横にナデ調整を施す。上部はヘラ削りの後軽くナデ調整を施す。（内器面）口縁部付近にはロクロによるナデ調整を施す。その他は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/3周を残す。

3　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）明るい灰黄色から黄灰色・（内器面）オリーブ色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒や微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともにロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

4　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…口径15.4cm・器高2.3cm　(d)色調…（外器面）暗い灰色から灰色・（内器面）暗いオリーブ色がかった灰色　(e)胎土…緻密・微細な白色の粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。上部はヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。一部



第103図　27号溝状遺構出土遺物（須恵器・紡垂車・石器）その７

には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…完形である。

5　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№22　(c)大きさ…復元口径14.2cm・器高2.5cm　(d)色調…（外器面）灰色がかったオリーブ色から暗い青灰色・（内器面）オリーブ色がかった黄色　(e)胎土…緻密・砂粒や白色の粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。中央部（頂部）にはヘラ削りを施した後に、粗いヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。中央部（天井部）には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/3周を欠失する。

6　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…27号溝状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…口縁部にロクロによるナデ調整を施す。その他は不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

7　(a)器種…須恵器・盤　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元口径22.4cm・器高不明　(d)色調…（外器面）青灰色から暗い青灰色・（内器面）明るい青灰色　(e)胎土…緻密・微細な白色の粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部にロクロによるナデ調整を施す。底部にはヘラ削りによる調整を施した後に、粗いナデ調整を施す。所によってはヘラ調整の痕が良く残る。（内器面）口縁部にロクロによるナデ調整を施す。中央部（見込み部）には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/2周及び脚部を欠失する。

8　(a)器種…須恵器・カメ　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…復元底径21.8cm・器高不明　(d)色調…（外器面）青灰色・（内器面）灰黄色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）平行タタキの痕が残る。底部にはヘラ削りによる調整を施した後に、粗いナデ調整を施した部分がある。（内器面）胴部には同心円文（青海波文）タタキを施す。立ち上がり部（屈曲部）付近にはヘラ状工具によって横方向に少しナデを施す。底部（見込み部）には指によるナデ調整を施す。そのため指頭圧痕が多く残る。　(h)その他…底部の破片である。

9　(a)器種…須恵器・甑の把手　(b)出土遺構…27号溝状遺構上面一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰色がかったオリーブ色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。細かい気泡を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）把手の部分にはナデ調整を施す。胴部には平行タタキを施す。（内器面）上方向にヘラ削りを施す。　(h)その他…器形が土師器の甑と類似する。

10　(a)器種…須恵器・不明　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№10　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径11.5cm　(d)色調…（外器面）オリーブ色がかった褐色・（内器面）暗い灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）不明・ナデを施していると思われる。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。中心部（見込み部）には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…底部のみの破片である。内外器面とも自然釉がかかる。外器面の風化が激しい。

11　(a)器種…土師器質・紡垂車　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ⅰ層№15　(c)大きさ…長径6.0

cm・短径5.1cm・厚さ1.9cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(h)その他…土師器の厚い部分を円板状に擦り減らして作成した物と思われる。

12　(a)器種…安山岩・石包丁　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ｉ層№17　(c)大きさ…全長不明・幅5.1cm・厚さ0.6cm　(h)その他…刃部は研磨したように擦れている。

13　(a)器種…片岩・敲石　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ｉ層№22　(c)大きさ…長さ13.9cm・幅10.5cm・厚さ3.8cm　(h)その他…裏面に自然面が残る。

14　(a)器種…砂岩・敲石　(b)出土遺構…27号溝状遺構II層一括　(c)大きさ…直径不明・厚さ1.9cm　(h)その他…1/3周を欠失する。

15　(a)器種…安山岩・敲石　(b)出土遺構…27号溝状遺構Ｉ層№１　(c)大きさ…長径7.1cm・短径6.3cm・厚さ2.9cm　(h)その他…完形である。

ｂ－９　第104図　29号溝状遺構出土遺物（須恵器・瓦）

1　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…29号溝状遺構№18　(c)大きさ…口径及び器高不明・高台径9.0cm・高台内径6.8cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）立ち上がり部（高台との付け根）は回転ヘラ削りを施す。高台の内面（底部）にはヘラ削りの痕が残る。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…外器面には自然釉がかかる。

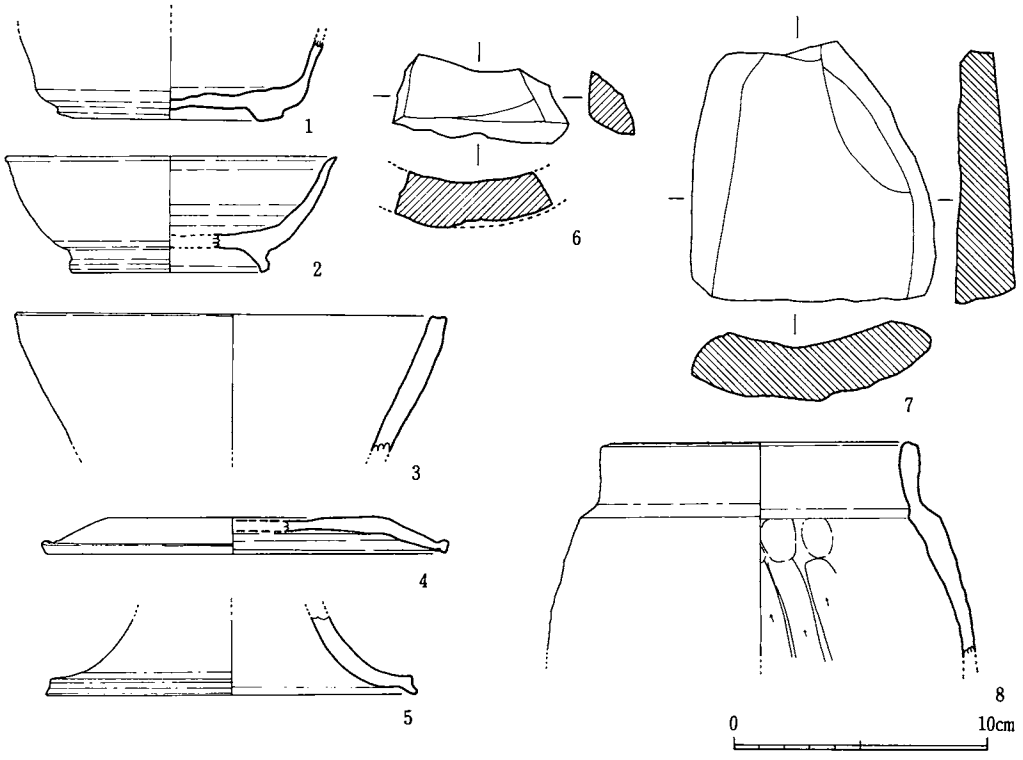
2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…29号溝状遺構№15　(c)大きさ…復元口径13.0cm・器高4.5cm・高台径7.8cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）立ち上がり部（高台の直上部）は回転ヘラ削りによる整形の後、ナデによる調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…外器面には自然釉がかかる。高台部の中央部から畳付けにかけての部分は強く押さえて整形しているので内側へ少し屈曲する。

3　(a)器種…須恵器・鉢？　(b)出土遺構…29号溝状遺構№２　(c)大きさ…復元口径16.9cm・器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…白色の砂粒を少し含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面にナデ調整の痕が残る。

4　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…29号溝状遺構Ｉ層№２　(c)大きさ…復元口径16.2cm・器高1.4cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面にナデ調整の痕が残る。　(h)その他…全体の1/4周が残る。

5　(a)器種…須恵器・高坏の脚　(b)出土遺構…29号溝状遺構№12　(c)大きさ…裾部径14.6cm・器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面にナデ調整の痕が残る。　(h)その他…内外器面に自然釉がかかる。特に、内面に強く釉がかかっている。

6　(a)器種…布目瓦・平瓦　(b)出土遺構…29号溝状遺構№２　(c)大きさ…厚さ1.2cm　(h)その他…小片である。二次焼成を受けている。



第104図　29号溝状遺構出土遺物（須恵器・瓦）

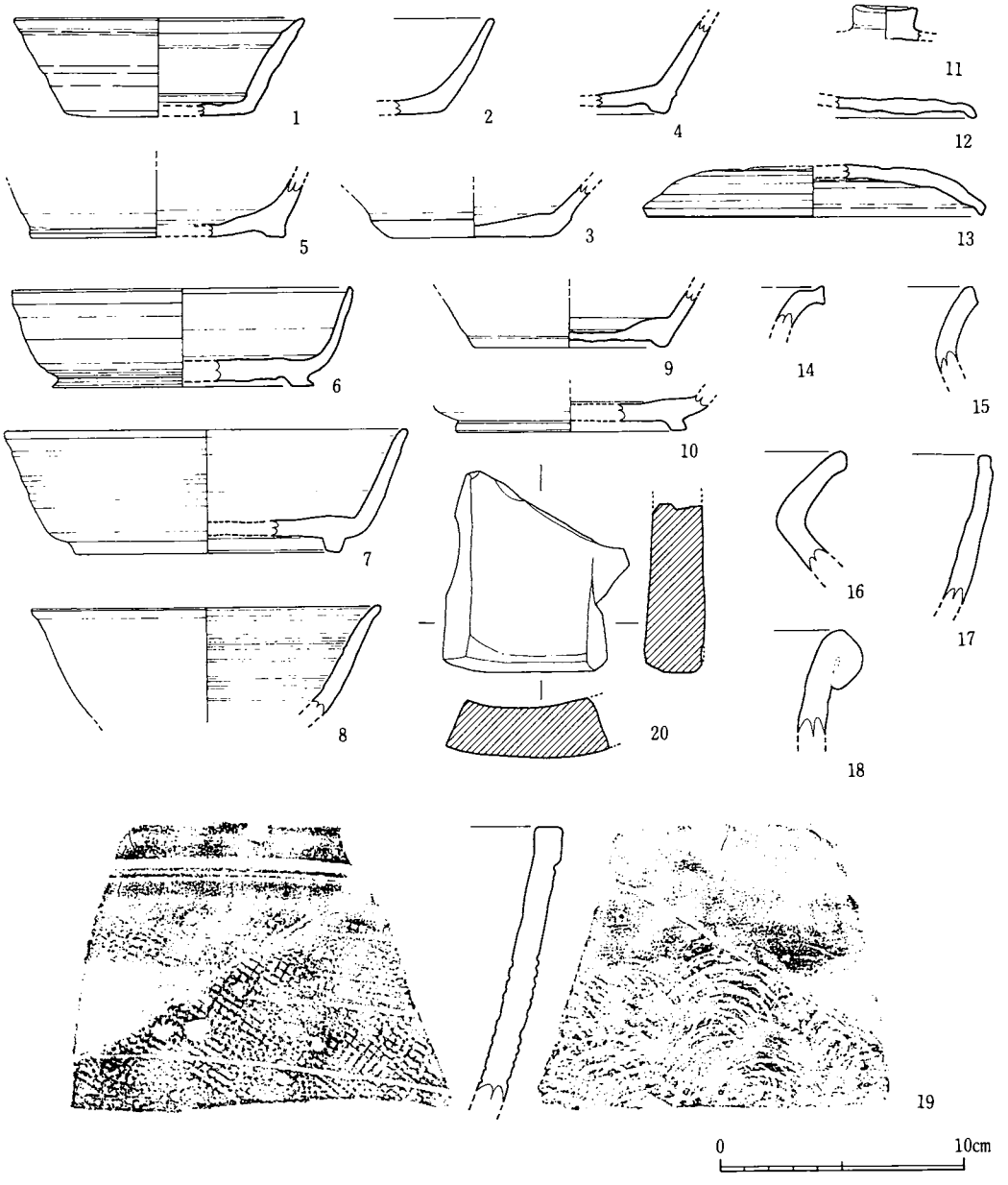
7　(a)器種…布目瓦・平瓦　(b)出土遺構…29号溝状遺構　(c)大きさ…厚さ2.2cm　(h)その他…厚ぼったい感じである。平瓦にしてはカーブが少し急である。上端部の破片である。

8　(a)器種…須恵器・短頸壷　(b)出土遺構…29号溝状遺構№5　(c)大きさ…復元口径12.5cm・器高不明　(d)色調…灰青色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）胴部に平行タタキの痕が残る。頸部にはナデ調整の痕が残る。（内器面）胴部には指の圧痕及び指によるナデ調整の痕が残る。ナデの方向は下方から上方へ引き上げて調整したと推定される。

b－10　第105図　打越1687番地出土遺物（須恵器）

1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…Pit—21（柱穴）(c)大きさ…復元口径12.0cm・器高4.0cm・復元底径7.7cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い造岩鉱物と思われる粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整が施されている。底面にはヘラ削りを施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…全体の1/2周を残す。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径・器高記載省略　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い造岩鉱物と思われる粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）調整痕が側面には残存しない。底面には粗いナデ調整を施す。（内器面）ロクロによる粗いナデ調整を施す。見込み部には不定方向のナデ調整を施す。



第105図　打越1687番地出土遺物（須恵器）

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・底径6.8cm　(d)色調…鈍い黄色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…内外器面とも不定方向のナデ調整を施す。(h)その他…1/2周を残す。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…（外器面）高台及び高台内部（底面）

にはロクロによるナデ調整を施す。その他は不定方向のナデ調整を施す。(内器面) 見込み部には調整痕は観察出来ない。その他にはナデ調整の痕が見られる。

5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…III層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径10.6cm・復元高台内径9.0cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…(外器面) 淡い黄色・見込み部は橙色 (内器面) 橙色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒 (造岩鉱物？) を含む。　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…約1/2周を残す。

6　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高4.0cm・高台径10.3cm・復元高台内径9.0cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…灰色がかったオリーブ色　(e)胎土…緻密・白い粒 (造岩鉱物？) を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部から高台部付近にかけてはロクロによるナデ調整を施す。底部にはヘラによる調整を施す。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。底部には不定方向のナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/4周・高台部の1/2周を残す。

7　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径16.6cm・器高5.0cm・高台径11.3cm・復元高台内径9.8cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…(外器面) 鈍い橙色・(内器面) 灰白色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒を多く含む。　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…(外器面) ロクロによるナデ調整を施す。高台内部 (底部) にはヘラ削りの痕が残る。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の約1/5周を残す。

8　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…III層一括　(c)大きさ…復元口径14.4cm・器高不明　(d)色調…灰色がかったオリーブ色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒 (造岩鉱物？) を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…(外器面) 口縁部にロクロによるナデ調整を施す。下部は水引きによる調整を殆ど施されていない。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の1/4周を残す。

9　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径8.0cm・高台内径6.8cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…(外器面) 口縁部から高台部付近にかけてはロクロによるナデ調整を施す。(内器面) ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…底部の1/2周を残す。

10　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.6cm・復元口内径8.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…(外器面) 淡い黄色から暗い灰色・(内器面) 灰白色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…(外器面) 磨滅しており、調整痕は不明である。(内器面) ロクロによるナデ調整が施されている。　(h)その他…底部の1/2周を残す。

11　(a)器種…須恵器・坏の蓋の摘み部　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…上端部の径2.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・細かい砂粒を含む。　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…ナデ調整

を施す。　(h)その他…摘みの部分のみ残す。上端部は凹形に窪む。

12　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）橙色・（内器面）灰色がかった黄色　(e)胎土…緻密・微細な鉱物粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ロクロによるナデ調整を施す。その手法はかなり雑である。（内器面）ロクロによるナデ調整と不定方向のナデ調整を施す。外器面よりも丁寧な調整である。　(h)その他…口縁部の一部を残す。

13　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…復元口径14.0cm・器高2.0cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒と微細な白い粒（造岩鉱物？）を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ヘラ調整の痕が残る。（内器面）口縁部にはロクロによるナデ調整を施す。その他はナデ調整が部分的に見える。内外器面とも調整が粗い。　(h)その他…全体の約1/4周を残す。

14　(a)器種…須恵器・壷の口縁部　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）灰色・（内器面）灰色がかった黄色　(e)胎土…緻密・微細な気泡が見られる。(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部を残す。内器面には灰色の釉がかかる。

15　(a)器種…須恵器・壷の口縁部　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・微細な白い粒（造岩鉱物）を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部を残す。

16　(a)器種…須恵器・壺の口縁部　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）褐色がかった灰色・（内器面）鈍い橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整を施す。(h)その他…口縁部の一部を残す。

17　(a)器種…須恵器・器種不明　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）暗い灰色・部位によってやや橙色を帯びる部分あり。（内器面）灰色・部位によってやや橙色を帯びる部分あり。　(e)胎土…緻密・微細な白い粒（造岩鉱物？）を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部はロクロによるナデ調整を施す。それより下部には不定方向のナデ調整を施す。（内器面）ロクロによるナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部の一部を残す。

18　(a)器種…須恵器・器種不明　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）暗い赤みを帯びた灰色・（内器面）赤みを帯びた灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともロクロによるナデ調整が施されている。　(h)その他…口縁部の一部を残す。

19　(a)器種…須恵器・器種不明　(b)出土遺構…南側一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…口縁部には内外器面と

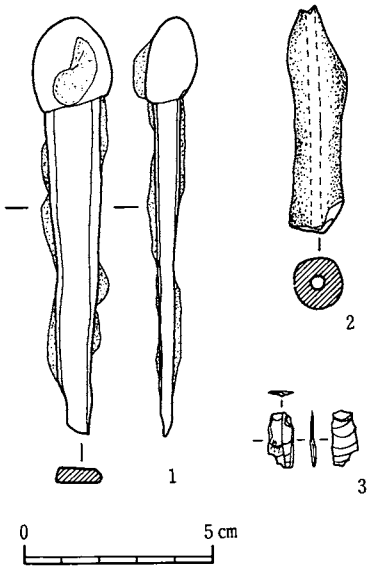
も横方向のナデ調整が施されている。胴部以下は、外器面に格子目のタタキ・内器面に同心円文（青海波文）のタタキが施されている。　(h)その他…口縁部及び胴部の一部を残す。

20　(a)器種…布目瓦・平瓦　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…厚さ2.4cm　(h)その他…二次焼成を受けている。端部のほんの一部を残す。

b－11　第106図　打越1687番地出土遺物

1　(a)器種…鉄器・楔又は大型の釘？　(b)出土遺構…29号溝状遺構№16　(c)大きさ…長さ11.0cm・幅1.6～0.6cm・頭部の幅2.1cm・厚さ0.3～0.7cm・重さ46g　(h)その他…頭部は丸く、主体部は上部の幅が広く、厚さも厚い。横断面は長方形又は台形状を呈する。頭部が丸いことから釘のようであるが、長さに比較して幅が広すぎるように思われる。又、主体部の形から楔と考えると、元と末との厚さの差が少ないと考えられる。

2　(a)器種…土師器・土垂　(b)出土遺構…1687番地・Pit—92　(c)大きさ…現存する長さ6.0cm・径1.5cm　(h)その他…箸のような丸い棒に粘土を巻きつけて、手で握り絞めて整形したように思われる。



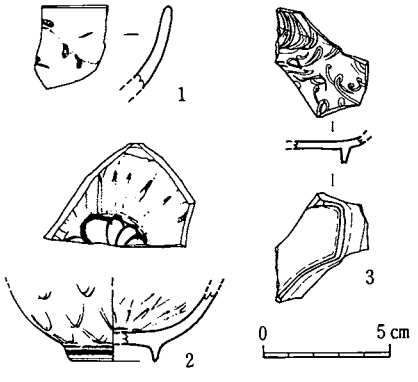
第106図　打越1687番地出土遺物

3　(a)器種…黒曜石・マイクロブレード　(b)出土遺構…1687番地・表面採集　(c)大きさ…長さ1.4cm・幅0.7cm・厚さ0.1cm以下　(h)その他…側縁部に使用痕が見られる。

b－12　第107図　打越1687番地出土遺物

1　(a)器種…磁器・青華文碗・くらわんか茶碗　(b)出土遺構…1687番地・一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(h)その他…外器面に草木を染付ける。上釉は少し青みを帯びる。貫入が僅かに見られる。

2　(a)器種…磁器・網手文碗・くらわんか茶碗　(b)出土遺構…1687番地・26号溝状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径3.3cm　(h)その他…内外器面に網手文を染付ける。上釉は少し青みを帯びる。貫入が僅かに見られる。畳付けの部分は少し尖りぎみである。



第107図　打越1687番地出土遺物（磁器）

3　(a)器種…白磁・印華文皿　(b)出土遺構…1687番地・26号溝状遺構一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(h)その他…見込み部に唐草紋様の印華を施す。素子は良質であり、白い。残存する高台の形から、長方形の少し歪になった形

か、あるいは、華のような形状を呈すると推定される。

８．236番地出土遺物

②　出土遺物

ｂ－１　第108図　打越236番地出土遺物（土師器）

１　(a)器種…土師器・皿　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径19.5cm・器高2.0cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。　(h)その他…赤色顔料を化粧掛けする。

２　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径18.7cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に丁寧なナデ調整を施す。頸部以下にはハケ状工具による粗い調整を施す。（内器面）口縁部に丁寧なナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…一部にススが付着する。

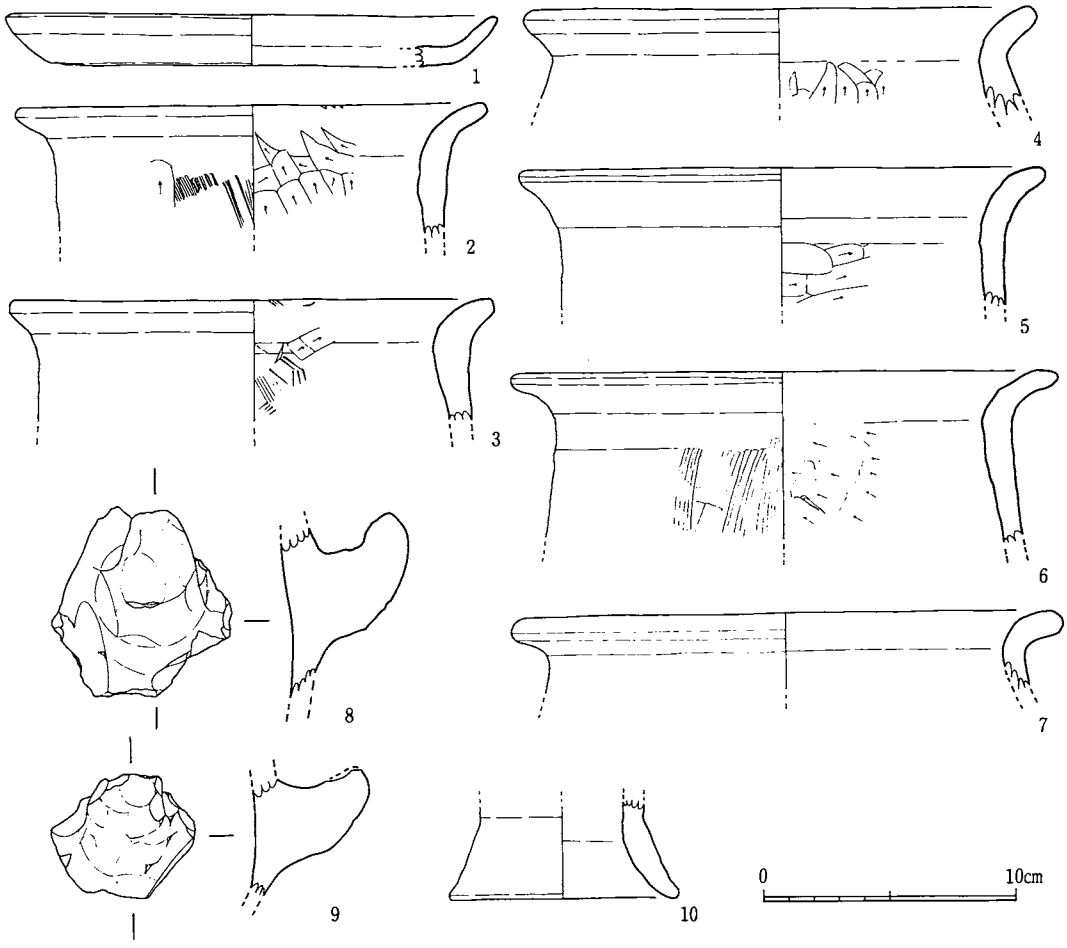
３　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径19.2cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部に横ナデ調整を施す。頸部以下にはハケ状工具による粗い調整の他に、ヘラ削りを施した部分が見られる。

４　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径20.4cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物をかなり多く含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下は縦方向のヘラ削りを施す。　(h)その他…外器面の一部にススが付着する。

５　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径20.9cm・器高不明　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデ調整を施す。（内器面）口縁部はナデ調整を施す。頸部以下は粗いナデ調整を施す。

６　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径21.8cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデ調整を施す。胴部にはナデ調整の後、縦方向にハケ状工具による調整を施す。（内器面）口縁部にナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。

７　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…復元口径22.0cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を僅かに含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…横ナデ調整を施す。



第108図　打越236番地出土遺物（土師器）

8　(a)器種…土師器・甑の把手　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(d)色調…黒褐色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…胴部と把手の付け根の部分は指で強く押さえている。ナデ調整を施す。内器面にはヘラ状工具による調整を施す。　(h)その他…外器面のほぼ全面にススが付着する。

9　(a)器種…土師器・甑の把手　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(d)色調…鈍い橙色　(e)胎土…緻密・砂粒及び造岩鉱物を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…胴部と把手の付け根の部分は指で強く押さえている。ナデ調整を施す。

10　(a)器種…土師器・器種不明・脚部　(b)出土遺構…Ⅱ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元裾部径9.2cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…一部にススが付着する。

ｂ－２　第109図　打越236番地出土遺物（須恵器・炉壁）

1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.0cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

2　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径7.4cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

3　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元底径8.0cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径7.0cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・僅かに砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

5　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径6.6cm・高台の高さ0.1cm　(d)色調…褐色がかった灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

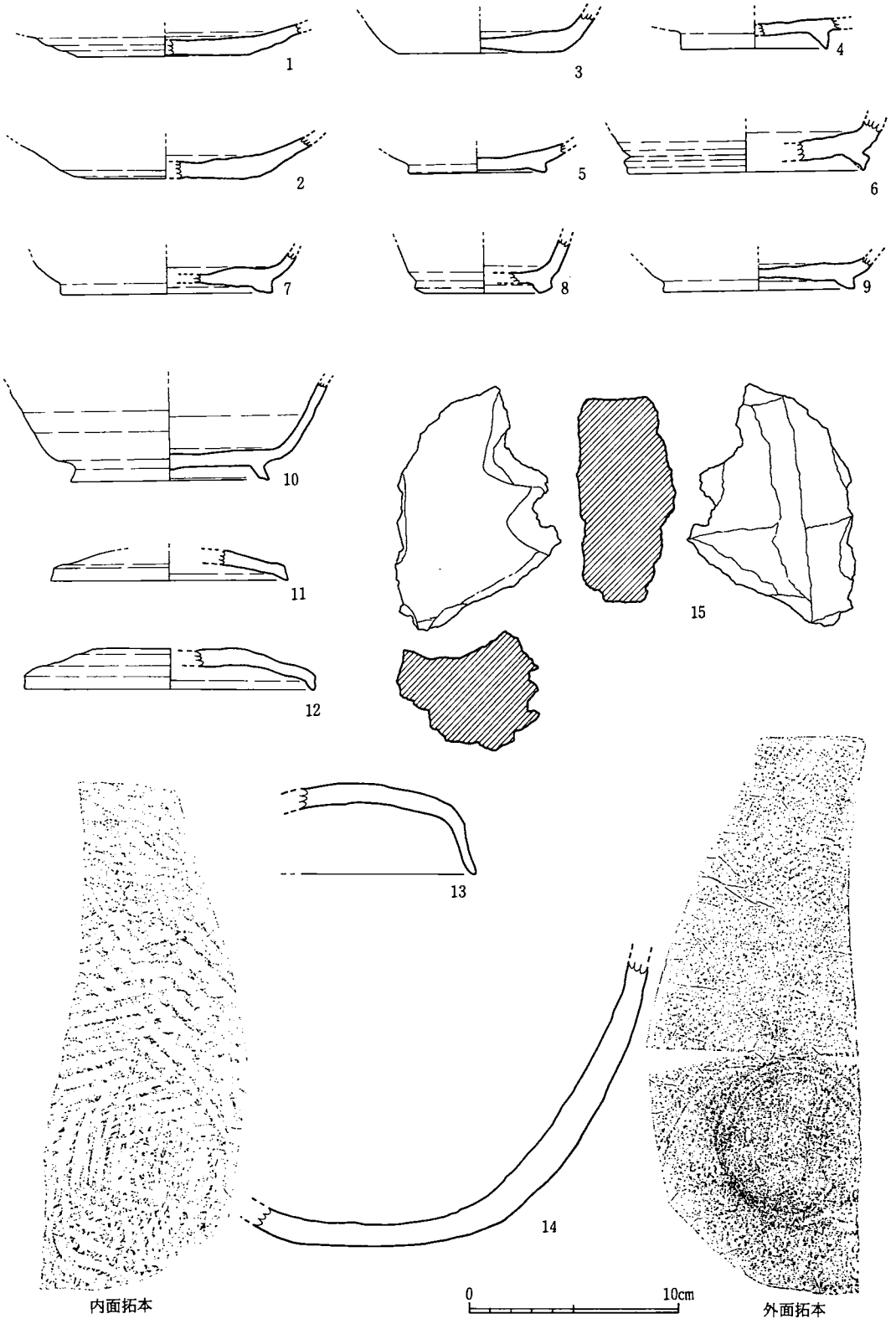
6　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径11.3cm・高台内径11.0cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…（外器面）褐色がかった灰色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。高台内面の付け根付近にはナデ調整の痕跡の他に、指頭圧痕がみられる。（内器面）ナデ調整の他にヘラ状工具による調整を粗く施す。

7　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径10.0cm・高台内径8.6cm・高台の高さ0.3cm　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・白色の砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

8　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径6.6cm・高台内径5.4cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

9　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.0cm・高台内径7.2cm・高台の高さ0.4cm　(d)色調…（外器面）黒色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面には焼きむらが見える。

10　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明・復元高台径9.4cm・高台内径8.2cm・高台の高さ0.6cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含



第109図　打越236番地出土遺物（須恵器・炉壁）

む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…調整用の工具の跡が僅かに残る。

11　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…復元口径11.2cm・器高不明　(d)色調…灰白色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

12　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…復元口径13.8cm・器高2.9cm　(d)色調…（外器面）褐色がかった灰色・（内器面）灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。

13　(a)器種…須恵器・蓋　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…（外器面）黒褐色・（内器面）オリーブ色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面にススが付着する。短頸壷の蓋の可能性が考えられる。

14　(a)器種…須恵器・カメ　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…オリーブ色がかった灰色　(e)胎土…緻密・砂粒を含む。　(f)焼成…良好　(g)調整…外器面には格子文タタキ・内器面には青海波文タタキを施す。　(h)その他…外器面の一部にススが付着する。カメの底部の破片である。

15　(a)器種…炉壁？　(b)出土遺構…II層一括　(c)大きさ…長さ11.9cm・幅7.8cm・厚さ4.5cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…壁土に入れる植物の繊維（スサ）を含む。　(f)焼成…強く焼けている。　(h)その他…上面が凹形に窪むことから、何か棒状の軸の回りに壁土のような物を押しつけた状態が推定される。土の焼けた状態からは、非常に強く火を受けたことが推測される。このことから、当遺物は炉又は窯の壁と推定される。第53図の6に類似する。

9．1686―2番地出土遺物

②　打越1686―2番地出土遺物

b―1　第110図　打越1686―2番地出土遺物（土師器）

1　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径16.5cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…内外器面ともに器面荒れが激しく調整の痕が明瞭でない。　(h)その他…口縁部の1/5周を残す。

2　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径21.9cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部に横ナデを施す。胴部には縦方向にハケ調整を施し、その上をナデている。（内器面）口縁部に横ナデを施す。胴部には縦方向にヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

3　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径18.3cm・器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）口縁部から頸部にかけては横ナデを施す。胴部には縦方向に粗いハケ調整を施す。（内器面）口縁部には横方向に粗いハケ

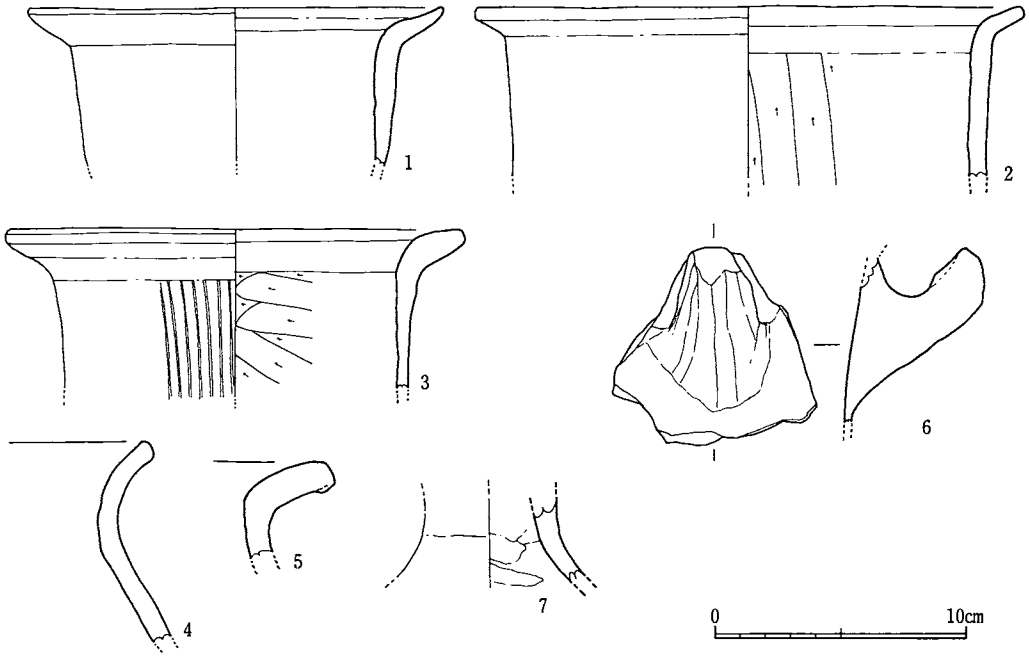
調整を施す。胴部にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

4　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…良好　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…器面荒れが激しく調整痕の観察が困難である。　(h)その他…口縁部の破片である。

5　(a)器種…土師器・カメ　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横ナデの痕が残る。（内器面）口縁部にはナデ調整を施す。頸部以下にはヘラ削りを施す。　(h)その他…口縁部の破片である。

6　(a)器種…土師器・甑　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…橙色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）把手の取り付け部は強く粘土を押しつけて指でナデている。（内器面）ヘラ削りを施す。　(h)その他…把手部のみの破片である。

7　(a)器種…土師器・坏又は盤の脚部　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…黄橙色　(e)胎土…緻密・直径3㎜もあるような砂粒や微細な鉱物粒を含む。(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）横方向のナデ調整を施す。（内器面）粗いナデ調整を施す。　(h)その他…脚部の一部を残すのみである。



第110図　打越1686―２番地出土遺物（土師器）

ｂ－２　第111図　打越1686―2番地出土遺物（須恵器）

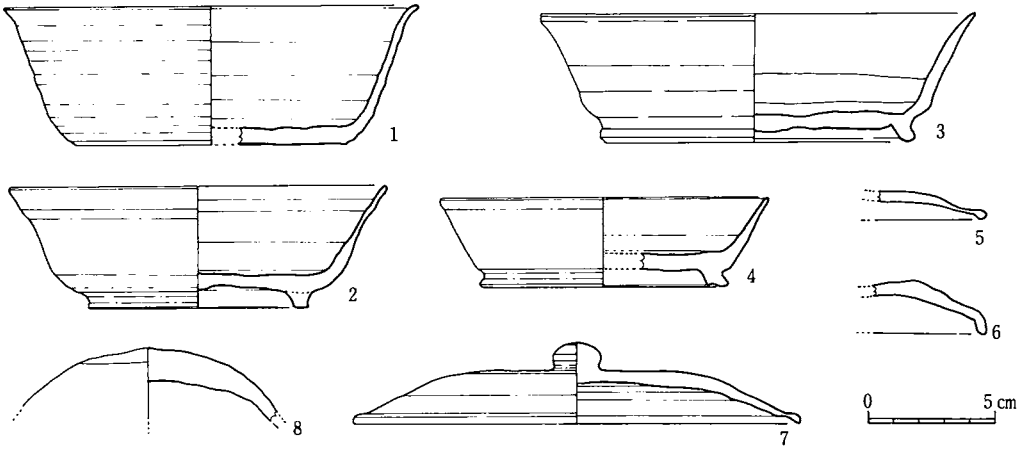
1　(a)器種…須恵器・坏　(b)出土遺構…東端グリッドNo.8　(c)大きさ…復元口径16.4cm・器高5.4cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…極めて良好　(f)焼成…極めて良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。底部にはヘラ切りの痕が見られる。（内器面）ナデ調整を施す。　(h)その他…外器面には薄く自然釉がかかる。

2　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径15.0cm・器高4.8cm・高台径8.7cm・高台内径6.6cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…青灰色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。高台の付け根は丁寧に指で押さえてナデている。（内器面）ナデ調整を施す。高台の内面にはヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…器壁は薄く、整形・焼成が良好な良質の須恵器である。

3　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…第II層No.1　(c)大きさ…復元口径17.2cm・器高5.0cm・高台径12.5cm・高台内径11.6cm・高台の高さ0.5cm　(d)色調…灰白色　(e)胎土…微細な砂粒を含む。　(f)焼成…やや甘い　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。（内器面）ナデ調整を施す。高台の内面にはヘラ切りの痕が残る。　(h)その他…口縁部の1/3周を欠失する。

4　(a)器種…須恵器・高台付坏　(b)出土遺構…東端グリッドNo.7　(c)大きさ…復元口径13.1cm・器高3.5cm・高台径9.9cm・高台内径8.2cm・高台の高さ0.7cm　(d)色調…淡い灰色　(e)胎土…良好　(f)焼成…甘い　(g)調整…（外器面）丁寧にナデ調整を施す。高台の付け根は丁寧に指で押さえてナデている。（内器面）丁寧にナデ調整を施す。

5　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…一括　(c)大きさ…復元口径15.8cm　(d)色調…灰色　(e)胎土…良好・黒色の砂粒を含む。　(f)焼成…不良　(g)調整…内外器面とも器面の荒れが激しく、調整痕の観察は困難である。



第111図　打越1686―２番地出土遺物（須恵器）

6　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…東端グリッド第Ⅰ層一括　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…青灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。上部はヘラ削りを施す。(内器面）ナデ調整を施す。

7　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…第Ⅱ層No.1　(c)大きさ…復元口径17.8cm・器高3.2cm　(d)色調…淡い灰色　(e)胎土…緻密　(f)焼成…不良　(g)調整…内外器面とも器面の荒れが激しく、調整痕の観察は困難である。

8　(a)器種…須恵器・坏の蓋　(b)出土遺構…東端グリッドNo.23　(c)大きさ…口径及び器高不明　(d)色調…青灰色　(e)胎土…良好　(f)焼成…良好　(g)調整…（外器面）ナデ調整を施す。上部は粗くナデ調整を施す。(内器面）丁寧にナデ調整を施す。　(h)その他…口縁部を欠失する。器壁は厚ぼったくてぼってりとした感じを受ける。

第VI章　　ま　　と　　め

発掘調査によって検出した遺構及び遺物について、第III章から第Ｖ章にかけて、遺構の推定される年代に従って古い遺構の順に述べた。

各章に於いて、遺構及び遺物についての事実報告に努めた。ここに章を改めて「まとめ」を述べることは、各章に於いて述べたことと重複する点が多いと思われる。しかし、第III章から第Ｖ章に於いては事実報告に終始したので、本章に於いては、事実報告以外に、発掘調査者が調査中に感じた事・推定される事・発掘現場を訪問された多くの研究者からの御教示を受けて改めて気がついた事等について取り交ぜて、ここに述べたい。

第１節　縄文時代以前の遺構及び遺物について

打越遺跡の踏査記録に於いても指摘されたように、発掘調査を実施した地域全面から黒色磨研系の土器の小片を表面採集した。このことから、縄文時代の遺構がかなり多く検出されるであろうと期待したが、事実は期待に反していた。

検出した遺構は、第III章で述べたように、10号土壙・13号土壙・30号土壙・１号及び２号炉址である。縄文時代の遺構とも弥生時代の遺構とも断定し難いのが、11号土壙(風倒木痕)である。26号土壙は縄文時代の遺構と推定されるが、遺物の上で決め手を欠く。

これ等の遺構の中で注目すべき遺構は、１号及び２号炉址・30号土壙である。

１．縄文早期の遺構及び遺物

１号及び２号炉址は石囲い炉であり、現地表下1.5mから検出した。遺構内からの出土遺物は、撚糸文土器片である。遺構の切り込み面は、第II－ｂ層の下面又は第II－ｂ層の中間付近(第13図参照）と思われる。第II層は黄褐色土からなり、上下二層（ａ・ｂ）に分かれる。打越遺跡の南に広がる當尾台地の発掘調査の例に於いても黄褐色土の層は上下二層に分かれる。上層からは縄文後期～晩期の遺物（御領式土器～山の寺式土器）が出土し、下層からは縄文早期～前期の遺物が出土する。この當尾台地の発掘調査例と打越遺跡検出の１号及び２号炉址の検出状態とは、合致すると思われる。

打越遺跡から出土した最古の遺物は、マイクロブレードである。しかし、これは表面採集の遺物である。

2．縄文後期～晩期の遺構及び遺物

当遺跡から出土した黒色磨研系の土器片の中で、羽状文（綾杉文）が施文された土器片を見出すことが出来ない。このことから、出土した土器片は御領式以後の土器（羽状文を施文された土器を三万田式土器と考えるならば）と思われる。これ等の土器片の中で、口縁部にリボン状の突起を持つ鉢の破片がある。このリボン状の突起を持つ土器片は、黒川式土器に比定される。これら黒色磨研系の土器片以外に突帯文土器が少量出土する。

上記の土器片について土器の形式を推定すると、当遺跡から出土する縄文土器は後期から晩期の時期（御領式土器・黒川式土器・山の寺式土器）に比定される。

第22図に紹介した土偶は、236番地の表土排除作業中に耕作土(表土)中から検出した遺物である。頭部及び左右の腕部を欠失する。残存する形は極度に胴長短足であるが、胸部・腹部・肩部・臀部の形状は実に写実的であり、妊婦の姿を良く現している。土偶の胎土と上に述べた縄文後期から晩期にかけての黒色磨研系の土器片の胎土は、よく類似する。このことから、この土偶は御領式～黒川式の土器に伴うと推定される。

土壙は、上にも記したように、10号土壙・13号土壙・30号土壙がある。この内の２基（10号・13号)からは、黒色磨研系の土器が出土したことから、縄文後期から晩期頃の遺構と推定される。30号土壙(第10図参照)は、楕円形の土壙(長径0.9m・短径0.7m・遺構検出面から底面までの深さ0.3m)である。この土壙の中から、突帯文土器の深鉢（山の寺式土器）が何かに蓋をするような形（臥せた状態）を推定される状態で出土した。この遺構の時代は縄文時代晩期である。遺構の性格について墓壙とも貯蔵穴とも考えられるので、一概に明確な答えを得ることが出来ないでいる。

第２節　弥生時代の遺構及び遺物について

当遺跡から検出した弥生時代の主な遺構は、第IV章で述べたように、１号～４号住居址（竪穴式住居址）及び29号土壙である。これ等５基の遺構は237番地から検出した。遺構の切り合いの状態から、１号住居址→２号住居址→29号土壙の順になる。また、３号住居址と４号住居址も切り合っており、３号住居址の方が先行する。

1．１号・２号住居址及び29号土壙

１号住居址は２号住居址に切られており、東側の壁（長さ2.2m）が残るのみである。２号住居址は、ほぼ完全（南側の隅が近世の溝遺構で切り取られている。）に発掘することが出来た。２号住居址の平面形は、ほぼ方形（一辺３m前後）である。

2号住居址の中央部を29号土壙が切っている。両遺構から多量の土器が出土した。しかも、両遺構から出土したこれらの土器片の中で互いに接合する物がかなりある。このことから、2号住居址の廃絶後、さほど時間的に経過しない時期に29号土壙が造られ、その29号土壙も早い時期に埋没したものと推定される。

2号住居址と29号土壙から出土した土器は、第24～26図に紹介した。第25図に示すカメを見ると判るように、脚部は非常に高く、タタキによる整形の後ハケ状工具によって器面調整を施している。また、第26図を見ると、小型の壺の形状は球形に近く、肩部の張りの部分が少し角張っていることもわかる。

以上のことから考えると、2号住居址と29号土壙の時期は弥生時代後期もかなり後の方と推定される。極端な言い方をすれば、土師式前夜と言えるかもしれない。

これらの遺構の時期と最も近い時期と思われる遺物は、陣内遺跡（阿蘇町）・宇土城跡（小西氏居城・宇土市）・出町遺跡（不知火町）・方保田東原遺跡（山鹿市）出土の遺物が思い起こされる。

1号住居址からの出土遺物の中にも脚台部の高いカメの底部が含まれていることから、一番先行している遺構ではあるが、2号住居址や29号土壙と時期的には大差がないと考えられる。

2．3号住居址及び4号住居址

3号住居址の北側の壁を4号住居址が切り取っているが、幸いにも四隅が残存することからその平面形は明らかである。3号住居址の平面形はほぼ方形であり、一辺の長さは4.3～4.5mである。遺構検出面から床面までの深さは15～25cmであり、4号住居址の床面より5cm程高い。3号住居址からの出土遺物は、土器・石包丁・鉄片等である。石包丁と鉄片は、床や壁面に張り付いた状態で出土したことが注目される。

3号住居址の土器は4号住居址の土器と類似しており、両者の間に時間的隔たりはさほど無いと推定される。石包丁（磨製・粘板岩製）は台形状を呈し、両端に「V」字状の切り込みを有する。このような形状を呈する石包丁は、熊本県に於いては出土例の極めて少ない遺物であり、今後の出土例の増加によってその実態が明らかになることを期待したい。鉄片の内、一点は鉄針と推定される。他にも数点出土したが、酸化が強く進み個体数さえも明らかでない。鉄器については、埋蔵文化財研究会第16回研究集会の研究発表資料の中に既に紹介している。

4号住居址は3号住居址より小型である。平面形は、他の住居址と同様にほぼ方形であり、各辺の長さは3.4～4.1m（各辺の長さが少しずつ異なる）である。出土遺物は、刀子と台石以外は土器である。出土した土器は第31～37図に紹介するように、多数に上る。

第32・33図に示すカメを2号住居址及び29号土壙から出土したカメ（第24・25図）と比較すると判るように、前者が後者よりも脚台の高さが少し低くがっちりとした感じを受ける。この

点を重視するならば、４号住居址が２号住居址及び29号土壙より先行すると考えられる。

第34・35図及び36図の１に壺を紹介した。第34図の壺の口縁部の内面には、四棟の家屋を思わせるような三角形と柵を思わせるような小さな鋸歯状の紋様と１基の不明の紋様がヘラ状の工具によって描かれている。

第36図の１に紹介した壺の口縁は複合口縁であり、胴部は球形である。器面は目の細かいハケ状の工具によって丁寧に調整を施されている。胎土は打越遺跡から出土したどの弥生土器とも異なる。器形や胎土が他とは異質であることから、この壺は、熊本県南部一帯に分布する遺物とは少し異なっている。恐らくは、九州北部に分布する土器に類似する物があるのではなかろうか。

第36図の２・３に高坏を紹介した。２は、弥生後期の遺跡から良く出土する遺物である。３は、高坏の柱状部のみを残す。この柱状部の外面にタタキ（拓本参照）による整形痕が残る。柱状部の内面にはナデ調整を施す。脚裾部の返りは急激であり、裾部の形状のみを重視すると古墳時代の遺物との意見が多いと考えられる。調査者としては、この遺物をどのように評価してよいか思案したが、事実の報告として此処に掲示する。

第37図の１に脚付鉢を紹介した。これは、口縁が片口と成っており、脚部は極めて粗雑に整形されている。この遺物の器形および整形の手法が類似した遺物としては、方保田東原遺跡の出土遺物（山鹿市立博物館所蔵・同博物館学芸員中村幸史郎氏より御教示）がある。

３．遺構の時期及び関連遺跡

以上、１及び２に於いて述べたように、３号・４号住居址と２号住居址及び29号土壙を比較すると前者の方が時間的にやや先行する（カメの脚部の高さを比較した場合）と思われる。

弥生時代後期の遺跡の中で打越遺跡と非常に近い年代の遺跡は、上に記したように、陣内遺跡[註1]（阿蘇町）・宇土城跡[註2]（小西氏居城・宇土市）・出町遺跡[註3]（不知火町）・方保田東原遺跡[註4]（山鹿市）等がある。特に、宇土城跡（小西氏居城・宇土市）・出町遺跡（不知火町）は当遺跡と互いに距離的に近い位置に所在するので遺物の充分な比較検討を要すると思われる。

第36図の１と第37図の１については、今後、充分なる検討をする必要がある。

第３節　奈良時代・平安時代の遺構及び遺物について

第Ｖ章の冒頭にも述べたように、歴史時代の遺構と推定される遺構の大部分は奈良時代又は平安時代の遺構である。それ以外の遺構は江戸時代末～明治時代初の遺構と現代の遺構である。

奈良時代・平安時代の遺構としては、カマドを持つ竪穴式住居址（５号・６号）・住居状遺構（１号～７号）・掘建柱建物遺構（１号～４号、４号の遺構は明瞭な状態でない。）・土壙(貯

蔵穴・炭焼き窯？・性格不明）・溝状遺構（道路遺構・溝遺構）である。

１．遺構検出過程から推定される遺構の前後関係

１号住居状遺構及び１号掘建柱建物遺構の検出過程を説明した時に既に述べた事と重複するが、当遺跡の出来る過程を知る上で重要と思われるので再度ここに記しておく事とする。

発掘調査した各畑の人為遺物を含む土層は、Ⅰ層（耕作土）・Ⅱ層（黄褐色土に黒色土が混じった土層・土師器及び須恵器の包含層）・Ⅲ層（褐色土・縄文土器の包含層）である。しかし、遺構の覆土から見た土層は、Ａ層（耕作土）・Ｂ層（黒色土）・Ｃ層（黄褐色土に黒色土が混じった土層）・Ｄ層（褐色土層）・Ｅ層（黄褐色土層）である。

上に記した土層と遺構の覆土を対応させると、Ⅰ層＝Ａ層・Ⅱ層＝Ｃ層・Ⅲ層＝Ｅ層となる。このことから、Ｂ層（黒色土）とＤ層（褐色土層）が欠落していることが判る。

土層の欠落の理由として、耕作による削平が先ず一番に考えられる。Ｂ層（黒色土）の消失は、この理由が適合すると思われる。

次に、Ⅱ層（黄褐色土に黒色土が混じった土層）の形成について考えると、土の色から、Ⅱ層はＢ層（黒色土）とＥ層（黄褐色土層）の攪乱によって生じたことが容易に推定される。しかし、この攪乱はⅠ層を形成した耕作による攪乱（中世～現代）ではないことは、Ⅱ層に含まれる遺物（奈良時代～平安時代の須恵器及び土師器出土・中世～現代の遺物は検出されていない）から明らかである。

Ⅱ層を切る遺構としては、６号住居址・５号住居状遺構・３号掘建柱建物遺構・１号土壙・15号土壙・29号溝状遺構等が挙げられる。ところで、Ⅱ層の下から検出した遺構は、1号住居状遺構・１号掘建柱建物遺構・２号掘建柱建物遺構・27号溝状遺構等がある。このⅡ層を切る遺構とその下から検出される遺構と言うことから、遺構の形成時期の前後関係を明らかにすることができる。

Ⅱ層を切る遺構から出土する土師器の坏は比較的大型であり、黒色土器は出土しない。また、土師器の糸切り皿も出土していない。これ等の事から、遺構の推定時期は平安時代前半と推定される。そうすると、Ⅱ層の下から検出される遺構は、奈良時代の可能性が強い。

Ⅱ層を切る遺構とⅡ層の下から検出される遺構を上述のように理解すると、Ⅱ層の形成時期（Ｂ層とＥ層を強く攪乱した時期）は奈良時代末～平安時代初めと推定される。

２．木炭を多量に出土する土壙

Ⅱ層を切る遺構の例として上述した１号土壙・15号土壙の他に、235番地・1683-1番地から主に出土した。第Ⅴ章第４節に於いて述べたように、遺構内から木炭や木灰が多量に出土する。遺構周辺にも木炭や木灰が多量に散乱する。遺構の床が部分的に赤変している。遺構内出土の

土器としては、土師器と須恵器の小片（器種不明）である。

上記のような遺構の検出状況から、発掘調査当初は火葬場の跡ではないかと考えた事もあったが、祭祀的な遺物や遺構が何ら出土しない上に、遺構の床面や壁面の焼け方が少ないので当を得ていないと思われる。

火葬場でないと仮定して多くの木炭が出土する遺構と考えた場合、一番妥当な遺構は炭焼き窯の跡が考えられるであろう。遺構の形成時期を上記の１に示した平安時代前期と仮定すれば、木炭は当時重要な産物であったと考えられる。

３．住居状遺構

第Ｖ章第２節に述べたように、住居状遺構と余り明瞭でない遺構名を付けた理由は、外形は竪穴式住居状を呈するが内部に貯蔵を目的とすると思われる穴を持つ事から、住居状を呈していても住居ではない事を表現したい為である。本来ならば、貯蔵用家屋とでも言えるであろう。

235番地出土の２号～４号住居状遺構は、住居址と考えると小型であり、あまりに細長い平面形である事から遺構の深い部分のみが残存したと推定して住居状遺構と判断した。

上記２に述べたように、５号住居状遺構はII層を切る遺構であり、１号はII層の下から出土する遺構である。このように、今回検出した住居状遺構は二つの時期に分かれる。

打越遺跡から検出した貯蔵施設と比較的に近い時期の遺構は、神水遺跡（熊本県文化財報告第82集）出土の貯蔵穴が挙げられる。歴史時代の貯蔵穴について、神水遺跡の調査者（緒方勉・熊本県文化課課付）は、『農業考古　1982第二期～1983第二期』を引用して次のように述べている。

> ５基の土壙、これについて貯蔵穴としての機能を与えることは、発見例が少ないことから多少ともためらいがないでもないが、中国を例にとれば時代こそ違え、『我国古代地下儲粮之研究』などに類例を見ることが出来る。そのような意味を含めて本稿では貯蔵穴として処理した。

『農業考古　1982第二期～1983第二期』を緒方氏から紹介されて考えるに、同氏が上に言うように気候・風土・時代は異なるけれども、地下に多量の食料を貯蔵することが現に行われていた事実は貯蔵穴を考える上で良い参考となる。

以上の点から、住居状遺構については貯蔵用の家屋と判断した。

４．溝状遺構

溝状遺構とした遺構（31基）は道路遺構と溝遺構に分けられるが、中には両方の機能を兼ね備えた遺構もあると思われる。

溝状遺構の中で代表的な遺構は、11号・27号・29号溝状遺構である。

11号溝状遺構は、江戸時代後期～明治時代初期の溝遺構である。遺構内から、碗・皿等の陶磁器が出土した。

27号溝状遺構は、1687番地と1686-1番地の境界付近から検出した。南北に走る道路遺構であり、多量の土師器・須恵器が出土した。土師器のカメの破片を多く含むことから、これ等の遺物は投棄されたと推定される。上述したように、II層の下から検出される遺構である。

29号溝状遺構は、南北に走る道路遺構である。遺構の延びる方向から13号溝状遺構(道路遺構)と一連の遺構の可能性が考えられる。上記2に述べたように、II層を切る遺構である。覆土は、無論、黒色である。出土遺物は、須恵器・土師器・鉄器・布目瓦である。瓦が出土した事から、遺跡の近くに瓦を持つ建物或いは瓦窯址の存在が推定されるが、明らかではない。

第4節　まとめ

第III章～第V章にかけての要約及び遺構から推定される事について、本章第1節～第3節にかけて述べた。

打越遺跡の縄文時代の遺構は、早期と晩期の遺構が出土した。出土する土器片は、押型文土器・撚糸文土器・御領式土器～黒川式土器・山の寺式土器等である。

弥生時代の遺構は、竪穴式住居址と土壙である。遺構の時期は、後期末である。

歴史時代の遺構は、カマド付の竪穴式住居址・住居状遺構・掘建柱建物遺構・土壙・溝状遺構（道路遺構・溝遺構）である。これらは、II層を切る遺構とその下から出土する遺構の二つの時期に分けられる。遺構の時期は、奈良時代～平安時代前半と推定される。

歴史時代の遺構として上記の遺構以外に、江戸時代後期～明治時代初期と推定される溝遺構を検出した。

註1　清田純一　「陣内遺跡」阿蘇町文化財調査報告第2集　1982　熊本県阿蘇町教育委員会

註2　平山修一、高木恭二、木下洋介　「宇土城跡（城山）」宇土市埋蔵文化財報告書第10集　1985　熊本県宇土市教育委員会

註3　浦田信智氏御教示による。昭和55年出町遺跡発掘調査

註4　中村幸史郎・倉原謙治・坂本重義　「方保田東原遺跡」　1982　熊本県山鹿市教育委員会

八反田遺跡発掘調査報告

―下益城郡松橋町大字古保山字八反田―

1．はじめに

昭和58年度当初、熊本県耕地第一課から「當尾地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査」について依頼があった。八反田遺跡は、先に述べた「古保山打越遺跡」と近い位置に存在することから、当遺跡の発掘調査と並行して実施することにした。

調査の組織及び歴史的・地理的環境については、本書第Ⅰ章を参照されたい。

2．遺跡の位置及び現状

八反田遺跡は、打越遺跡の東方約1kmの位置に存在する。八反田遺跡の背面には、木原山（雁回山）が聳える。この木原山の南斜面の傾斜が急に緩やかになった所に海の平の集落が広がる。当遺跡は、海の平の集落から南方に人差し指を突き出したような幅の狭い微高地（附1図の1参照、海抜40m未満）に存在する。微高地の広さは、幅約30m・長さ約70m・面積2.000m²程である。この微高地の三方（東・南・西）は水田である。水田までの比高差は2m前後である。

当遺跡の現状は畑地であり、野菜・サツマイモ・麦・果樹等が栽培されていたとのことである。しかし、遺跡発掘調査を開始した時点においては採土地となっており、発掘調査の成果はほとんど望めない状態であった。

発掘調査終了後、当遺跡の存在した微高地は削平されて水田となった。

3．発掘状況

① 土層及び遺構検出状況

発掘調査は、残存する耕作土（採土から免れた部分）の表土（20～30cm）をバックフォーによって排除した後に開始した。

耕作土（第Ⅰ層）の下には、黄褐色土層（第Ⅱ層・20～30cm）が存在した。この第Ⅱ層には、縄文晩期の土器片を含んでいた。松橋町周辺の遺跡においては、この第Ⅱ層に黒色磨研系の土器から押型文土器までの時期の土器片を含んでいる。しかし、当遺跡においては、黒色磨研系

の土器片以外、縄文土器の出土は見られなかった。

第II層の下は、木原山の侵食によって流出して堆積したと推定される礫層となっていた。

検出した遺構は、1号土壙と2号土壙の2基のみである。それ等の覆土の第I層は、1号土壙では暗褐色土・2号土壙では黄褐色土である。覆土の様子から推定すると、2号土壙の方が古いと推定される。

土壙を検出した位置は、1号は微高地の南端に近い方であり、2号は北側の現在の集落に近い方である。

② 1号土壙

平面形は楕円形であり、南北方向に長い。長径1.2m・短径0.9m、遺構検出面から底面までの深さ0.3mを測る。底面はほぼ平坦である。

覆土は3つの層に区分できる。I層は暗褐色土・II層は黒色土・III層は暗褐色土からなる。I層とII層の覆土中には焼土粒を含む。

覆土中からは遺物が出土しなかったが、周辺部から黒色磨研系の土器片（黒川式土器）を採集した。遺構の性格は不詳である。

③ 2号土壙

平面形は草鞋状を呈し、東西に細長い。長さ3.9m・幅1.2m、遺構検出面から底面までの深さ0.5mを測る。底面の横断面は「U」字形状を呈する。東西の両端の底はステップ状に浅くなり、しかも、西側のステップ状の所に接して底が円形に深くなる。

覆土は2つの層に区分できる。I層は黄褐色土・II層は暗黄褐色土からなる。遺構の底面直上から礫が6個出土する。

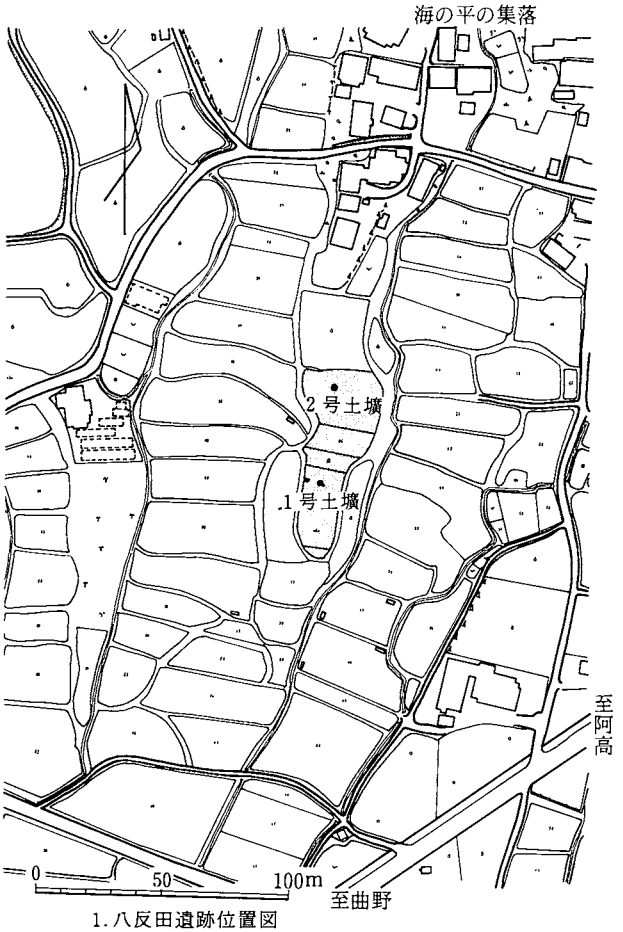
遺構の性格及び時期については不詳である。しかし、先に述べた1号土壙の覆土より土色が明るいことから、縄文晩期よりも古い時期の遺構と推定される。遺構の性格は不詳ではあるが、墓壙にしては大きいので、何かの貯蔵穴の可能性が高いと思われる。

4．まとめ

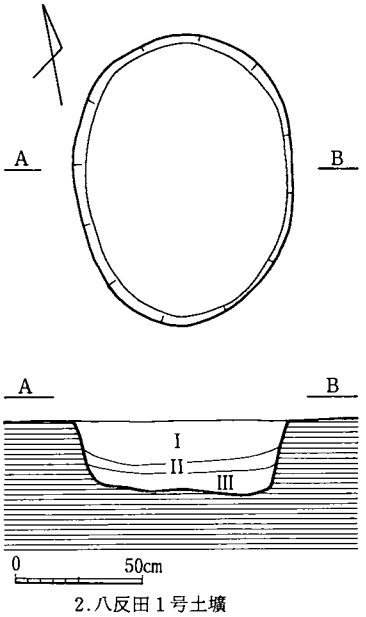
上記2においても述べたように、微高地上に形成された縄文時代の遺跡である。仮に、採土地になっていなかったとしたら、遺跡の性格及び年代をもっと詳に出来たであろうと思われる。

ところで、当遺構の南側を走る県道の南側（海の平のバス停の南側）に「花立（はなたて）遺跡」が存在する。この花立遺跡（松橋町大字古保山字花立）周辺の圃場整備事業は終了している。その時、遺跡の保存を考えて工事が行われた。この花立遺跡から出土する縄文晩期の土器片と当遺構の1号土壙周辺から出土する黒色磨研系の土器片は類似する。

以上の結果から、八反田遺跡は縄文時代晩期の遺跡であろうと推定される。

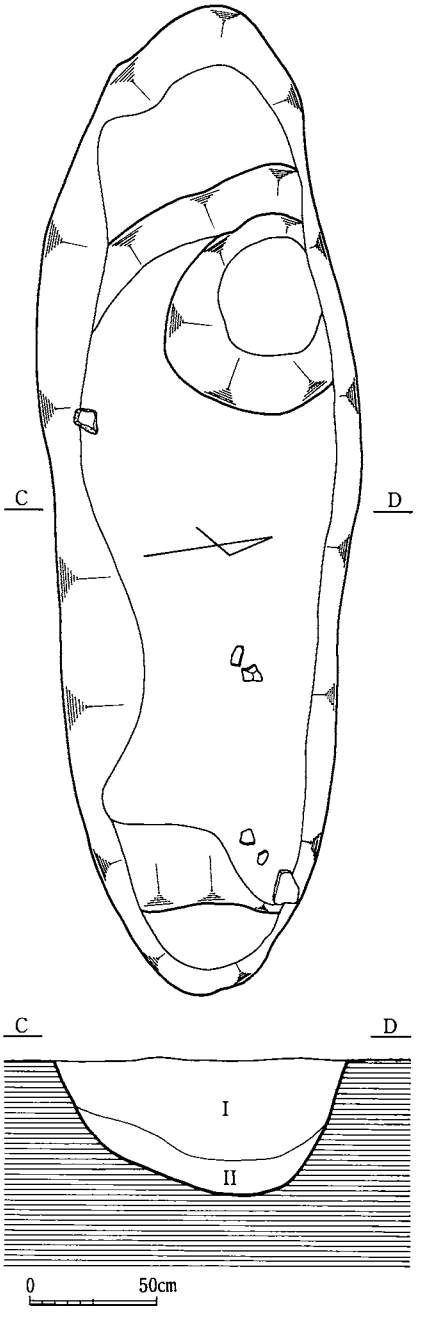


1.八反田遺跡位置図



2.八反田1号土壙

I：暗褐色土層
粘性・しまりに富む
若干の焼土粒子が混入する。
II：黒色土層
多量の黒色土粒子をベースとし、多量のカーボン粒子を含む。
若干のカーボン粒子を含む。
粘性・しまりに欠ける。
III：暗褐色土
粘性・しまりに富む。
若干の黄色土粒子がまじる。



I：黄褐色土
粘性・しまりに欠ける。
II：暗黄褐色土
粘性・しまりに富む。

3.八反田2号土壙

附1の1図　八反田遺跡の位置及び1号・2号土壙

松橋町古保山字部田目所在の板碑及び六地蔵報告

肥後考古学会会員　坂　口　雅　柳

1．古保山字部田目所在の板碑

所　在　地　熊本県下益城郡松橋町古保山(部田目)　志垣寿男氏宅裏

建立年月日　干時永禄（1567）十天丁卯今月吉辰

形　　体　板碑（自然石）安山岩

参考伝説　県文化課村井眞輝氏の連絡により、昭和59年２月26日現場にて落合いの上採拓調査す。

附２の１図　板碑写真

この碑について取調べたるところ不明の点が幾つかあり、この道の知人にも照会したが判然とせず。不明の点は今後更に調査することゝして一応取纒めることゝした。

1．この碑は地元では「馬頭観音」として礼拝して居るとのことであるが、種子からすると胎蔵界大日如来を頭文字として禅師の寿会碑としたものと考えて良いと思うのである。

2．蓮座の下の「十」「卍」について

「十」をクルスと見るか単なる飾と見るか判然としない。「卍」を南の畧図案化と見るか、香炉の図案化と見るか判然としない。

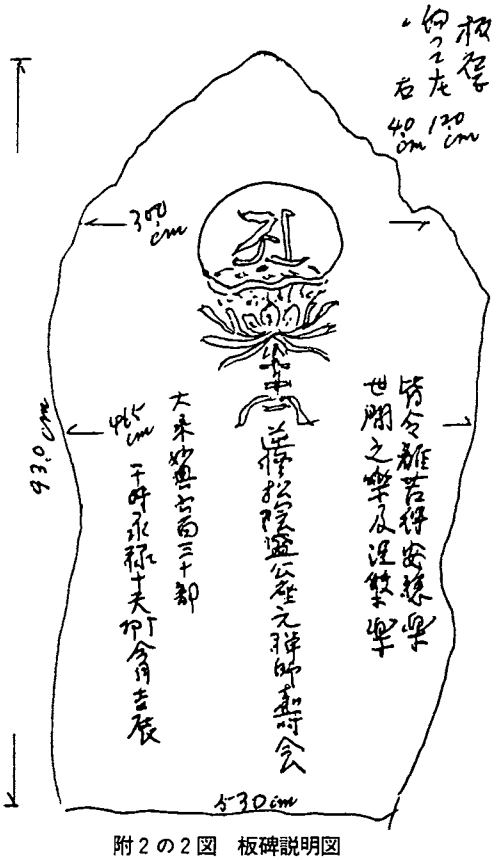
3．皆令離苦云々について

『法華経薬草喩品』中の「皆令離苦得安穏楽、世間之楽及涅槃楽」の文字を彫刻したものである。涅槃楽＝三楽、五楽の一で生死の苦を離れて究竟安穏なるを涅槃楽と云う。尚参考迄に附記す。

三楽＝１．天楽　２．禅楽　３．涅槃楽

五楽＝１．出家楽　２．遠離楽　３．寂靜楽　４．菩提楽　５．涅槃楽

『織田佛教大辞典』



附２の２図　板碑説明図

4．逆修松陰盛公座元禅師寿会

松陰盛公なる人物については今のところ不明につき今後の調査によることゝす。座元＝①首座、第一座の署名、僧堂におけるその座の位置が首座は一番枢要なところ（元首）にあるのでいう。②近世以後は立職仏という一階程を経た僧の敬称となった。

『中村元佛教語大辞典』

座元禅師の還暦か古稀などを祝って門弟等が寄って逆修したものと思われる。

5．大乘妙典630部について

この道に詳しい橿原市の堀義男氏は次のように述べて居られる。

大乘妙典（法華経のこと）66部の10倍と考えられ、630部は660部ではなかろうか、660部なら10倍で66ヶ国納経の事となり、１ヶ国10部づゝとなります。普通は１ヶ国１部で66部なのですが或は法華経八巻と観音賢経、無量義経、開結二巻を合せて10部と勘定したのかも知れません。ですから660部なら話が合うのですが630部では解しかねます。普通は法華経八巻を１部と考えます。

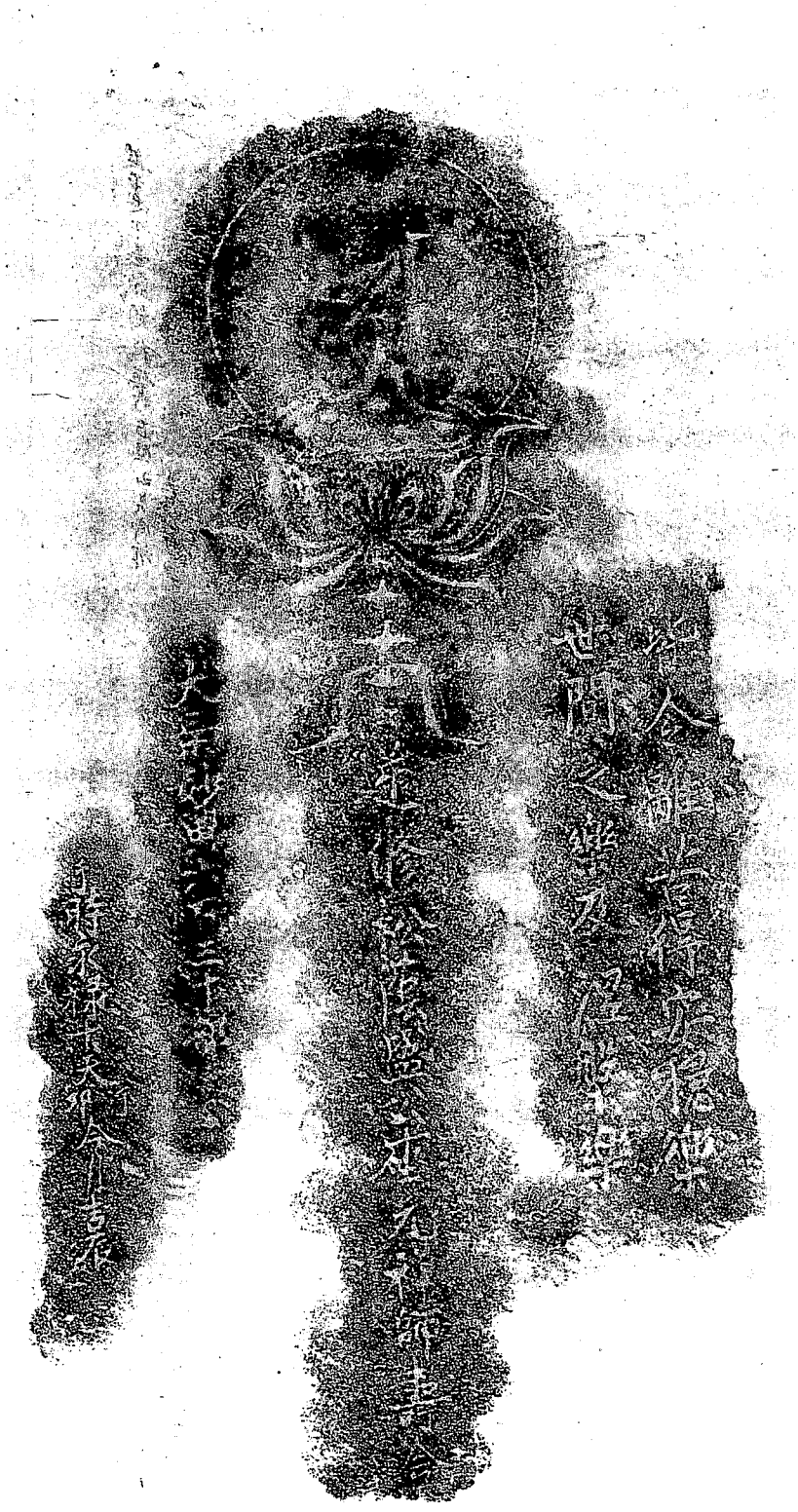
（更に660部か630部かを確かめて下さいとありますが採拓の結果は630部に誤りはありません。）

6．干時永禄十天丁卯今月吉辰について（堀氏述）

吉辰は良き日吉日、今月は良き月と云う位で年号は入れても月日にはこだわらず書かない例が可なりあるようです。今月は令月の見誤りと云うこともあります。令月（レイゲツ）なら二月です。（再確認今月である）

今月銘の例（石碑ではありませんが）

(イ)　石川県笈（オイズル）岳経塚出土経筒



附２の３図　板碑拓本

永正十五天戊寅今月日　十覚坊

(ロ) 三重県仙宮神社　銅板六角経筒

三十番神　當年今月吉日

(ハ) 東京大悲願寺　六角経筒

文珠坐像天正13年　今月吉日

2．古保山字部田目所在の六地蔵

所　在　地　熊本県下益城郡松橋町古保山（部田目（へため））志垣寿男氏宅裏山

建立年月日　不詳　（認室町時代後期）（1478—1573）

形　　体　石幢（重制）残存龕部のみ他未発見

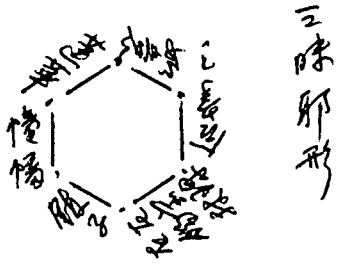
参考伝説　県文化課村井眞輝氏の連絡により、昭和59年2月20日現場にて落合の上採拓調査す。

石幢重制の正体であれば現存する肥後の文明期のものと同様立派なものであるが現在は龕部のみであるのでそれについて私見を述べることゝす。

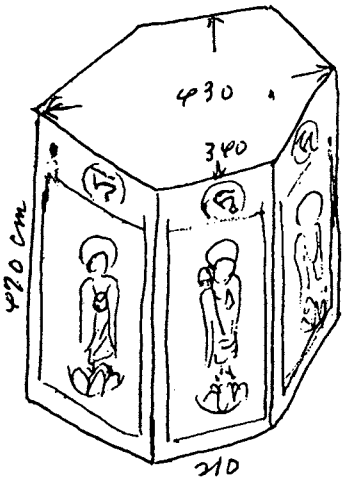
1．龕部は六画六面二重枠付中肉に線刻を加えた像容は一見して肥後の室町後期（文明期）のものであることが判る。枠外上部に種子「ㄱ」を各面に彫刻してある。

2．三昧耶形及畧図別記の通り。

3．現在は志垣寿男氏宅裏の竹林中にあって志垣寿男氏（現区長）及び渡辺勝美氏（前区長）のお話では自分達の聞いているところでは直ぐ近の道端に建って居たと云うことであるが宝珠、笠、中台、竿、基礎などは見たことがないとのことである。



①三味耶形の説明



②石幢龕部の説明図

③石幢龕部写真

④石幢龕部写真

附２の４図　石幢龕部の説明図及び写真

附２の５図　六地蔵拓本

写 真 図 版

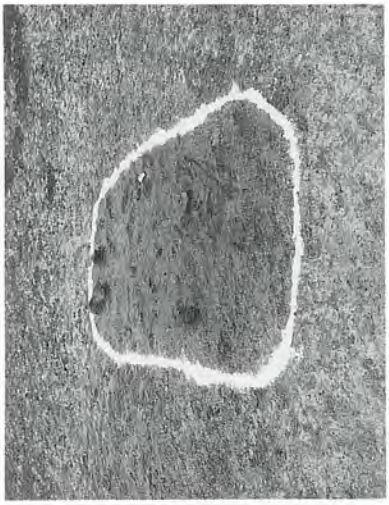
図版１　打越遺跡・八反田遺跡の鳥瞰写真

１．打越遺跡

２．八反田遺跡（写真中の集落は海ノ平）

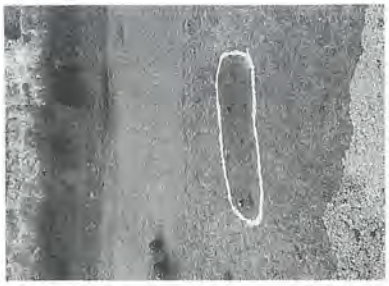
図版２　１号・２号炉址（打越1686－２番地）

１．炉址附近の土層断面

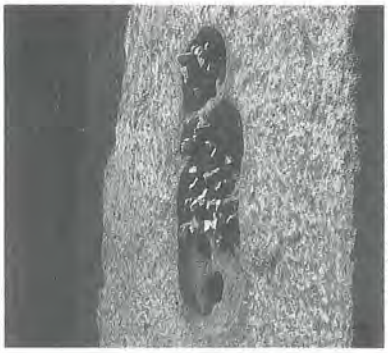


２．遺構検出状態

４．炉址発掘開始状態



３．遺構検出状態



５．炉址中の焼けた石

６．完掘状態

７．完掘状態

図版３　１号・２号住居址及び29号土壙

１．遺構検出状況

２．２号住居址発掘状況

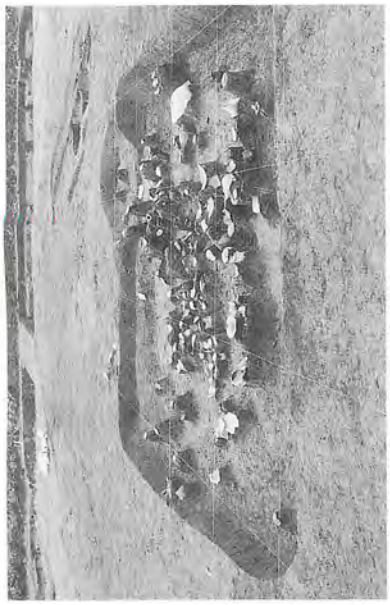
３．遺構の切り合い状況

４．遺物出土状態

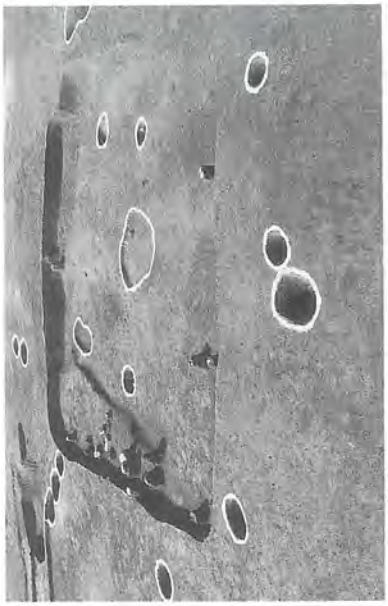
５．遺構内埋土の断面

６．遺物出土状態

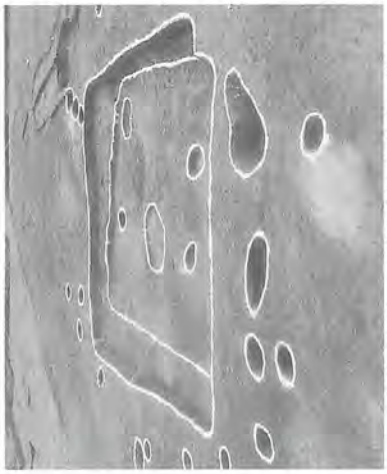
図版４　３号・４号住居址



１．４号住居址中の遺物検出状況



２．完掘状態



３．３号住居址と４号住居址の切り合い状況

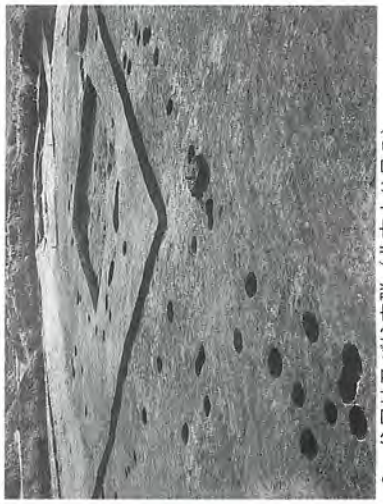
４．４号住居址の遺物出土状態

５．３号住居址遺物出土状態
（石包丁）

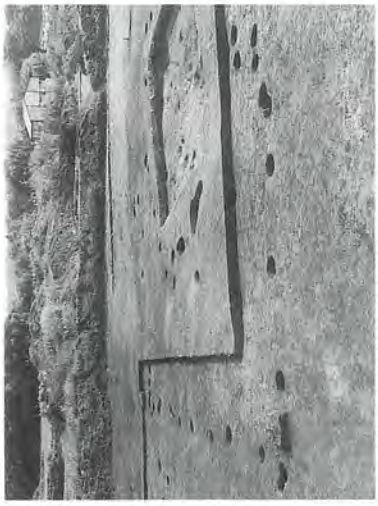
６．３号住居址遺物出土状態（鉄針）

図版５　３号・４号住居址及びその周辺の柱穴群

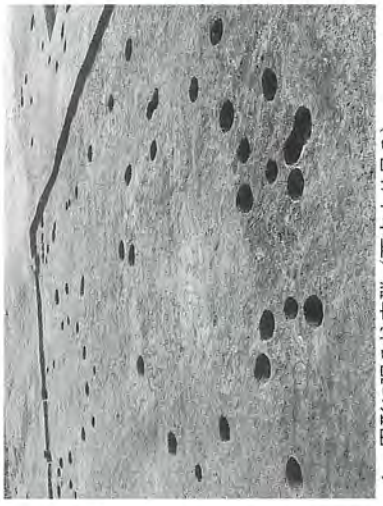
１．住居址及び柱穴群（東方より見る）



２．住居址及び柱穴群（北方より見る）



３．住居址及び柱穴群（西方より見る）

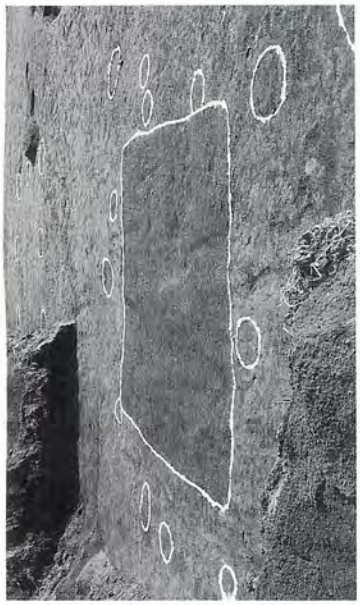


４．円形に廻る柱穴群（西方より見る）

５．住居址群の遠望

６．３号・４号住居址の切り合い

図版６　６号住居址（打越1686－１番地）



１．住居址検出状態（西方より見る）

２．住居址完掘状態（東方より見る）

３．住居址完掘状態（南方より見る）

５．カマドの煙道部（東方より見る）

４．カマド検出状態

６．カマド完掘状態

図版７　４号住居状遺構及び５号住居址

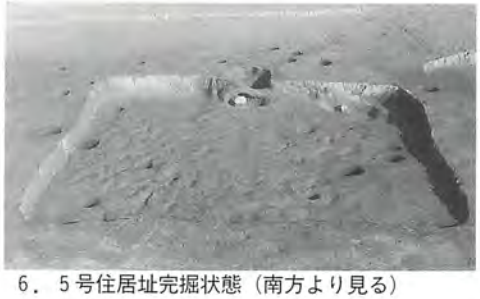
１．３号・４号住居状遺構

２．４号住居状遺構

３．４号住居状遺構出土遺物

５．５号住居址及び７号住居状遺構

４．４号住居状遺構完掘状態



６．５号住居址完掘状態（南方より見る）

７．５号住居址のカマド

図版８　１号・６号住居状遺構

１．１号住居状遺構（北方より見る）

２．１号住居状遺構（東方より見る）

３．１号住居状遺構（北方より見る）

４．６号住居状遺構（南方より見る）

５．６号住居状遺構（北方より見る）

図版９　５号住居状遺構（打越1683－１番地）

１．遺構発掘途上（北方より見る）

２．完掘状態（南方より見る）

３．完掘状態（左上方には１号住居状遺構が見える）

４．遺物出土状態

５．遺物出土状態

６．遺物出土状態

図版10　土壙・７号住居状遺構

3．15号土壙

4．15号土壙

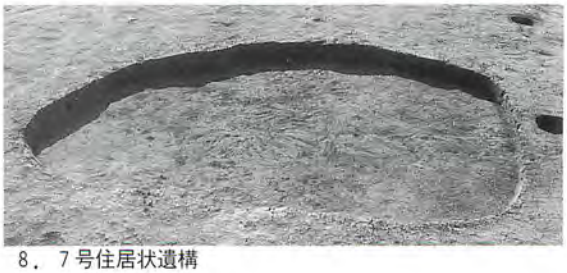
5．３号土壙

6．18号～20号土壙（北方より見る）

1．15号土壙

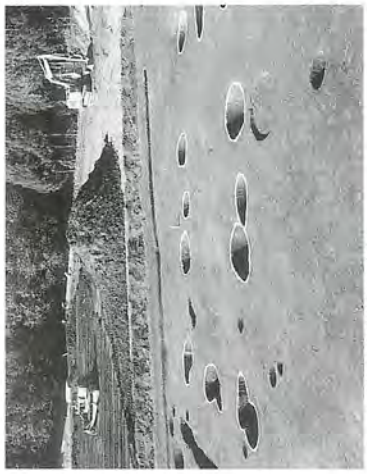
2．15号土壙木炭検出状況

7．６号・７号土壙及び３号・５号・７号溝状遺構



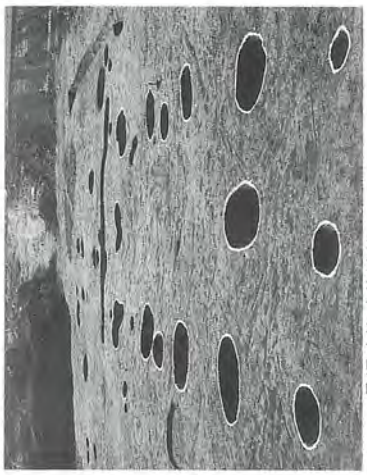
8．７号住居状遺構

図版11　1号～3号掘建柱建物遺構



1．1号掘建柱建物遺構

2．2号掘建柱建物遺構



3．1号掘建柱建物遺構
（手前3基のPitは2号掘建柱建物遺構）

4．1号・2号掘建柱建物遺構

5．3号掘建柱建物遺構

6．3号掘建柱建物遺構

図版12　27号溝状遺構（打越1687番地）

1．溝状遺構検出状況

2．27号溝状遺構と26号溝状遺構の切り合い

6．27号溝状遺構遺物出土状態

3．27号溝状遺構と26号溝状遺構の切り合い

7．27号溝状遺構遺物出土状態

4．27号溝状遺構遺物出土状態

8．27号溝状遺構遺物出土状態

5．27号溝状遺構遺物出土状態

図版13　2号住居址及び29号土壙出土遺物

4．第26図の6

1．第26図の2

5．第26図の5

6．第26図の7

2．第26図の3

7．第25図の1

3．第26図の4

図版14　4号住居址及び2号住居址出土遺物

1．第34図の4

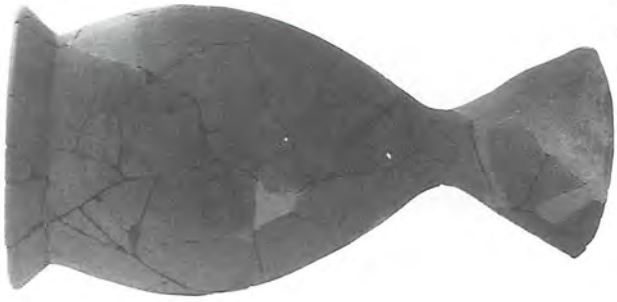
2．第34図の1

3．第35図

5．第32図の7

4．第33図の7

6．第32図の3



7．第25図の2
2号住居址

図版15　4号住居址出土遺物

1．第31図の7

4．第31図の5

2．第33図の6

5．第32図の5

3．第32図の8

6．第41図の1

図版16　4号住居址出土遺物

2．第37図の3

1．第37図の1

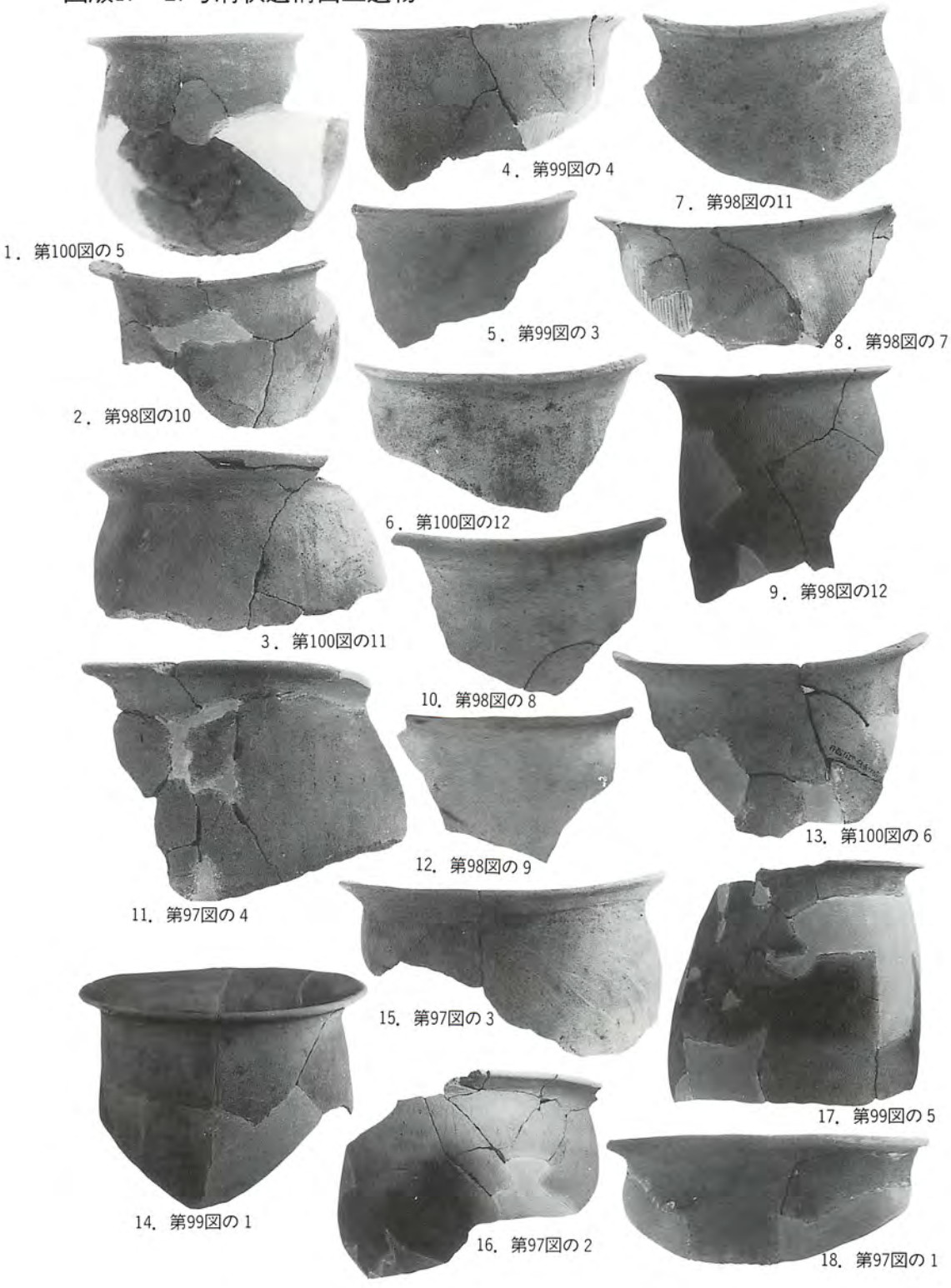
3．第37図の4

5．第36図の1

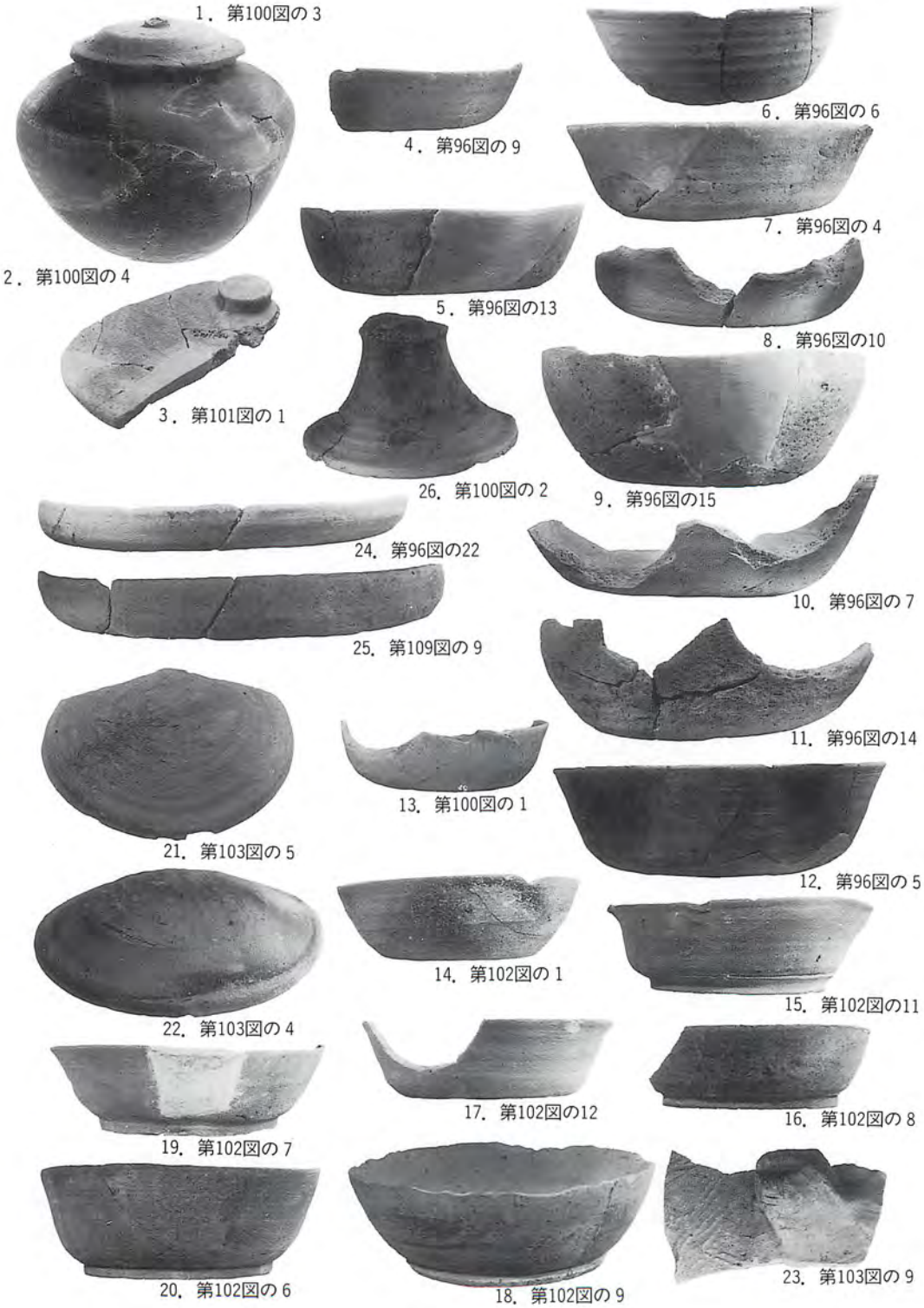
4．第37図の2

6．第36図の2

図版17　27号溝状遺構出土遺物



図版18　27号溝状遺構出土遺物



図版19　5号住居状遺構出土遺物

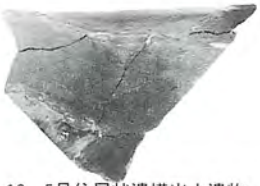
1．第60図の1

4．第64図の9

6．第63図の2

2．第60図の2

5．第64図の4



13．5号住居状遺構出土遺物

14．5号住居状遺構出土遺物

3．第60図の3

10．第63図の1

15．第64図の6

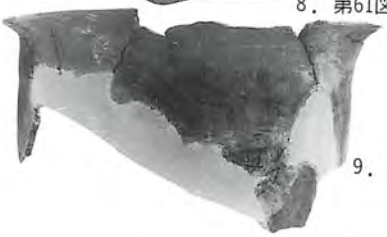
7．第62図の5

11．第59図の11

16．第64図の8

8．第61図の2

12．第62図の3

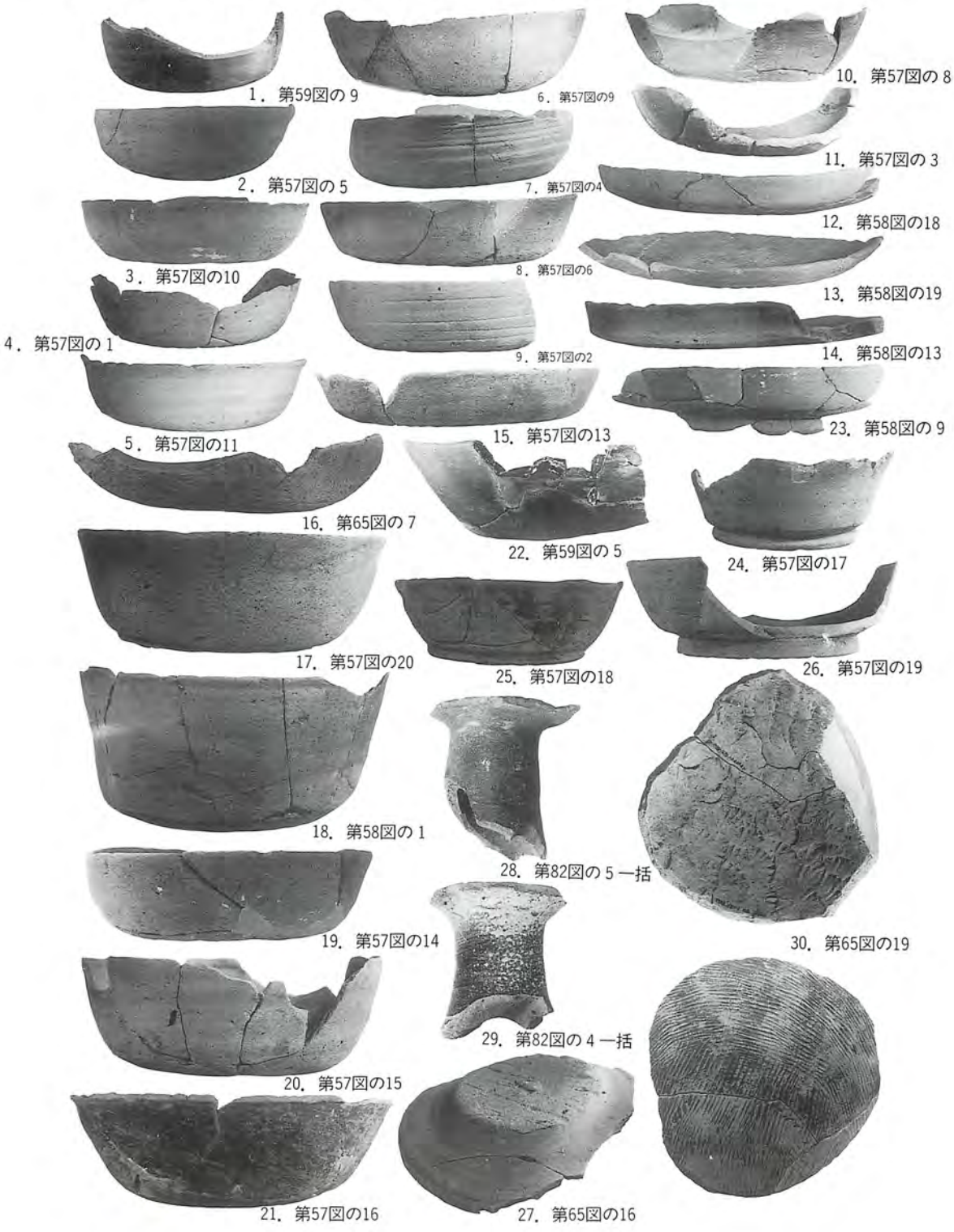


9．第63図の3

17．第62図の2

図版20　5号住居状遺構出土遺物

図版21　5号住居状遺構及び1683－1番地出土遺物



図版22　6号住居状遺構及び1684番地出土遺物

1．5号住居状遺構出土遺物

2．第65図の5

3．第65図の2

4．第65図の6

5．第65図の3

7．第82図の2

6．第65図の8

8．第65図の15

9．第65図の10

10．第65図の11

11．第65図の14

12．第65図の13

13．第67図の9

14．第67図の6

15．第67図の5

16．6号住居状遺構出土遺物

17．第88図の15

23．第68図の15

19．第68図の3

18．第89図の22

24．第68図の2

20．第89図の2

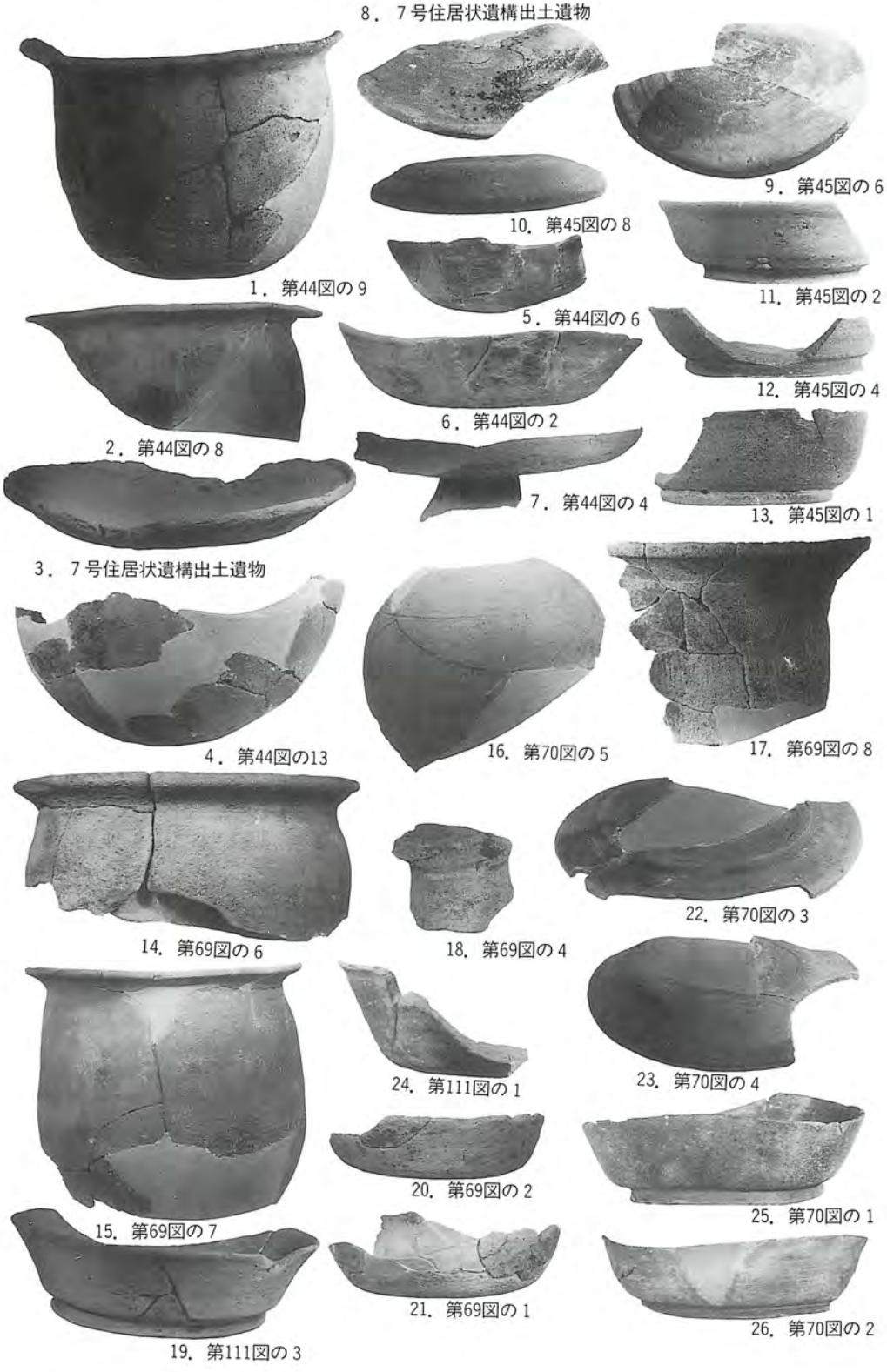
21．第88図の5

22．第88図の2

25．第89図の6

図版23　7号及び8号住居状遺構出土遺物（1～13、14～26）

8．7号住居状遺構出土遺物



図版24　235番地出土の土器及び1687番地出土の瓦

1．第54図の 7

3．第54図の 5

4．４号住居状遺構出土遺物

5．第54図の 2

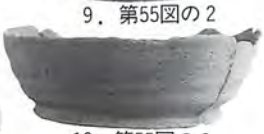
6．第54図の 1

2．第53図の 3

9．第55図の 2

12．第81図の19

7．第81図の26


10．第55図の 3

13．第55図の 4

11．第81図の 3

8．第81図の 7

14．第55図の 7

15．3号構出土遺物

17．第49図の 6

16．第96図の 8

18．第104図の 6

21．1687番地II層一括出土遺物

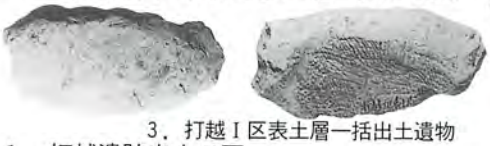
20．第104図の 7

19．打越Ｉ区溝上面一括出土遺物

図版25　打越遺跡出土遺物

1．海の平・八反田遺跡Ⅰ層一括出土遺物

2．第105図の20



3．打越Ⅰ区表土層一括出土遺物

4．第89図の25

1．打越遺跡出土の瓦

1．27号溝状遺構

3．第67図の10

2．第103図の11

4．第106図の2

5．第106図の1

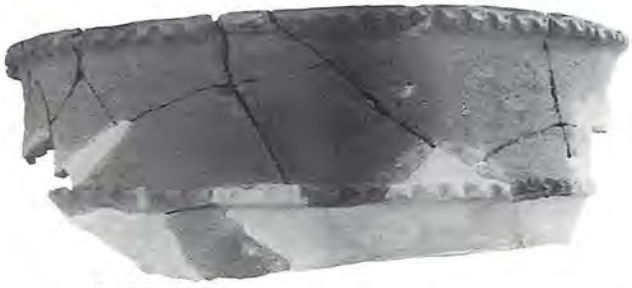
6．第87図

2．打越遺跡出土遺物

3．打越遺跡出土の縄文土器片

図版26　4号住居址・30号土壙及び一括資料

1．第22図



2．第11図の1

3．第21図の1

4．第29図
4号住居址

5．第39図
4号住居址

6．第106図の3

7．第30図
4号住居址

編 集 後 記

昭和58年７月～12月にかけて調査してから本報告を刊行するまでに、４年の歳月が過ぎてしまいました。

発掘調査に際しては、松橋町の多くの方々に御世話になりました。工事関係の方々の御協力に対して、心から感謝申し上げます。

発掘調査終了後、直ちに熊本県文化財収蔵庫に於いて整理を開始しました。しかし、大変遺物が多く、整理作業・執筆作業がなかなか捗りませんでした。この点、調査兼執筆者として心ぐるしく思っています。

昭和60年４月13日河北毅氏は、不帰の人となられました。　故人は、本報告の為に、弥生土器及び鉄器の実測をされて居ました。本書第Ⅳ章弥生時代に掲載しました遺物実測図の多くは、故人の努力の結晶であります。調査から報告まで完結したいという思いから、一人黙々と遺物の実測に励んで居られた故人の姿が思い出されます。

本書の刊行に当たり、編集及び執筆の任に当たった者としては、故人の意志を充分に汲み取って表現出来たか一抹の不安があります。

本報告が刊行された今、本書を故人の霊前に捧げ、これまでの御努力に感謝の意を表し、深く御冥福を御祈り申しあげます。

熊本県文化財調査報告　第93集

古保山打越遺跡

昭和62年12月28日

編集
発行　熊本県教育委員会
〒862 熊本市水前寺６丁目18番１号

印刷　白木印刷株式会社
〒862 熊本市九品寺５丁目９－35

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 93 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：古保山打越遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2016 年 3 月 31 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/